加須市埋蔵文化財調査報告書　第17集

埼玉県加須市

騎西城跡

KB19区調査

－中近世編－

遺物１

2024
加須市教育委員会

加須市埋蔵文化財調査報告書　第17集

埼玉県加須市

騎西城跡（きさいじょうあと）

KB19区調査

－中近世編－

遺物 1

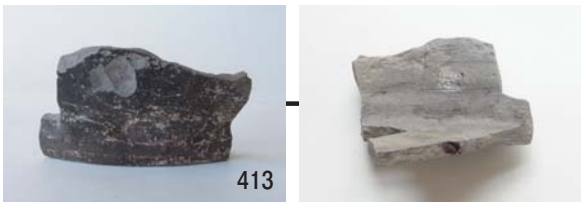
2024
加須市教育委員会

朝鮮　瓶

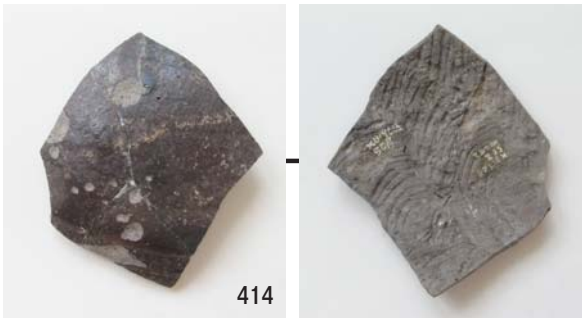
断面

口絵 2

412


413

413


414

拡大

断面

412

朝鮮　瓶

白磁

染付

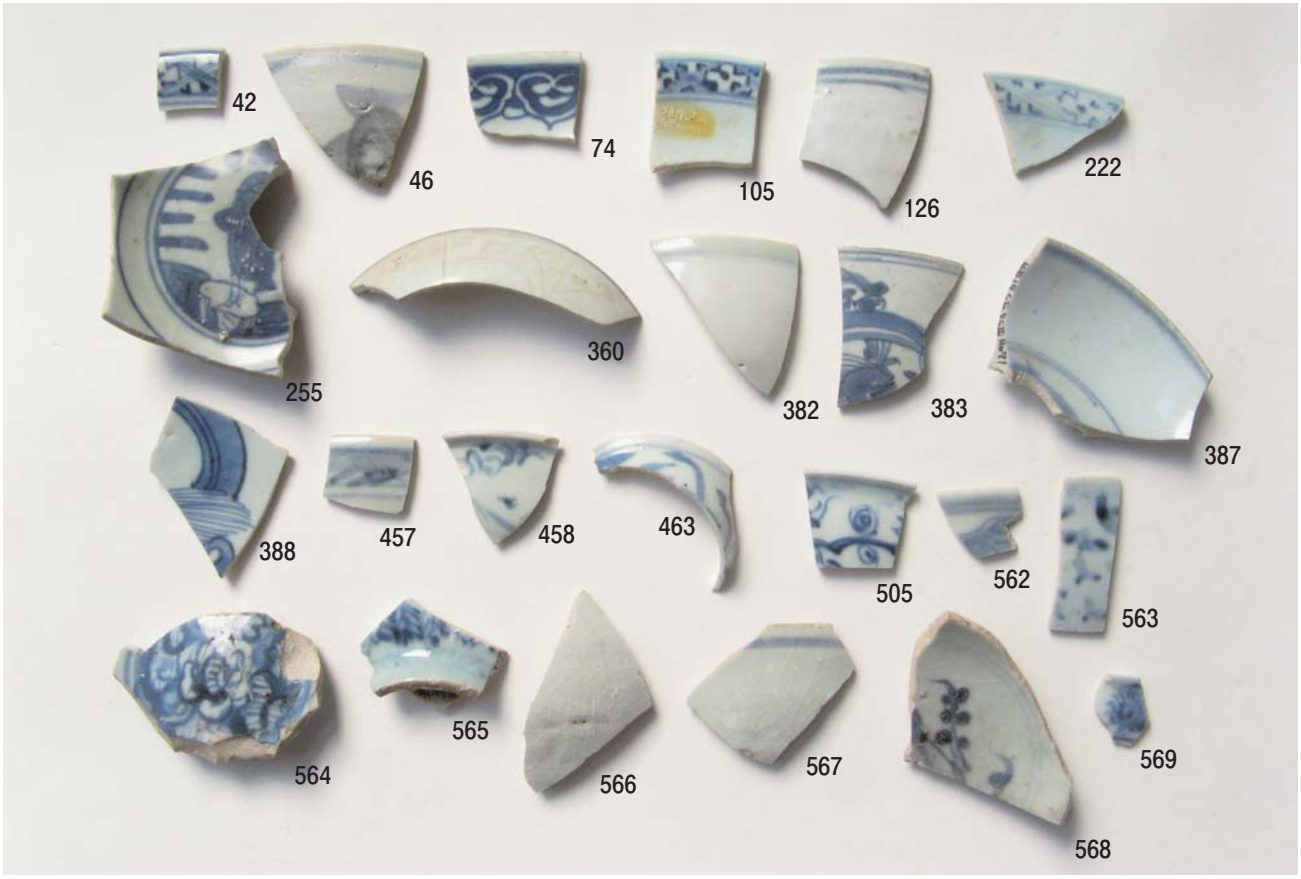
口絵 4

1
29
30
65
211
219
220
251
316
380
456
466
497
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544

青磁

3
41
50
77
103
125
208
287
302
359
381
476
477
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560

白磁


42
46
74
105
126
222
255
360
382
383
387
388
457
458
463
505
562
563
564
565
566
567
568
569

染付 1

570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595

染付 2

口絵 6

6

7

8

61

76

170

206

210

312

351

364

353

393

394

395

396

438

617

626

635

636

637

648

口絵 8

向付

向付

向付

天目茶碗

沓形茶碗

碗

鉢

大鉢

広口壺

壺

口絵 10

48

172

371

282

416

徳利

ひょうそく

茶入

茶入

香炉

汁注

灯明具

擂鉢

口絵 12

古瀬戸・山茶碗

志戸呂・初山

志野・織部・黄瀬戸 1

志野・織部・黄瀬戸 2

口絵 14

肥前陶器 1

肥前陶器 2

肥前陶器 3

小札

笄

刀装具　他

弾丸

煙管

口絵 16

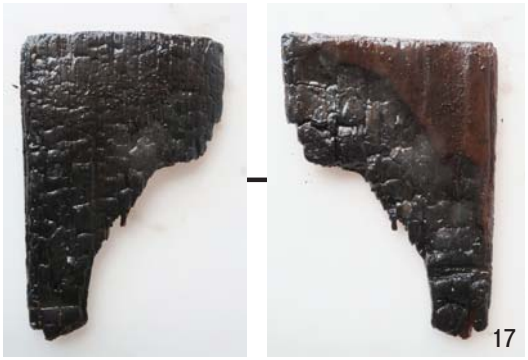
下駄

下駄

下駄-歯

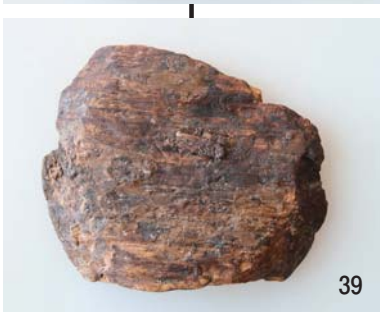
鍋敷き板ヵ

桶-側板



桶-側板

桶-側板一式



白木皿

白木高盤ヵ

白木皿

白木皿
(出土当時)

漆椀

(出土当時)

口絵 18

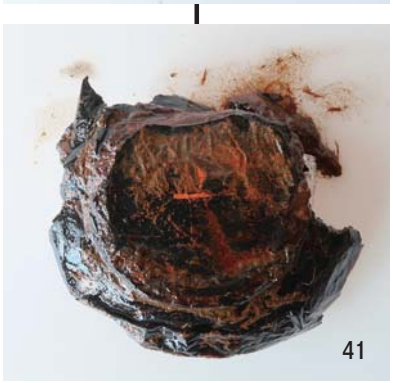
（出土当時）

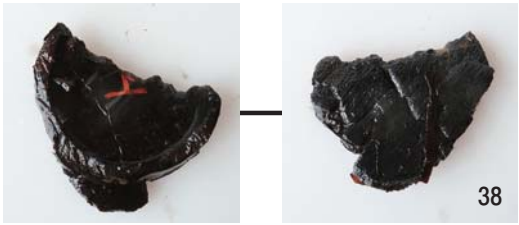
鶴

漆椀

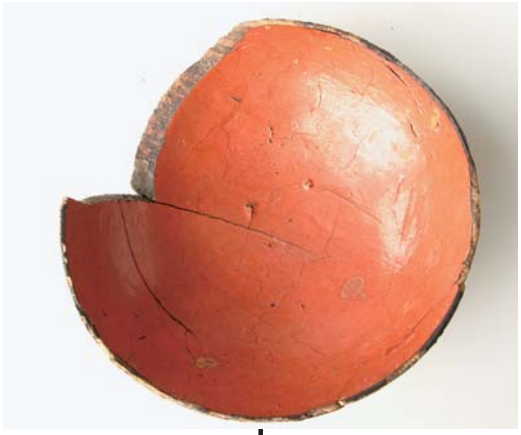
亀

37


41

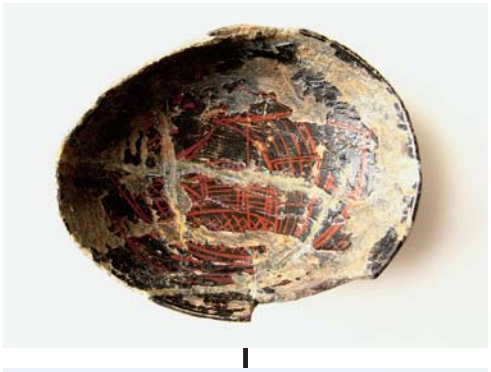

38

40



42

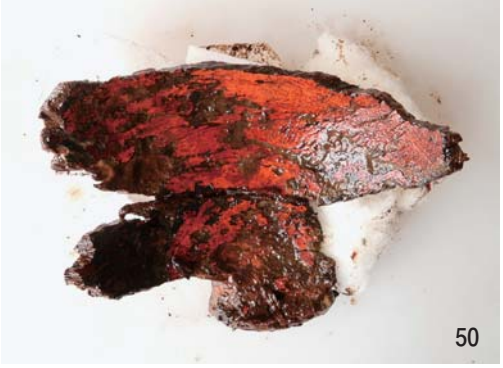
漆椀類

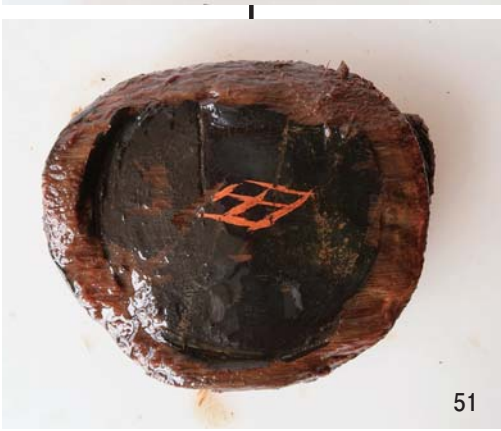


（出土当時）

（出土当時）

漆椀





漆椀

52

54

53

55

56

漆椀類

58

57

62

59

63

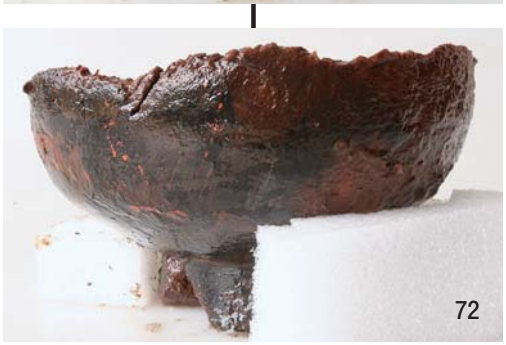
漆椀

口絵 24

漆椀類

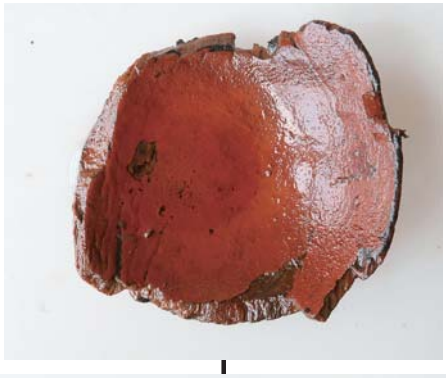
（出土当時）

口絵 26



72

74



73

75

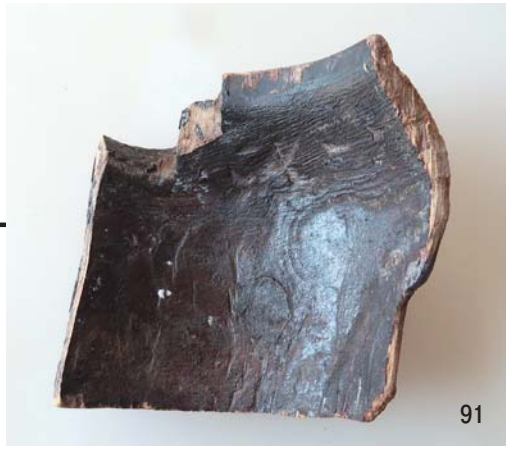
漆椀

漆椀

炭化椀

口絵 28

炭化椀類



漆器

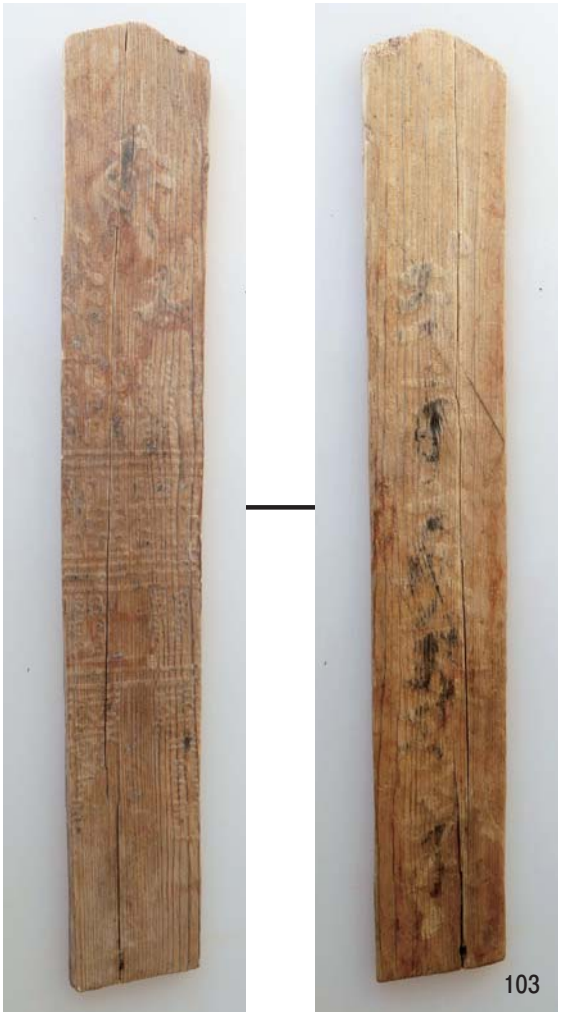
漆塗膜

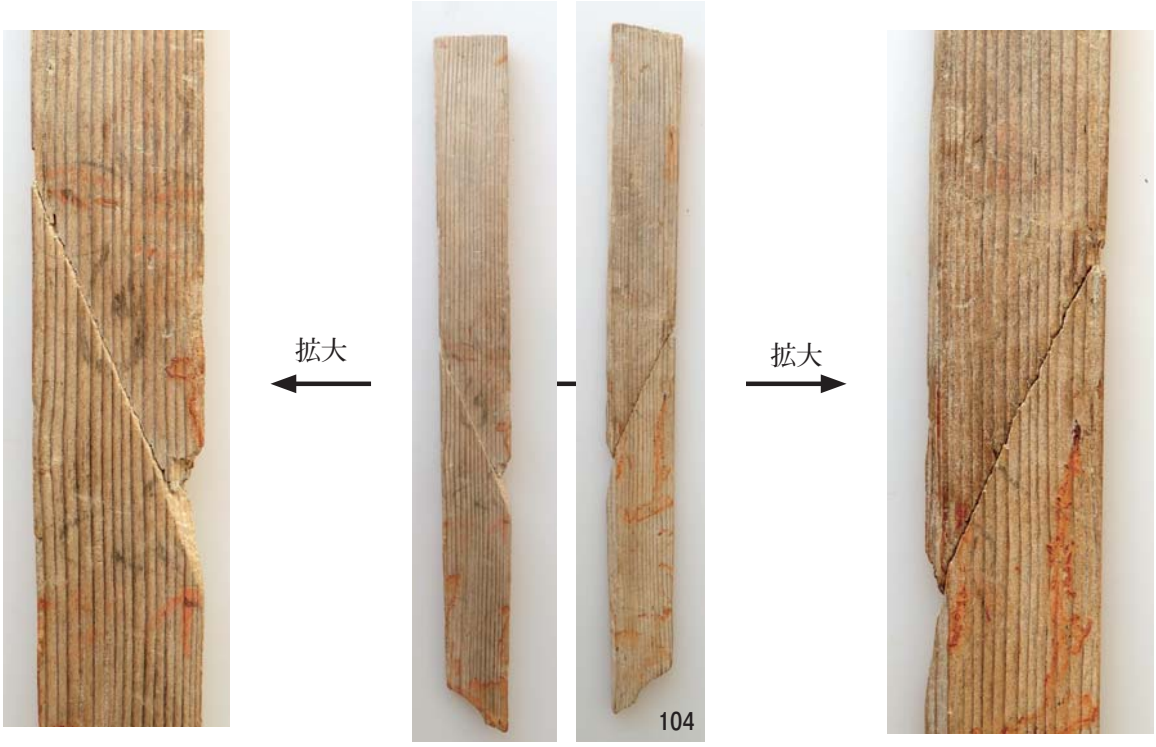
口絵 30

脚付円形板

将棋の駒(金将)

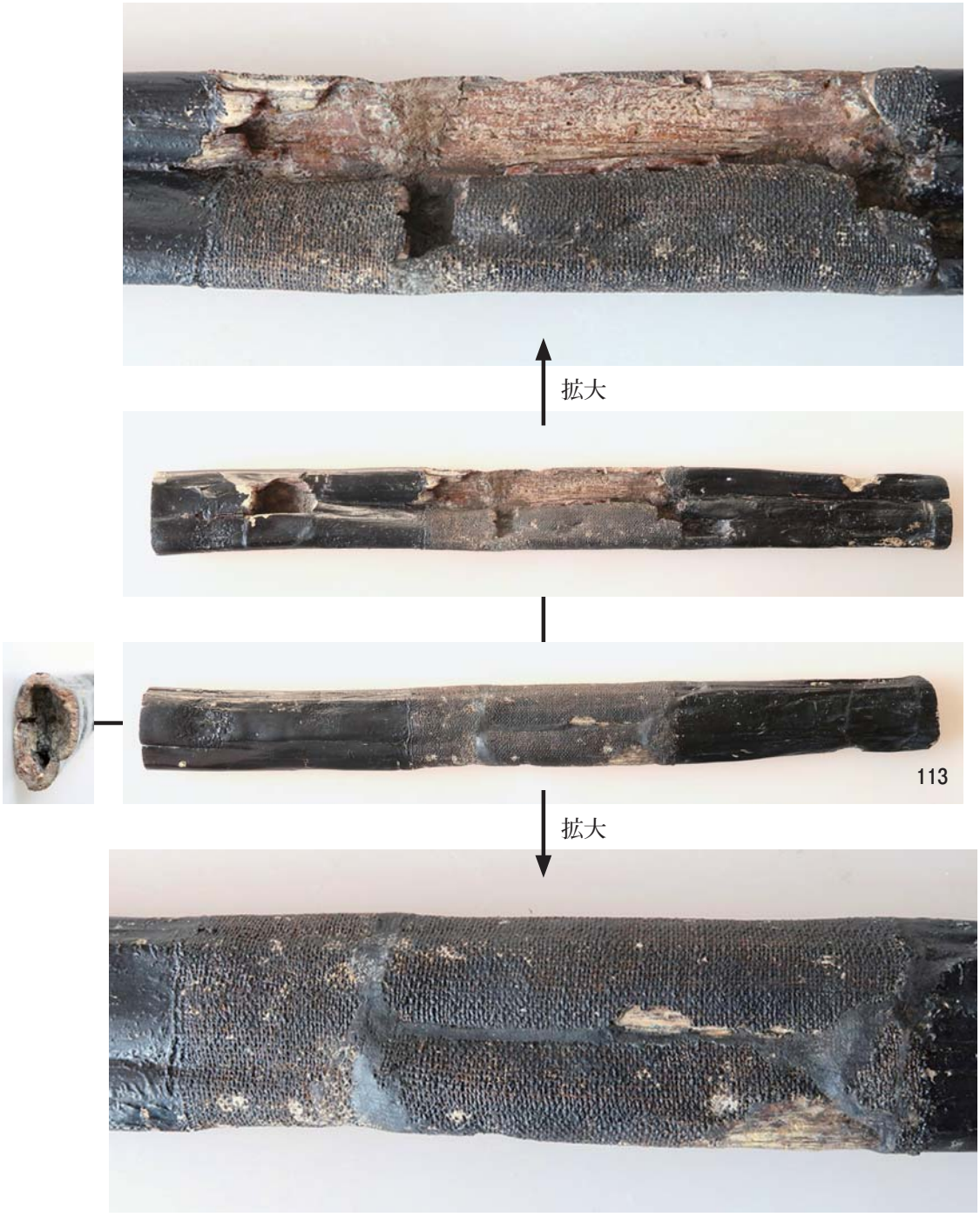
木槌

位牌の台

呪符



彩色板

口絵 32



筒状漆製品

籠状製品

序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯です。

市の南部に位置する騎西地域はその中央に騎西領48ヵ村の総鎮守といわれた久伊豆神社（玉敷神社）が鎮座し、源頼朝の上洛に従った多賀谷氏や道智氏という武蔵武士を擁した歴史のある地域であります。

地域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が多数所在しており、進行する都市化にともなう開発により事前に発掘調査を実施しております。

今回の調査報告は、平成３年から４年に掛けて実施された根古屋地区に所在する騎西城跡KB19区調査の記録です。当調査区は城郭部に位置し、調査の結果、曲輪を囲む障子堀、土壙・井戸の跡、朝鮮陶器、炭化物層出土の陶磁器、焼けた壁土､40点を超える漆椀､将棋の駒など貴重な遺構・遺物が検出されました。

これらの調査成果は城館跡の研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

令和６年３月

加須市教育委員会

教育長　小野田　誠

例　言

1　本書は埼玉県加須市騎西地域内遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は根古屋外川土地区画整理に先立つもので、平成３・４年に実施したものである。

3　本書の刊行に際して次のように作業に当たった。

（1）執筆

第Ⅰ・Ⅱ章、Ⅲ章　第1･2･4･5節　　嶋村英之

第Ⅲ章　第３節　木製品　　嶋村薫

（2）写真撮影は現場は調査担当者が、その他は嶋村英之のもと遺物整理者が行った。

（3）出土品の整理・基礎データ・図版の作成は下記の指導者のもと、整理協力員・遺物整理者が行った。

指導者

土器類・金属製品　　嶋村英之

土器類の一部　　島村範久（～平成23年度）

銭貨　　坂本征男（～平成23年度）

※木製品は嶋村薫が担当した。

『騎西町史考古資料編１・２』掲載のものは本報告を優先する。

土器類・木・金属製品の一部は『騎西町史考古資料編１』を修正転載した。

4　本書の編集は嶋村英之が行った。

5　資料は加須市教育委員会が保管している。

6　「騎西」城は「私市」城とも記すが武家屋敷が存在していた時期の絵図により「騎西」城とする。

7　スラグという語は既報告では「金属加工に伴う非金属製のカス」を指していたが、スラグ(鉱滓)は本来「鉱石を溶錬する際に生じるもの」とされ、不適切な用語と考えられるため今後「金属加工滓」とする。

8　調査及び報告に際して下記の方々からご指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

（敬称略）

小田木富慈美　片山まび　山﨑吉弘

調査組織

1　発掘調査組織（平成３・４年度）

調査主体者　騎西町教育委員会

担　当　者　主査　島村範久　主事　嶋村英之

調査協力員

青木のい　新井富子　五十嵐喜一郎　五十嵐米太郎
石井君江　石井たね　石井のゑ　石井寿美子
伊藤ツネ　今井竜吉　大熊文　岡田金之助
小川征子　加藤金作　金久保りき　栗原政子
国分良吉　小久保衛　小坂忠一　小林君枝
小森谷アサ　小森谷二三子　斉藤年治　斉藤ふ志
坂本佐一　佐藤ヨシ　清水いね子　鈴木サク
関口しげ　関口信幸　関口のぶ　関口千代
田口ふみ　田島汀七　土屋とよ　内藤ふく
細野とみ　八月朔日正作　堀越昭次　松永鶴子
松村一枝　武藤準一　山口保雄　柳田典子
中島かづ江　平野トミ　福島清作　福島利男
吉田美津　吉野武一　若林クニ子　渡辺サヨ
若林美知子

2　整理組織　（令和５年度）

整理主体者　加須市教育委員会

教育長　小野田　誠

生涯学習部　部　長　斉藤千恵美

副部長　高貫貢

生涯学習課　課　長　前田辰男

文化財担当　主　幹　坂本征男

主事補　高橋杜人

再任用主任　嶋村英之

整理協力員

上野由里子　大塚光枝　川辺英生　斎藤まさ子
野口二三子　馬場タチ子

遺物整理者

小川美津子　嶋村薫　長谷川恵　松村順子

凡　例

1　本文および表について

○（　）の数値は残存値である

○＊は不確定な推定復元値

○煩雑な記載を避けるため下記の通り略した。

□号堀→□堀。□井戸状遺構→□井戸・□井。

□号溝→□溝。□号土壙→□壙。□号建物跡→□建

○銭貨の文字は欠損等しているが、確定できるものは明記した

2　挿図について

○縮尺は以下の通りである

遺物　土器類１／３～４　木製品１／３

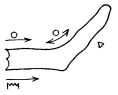
金属製品１／１～２（銭貨１／１）

○遺物の図ナンバーは製品毎に通しとした。必要に応じて遺物のNo.に種別の略号を冠した。土器類（土）、木製品（木）、金属製品（金）

磁器

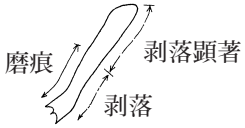
▲ 釉際

かわらけ

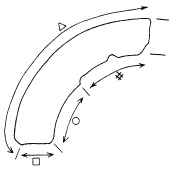


○ 指ナデ
板ナデ
△ 段
▲ 強いナデ

擂鉢

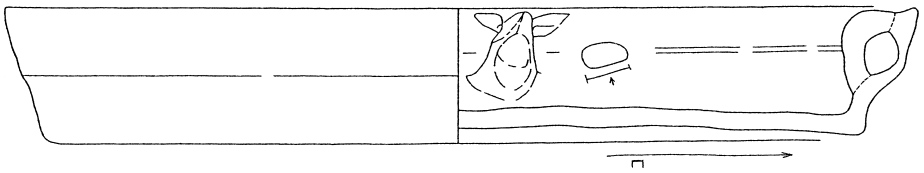


瓦



○ ナデ
△ みがき
□ ケズリ
※ 布目

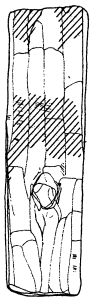
ほうろく



板状痕

指頭押圧

木製品



アミは炭化部分

3　遺物IDについて

加須市騎西地域の遺物については、個体識別のため下記のとおり遺物IDを付した。（報告では木・金属・石製品の一覧表に掲載する）

＊ただし、町史及び調査次ごとに簡略なIDを付しているものもある。（主に土器類）

IDの構成は、「時代＋遺物名－遺跡№＋調査種別－調査次数－ナンバーリング」とする。

時代

1旧石器／2縄文／3弥生／4古墳／5奈良平安／6中近世／7近現代／8－／9不明

遺物名

●0X《01石器／02土器／03土製品／04石製品／05瓦／06板碑／07埴輪／08石造物／09他》●1X－●2X－●3X－●4X　生産遺物《41鋳物類／42漆付着》●5X《51銭貨》●6X　木・金属製品《61木製品／62鉄製品／63銅製品》●7X　陶器《71碗（碗・平碗）／72皿／73鉢（平鉢・鉢・擂鉢・捏鉢・片口鉢・大皿・火鉢・小鉢）／74香炉／75天目・小天目／76－／77袋（甕・徳利・壺・梅瓶）／78ほか（茶入・汁注・水滴・小坏）》／●8X　磁器《81貿易青磁／82貿易白磁／83貿易染付／84肥前／85瀬戸・美濃／89不明》●9X　素焼土器《91皿－かわらけ／92壺・甕／93片口鉢／94擂鉢／95鍋（内耳鍋－土鍋・ほうろく）／96－／97土釜／98火鉢／99ほか（向付・香炉・風炉など）》

遺跡№（調査名）

010私市城跡／020多賀谷氏館跡／030道智氏館跡／070私市城武家屋敷跡／080戸崎城跡／090修理山遺跡／100萩原遺跡／110保寧寺中世墓址／120長宮北遺跡／131三重堀遺跡／132観音堂遺跡／133長宮遺跡／134道南遺跡／140道北遺跡／150中郷遺跡／160種垂城跡／171三番遺跡／172小沼耕地遺跡／180五番遺跡／999不明／000遺跡外

※KB14・15・18・19区は本来010であるが、KB（私市城武家屋敷跡の略称）を受け070とした。

調査種別

0ほか（妙光寺）／1表面採集／2分布調査／3試掘調査／4個人住宅等／5区画整理（KB）／9不明

調査次数

1次＝0001　　読替（0000＝表採／0020＝大英寺区／9901＝シー99－1／9999＝不明）

ナンバーリング

通し番号　0001～

遺物ID　　例

中近世＋木製品	KB19（私市城跡19区）	0001
6 6 1	－0 7 0 5－0 0 1 9	－0 0 0 1

4　製品別分類について

木・金属製品については、報告に当たり、下表のとおり大・小の分類を行い、順に掲載した。

大分類 小分類	木製品	金属製品	
		鉄製品	非鉄金属
生活			
衣	下駄／櫛	毛抜き	鏡／毛抜き／簪
調理	鍋敷／鍋蓋／（竪杵）	鉄鍋／包丁／刀子	
貯蔵	桶／柄杓	蓋	
食膳	皿／椀（漆・白木）／杓子／折敷／箸		曲物状容器
暖房／灯り		火箸／火打金	
住		釘／鎹／鋲	釘／飾り金具／把手
喫茶		湯釜	
遊び	将棋の駒／羽子板／（煙管）		煙管
文具			
生業			
耕作	箕／田下駄	鎌	
加工	横槌／木錘／竪杵	紡錘車／小刀／鋏	紡錘車
鍛冶			
信仰			
まじない	護符（蘇民将来符）／呪符／舟形		
弔い	位牌／数珠	香炉／鈴／椀	銭貨／銅椀／鈴／香炉
経済／流通			
貨幣	銭貨の袋	銭貨	金貨／銭貨
流通	荷札		分銅
いくさ			
甲冑	（兜）／前立	兜／小札	笄金物／鞐／鐶／八双鋲
刀		腰刀／小柄刀身／笄	刀装品／小柄／笄
槍		槍先	
弓矢		鏃	
火縄銃	竹束	（火打金）／弾丸	火縄挟み／弾丸
馬具	馬鎧／おもがい	轡／四方手	馬面／野沓
ほか	（薙鎌）	薙鎌	

目　次

序／例言／目次

第Ⅰ章　遺跡の立地・環境
　第１節　遺跡の位置……１
　第２節　遺跡の地理的環境……１
　第３節　遺跡の歴史的環境……２

第Ⅱ章　調査に至る経過……９

第Ⅲ章　　出土した遺物
　第１節　土器類……16
　第２節　土壁片……87
　第３節　木製品類……91
　　（１）概要……91
　　（２）自然科学分析 ……134
　第４節　金属製品
　　（１）鉄製品 ……143
　　（２）非鉄金属 ……143
　　（３）銭貨 ……150
　第５節　金属の生産 ……157

図版／報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置（騎西地域）……１
第２図　周辺の微地形分類と縄文･古墳時代遺跡…３
第３図　周辺の微地形分類と城館跡……３
第４図　騎西城を取り巻く勢力図……６
第５図　調査区の位置……８
第６図　周辺の調査……10
第７図　遺構位置図（Ａ・Ｂ区）……11
第８図　遺構位置図（Ｃ・Ｄ区）……13
第９図　土器類１……20
第10図　土器類２……21
第11図　土器類３……22
第12図　土器類４……23
第13図　土器類５……24
第14図　土器類６……25
第15図　土器類７……26
第16図　土器類８……27
第17図　土器類９……28
第18図　土器類10……29
第19図　土器類11……30
第20図　土器類12……31
第21図　土器類13……32
第22図　土器類14……33
第23図　土器類15……34
第24図　土器類16……35
第25図　土器類17……36
第26図　土器類18……37
第27図　土器類19……38
第28図　土器類20……39
第29図　土器類21……40
第30図　土器類22……41
第31図　土器類23……42
第32図　土器類24……43
第33図　土器類25……44
第34図　土器類26……45
第35図　土器類27……46
第36図　土器類28……47
第37図　土器類29……48
第38図　土器類30……49
第39図　土器類31……50
第40図　土器類32……51
第41図　土器類33……52
第42図　土器類34……53
第43図　土器類35……54
第44図　土器類36……55
第45図　土器類37……56
第46図　土器類38……57

第47図　土器類39……58
第48図　土器類40……59
第49図　土器類41……60
第50図　土器類42……61
第51図　土器類43……62
第52図　土器類44……63
第53図　土器類45……64
第54図　土器類46……65
第55図　土器類47……66
第56図　土壁片 1 ……88
第57図　土壁片 2 ……89
第58図　木製品類 1 ……99
第59図　木製品類 2 ……100
第60図　木製品類 3 ……101
第61図　木製品類 4 ……102
第62図　木製品類 5 ……103
第63図　木製品類 6 ……104
第64図　木製品類 7 ……105
第65図　木製品類 8 ……106
第66図　木製品類 9 ……107
第67図　木製品類10 ……108
第68図　木製品類11 ……109
第69図　木製品類12 ……110
第70図　木製品類13 ……111
第71図　木製品類14 ……112
第72図　木製品類15 ……113
第73図　木製品類16 ……114
第74図　木製品類17 ……115
第75図　木製品類18 ……116
第76図　木製品類19 ……117
第77図　木製品類20 ……118
第78図　木製品類21 ……119
第79図　木製品類22 ……120
第80図　木製品類23 ……121
第81図　木製品類24 ……122
第82図　木製品類25 ……123
第83図　木製品類26 ……124
第84図　木製品類27 ……125
第85図　木製品類樹種同定試料 ……137
第86図　金属製品類 1 （鉄 1 ） ……145
第87図　金属製品類 2 （鉄 2 ） ……146
第88図　金属製品類 3 （鉄 3 ） ……147
第89図　金属製品類 4 （非鉄金属 1 ） ……148
第90図　金属製品類 5 （非鉄金属 2 ） ……149
第91図　金属製品類 6 （銭貨 1 ） ……152
第92図　金属製品類 7 （銭貨 2 ） ……153
第93図　金属製品類 8 （銭貨 3 ） ……154
第94図　金属製品類 9 （銭貨 4 ） ……155
第95図　金属製品類10（銭貨 5 ） ……156
第96図　金属加工滓 ……157

表目次

第 1 表　遺構一覧表……15
第 2 表　土器類一覧表 1 ……67
第 3 表　土器類一覧表 2 ……68
第 4 表　土器類一覧表 3 ……69
第 5 表　土器類一覧表 4 ……70
第 6 表　土器類一覧表 5 ……71
第 7 表　土器類一覧表 6 ……72
第 8 表　土器類一覧表 7 ……73
第 9 表　土器類一覧表 8 ……74
第10表　土器類一覧表 9 ……75
第11表　土器類一覧表10……76
第12表　土器類一覧表11……77
第13表　土器類一覧表12……78
第14表　土器類一覧表13……79
第15表　土器類一覧表14……80
第16表　土器類一覧表15……81
第17表　土器類一覧表16……82
第18表　土器類一覧表17……83
第19表　土器類一覧表18……84
第20表　土器類一覧表19……85
第21表　土器類一覧表20……86
第22表　土壁片一覧表……90
第23表　木製品一覧表 1 ……126
第24表　木製品一覧表 2 ……127

第25表　木製品一覧表 3 ……128
第26表　木製品一覧表 4 ……129
第27表　木製品一覧表 5 ……130
第28表　木製品一覧表 6 ……131
第29表　木製品一覧表 7 ……132
第30表　木製品一覧表 8 ……133
第31表　木製品樹種同定結果 ……138
第32表　金属製品一覧表 1 （鉄製品） ……150
第33表　金属製品一覧表 2 （非鉄金属） ……151
第34表　金属製品一覧表 3 （銭貨） ……156
第35表　金属生産一覧表 ……157

図版目次

図版 1　出土遺物　土器類 1
図版 2　出土遺物　土器類 2
図版 3　出土遺物　土器類 3
図版 4　出土遺物　土器類 4
図版 5　出土遺物　土器類 5
図版 6　出土遺物　土器類 6
図版 7　出土遺物　土器類 7
図版 8　出土遺物　土器類 8
図版 9　出土遺物　土器類 9
図版10　出土遺物　土器類10
図版11　出土遺物　土器類11
図版12　出土遺物　土器類12
図版13　出土遺物　土器類13
図版14　出土遺物　土器類14
図版15　出土遺物　土器類15
図版16　出土遺物　土器類16
図版17　出土遺物　土器類17
図版18　出土遺物　土器類18
図版19　出土遺物　木製品 1
図版20　出土遺物　木製品 2
図版21　出土遺物　木製品 3
図版22　出土遺物　木製品 4
図版23　出土遺物　木製品 5
図版24　出土遺物　木製品 6
図版25　出土遺物　木製品 7
図版26　出土遺物　木製品 8
図版27　出土遺物　木製品 9
図版28　出土遺物　木製品10
図版29　出土遺物　木製品11
図版30　出土遺物　木製品12
図版31　出土遺物　木製品13
図版32　出土遺物　木製品14
図版33　出土遺物　木製品15
図版34　出土遺物　木製品16
図版35　出土遺物　金属製品 1
図版36　出土遺物　金属製品 2

9 ・10号堀

第Ⅰ章　遺跡の立地・環境

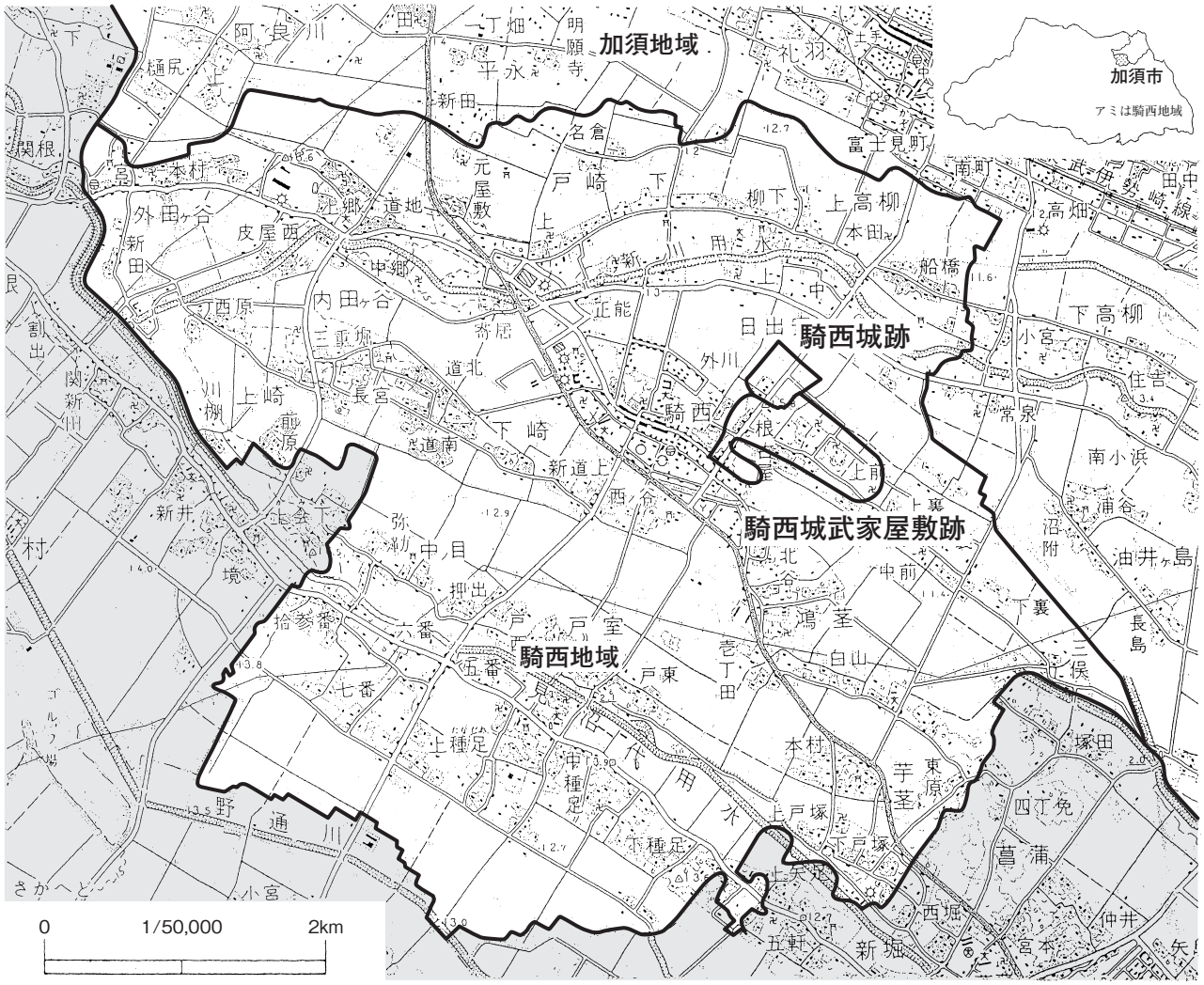
第１節　遺跡の位置（第１図）

加須市騎西地域は埼玉県北東部に位置し騎西城武家屋敷跡はそのほぼ中央にある。行政上では加須市根古屋字道上・中宿・前・道下、牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代初めの城で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治９年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西文化・学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

第２節　遺跡の地理的環境（第２図）

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地が存在する。関東造盆地運動によって台地が沈降したものである。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成された。

現在騎西地域内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置し、いずれもローム台地上に展開している。



第１図　遺跡の位置（騎西地域）

第３節　遺跡の歴史的環境(第２・３図)

※（遺跡名）は『騎西町史考古資料編１』に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直したものである。

１　旧石器時代

約２万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ（前）・（中宿）遺跡で該期の遺物が出土している。（前）遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が２カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約１万５千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、（道上）遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

２　縄文時代

草創期に（中宿）遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・（前）・（道上）遺跡で撚糸文系土器、（前）遺跡では集石遺構が、（道上）遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・（前）・（中宿）・（道上）遺跡で土器が出土しており、特に修理山・（中宿）遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・（前）・（道上）で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な花積下層式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に（道上）・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曽利Ｅ式期その後半に（中宿）遺跡で柄鏡形住居・（道上）遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では４軒の住居跡と墓壙などが見つかっている。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・（前）・（中宿）・（道上）遺跡で加曽利Ｂ～後期安行式が出土している。晩期では安行３ａ～３ｄ式が修理山・町並・（道上）・（前）・（中宿）遺跡で出土している。

３　弥生時代

騎西地域内ではこのころの遺跡は少なく、中期では小沼耕地（※町史では上種足三番）遺跡で磨製石鏃が、（道上）遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

４　古墳時代

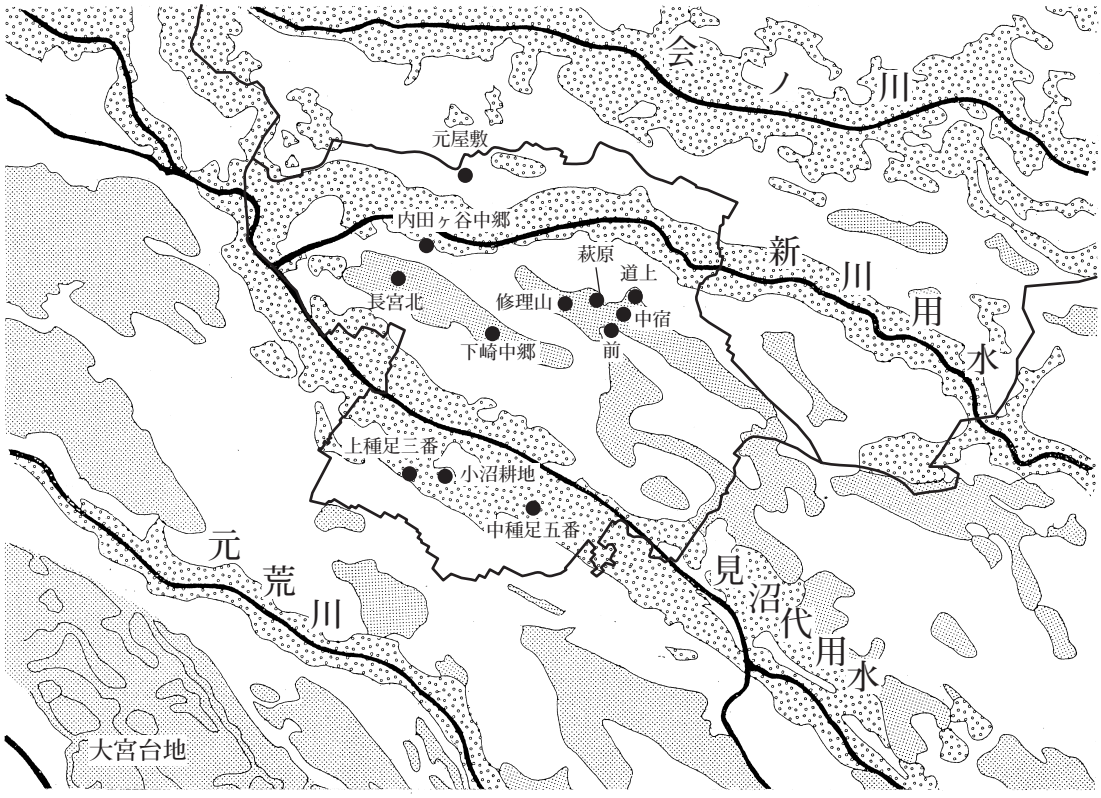
古墳跡は小沼耕地遺跡※で６～７世紀の前方後円墳１基・円墳５基が確認されている。また、（内田ケ谷中郷）遺跡で勾玉や埴輪片、（前）遺跡の埴輪片や隣接する（中宿）遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材（市内の玉敷神社所在）等からこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・（中宿）遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・(道上) 遺跡・(中宿）遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は地域内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

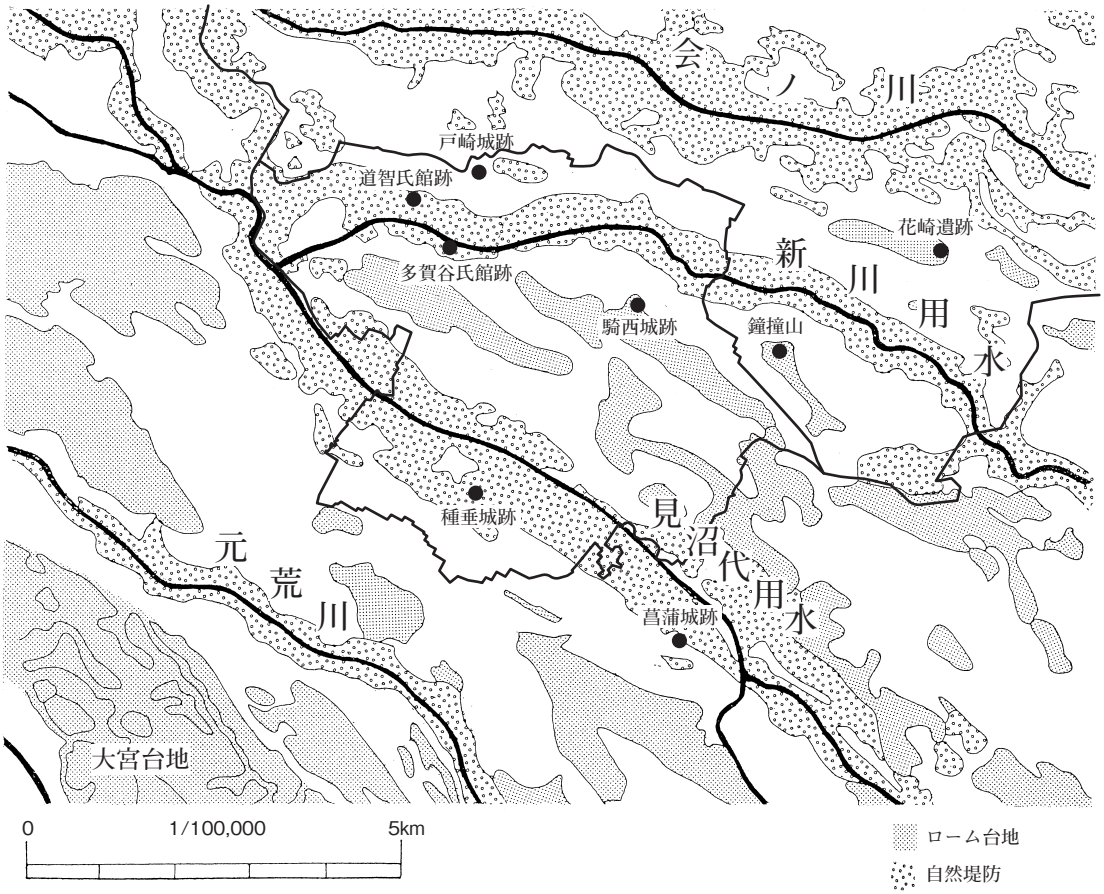
※町史の上種足三番遺跡を含む

５　奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは（道上）遺跡・小沼耕地（※町史では上種足三番遺跡）で８世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、（中宿）遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。



第 2 図　周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡



第 3 図　周辺の微地形分類と城館跡

6　中近世

騎西地域内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏館は、内田ケ谷の大福寺を中心にあったものと思われ、建久元年（1190）多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長３年（1251）多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間（1429－41）初め頃に結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端（１次調査）で、溝から12～14世紀の同安・龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、館跡のほぼ中央にある大福寺の北（４次調査）で、土壙から12～13世紀の同安・龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

道智氏館は、道地の成就院周辺に所在したものと思われる。建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を務め、承久３年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している。

種垂城跡は、上種足の種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。雲祥寺縁起には騎西城主小田顕家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したという。発掘調査では、溝・井戸・土壙・火葬跡を検出し、漆椀・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**旧上種足三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壙・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・篦状木製品が出土している。

小沼耕地遺跡では、県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果はそれらに関わるものとも思われる。

南方の中種足五番遺跡では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

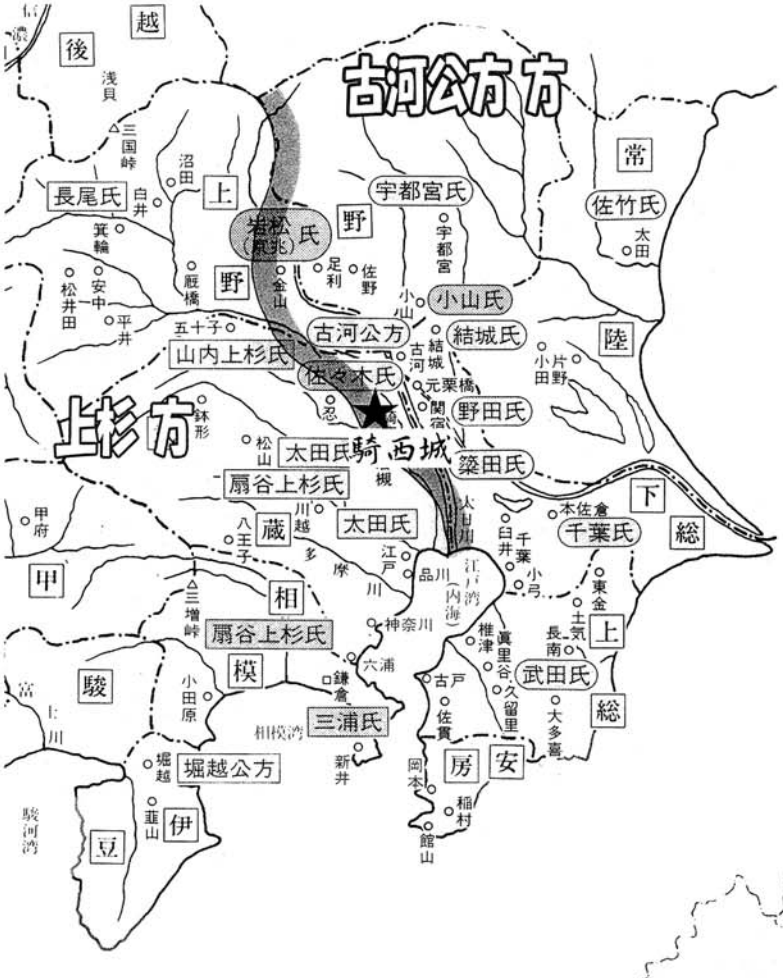
戸崎城跡は、『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允居跡なりとある。また、『吾妻鏡』に戸崎右馬允国延が寿永３年（1184）源頼朝の御前の射手となるとある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

騎西城（騎西城周辺年表参照）は、文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壙1600基・井戸状遺構200基・障子堀５ヶ所・橋跡４ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活・生産の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。**武器武具**では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟み・弾丸・馬鎧・轡・四方手・野沓・腰刀・薙鎌など、**生活品**では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆椀・杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、**生業**では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・坩堝・熔融物付着土器（金・銀・亜鉛・鉛・ビスマスを検出）など、**信仰**では護符・呪符・舟形・位牌・銅鋺・数珠など、**流通**では金貨・袋入り銭貨・荷札などがある。年代を比定できる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・擂鉢などがある。

このほかに、日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。

騎西城周辺年表

康正元年（1455）	足利成氏、崎西郡（騎西城）に集結する上杉勢（上杉・庁鼻和氏など）を攻略する
文正元年（1466）	足利成氏、南多賀谷（田ケ谷）と北根原（鴻巣市）で上杉勢と合戦に及ぶ
応仁元年（1467）	★応仁の乱始まる
文明３年（1471）	上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市（騎西）の佐々木氏あり
文亀２年（1502）	騎西城主小田顕家、上会下（鴻巣市）の雲祥寺を再興。
年不詳	忍城（行田市）主成田親泰の子助三郎（朝興）を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
天文８年（1539）	騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる
天文12年（1543）	★鉄砲伝来
永禄３年（1560）	長尾景虎（上杉謙信）関東の北条方諸城を攻略
永禄４年（1561）	騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する。 長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎（謙信）に辱められ、北条方となる。助三郎も離反
永禄６年（1563）	北条氏康・武田信玄連合軍が松山城（吉見町）を攻略。報復に上杉輝虎（謙信）、騎西城を攻略
永禄12年（1569）	上杉と北条の講和成立（越相同盟）。上杉方は武蔵北部を支配
天正２年（1574）	上杉謙信、羽生の関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城を焼き払う
天正４年（1576）	成田泰喬（あるいは氏長）、家臣に知行を宛がう
天正５年（1577）	小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
天正６年（1578）	小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
天正18年（1590）	★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西領二万石を与える
天正19年（1591）	松平康重大英寺を開基、日出安の保寧寺に田畑１町歩を寄進する
文禄２年（1593）	松平康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる
慶長元年（1596）	根古屋の金剛院、日出安から移転する
慶長４年（1599）	松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
慶長５年（1600）	★関ヶ原の戦い
慶長７年（1602）	この頃大久保忠常、騎西領二万石を拝領する
慶長８年（1603）	★徳川家康、江戸に幕府を開く
慶長11年（1606）	騎西藩の家臣、領内（正能村）を検地する
慶長16年（1611）	忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西領二万石を拝領する
慶長19年（1614）	大久保忠隣改易となり小田原・羽生を没収、孫の騎西城主忠職は閉門に処せられる
寛永２年（1625）	忠職、赦免される
寛永４年（1627）	大久保忠職、久伊豆大明神（玉敷神社）に社領を寄進する
寛永９年（1632）	忠職、三万石加増され、美濃の加納へ転封し五万石を拝領する。騎西城廃され、代官所が置かれる



享徳の乱初期の関東
(1454 ～)

氏康 × 謙信の頃の関東
(永禄・天正年間)

『古河公方展』古河歴史博物館
『中世・下町再発見』葛飾郷土と天文の博物館
掲載の図を改変

第 4 図　騎西城を取り巻く勢力図

騎西城周辺の歴史的経過（年表・第4図）

当遺跡では濃密ではないが中世を通して遺物が出土している。12世紀代の常滑甕、舶載白磁、渥美製品、また古瀬戸陶器等が見られる。騎西城以前にも集落・館等が存在していたようである。

【享徳の乱】

文献では、騎西城は康正元年（1455）に初出し、寛永9年（1632）廃城となり姿を消す。享徳の乱では、関東公方足利成氏が古河に移り、関東管領上杉氏と対峙する。その争いの中に騎西郡を舞台として争う場面がある。これが騎西城とされる。残念ながら現在のところ当該期に相当する遺構は確認されていない。だがこの時期に騎西城の前線基地としての重要性は格段に高まり、戦闘の拠点としての城の整備がされたものと思われる。関東管領家臣の太田道灌が岩付城・河越城・江戸城の防衛ラインを張ったとき騎西城はすでに古河方の足場として機能していたのではないだろうか。

【永禄・天正期の軍事的緊張】

また、永禄から天正年間にかけての後北条氏対上杉謙信の覇権争いにおいても境の城であった。騎西城は何度となく厳しい立場に追い込まれている。特に謙信が関東の足掛かりとした羽生城を間近にしており、2度の戦火を被っている。

文献では、永禄6年、北条氏康・武田信玄が松山城を包囲したが、その救援に間に合わなかった謙信は攻める方向を転じ騎西城を陥落させた。その後、謙信は武田信玄との敵対関係から北条氏康との和睦（越相同盟）を成し、しばし平安であった。しかし北条氏康没後、甲相同盟の復活によりまた北条・上杉の合戦が再開された。天正2年には謙信が羽生・関宿城援護のため出陣し、古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城とともに騎西城を焼き討ちにしている。

当該期の遺物・遺構は豊富で、城郭部周辺の障子堀（KB15区・騎13次）から炭化物・遺物が多量に出土している。これらはこの頃の戦火に伴う戦後処理のものと思われる。

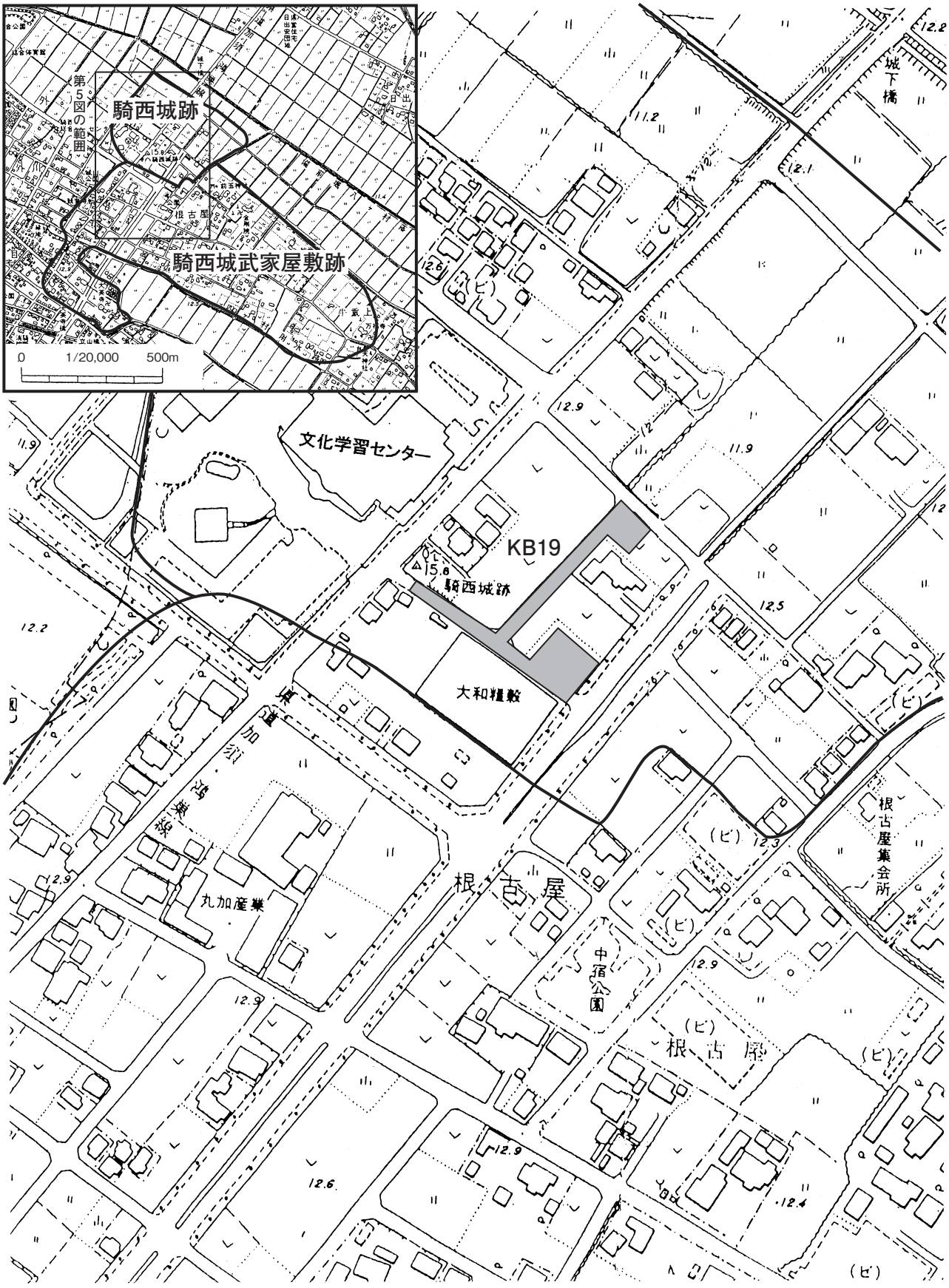
【秀吉の小田原攻めと家康の関東入封】

豊臣秀吉が小田原城を攻めたとき、忍城も石田三成に水攻めを受けている。騎西城も備えとして城の拡張・改良を行っているものと思われる。

その後、家康が関東に入り、騎西城には松平康重、大久保忠常・忠職が藩主となっている。その際に城郭部の縮小や城下の再編成を行っているものと思われる。実際『武州騎西之絵図』に載る御蔵屋舗には外側に障子堀を備えており、戦乱時は城郭部であったことを物語っている。

7堀　かわらけ（土135～154）

21堀　ほうろく（土217・218）


第5図の範囲
騎西城跡
騎西城武家屋敷跡
0 1/20,000 500m
文化学習センター
KB19
騎西城跡
大和精穀
根古屋
丸加産業
中宿公園
根古屋集会所
城下橋
0 1/2,500 100m

第5図　調査区の位置

第Ⅱ章　調査に至る経過

旧騎西町は首都圏50km圏内に位置し、急激な人口の増加に伴う開発が見込まれていた。それに対し計画的な都市整備の一環として大字根古屋及び外川において土地区画整理事業が計画されていた。

町教育委員会では昭和55年度に実施した町内遺跡群分布調査によって町内に15ヶ所の遺跡が所在することを確認しており、とくに区画整理対象区域に所在する騎西城については小田原市に所蔵されていた『武州騎西之絵図』と対照すると城の南側に江戸初期に武家屋敷が広がっていたことが明らかとなっている。さらに昭和55年に実施した騎西城跡の発掘調査では、和鏡や武具などの出土により城の存在を実証し、その内容を具体的に明らかにしたものであった。僅かに残る土塁や水田と畑地に見られる郭の形など遺存状態は良く、地下に埋蔵される遺構は特に期待されるものであった。

しかしながら、長年の懸案であった根古屋・外川地区土地区画整理事業は町の重要施策であり、計画の中止及び変更は困難な状況であった。

そこで町教育委員会では町部局と協議を重ねた結果、区画整理施工に先立ち破壊される道路分について順次発掘調査を実施することとした。また、区画整理により発生する保留地についても町が原因者として発掘調査をすることとした。

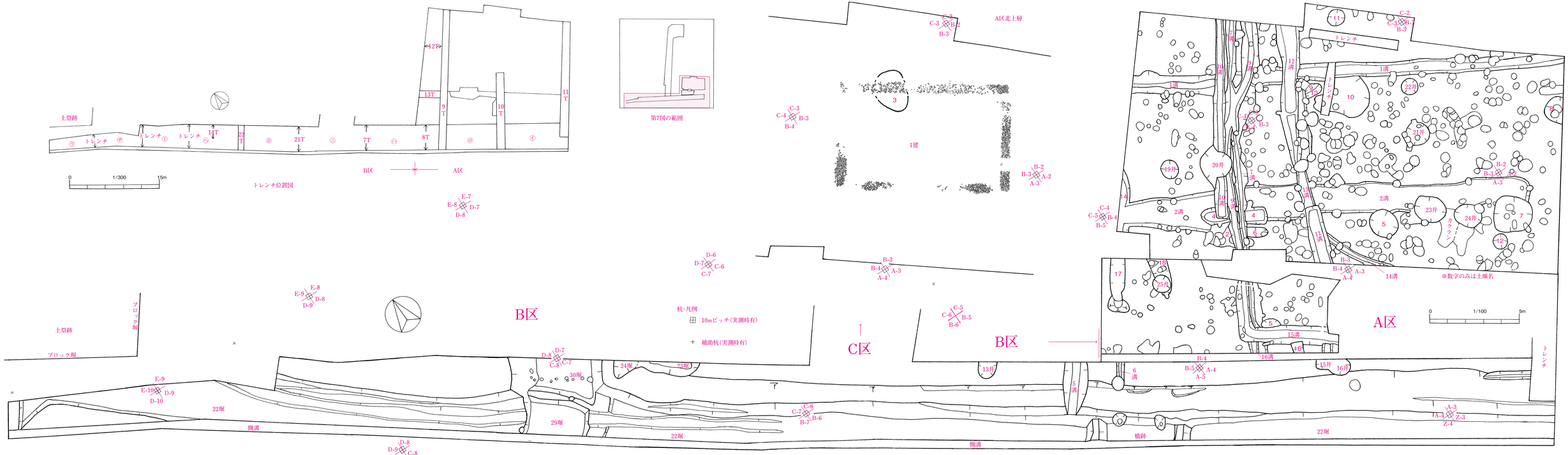
文化財保護法に基づき騎西町から埋蔵文化財発掘通知、騎西町教育委員会から埋蔵文化財発掘調査通知を文化庁長官に提出した。

調査は昭和58年２月９日（騎２次）から開始し、平成７年（騎武48次）までの13年に亘るものであった。今回の報告は、調査実施区域の北端、調査名ではKB19区、所在地は大字根古屋260－２、306、307、308－１、308－２、310である。

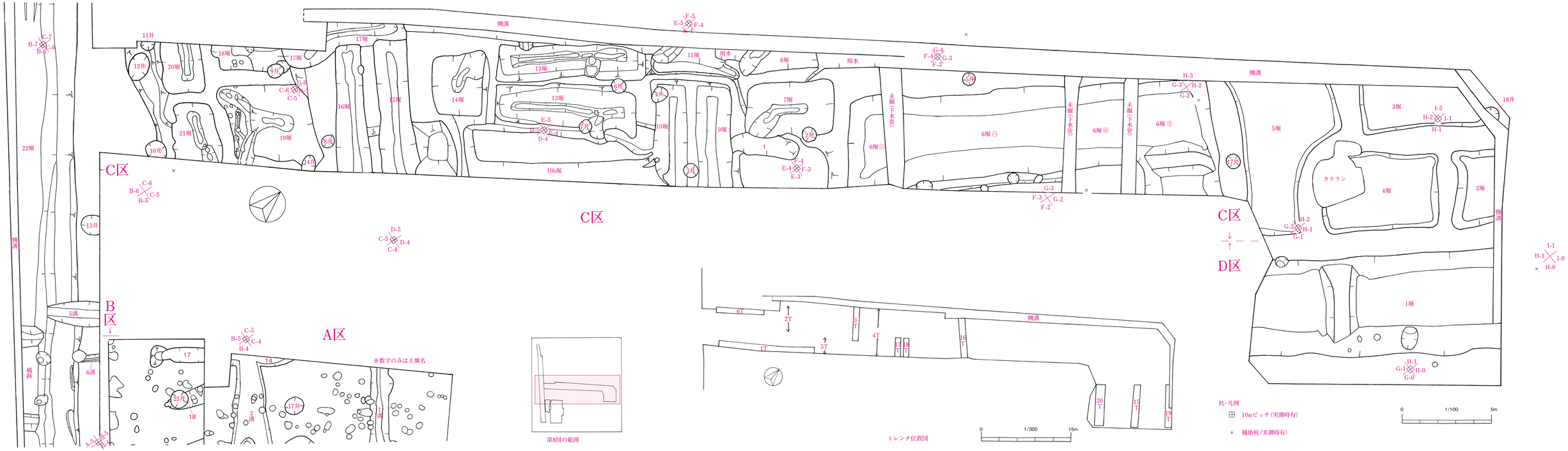
空中写真

私2
私15
KB19D区
私9
KB19C区
私13
私10
私12
KB15
KB19A区
KB19 B区
KB14
18次
13次
31次
42次
5次
KB10
KB13
32次
県
38次
0
1/1,000
50m

第6図　周辺の調査



第７図　遺構位置図（Ａ・Ｂ区）



第８図　遺構位置図（C・D区）

遺構名	位置	備考
1号堀	D区（G-1G、H-0・1G）	
2号堀	C区（H・I-1G）	
3号堀	C区（H-2G、I-1・2G）	
4号堀	C区（H-1・2G）	
5号堀	C区（G･H-2G）	
6号堀	C区（F-3・4G､G-2・3G）	
7号堀	C区（E･F-4G）	
8号堀	C区（F-4G）	
9号堀	C区（E-4G）	
10号堀	C区（E-4G）	
10b号堀	C区（D･E-4G）	
11号堀	C区（E-4G）	
12号堀	C区（E-5G）	
13号堀	C区（D･E-4G）	
14号堀	C区（D-5G）	
15号堀	C区（D-5G）	
16号堀	C区（D-5G）	
17号堀	C区（D-5・6G）	
18号堀	C区（C-6G）	
19号堀	C区（C-5・6G）	
20号堀	C区（C-6G）	
21号堀	C区（C-6G）	
22号堀	A･B区（A-3・4・5G､B-5・6・7G､C-6・7・8G､D-7・8・9・10G､E-10G）	
23号堀	B区（C-7G）	
24号堀	B区（C-7G）	
25号堀	欠番	
26号堀	欠番	
27号堀	欠番	
28号堀	欠番	
29号堀	B区（C-8G）	
30号堀	B区（C-7・8G､D-8G）	
橋	A区（A･B-5G）	
1号溝	A区（B-2・3G､C-3・4G）	
2号溝	A区（A-2・3G､B-3・4G）	
3号溝	C区（F･G-3G）	
4号溝	C区（D-5G）	
5号溝	A区（B-5G）	
6号溝	A区（B-5G）	
7号溝	A区（B-4G､C-3G）	
8号溝	欠番	
9号溝	A区（B-4G､C-3G）	
10号溝	A区（B-4G､C-3・4G）	
11号溝	A区（B-3・4G）	
12号溝	A区（B-3G､C-3G）	
13号溝	A区（B-3G）	
14号溝	A区（A･B-3G）	
15号溝	A区（A･B-4G）	
16号溝	A区（A－4G）	
17号溝	A区（A-4G）	
1号井戸	欠番ヵ	
2号井戸	C区（F-4G）	
3号井戸	C区（E-4G）	
4号井戸	C区（E-4G）	
5号井戸	C区（G-3G）	
6号井戸	C区（E-4G）	
7号井戸	C区（E-4G）	

遺構名	位置	備考
8号井戸	C区（C-5G）	
9号井戸	C区（C-6G）	
10号井戸	C区（C-6G）	
11号井戸	C区（C-6G）	
12号井戸	C区（C-6G）	
13号井戸	A区（B-5・6G）	
14号井戸	C区（C-5G）	
15号井戸	A区（A-4G）	
16号井戸	A区（A-4G）	
17号井戸	A区（G-2G）	
18号井戸	A区（I-1G）	
19号井戸	A区（B･C-4G）	
20号井戸	A区（B-4G）	
21号井戸	A区（B-3G）	
22号井戸	A区（B-3G）	
23号井戸	A区（A･B-3G）	
24号井戸	A区（A-3G）	
25号井戸	A区（B-4G）	
1号土壙	C区（E-4G）	
2号土壙	A区（B-4G）	
3号土壙	上層／A区（B-3G）	
4号土壙	A区（B-4G）	
5号土壙	A区（B-3G）	
6号土壙	A区（B-4G）	
7号土壙	A区（A-3G）	
8号土壙	A区（B-2G）	
9号土壙	A区（B-3G）	
10号土壙	A区（B-3G）	
11号土壙	A区（C-3G）	
12号土壙	A区（A-3G）	
13号土壙	A区（B-3G）	
14号土壙	A区（B･C-4G）	
15号土壙	A区（A-4G）	
15a号土壙	A区（A-4G）	
15b号土壙	A区（A-4G）	
15C号土壙	A区（A-4G）	
16号土壙	A区（A-4G）	
17号土壙	A区（B-4G）	
18号土壙	A区（B-4G）	

第1表　遺構一覧表

第Ⅲ章　出土した遺物

第１節　土器類

騎西城跡で出土している土器類は大略以下の通りに分類できる。
胎質では磁器・陶器・土器、生産地では国外産である輸入品、国内産に大別できる。また、器種は多様である。

これらの要素により時代等を加味し、掲載順は、輸入品では青磁・白磁・陶器・染付・朝鮮陶磁・その他、国産品では渥美・常滑・瀬戸美濃・肥前系陶器・志戸呂・初山・備前・丹波信楽・京都信楽・ほか・産地不明・肥前系磁器・瀬戸美濃系磁器・在地産土器とする。その他で鞴の羽口や土製品を扱う。

今回の調査で報告する土器類は主に以下の通りで細片は省略している。
※９堀10堀重複地点出土は、本文では9.10堀と、図・一覧表では９・10堀と表記した。

【輸入陶磁】
〈青磁〉碗が30堀（251）で出土した。
○龍泉窯系　碗が１堀（１・29）・６堀（65）・22堀（219・220）・Ｃ区５ＣⅡ層（380）・Ｃ区１層（456）・Ｄ区３層（497）・遺構外（524～540）で、皿が19堀（211）・Ｃ区南土塁（466）・遺構外（542・543）で、盤が１堀（30）・遺構外（544）で、花瓶ヵが10壙（316）で出土した。
○同安窯系　碗が遺構外（541）で出土した。
〈白磁〉碗が20井（287）で、皿が１堀（２・３・41）・４堀（50）・６堀（77・103）・16堀（208）・22堀（221）・24井（302）・Ｃ区５ＣⅡ層（381）・Ｄ区２層（476・477）・遺構外（545～560）で、壺が６堀（125）で、六角坏がＣ区５ＣⅠ層（359）で、香炉が遺構外＋KB15（561）で出土した。
〈染付〉碗が２堀（46）・６堀（126）・13堀＋３Ｃ層（200）・１溝（255）・Ｃ区５ＣⅡ層（382～384）384は80％残存・遺構外(562～565)で、皿が１堀(42)・６堀（74・105）・11堀＋５ＣⅡ層＋３Ｃ層（193）・22堀（222）・３溝＋５ＣⅡ層（269）75％残　存・Ｃ区５ＣⅠ層＋５Ｃ層（360）・Ｃ区５ＣⅡ層（385～389）385は完形・Ｃ区１層（457・458）・Ｄ区４層（505）・遺構外（568～583・585～595）で、芙蓉手鉢がＣ区５ＣⅠ層＋５ＣⅡ層＋５Ｃ層＋３Ｃ層（361）で、小坏がＣ区中層（463）で出土した。
○漳州窯系　遺構外で碗（566・567）・皿（584）が出土した。
〈朝鮮〉瓶がＣ区５ＣⅡ層＋５Ｃ層(411・413・414)・Ｃ区５ＣⅠ層＋５ＣⅡ層＋５Ｃ層（412）で出土した。411は、内面に同心円の叩き目が残るもので、黒釉に灰釉を掛ける。断面の粒子が層状である。目跡は耐火土で貝ではない。器厚は薄く触感はすべすべする。初期の岸岳（肥前）は薄いが当地域に流通する時期ではなく、胎土は唐津のざらざらではない。15～16世紀の朝鮮施釉陶器（瓶）。

412は、内面の叩き目をナデ消しており、灰釉を掛ける。断面は層状ではなく、白色粒子が多い。器厚は薄く触感はすべすべする。15～16世紀の朝鮮施釉陶器（瓶）。

413・414は同一個体で、鉄の黒釉を掛ける。目跡は土か。16世紀後半の朝鮮施釉陶器（瓶）。

以上、朝鮮陶器については、片山まび氏より御教示を頂いた。

【国産】
〈渥美〉甕が22堀ヵ（223）で出土した。
〈常滑〉甕が１堀(４・31)・６堀(104)・９堀(171)・10堀＋13堀（175）・15堀（205）・７井（281）・Ｃ区３Ｃ層(352)・Ｄ区４層(506)・遺構外(598～601)で、広口壺が11堀＋12堀＋４溝＋２溝（194）で、片口鉢が４堀(51)・22堀(224・225)・遺構外(596・597)で、瓶子が10-b堀（187）で出土した。
〈瀬戸美濃〉
○古瀬戸前期　水滴が遺構外（672)、四耳壺が遺構外（679)、壺ヵがＤ区２層（485）で出土した。
○古瀬戸前期～中期　入子が６堀（117）で出土した。
○古瀬戸後期　平碗が６堀（121）・22堀（226）・遺構外（602・603）で、小皿が１堀（21）で、卸皿が

遺構外(614)で、縁釉小皿が9堀(164)・9溝(275)・C区1層（460）で、折縁中皿が3壙（309）で、徳利が9堀（172）で、碗形鉢ヵが1堀（43）で、尊式花瓶が6堀（81）で、擂鉢が6堀（98）で、柄付片口が22堀（233）で、鉢が遺構外（663）で、筒形容器がD区2層（484）で出土した。

○13C中の山茶碗が遺構外（610）で出土した。

◎大窯前半　天目茶碗が1堀（20）・1溝（256）で、丸皿が5堀（56）・6堀（106・107）・18堀（210）75％残存・遺構外（625～628）626は75％残存で、端反皿が6堀（78・79）・9堀（170）90％残存・22堀(618)・2溝(266)・A区焼土中(351)残存80％・D区1層＋2層（468）・遺構外（617・619・620）617は75％残存で、縁釉小皿がC区南土塁（467）で、縁釉はさみ皿が30堀（252）で、卸皿が1溝（257）で、皿が3壙(310)・8壙(315)・C区5C層(436)・遺構外(621・622)で、擂鉢が6堀(63)・22堀(230・231)・1溝（259）・24井（303）・C区5CⅡ層（399）・D区4層(512・513)・遺構外(650～653)で、茶入が遺構外（670）で出土した。

◎大窯後半　天目茶碗が6堀（70）・9堀（163）・D区4層（507）・遺構外（606～608）で、織部黒沓形茶碗が1堀（5）90％残存で、志野碗が遺構外（612）で、志野皿が1堀＋KB15（7）85％残存・1堀＋D区4層（8）100％残存・2溝（267）・3壙（311）・C区5CⅠ層(364)・C区5CⅡ層(396)・C区5C層（437・438）・遺構外（637・638・640～642）で、志野鉢がC区5CⅡ層（401）75％残存で、鼠志野鉢が遺構外＋KB14＋KB15＋KB18＋私5（649）で、志野向付が2溝＋KB15（268）・1建（317）・C区1層（461）・D区2層＋私5（483）で、折縁皿が遺構外（635・636）で、皿がC区5CⅡ層（393）90％残存・遺構外（623・630）で、大皿が1溝（258）で、擂鉢が1堀（44）・6堀（80）・10堀（179）・C区5CⅠ層（368）・C区5CⅡ層＋5CⅠ層(398)80％残存・遺構外(654・655・657)で出土した。

◎大窯　皿が遺構外（624）で、擂鉢が4溝（272）・遺構外（658）で出土した。

●登窯1期　天目茶碗が2堀（47）・C区5CⅡ層（390）で、総織部碗がC区5CⅡ層（391）で、志野皿が1堀＋D区4層（6）95％残存・15堀（206）90％残存・C区5CⅠ層(362)・C区5CⅡ層(394・395・397）394・395は75％残存・C区中層（464）・遺構外（639・645）で、総織部皿が1堀（9）・C区3C層（353）90％残存で、鉄絵皿が5堀（57）・D区4層（511）・遺構外＋KB15（647）で、皿がC区5CⅠ層（363）で、黄瀬戸大皿が5堀（58）で、志野織部大皿がD区2層（481）で、大鉢がD区2層＋4層＋KB15（514）で、織部向付が6堀（75）・C区5CⅠ層（365）・C区5CⅡ層（403・404）で、青織部汁注が1堀＋D区1～5層（10）で、擂鉢が5堀（59・60）・C区5CⅠ層（366・367）・C区5CⅡ層（400）・D区2層（479）・D区3層（499）・遺構外(656)で、徳利が2堀＋D区1層＋2層(48)で、茶入がC区5CⅡ層(402)で、蓋が遺構外(671)で出土した。

●登窯2期　志野丸碗がC区5C層（435）100％残存で、輪禿皿が22堀(228)で、丸皿がD区4層(509)で出土した。

●登窯3期以降　天目茶碗が6堀（69）で、志野織部碗がC区5CⅡ＋5C層（392）で、碗が遺構外（609・613)で、志野皿が22堀(227)・遺構外(643・644・646）で、皿が6堀（122・123）・2井（280）・D区3層(498)・遺構外(631・632)・D区4層(508)で、反り皿が遺構外＋KB15（648）で、灯明皿がD区2層（478）で、灯明具が22堀（229）で、徳利が1堀(22)・遺構外(677)で、ひょうそくが1堀(45)・遺構外（674・675）で、筒形香炉がD区1層（471）で、煙硝擂が6堀（72）・22堀（232）・D区2層（480）・遺構外（660）で、鉢が遺構外（661・662）で、擂鉢が遺構外（659）で、織部水注ヵが遺構外（673）で、半胴が遺構外（678）で出土した。

〈肥前系陶器〉　刷毛目碗が4堀＋3壙（52）・22堀(235)で、沓型碗が6堀(73)・遺構外＋私6(683)で、色絵碗が3溝（270）75％残存で、筒形碗がC区5CⅠ層（369）で、碗がC区5C層（439）・D区4層（516）で、皿がD区2層（487～489）・遺構外（693）で、鉄絵皿が5堀＋C区5CⅠ層（61）・6堀（76）・11堀（195）・C区5CⅡ層（405・406）・

C区５C層（440～442）・D区１層＋KB15（472）・D区４層＋２層（517）・D区３層（500）・D区２層＋３層＋KB15（486）・遺構外＋KB15（684）・遺構外＋KB15＋私５（685）・遺構外（686～692）で、鉄絵鉢が６堀＋KB15（71）・C区５CⅡ層（407）で、鉢がD区２層＋３層（490）・D区４層（518）・遺構外（695）で、大皿がD区１層（473）・遺構外（694）で、向付が１堀(11)・６堀(118・124・128)・７堀（160）・C区３C層（354～356）・C区５CⅠ層（370）・C区５CⅡ層（408～410）・C区５C層（443・444）・D区２層＋３層（491・494）・D区２層(492・493)・D区３層(501～503)・D区４層(519～521)・遺構外（699～707）で、壺が15堀＋C区５C層（207）・遺構外（698）で、徳利が８井＋C区３C層（282）で、香炉が遺構外（696）で、火入れヵが遺構外（697）で出土した。

〈志戸呂〉皿が６堀（129）・３壙（312）75％残存で、徳利が12堀(198)・C区５CⅡ層＋５C層(416)で、擂鉢が10溝（276）・遺構外（708～711）で、水滴がC区５CⅡ層（415）で、向付が遺構外（712）で出土した。

〈初山〉天目茶碗が１堀＋D区２層（12）・D区２層（495）で出土した。

〈備前〉平鉢が９堀＋19堀＋C区３C層＋１壙(165)で、徳利がC区５CⅠ層＋５CⅡ層＋５C層（371）で、擂鉢がD区１層（474）・遺構外（714）で、備前丹波の壺が遺構外＋KB15＋KB18＋私５＋私６（713）で出土した。

〈丹波・信楽〉擂鉢が22堀（236）・30堀（253）・３壙(313)・遺構外(715～717)で、壺が遺構外(718)で出土した。

〈産地不明〉碗がD区２層（496）で、灯明皿が遺構外（719・720）で、煙硝擂が遺構外（721）で、甕が８溝（274）・15溝（279）・遺構外（722）で出土した。

〈肥前系磁器〉碗が４溝（273）・20井（288）・３壙（314）・遺構外（723～727）で、皿が遺構外（728）で出土した。

〈在地産土器〉

○かわらけ　多くの遺構から出土した。

残存100％のものは１堀(13)・６堀(68・87・95・96)・７堀（136～138・143・144・147・148・150・153・154)・９堀（167・169）・10堀（180）・C区５CⅡ層（419～422・432）・C区５C層（445・447）・C区中層（465）・遺構外（730）で出土した。

残存90～95％のものは１堀(16・17)・５堀(62)・６堀（67・97）・７堀（131・134・135・139～142・145・146・152）・10堀（177・184）・11堀（196・197）・22堀（237・240）・12井（283）・21井（294）・C区５CⅠ層（372）・C区５CⅡ層（417・428・429）・C区５C層（446・448）・遺構外（733～735）で出土した。

残存75％以上のものは１堀（14・15・23・32）・４堀（53）・７堀（149・156）・10堀（183）・13堀（201）・16堀（209）・29堀＋30堀（250）・13井（286）・C区５CⅡ層（423）・C区５C層（449）・遺構外（729・736・741・743・752・753）で出土した。

灯芯油痕が認められるものは６堀（68）・９堀（168）・10堀（176・184）・9.10堀（190）・11堀（197）・D区４層（522）・遺構外（734・735・745・750・753・757）で出土した。

スス付着は１堀（37）・４堀（53）・６堀（102・110・115）・９堀（167）・22堀（238）・C区５CⅠ層（376）・C区５CⅡ層（419・430・431）・遺構外（730・735・740～742）で出土した。

黒色物質が付着するものは、６堀（84）・遺構外（737）で出土した。

○ほうろく　多くの遺構から出土した。８堀ヵ（162）・21堀（217）は残存80％以上で、内耳が残るものは、すべて体部に収まるものである。

○土鍋　４堀（54）で出土した。

○火鉢　19堀（215・216）・１建（319）・C区５CⅠ層＋５CⅡ層（379）・C区５C層（454・455）・遺構外（767～769）で出土した。

○擂鉢　１堀（39・40）・６堀（64・92・93・100・112～114）・12堀＋13堀（199）・19堀（213・214）・22堀（247・248）・29堀（249）・21井（295・296）で出土した。

○片口鉢　9.10堀（192）・23井（301）・24井（305）・

遺構外（765・766）で出土した。
○捏鉢　4堀（55）・10溝（277）で出土した。
○鉢　遺構外（764）で出土したが新しいものヵ。
○香炉　10堀＋9.10堀（186）残存75％・遺構外（770～772）で出土した。
○甕　1溝＋1建（265）で出土した。
○壺　焼塩壺ヵが遺構外（773）で出土した。
○瓦　13溝（278）・20井（289～293）・22井（298～300）・1建（320～350）で出土した。332は東海式、333は江戸式である。

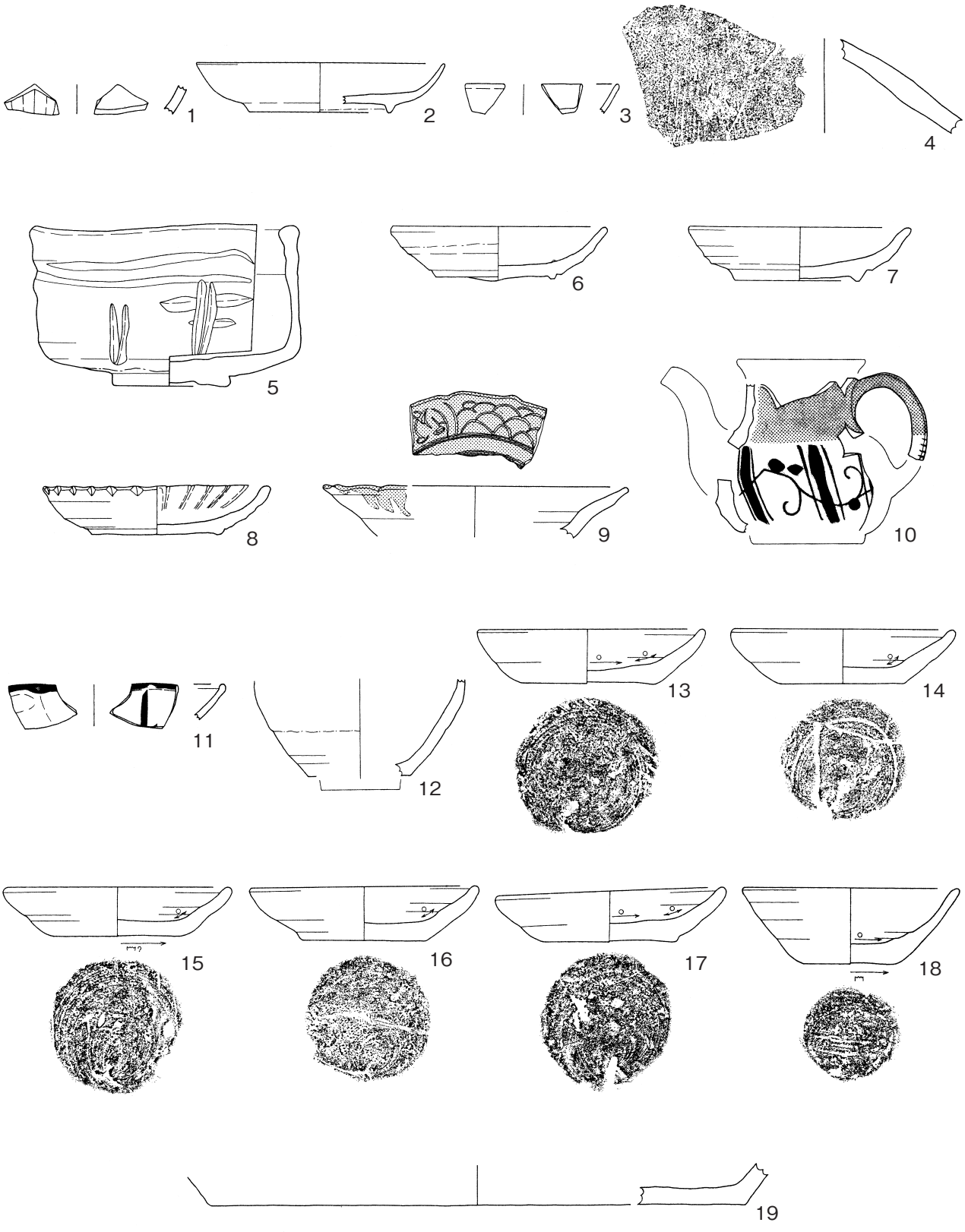
瓦は、A区のみで出土する。掲載外を含めた出土量（重量）は、1号建物跡で111.63kg（27ﾘｯﾄﾙ入箱9.5箱）、20井 で19.53kg、21井 で16g、22井 で7.13kg、22堀で80g、13溝で240g、A区西で3.5kg、A区東で1.7kgである。

【その他】　瀬戸美濃の天目・皿・擂鉢を加工した土製円盤がC区5CⅡ層（776）・遺構外（774・775・777・778）で、在地の擂鉢を加工したものが1堀（779）で、かわらけを加工したものが遺構外（780・781）で出土した。人形の足と思われるものが3溝（782）で、不明土器がD区4層（783）で、有穴球状土製品が9堀（784）で出土した。

織部黒沓形茶碗（土5）

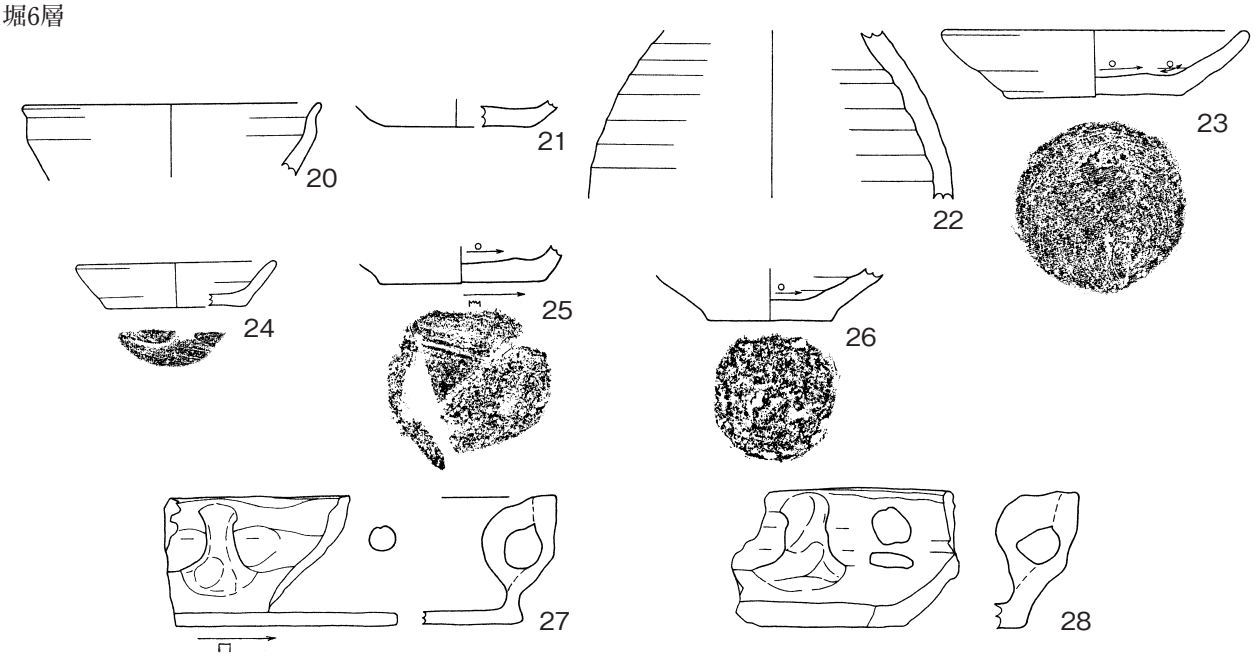
総織部皿（土353）

1堀5層

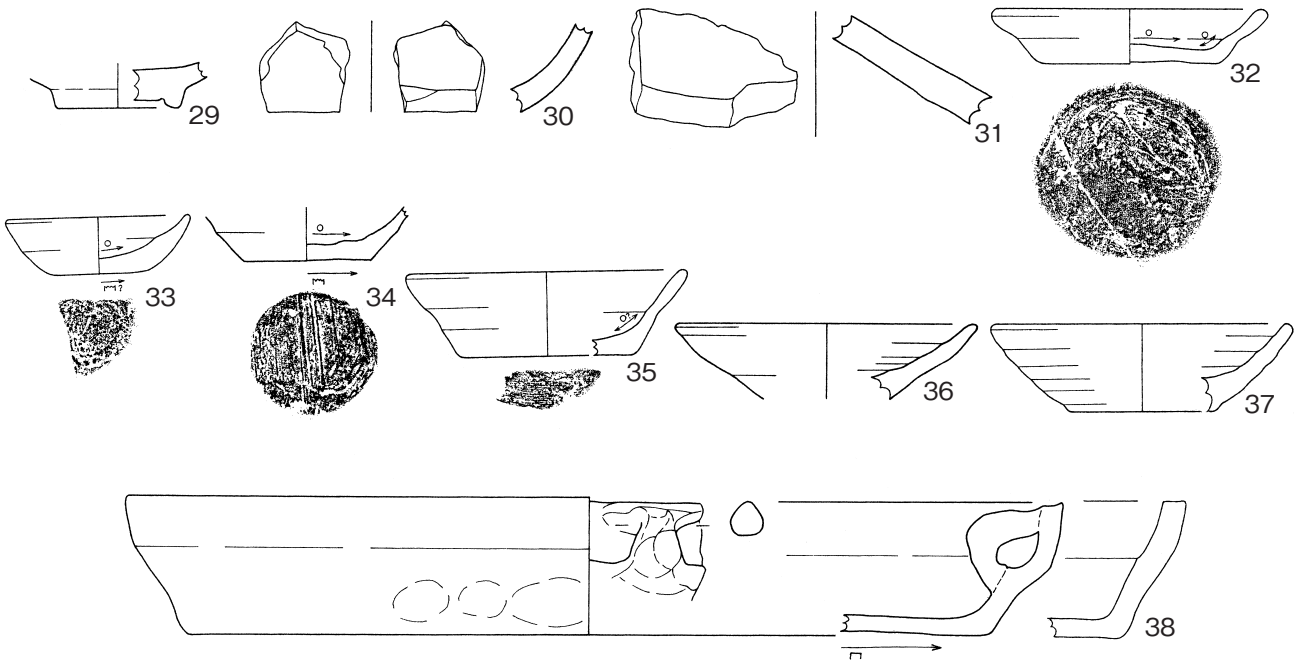


第9図　土器類1

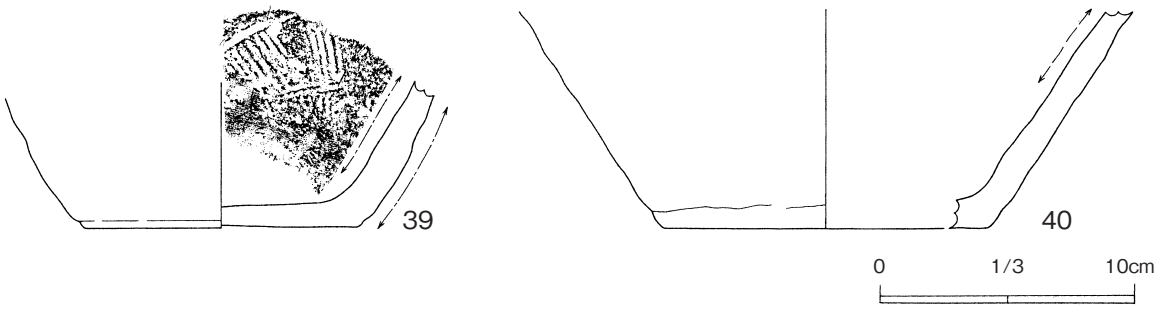
1堀6層



1堀7層

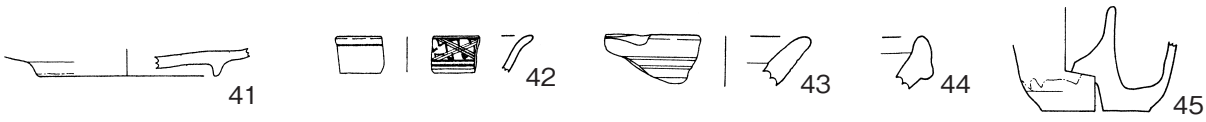


1堀8層

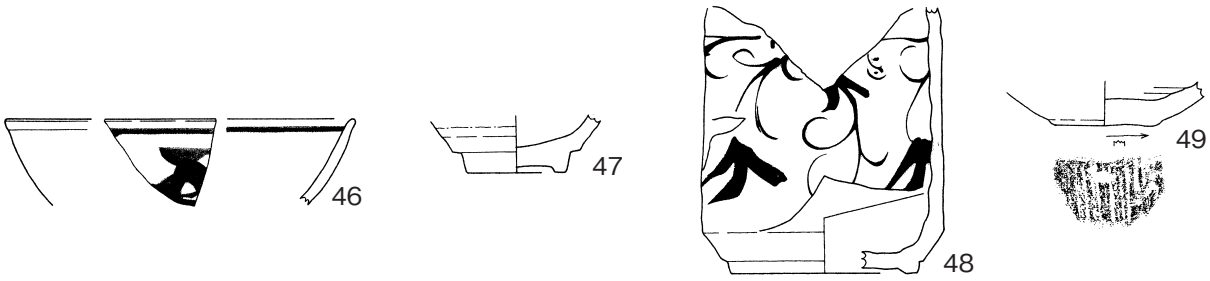


第10図　土器類 2

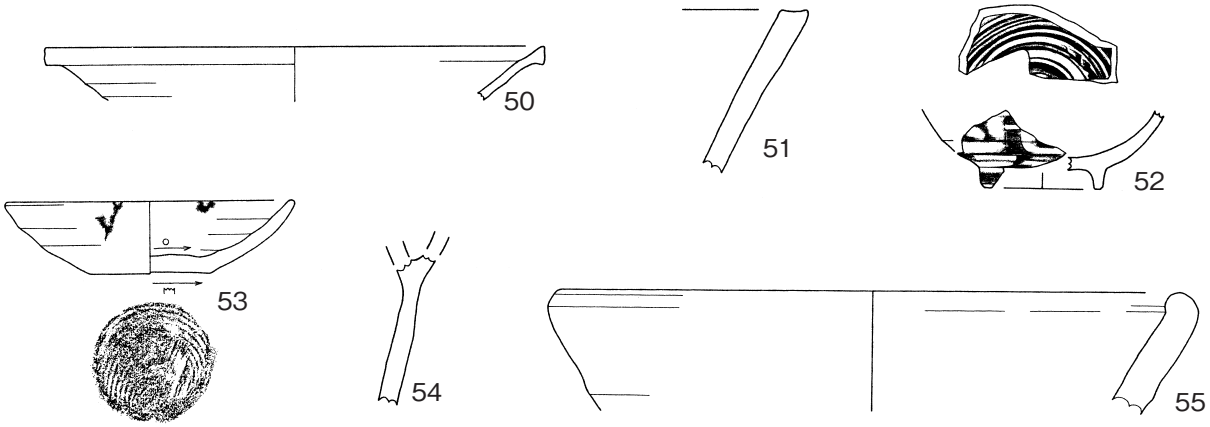
1堀



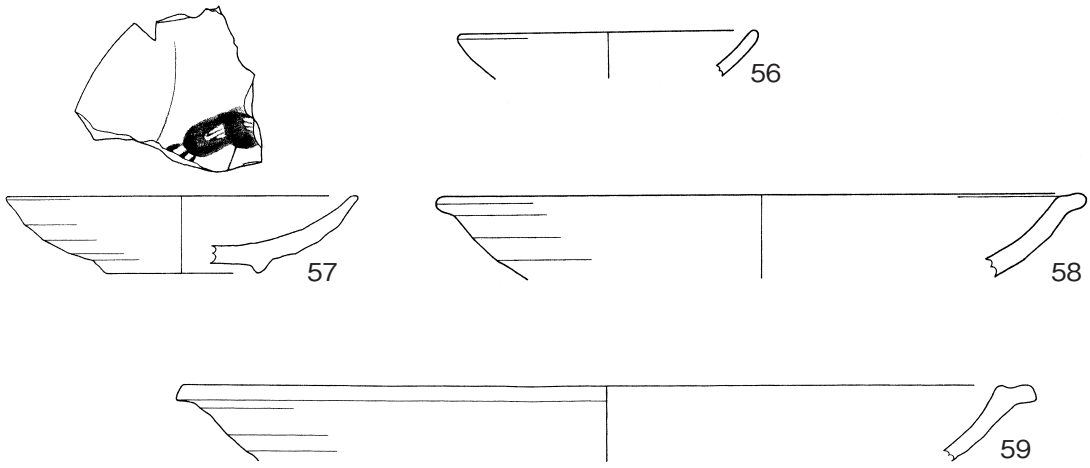
2堀

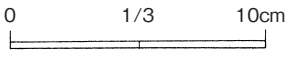


4堀



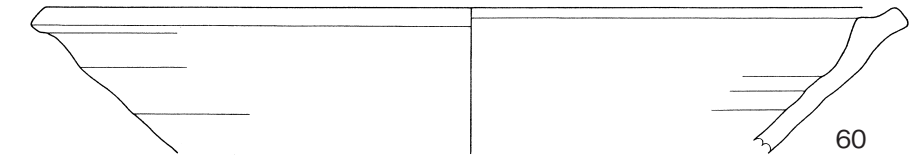
5堀(1)

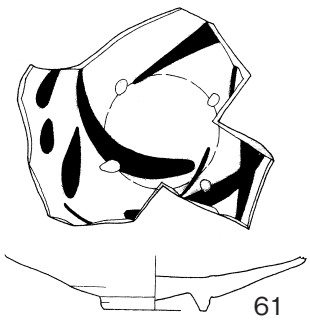


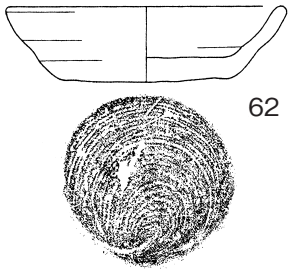


第11図　土器類 3

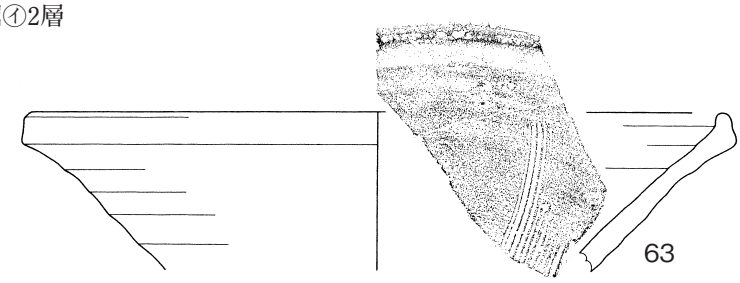
5堀(2)

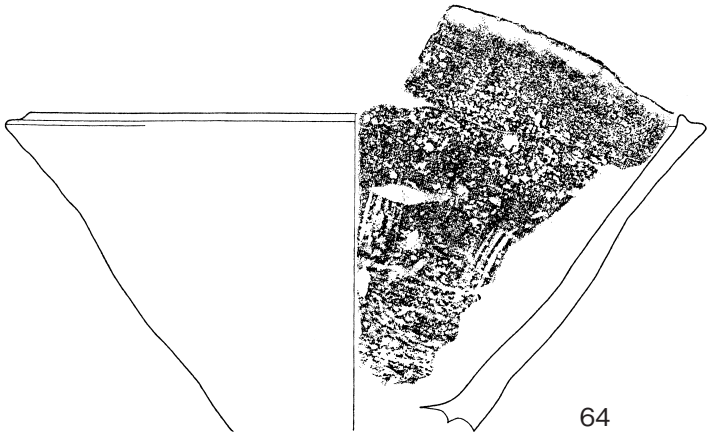




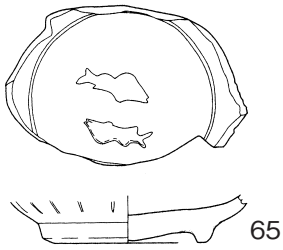


6堀㋑2層

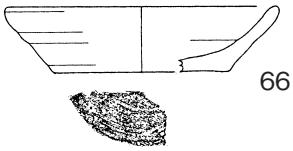




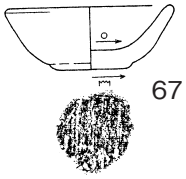
6堀㋑5層



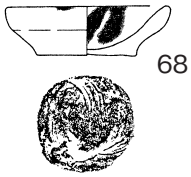
6堀㋑7層



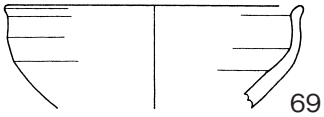
6堀㋑8層

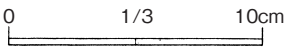


6堀㋑9層



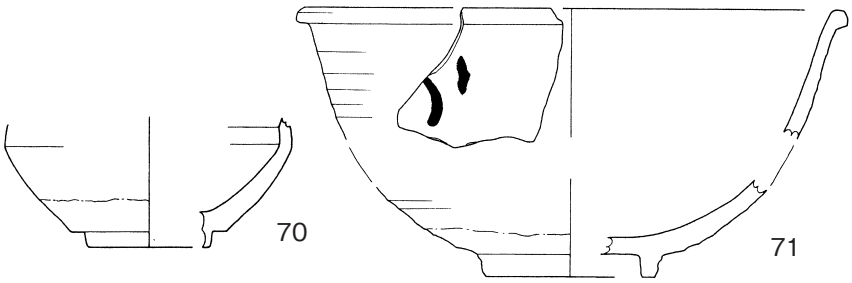
6堀㋑



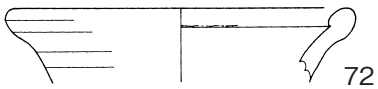


第12図　土器類 4

6堀㊁2層

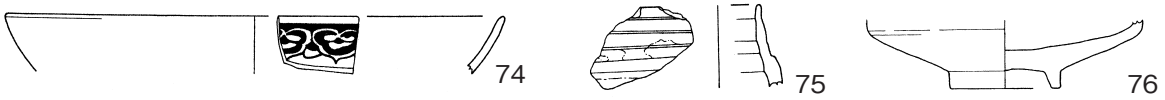


6堀㊁

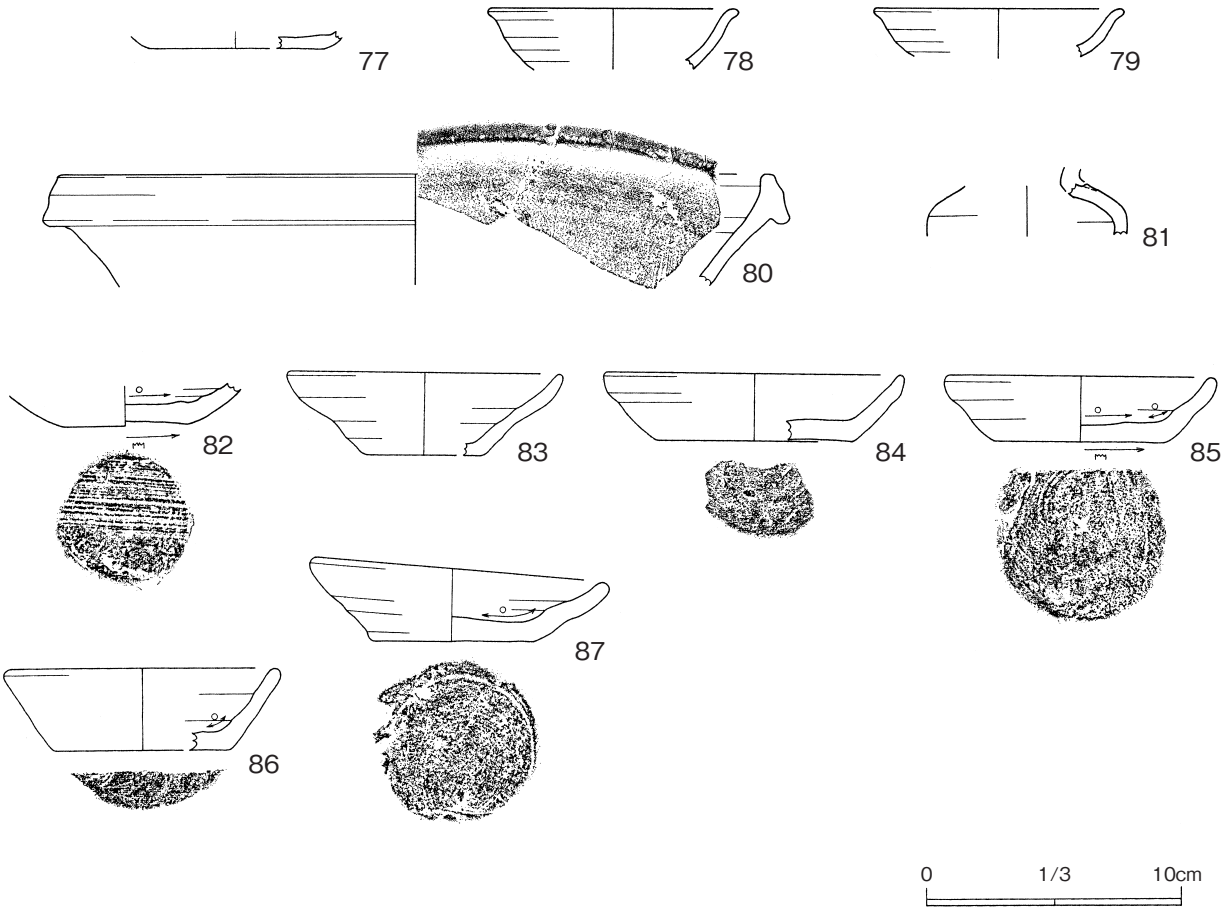


6堀㈧2層

6堀㈧4層

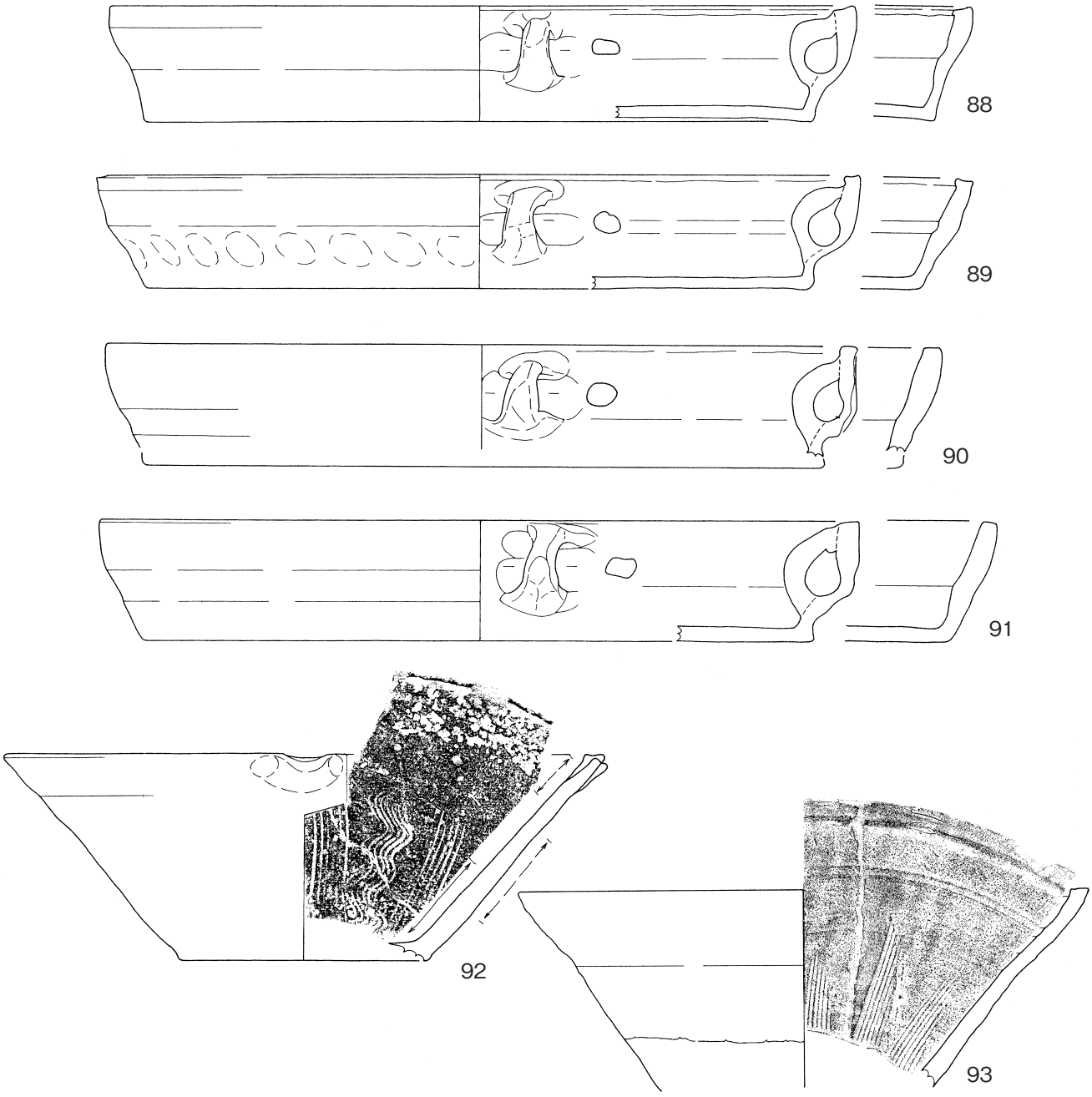


6堀㈧5層(1)

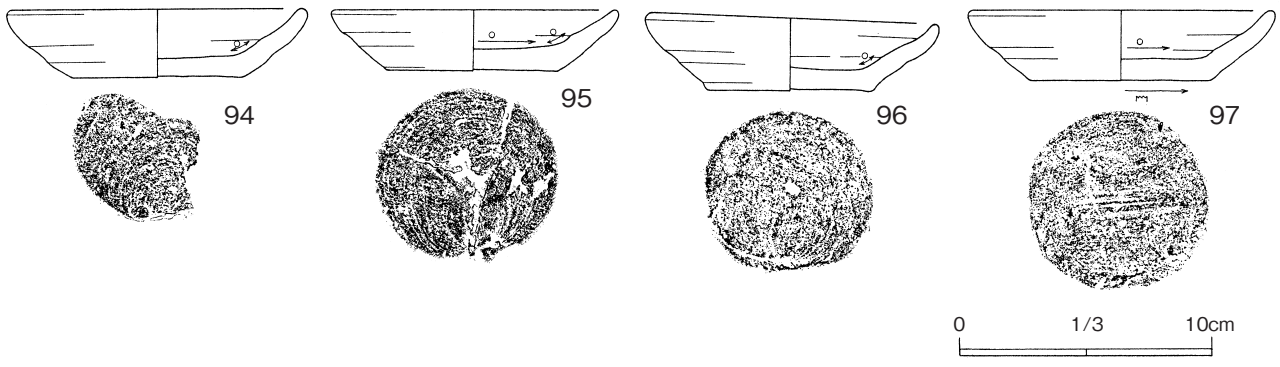


第13図　土器類 5

6堀㈧5層(2)

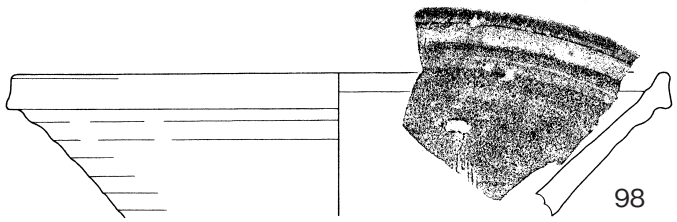


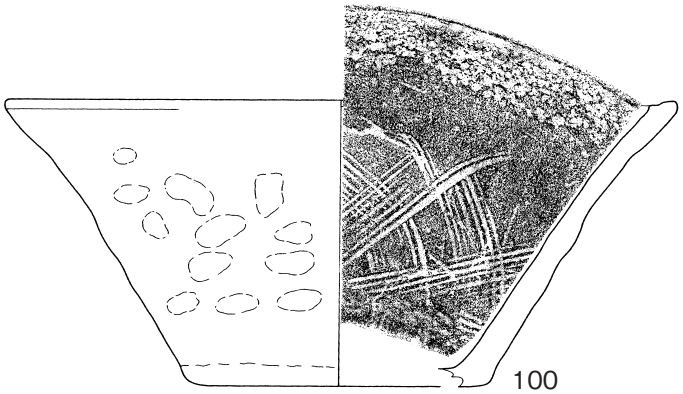
6堀㈧6層



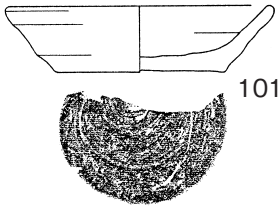
第14図　土器類 6

6堀㈧7層

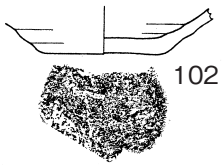




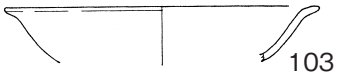
6堀㈧8層

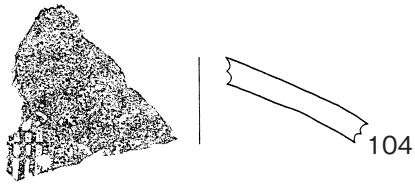


6堀㈧9層

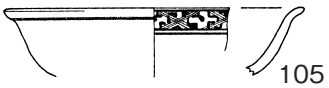


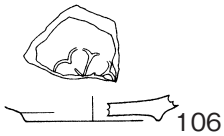
6堀㈧

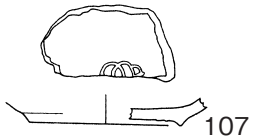


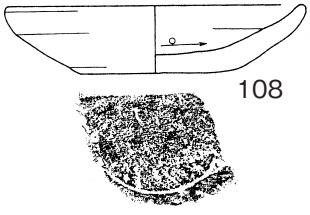


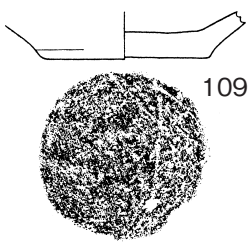
6堀㈢6層(1)

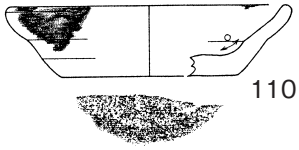


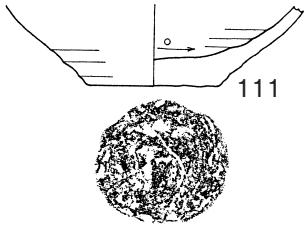


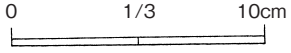






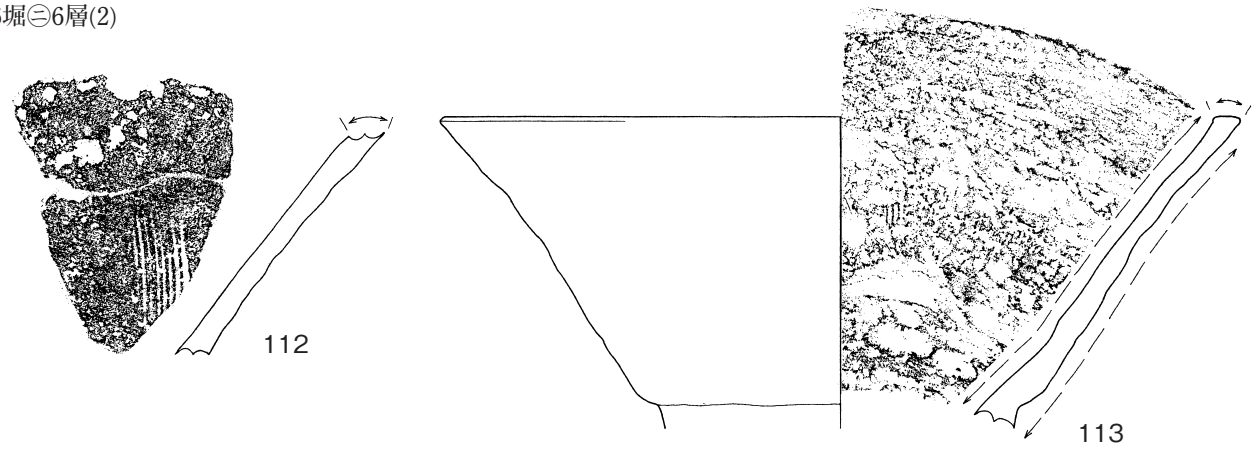


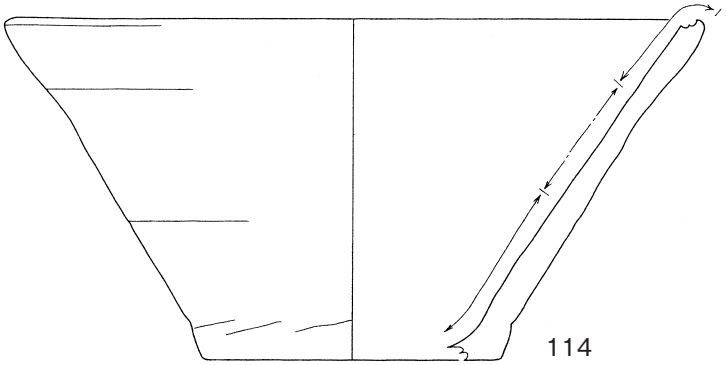




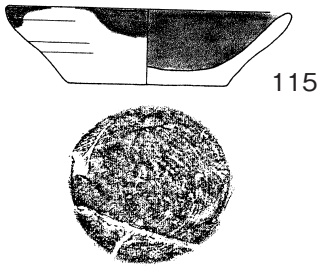
第15図　土器類 7

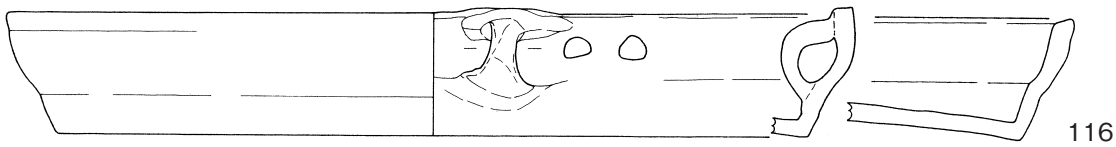
6堀㈢6層(2)



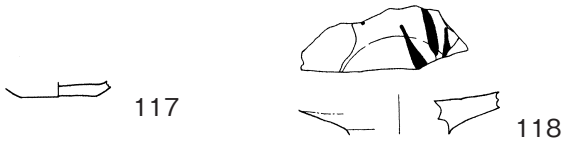


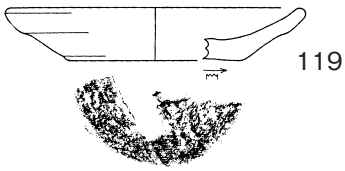
6堀㈢7層

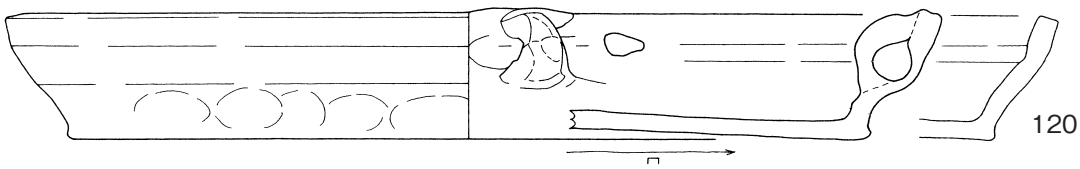




6堀7層



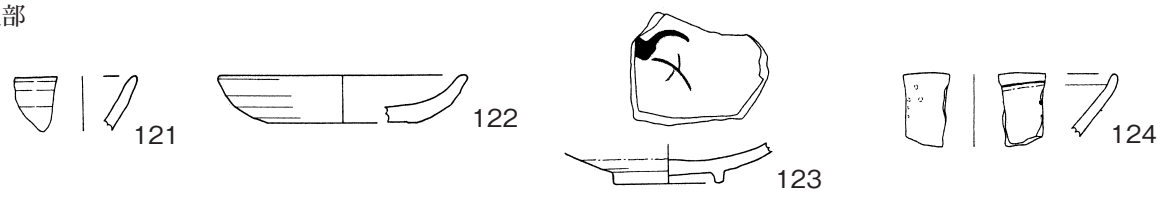




0 1/3 10cm

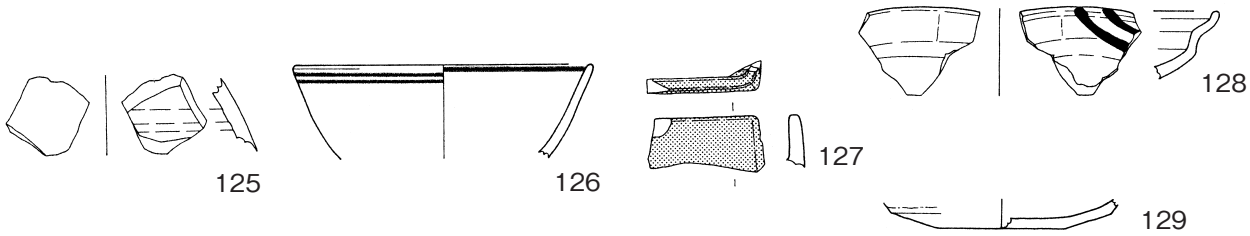
第16図　土器類 8

6堀上部

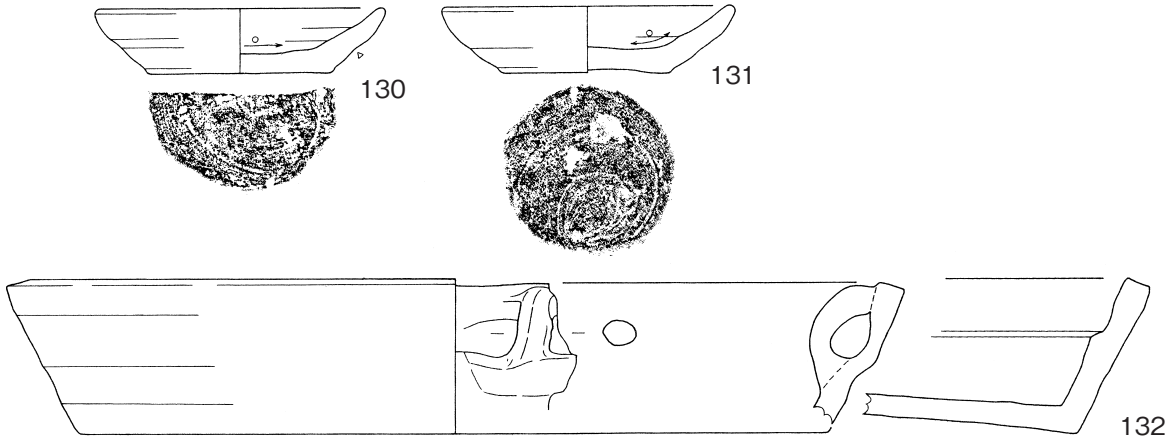


124・128は平置実測

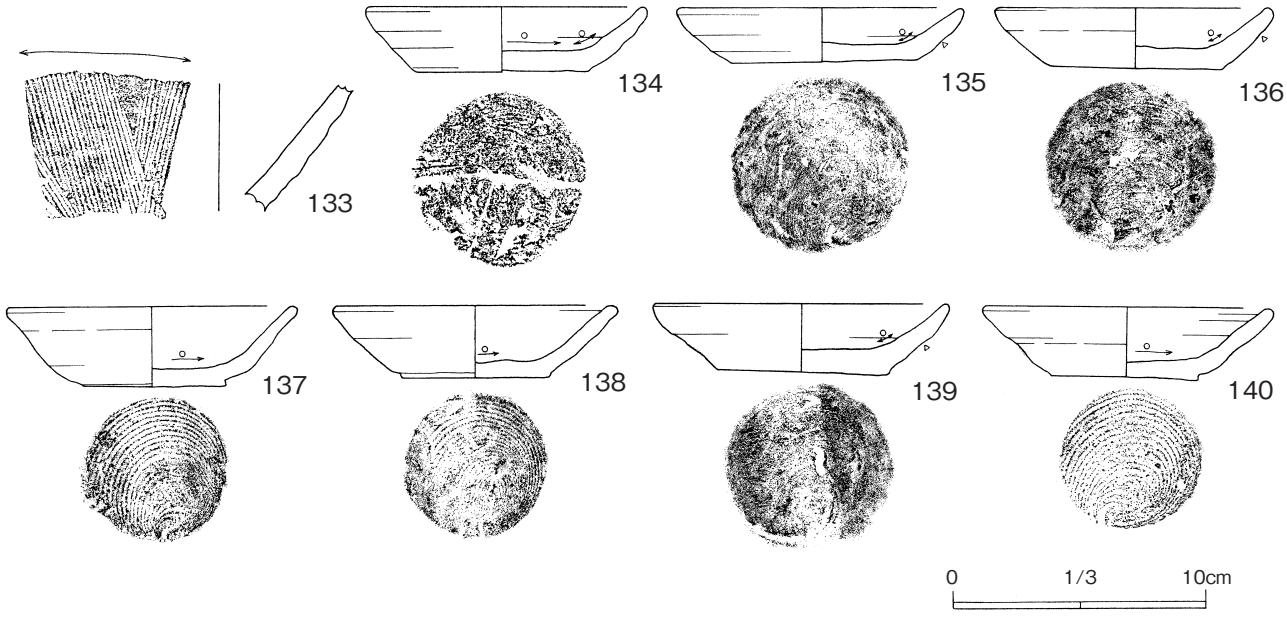
6堀



7堀1層

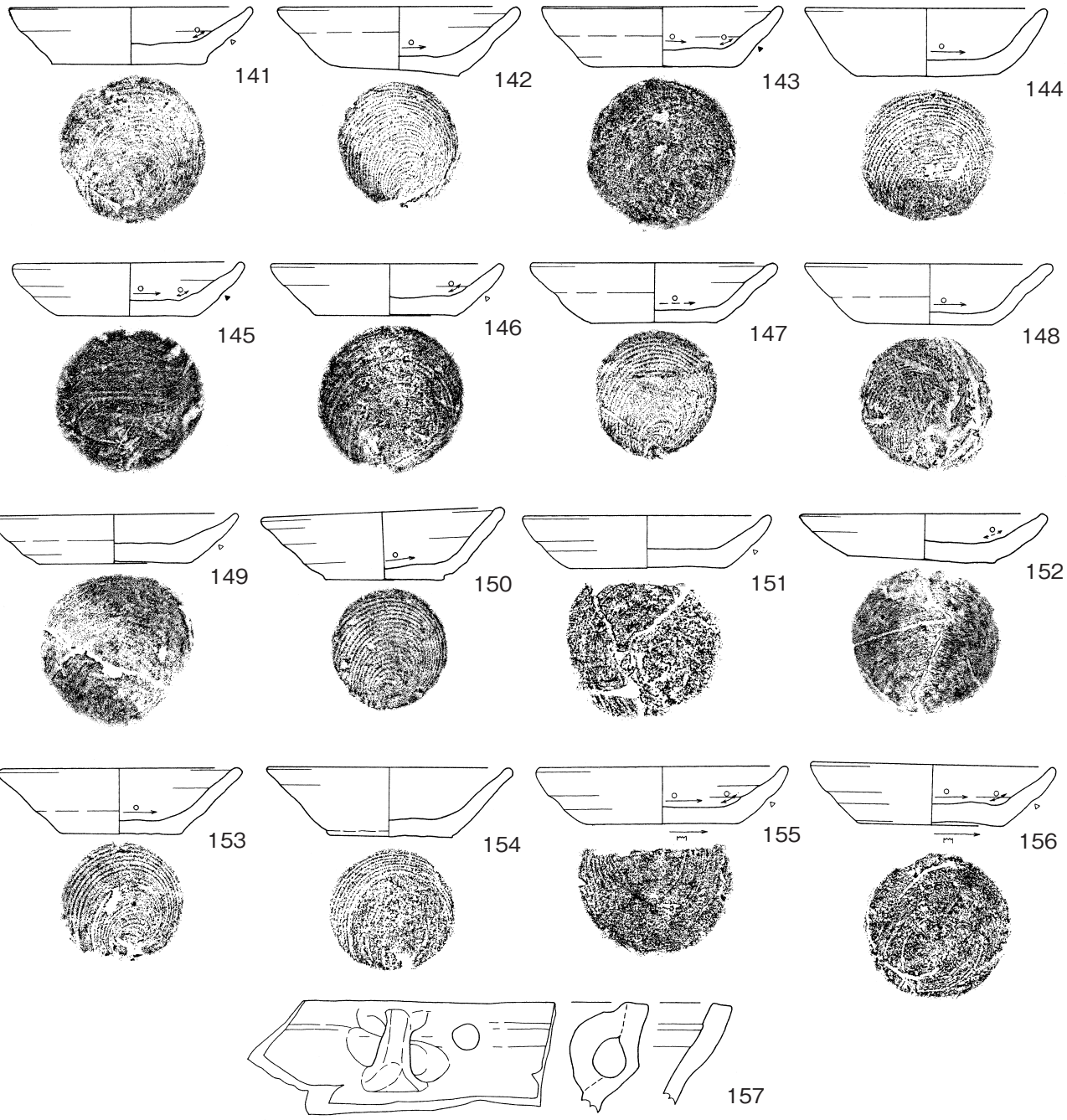


7堀2層(1)

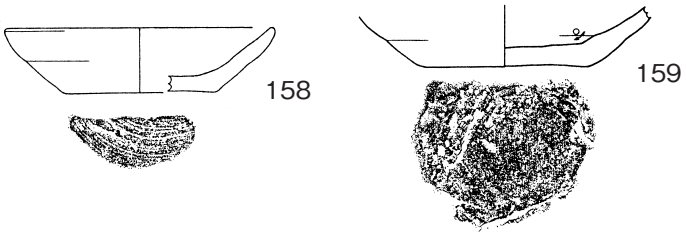


第17図　土器類 9

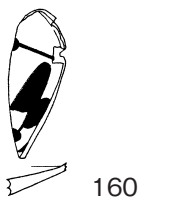
7堀2層(2)



7堀3層



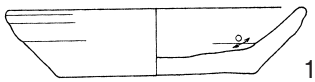
7堀7層



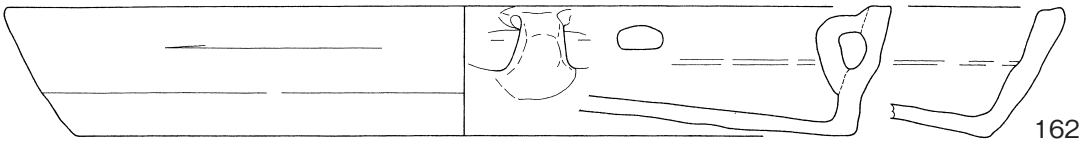
0 1/3 10cm

第18図　土器類10

8堀

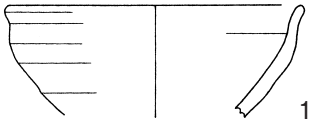


161

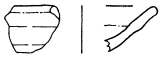


162

9堀上層

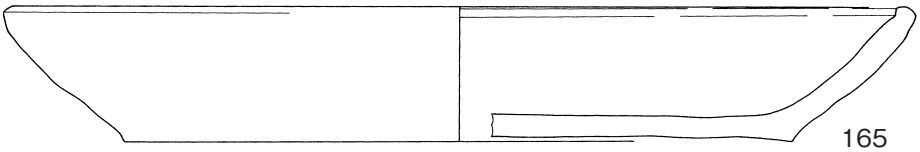


163



164

166

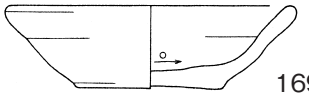


165

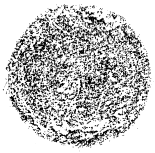
9堀中層

167

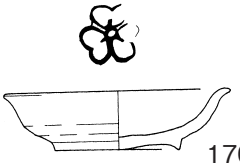
168



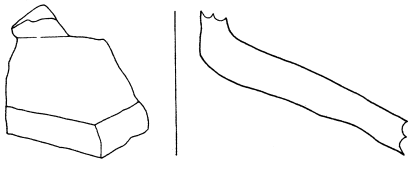
169



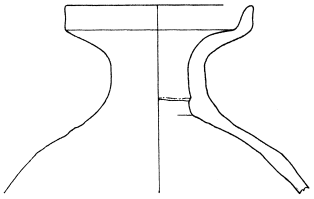
9堀下層



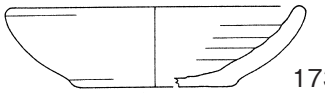
170



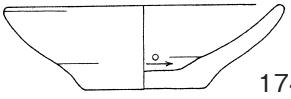
171



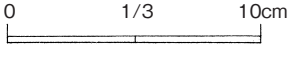
172



173

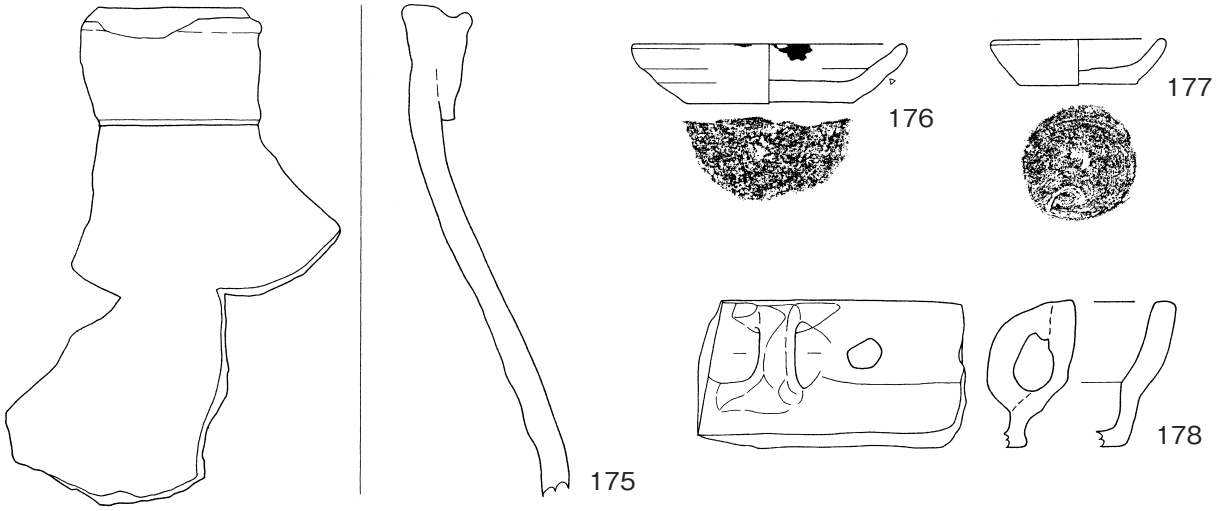


174

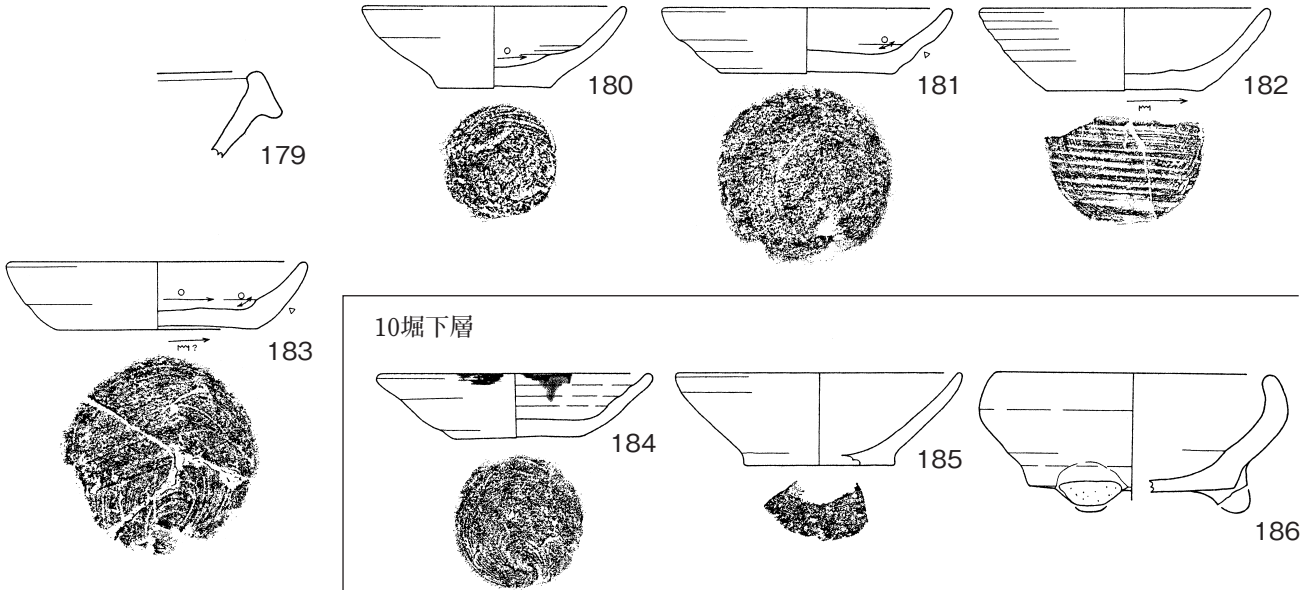


第19図　土器類11

10堀上層

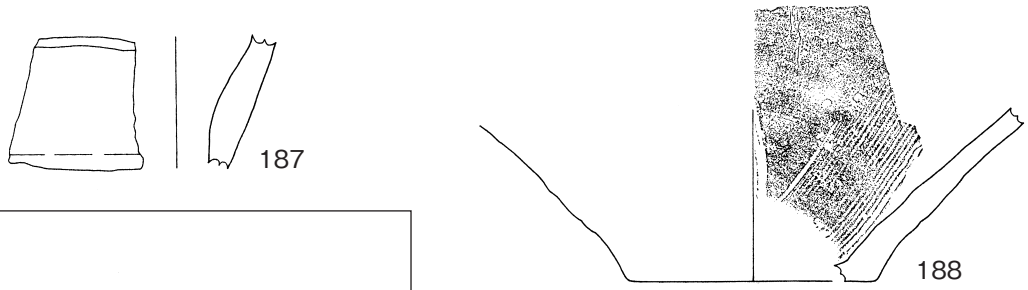


10堀中層

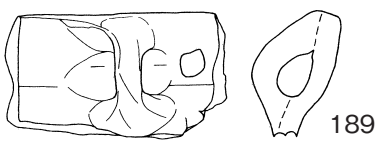


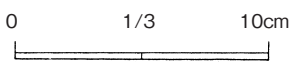
10堀下層

10b堀



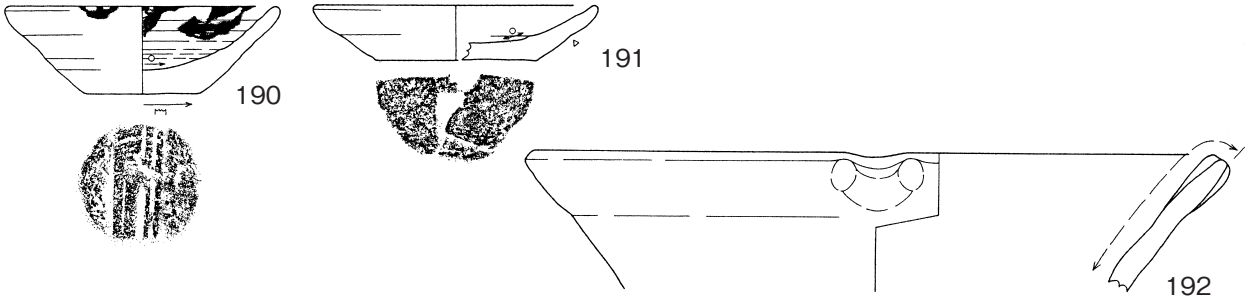
10堀埋土



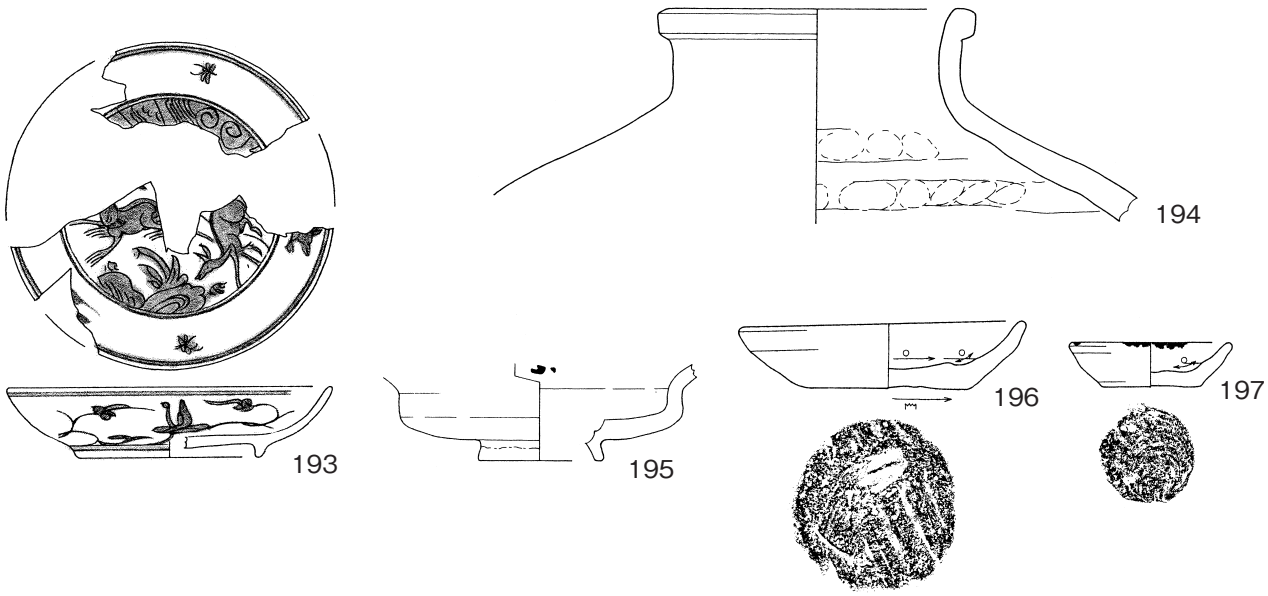


第20図　土器類12

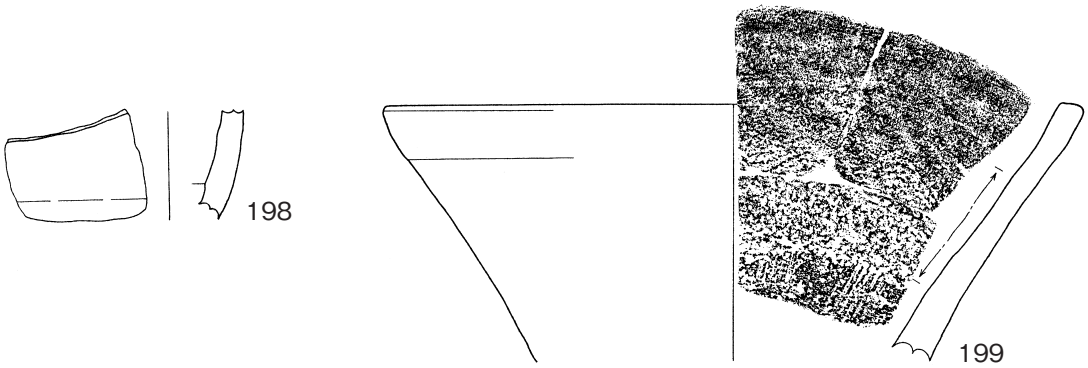
9·10堀埋土



11堀



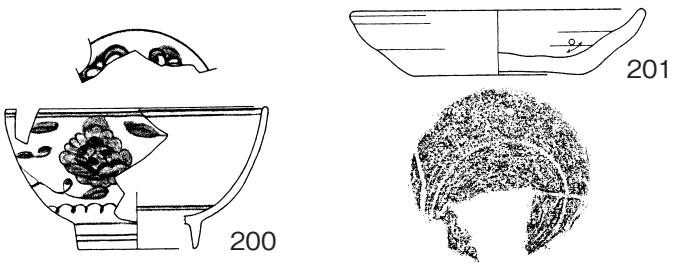
12堀

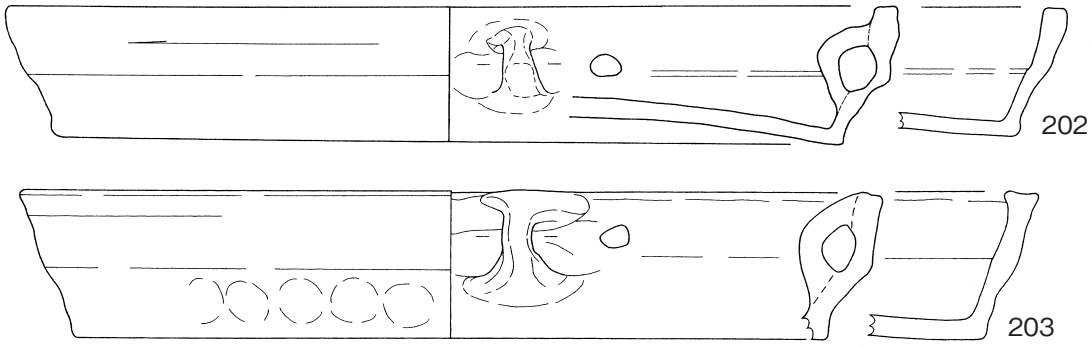


0 1/3 10cm

第21図　土器類13

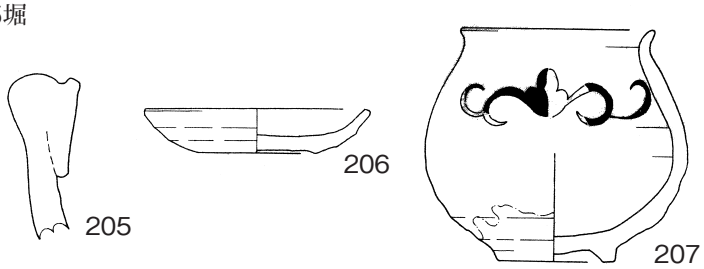
13堀



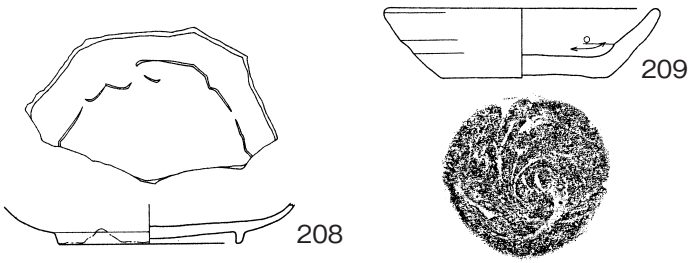


14堀

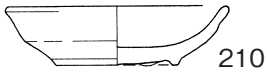
15堀



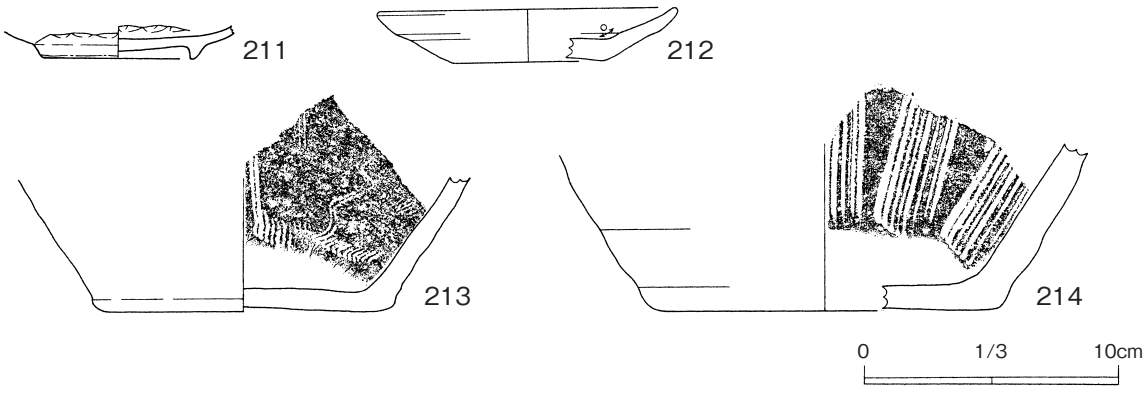
16堀



18堀

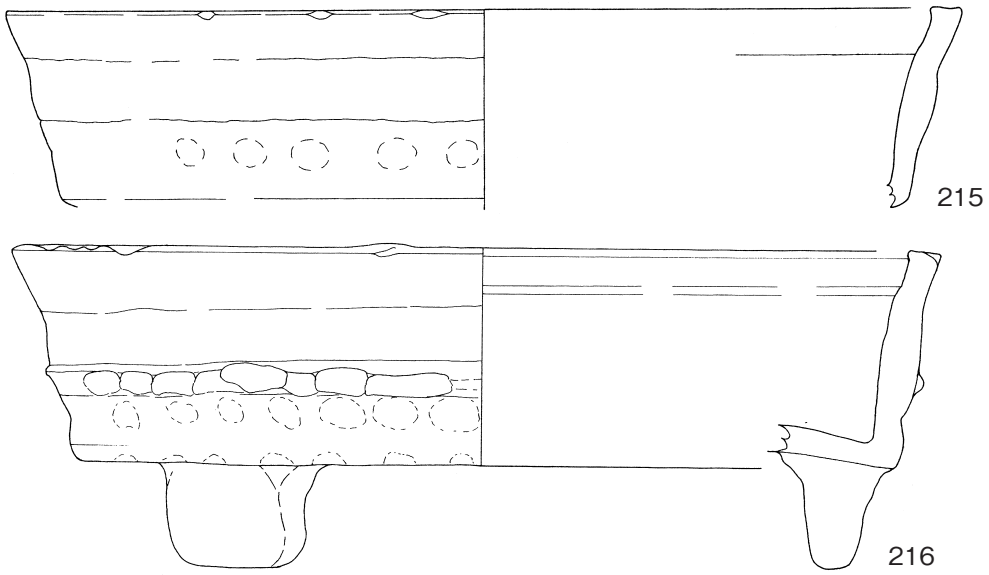


19堀(1)

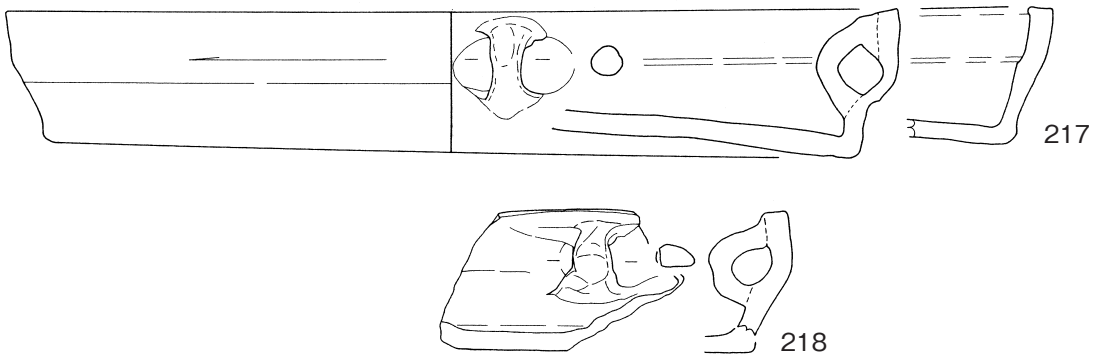


第22図　土器類14

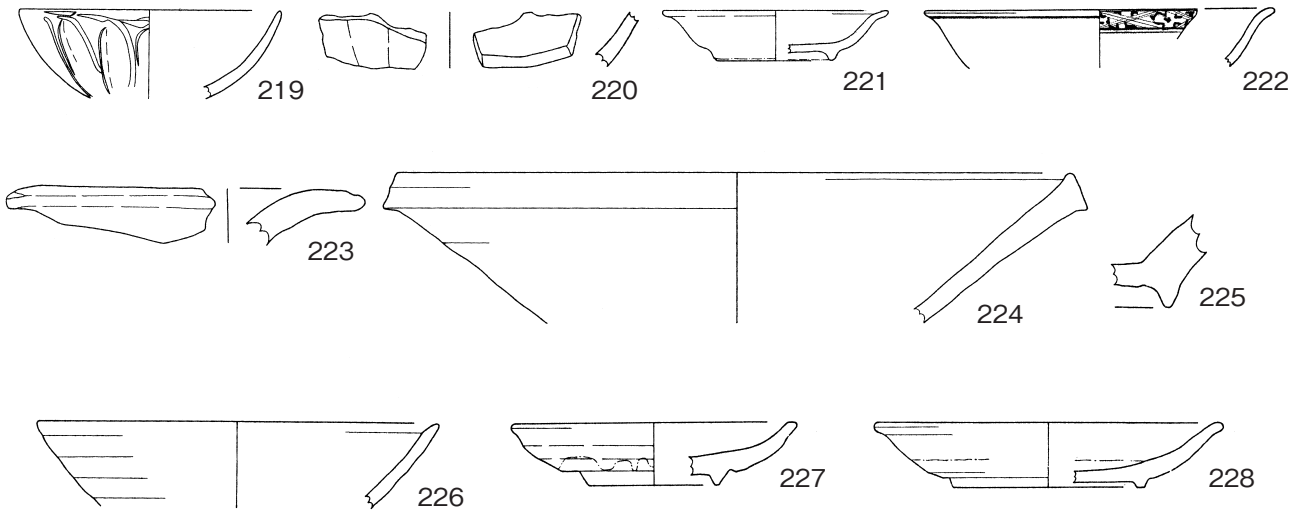
19堀(2)



21堀



22堀(1)

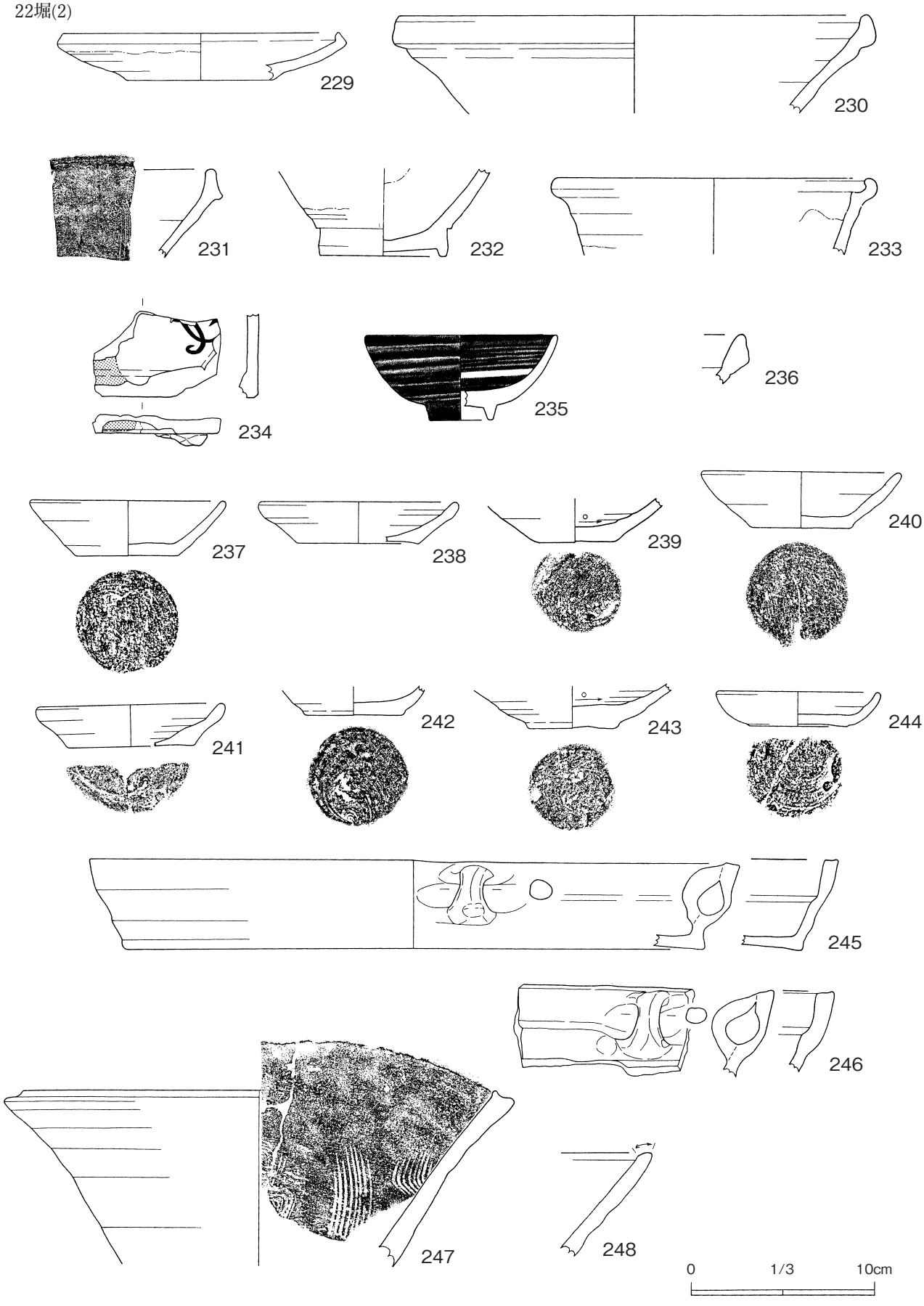


土618も22堀出土

0 1/3 10cm

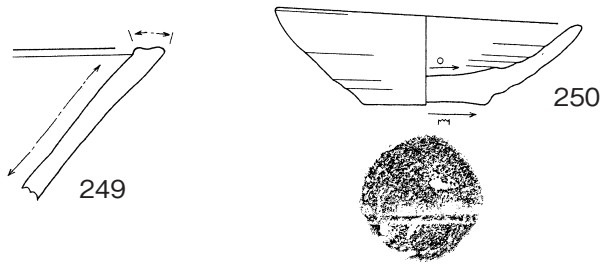
第23図　土器類15

22堀(2)

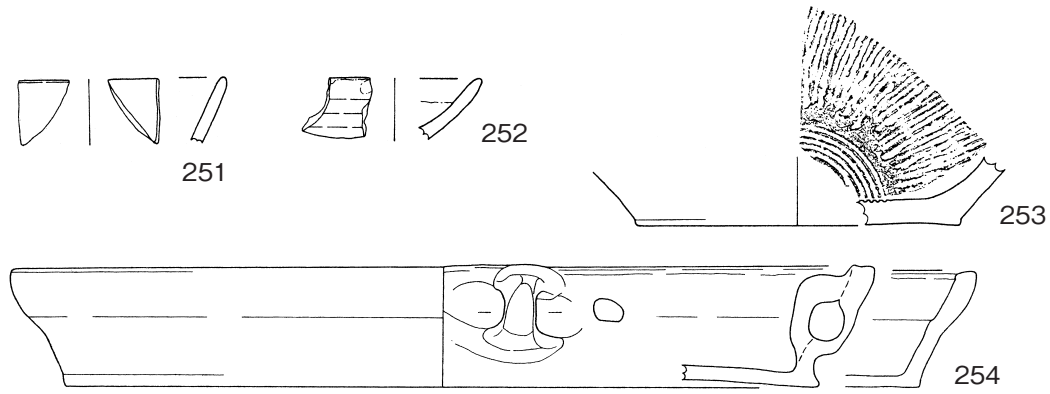


第24図　土器類16

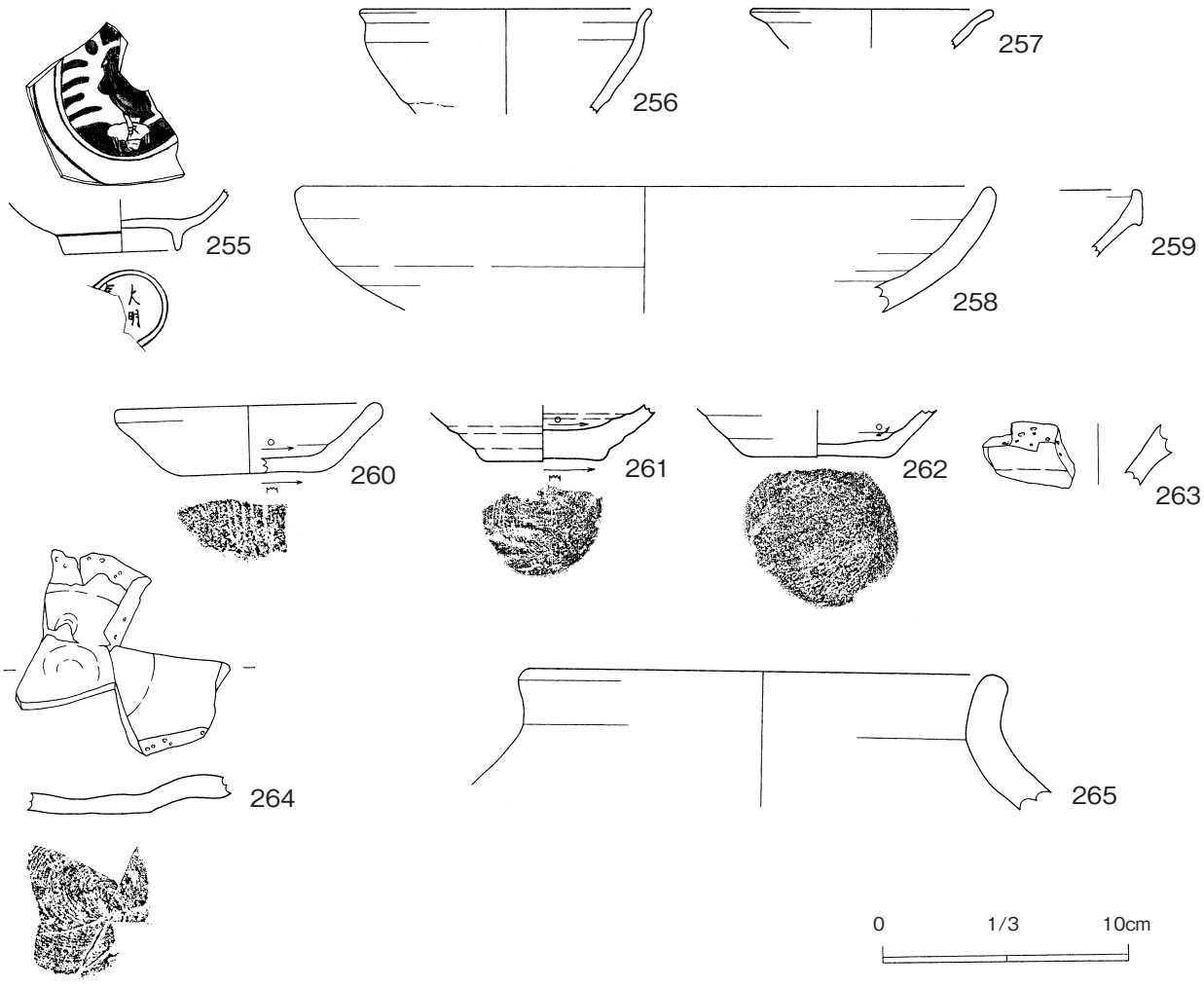
29堀



30堀

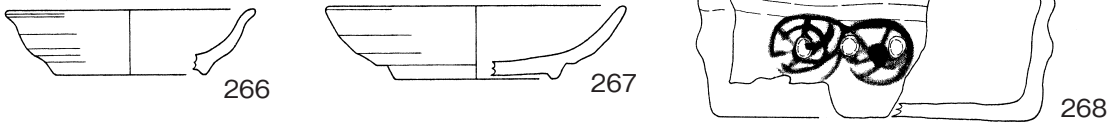


1溝

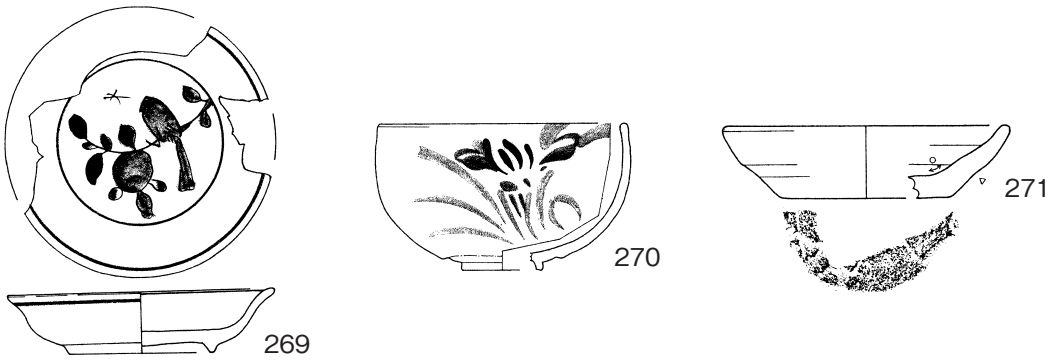


第25図　土器類17

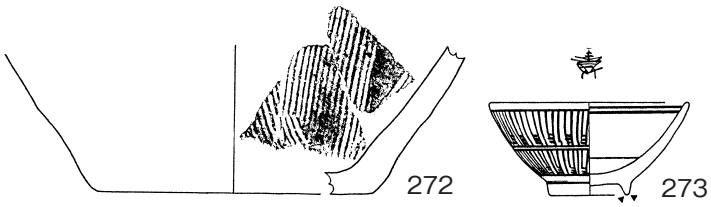
2溝



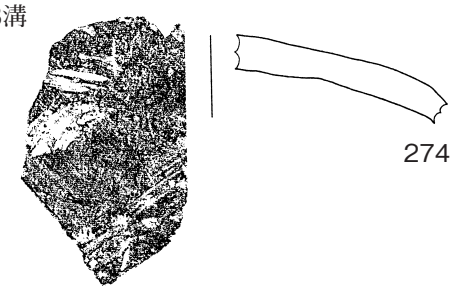
3溝



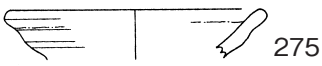
4溝



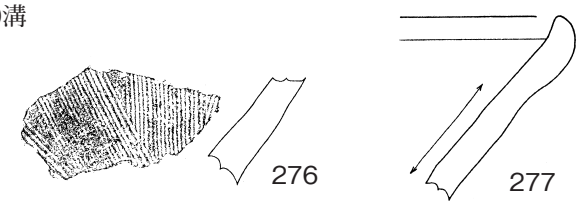
8溝



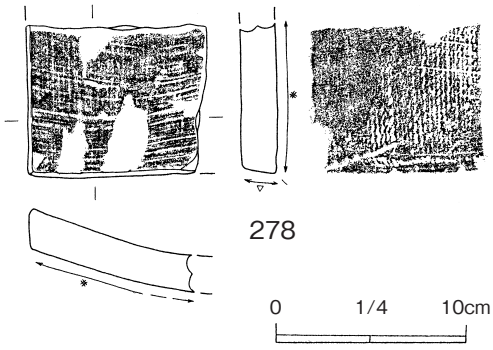
9溝



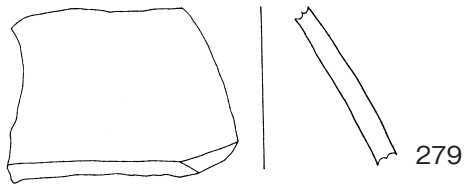
10溝



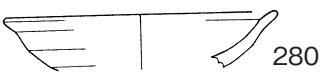
13溝



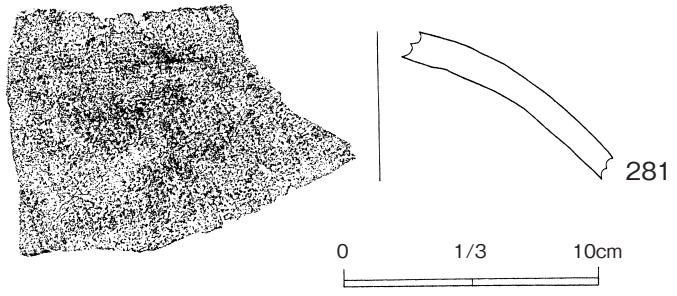
15溝



2井

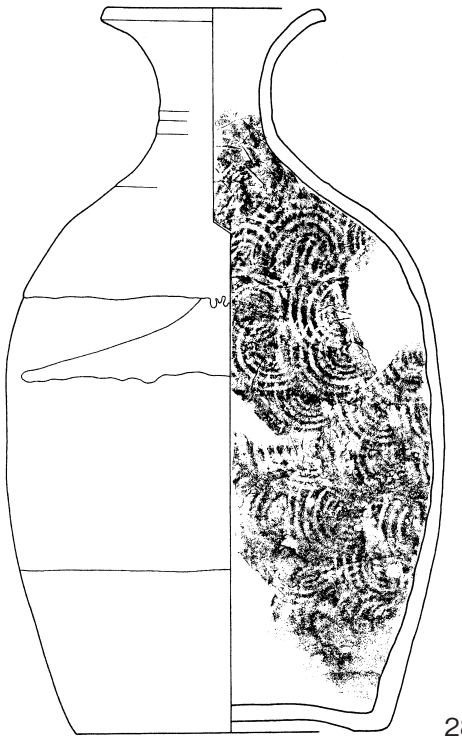


7井

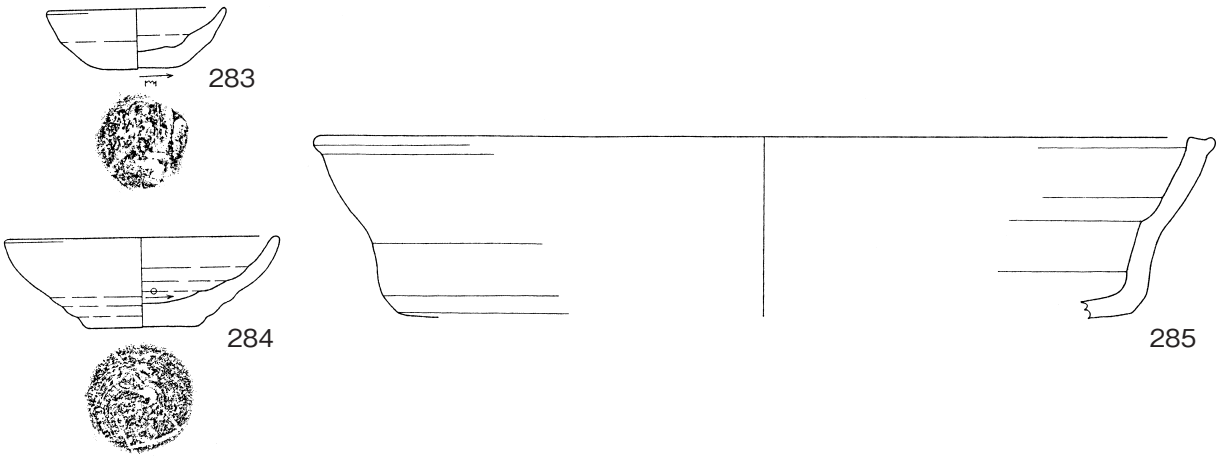


第26図　土器類18

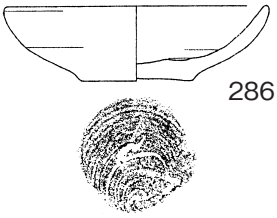
8 井



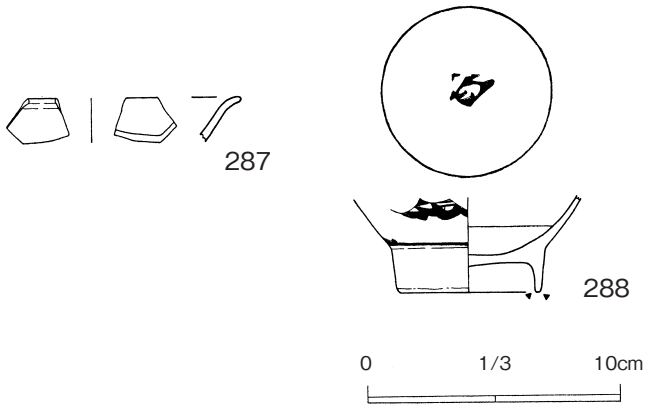
12 井



13 井

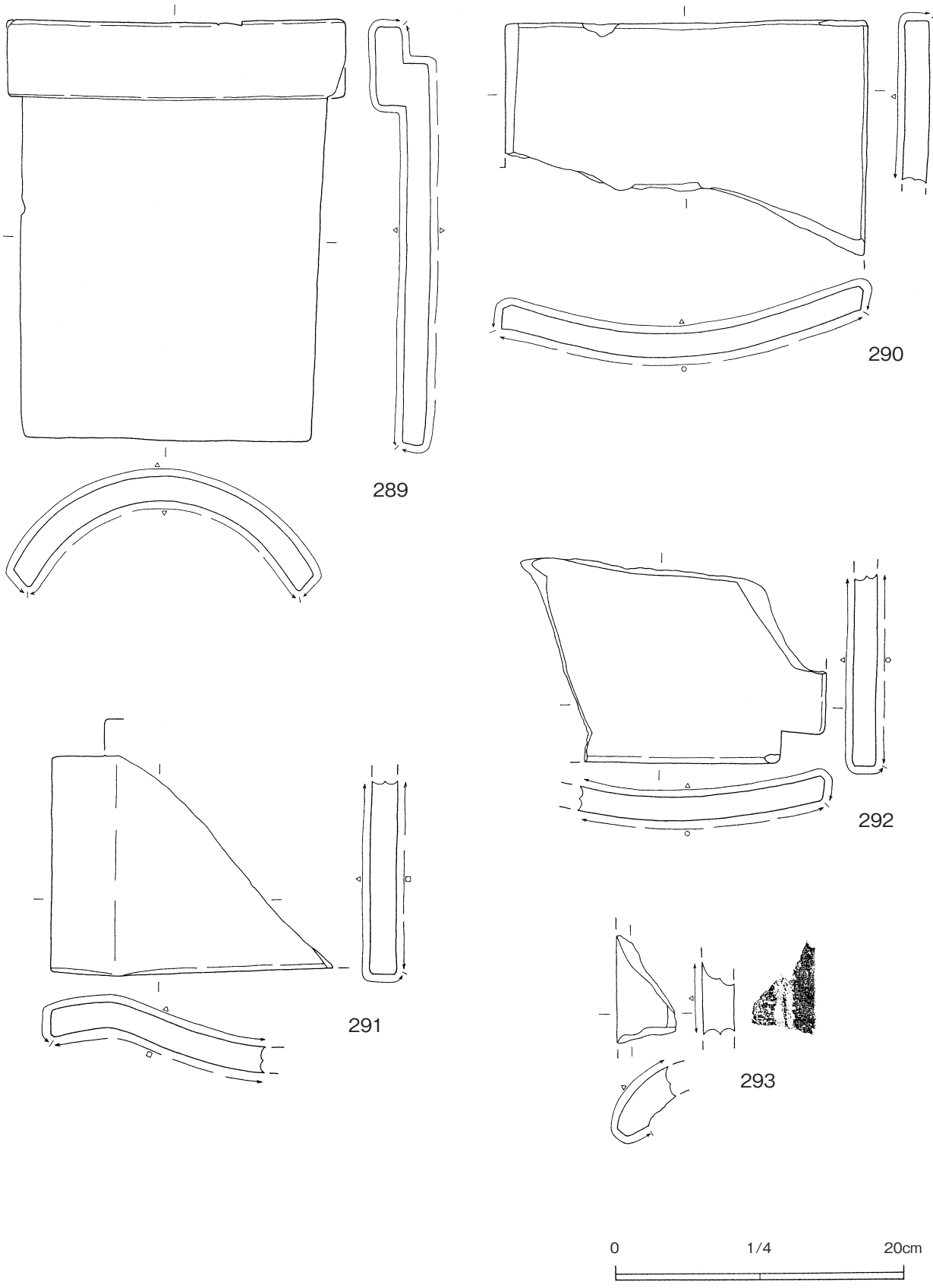


20 井 (1)



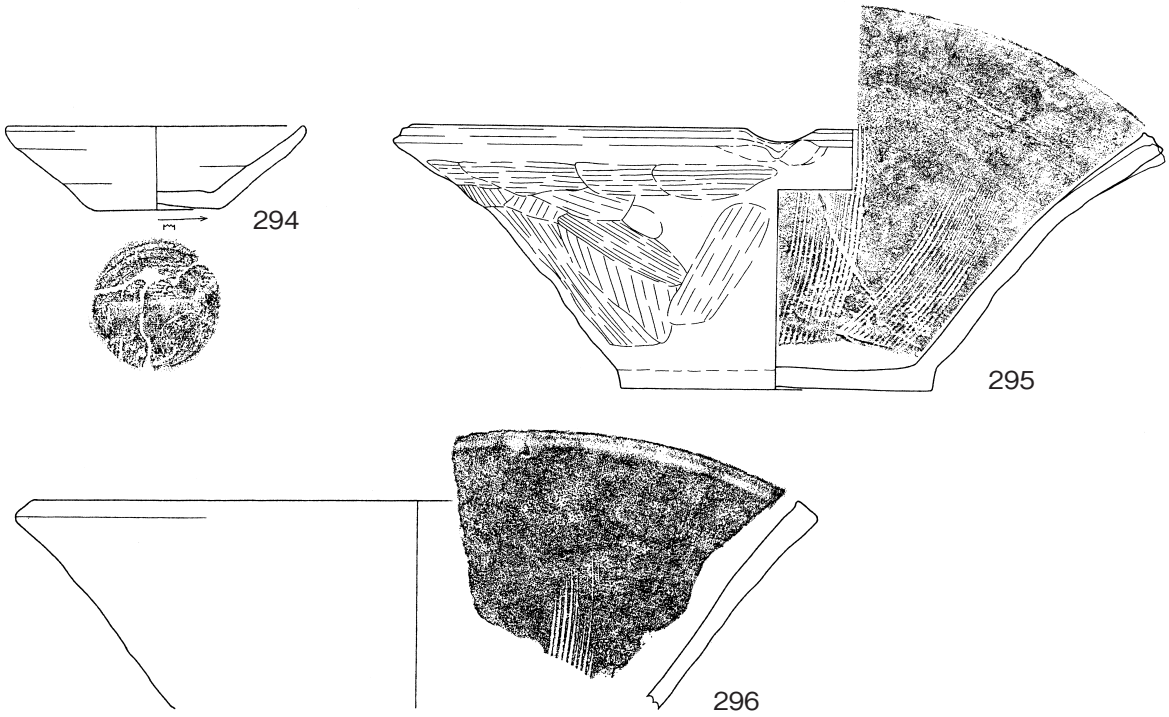
第27図　土器類19

20井（2）

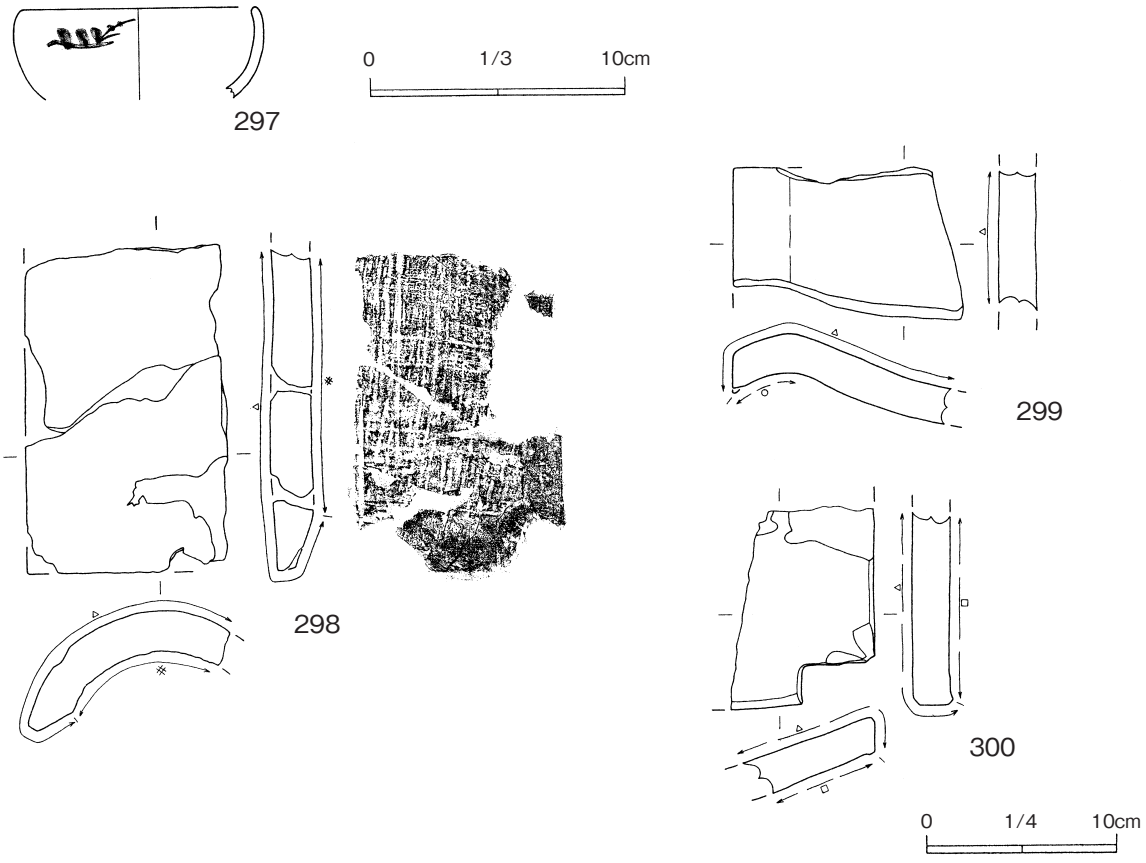


第28図　土器類20

21 井

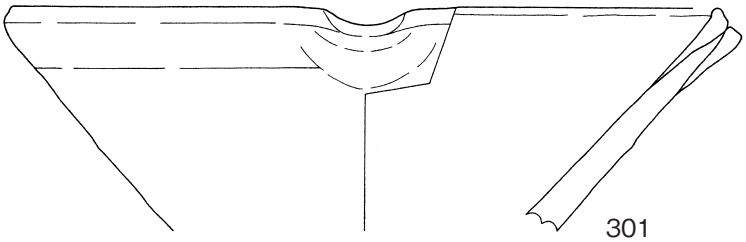


22 井

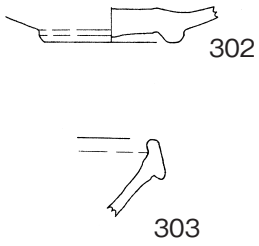


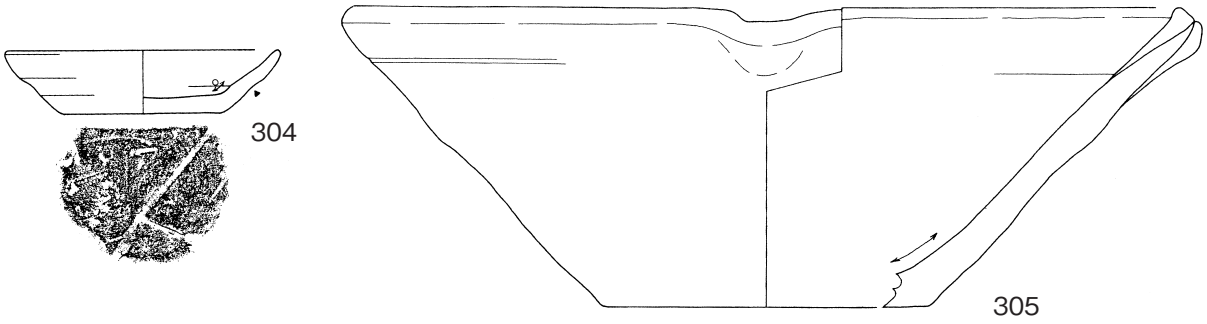
第29図　土器類21

23 井

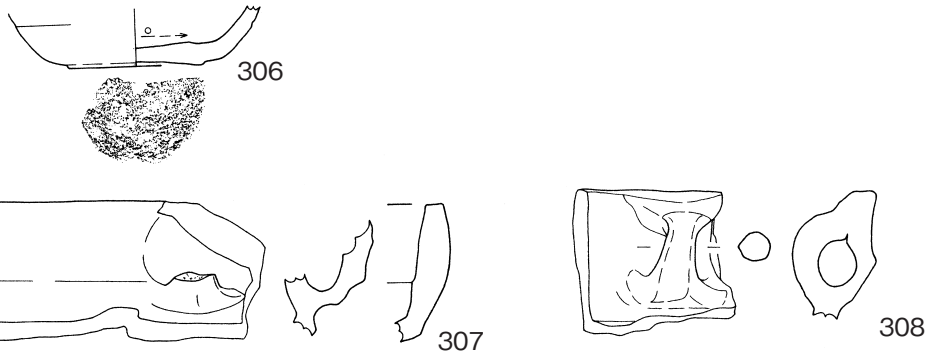


24 井

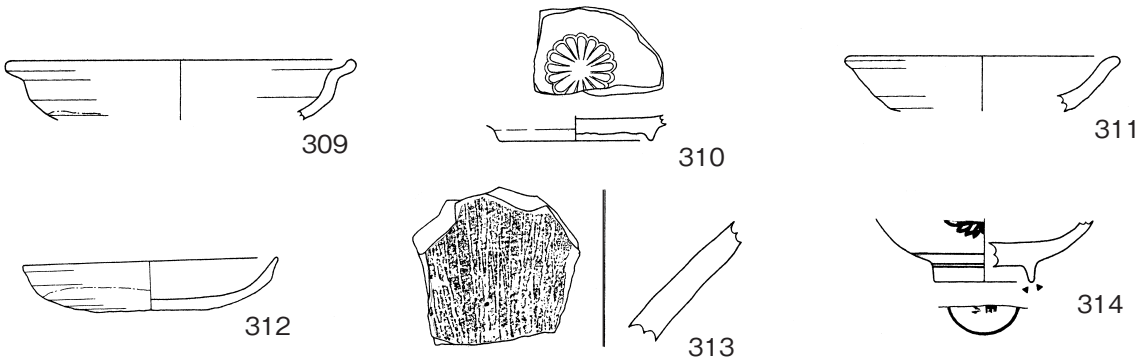




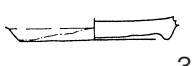
1 壙



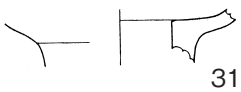
3 壙

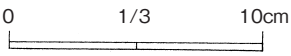


8 壙



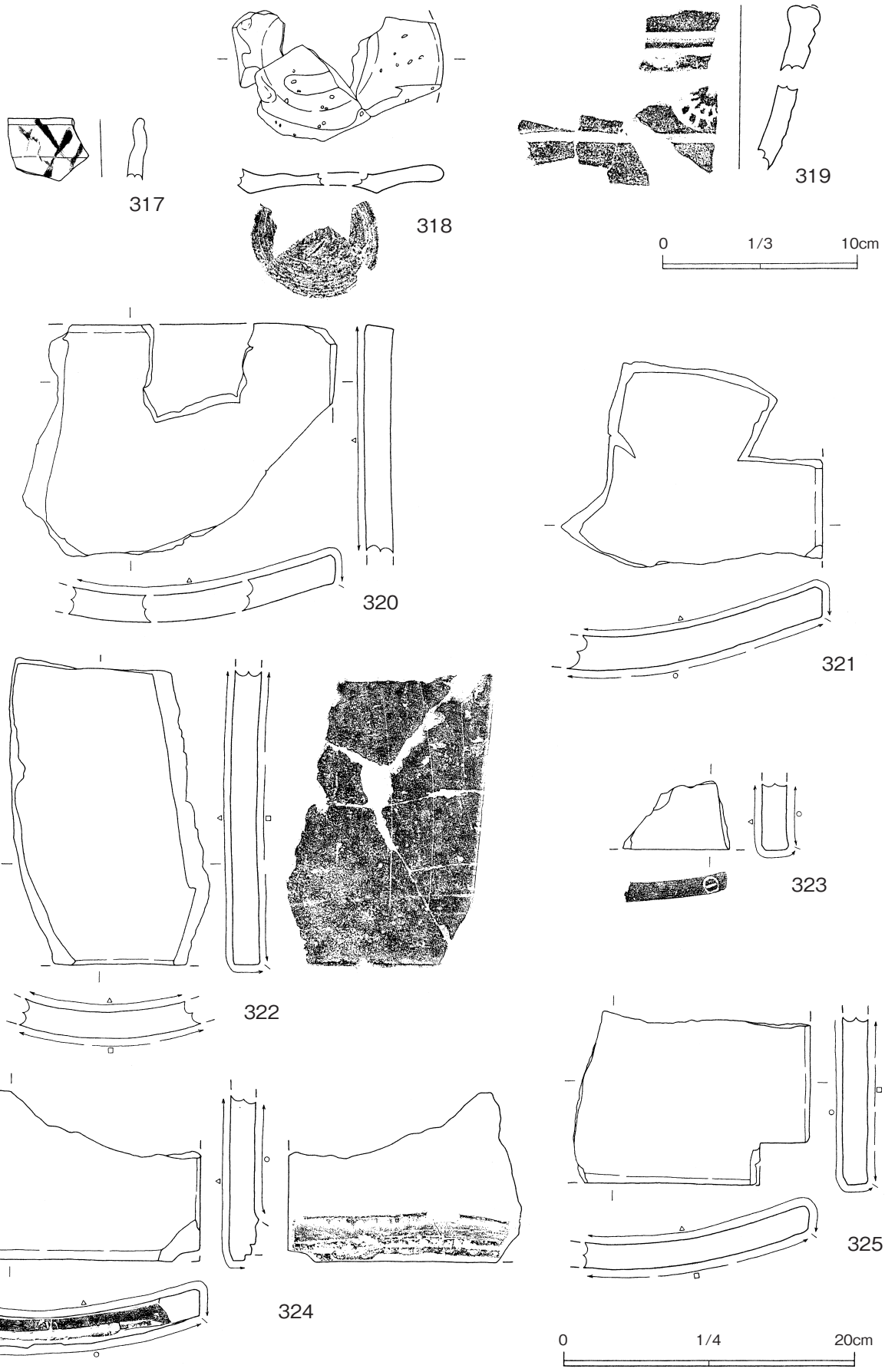
10 壙





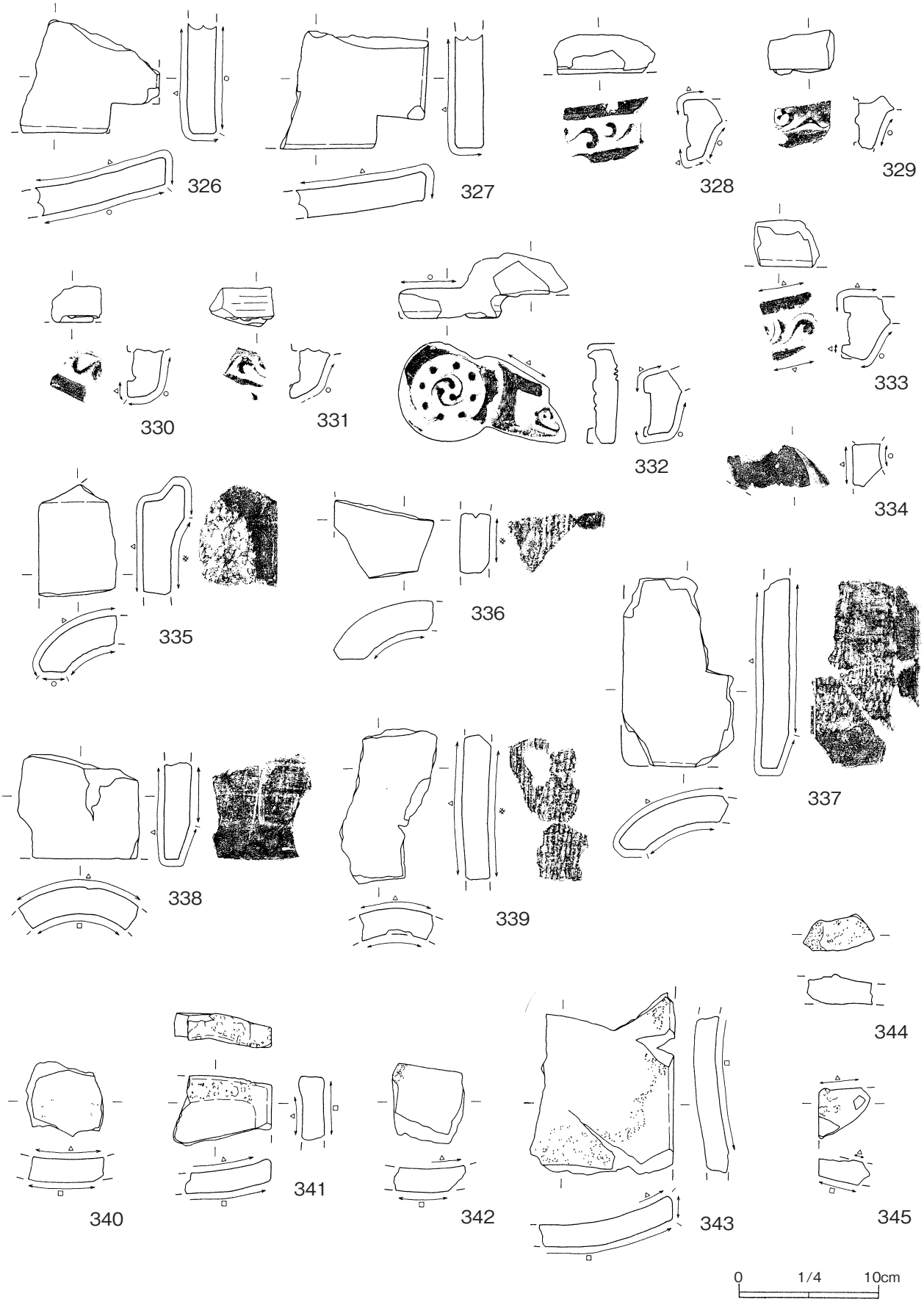
第30図　土器類22

1建（1）



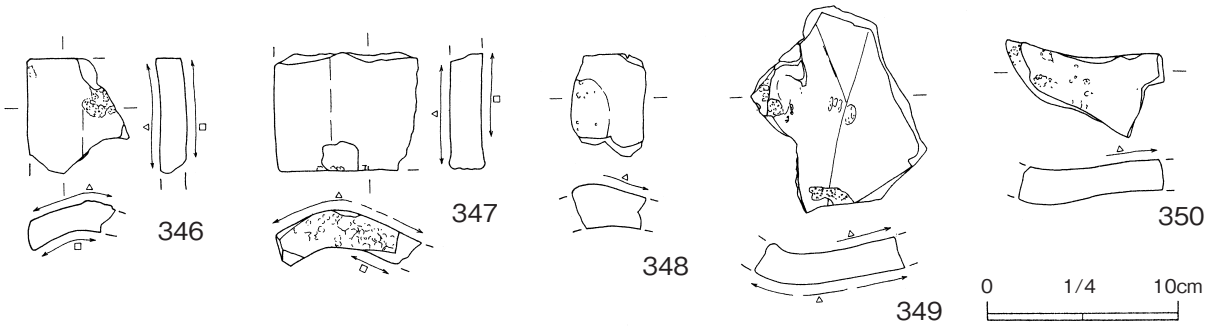
第31図　土器類23

1建（2）

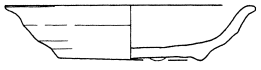


第32図　土器類24

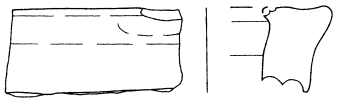
1建（3）

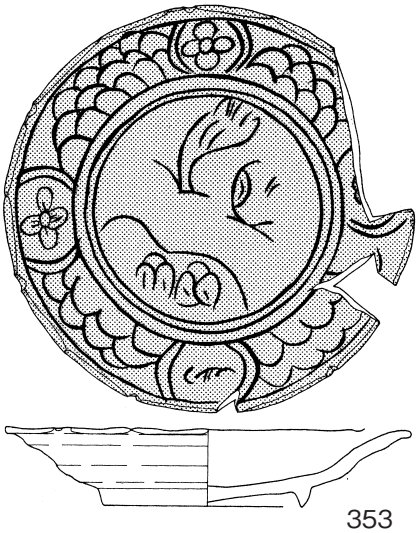


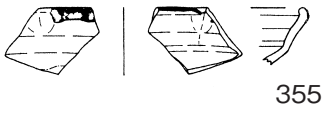
A区　焼土中

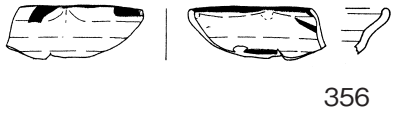


C区　3C層

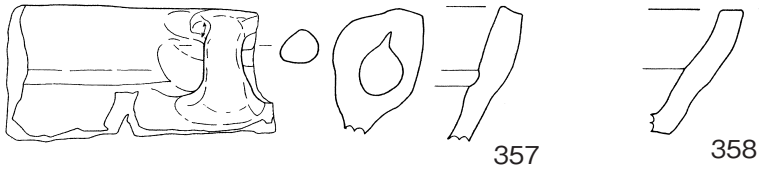




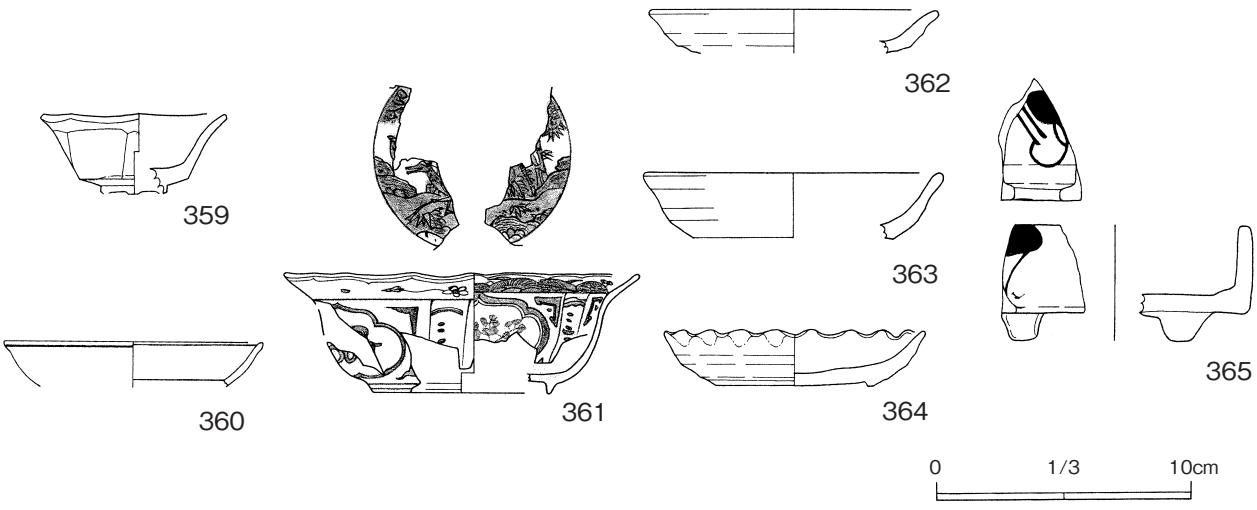




354 ～ 356 は平置実測

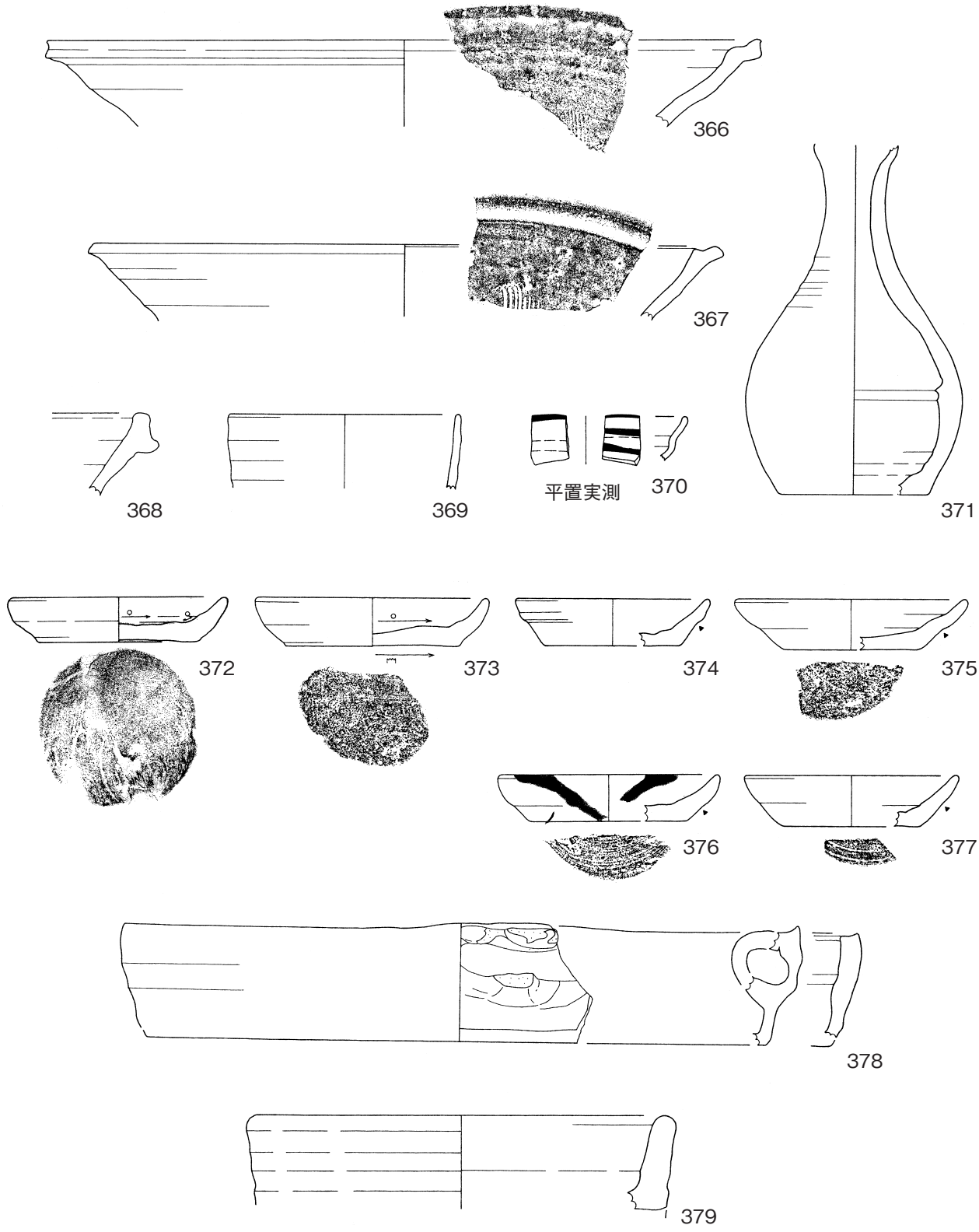


C区　5CⅠ層(1)



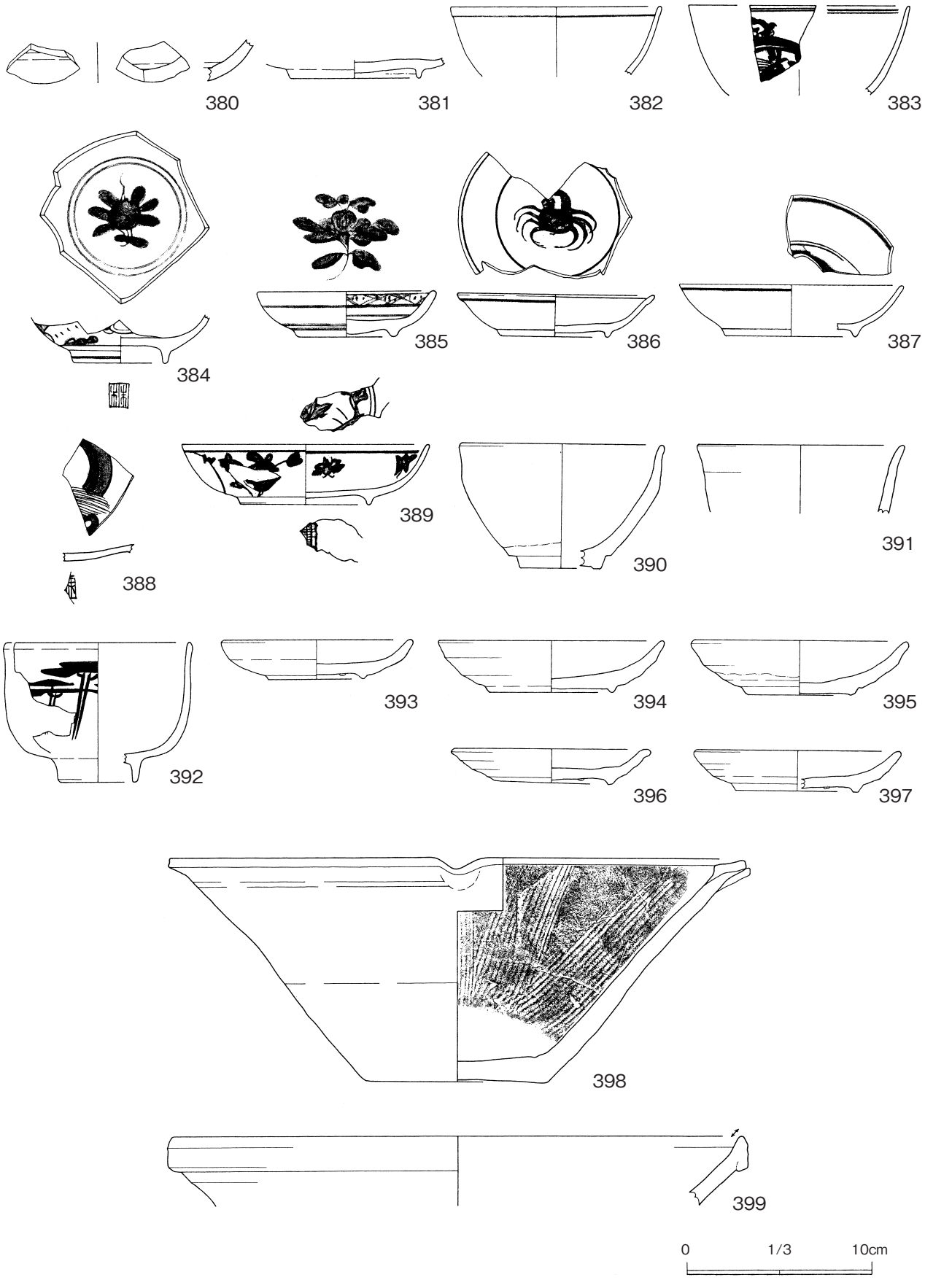
第33図　土器類25

C区　5CⅠ層（2）



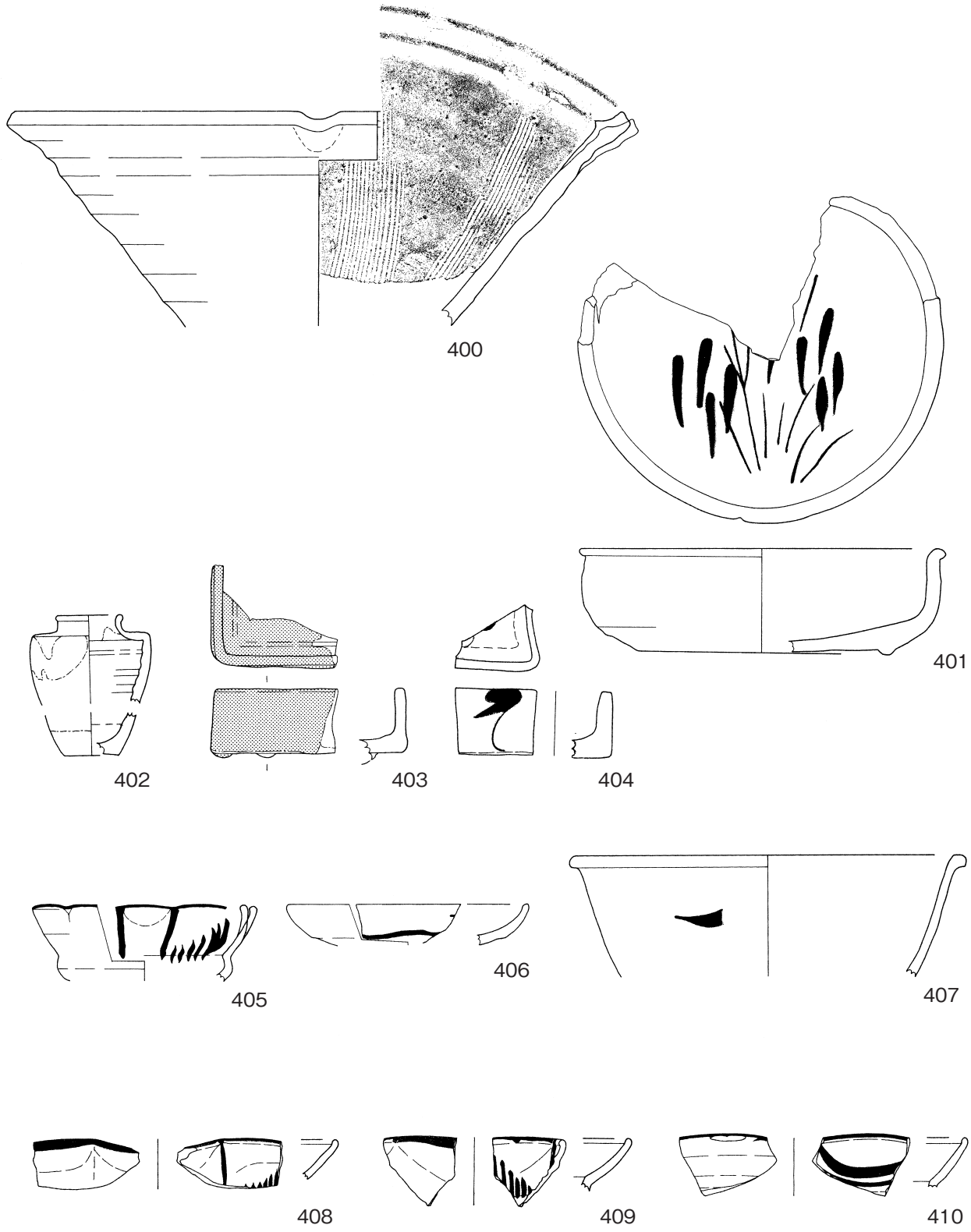
第34図　土器類26

C区　5CⅡ層（1）



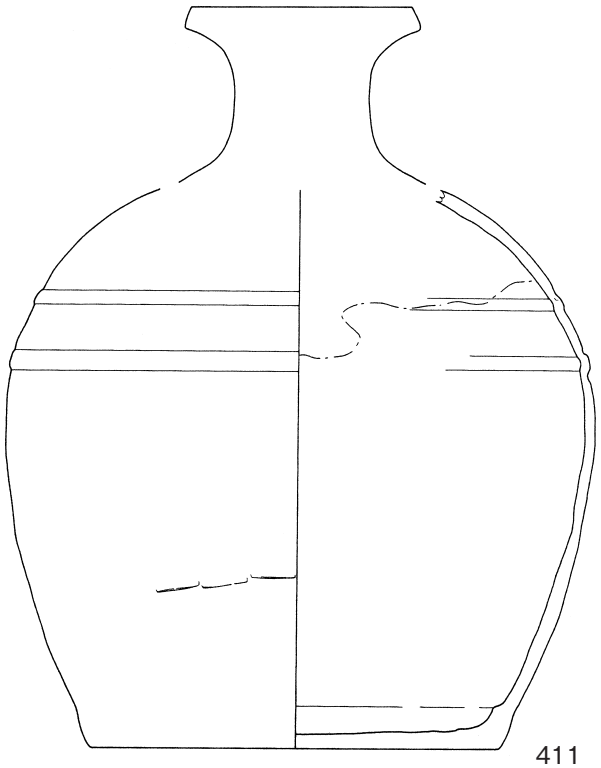
第35図　土器類27

C区　5CⅡ層（2）



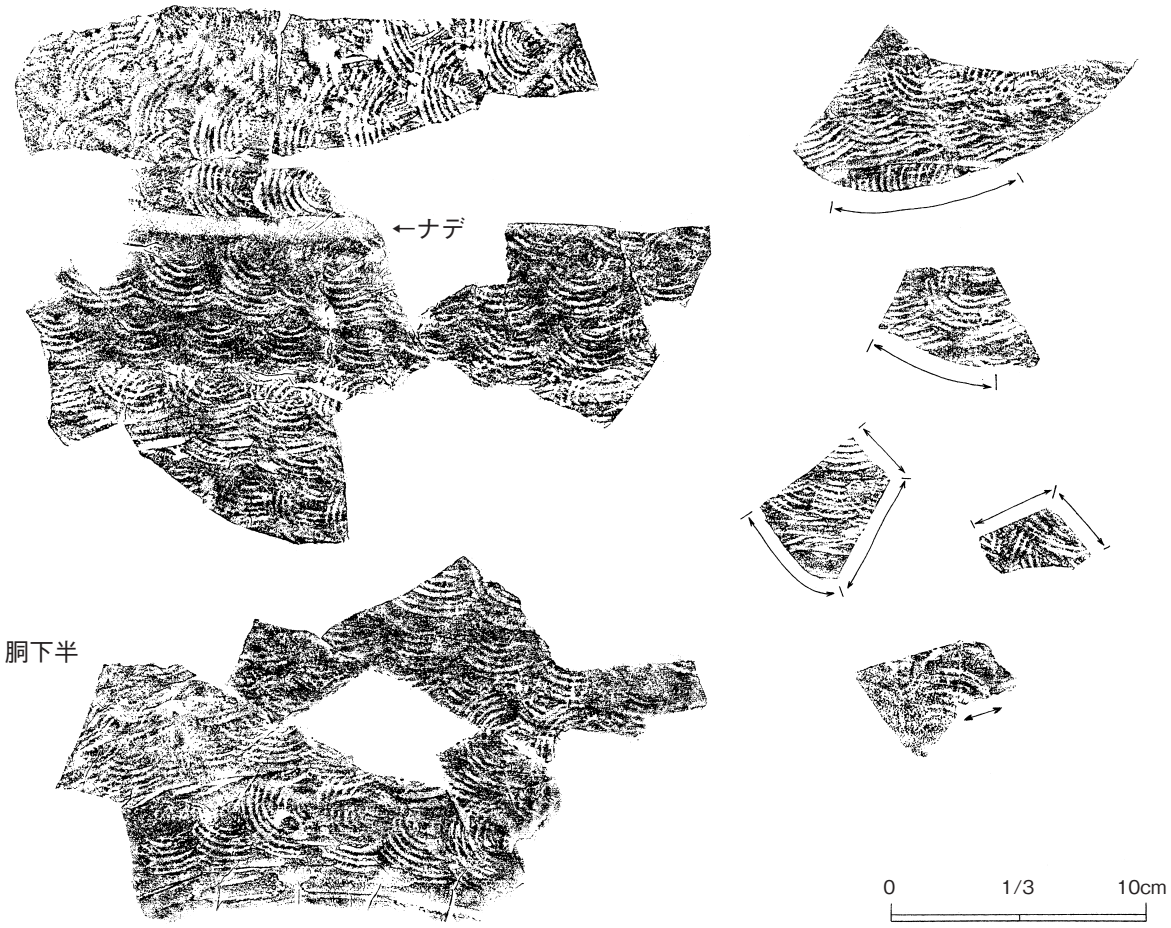
第36図　土器類28

C区　5CⅡ層（3）



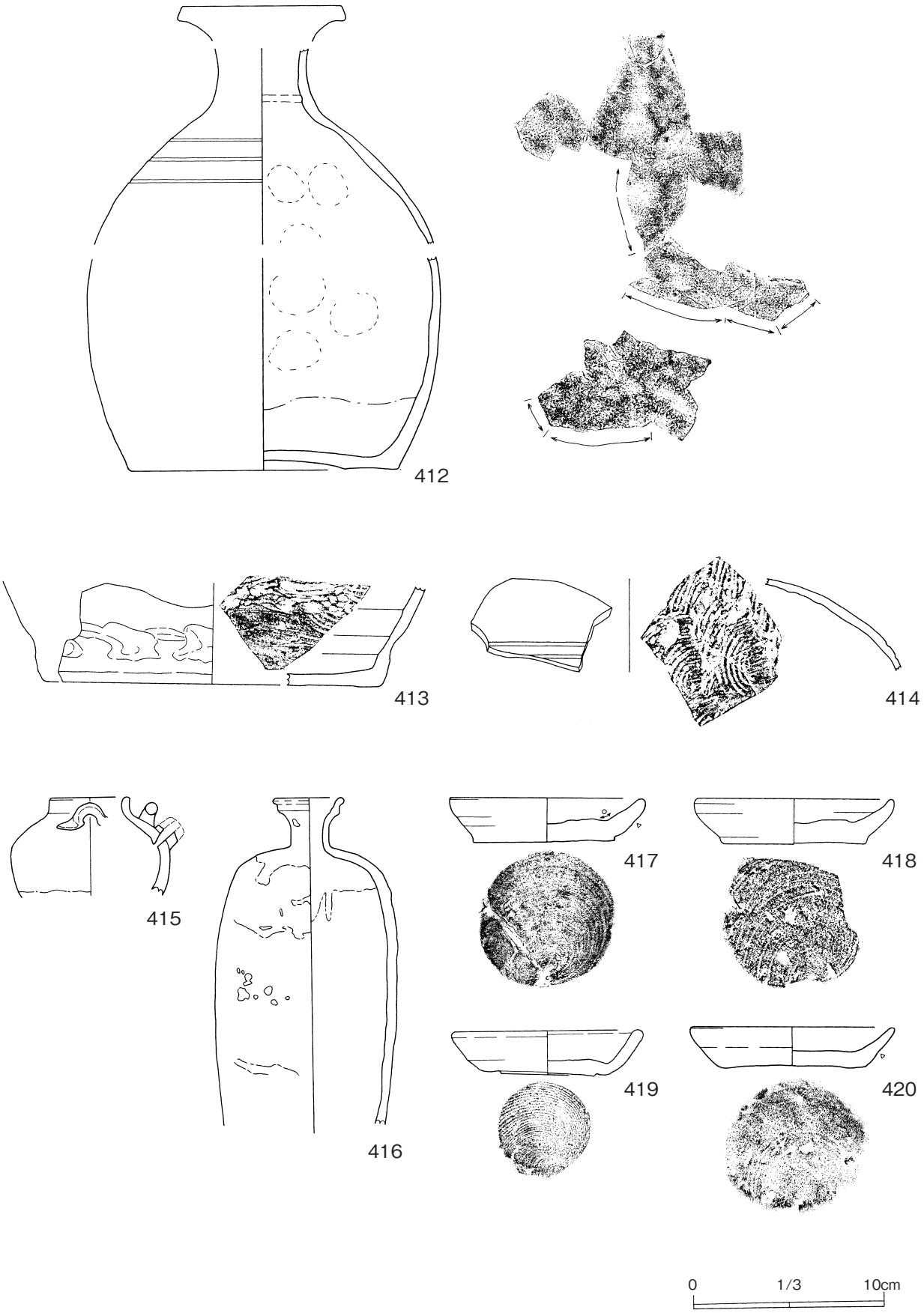
411

肩部



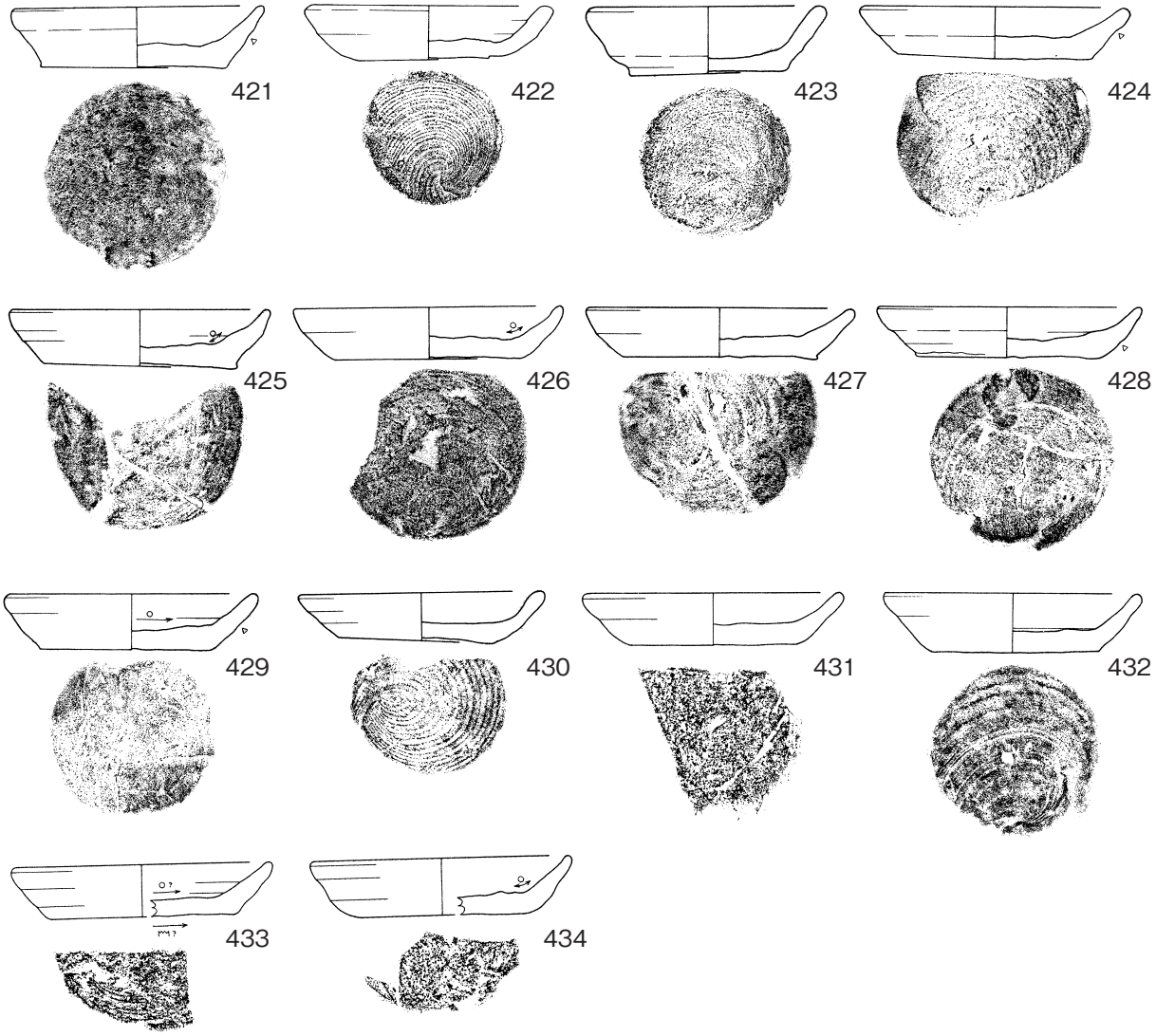
第37図　土器類29

C区　5CⅡ層（4）

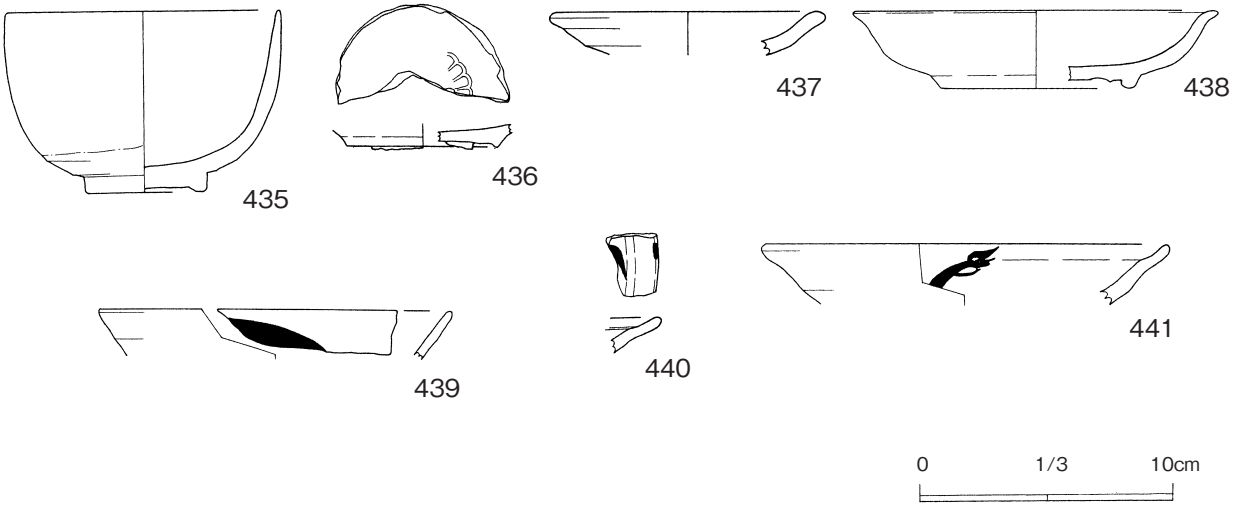


第38図　土器類30

C区　5CⅡ層（5）

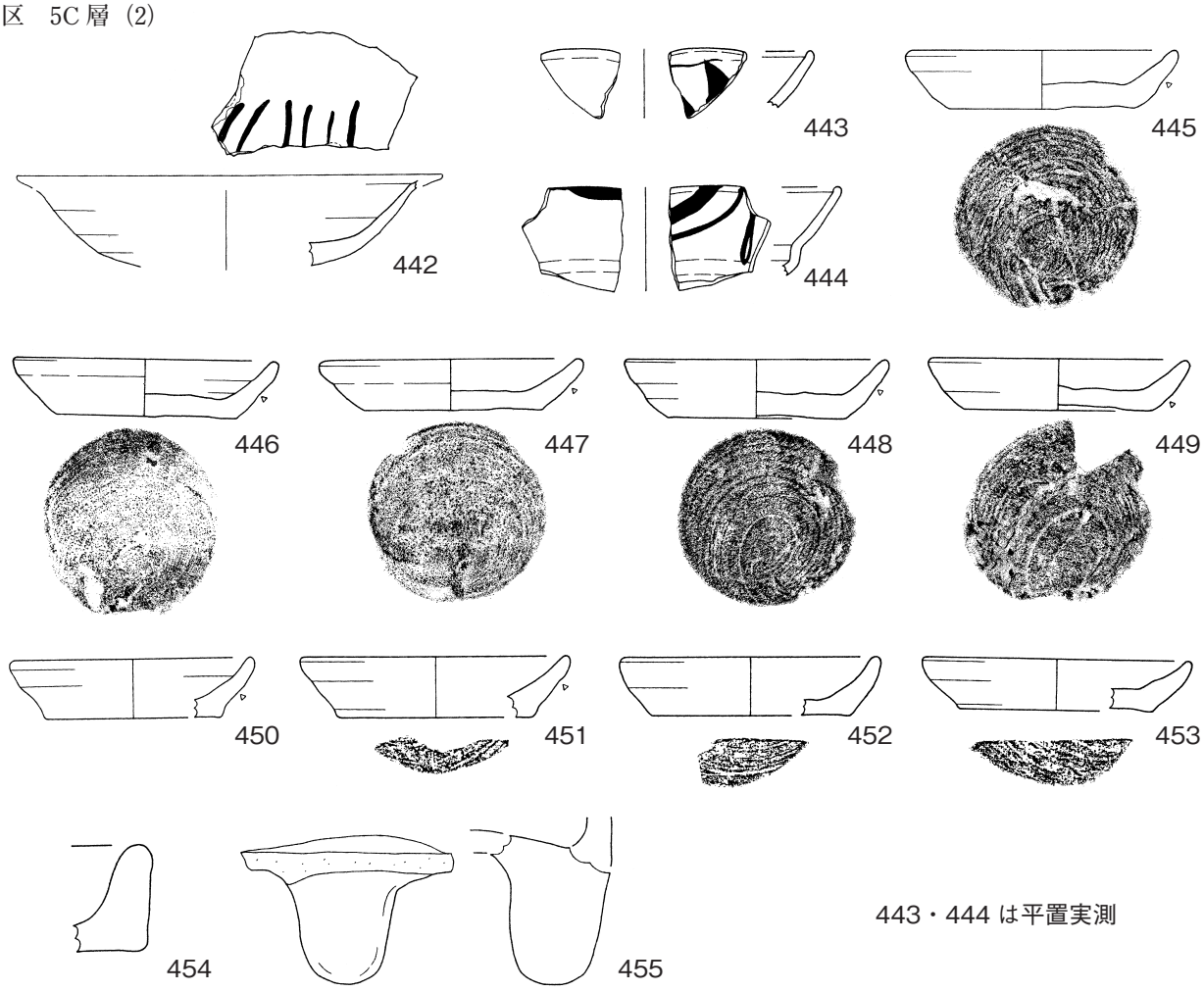


C区　5C層（1）



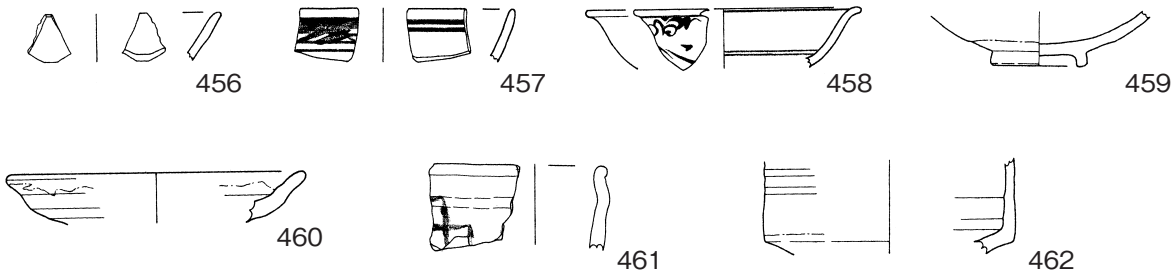
第39図　土器類31

C区　5C層（2）

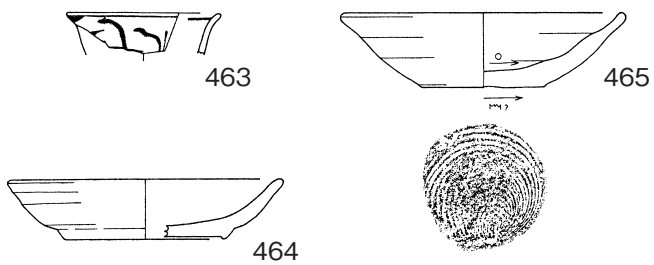


443・444は平置実測

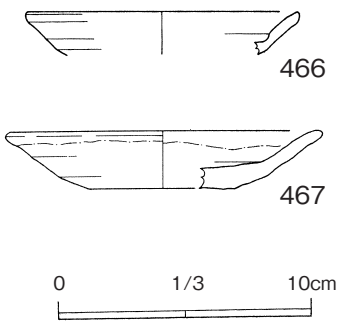
C区　中層



C区　中層

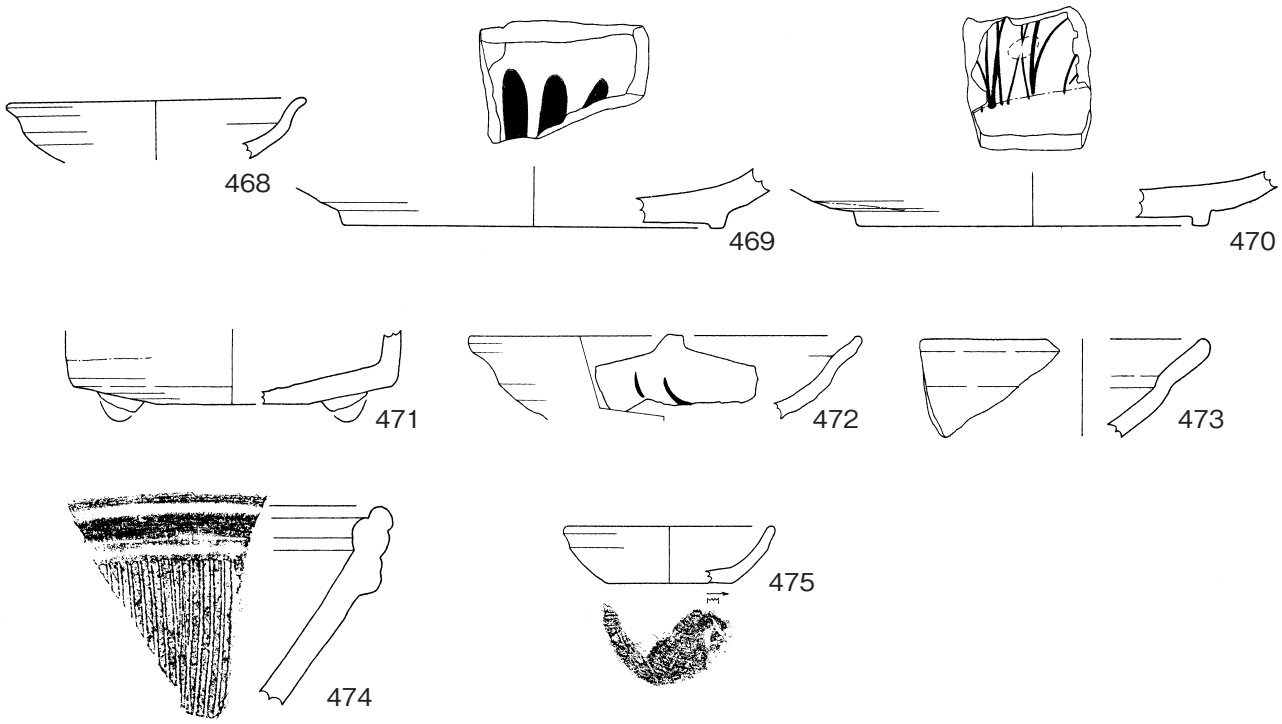


C区　南土塁

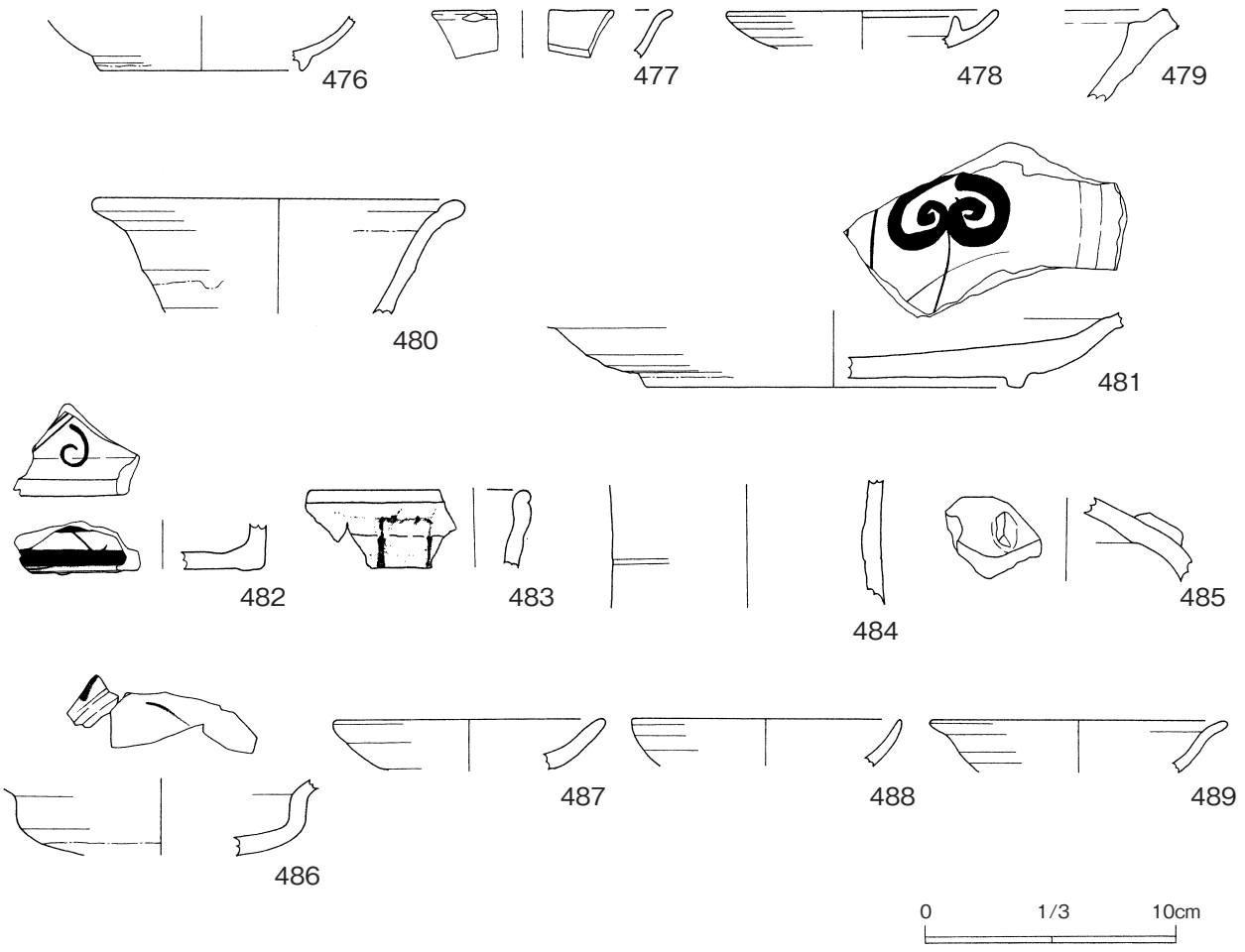


第40図　土器類32

D区　1層

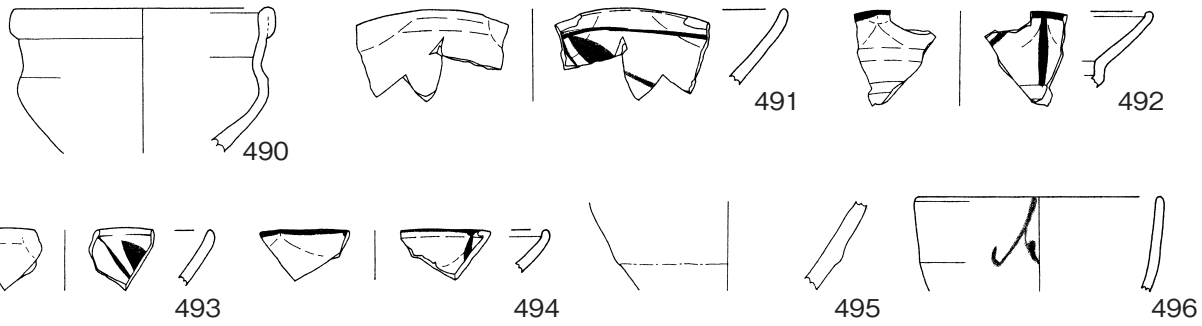


D区　2層（1）

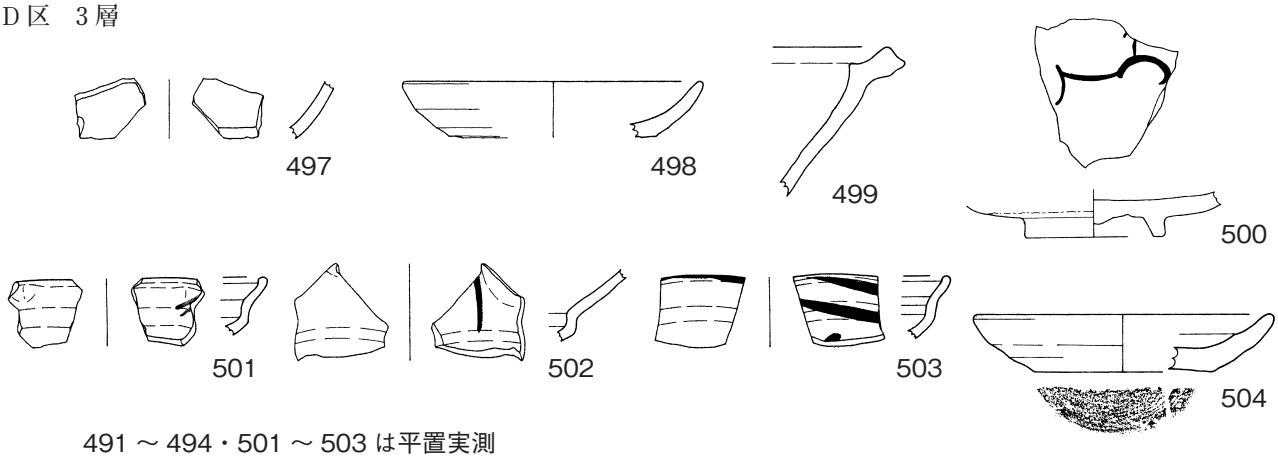


第41図　土器類33

D区　2層（2）

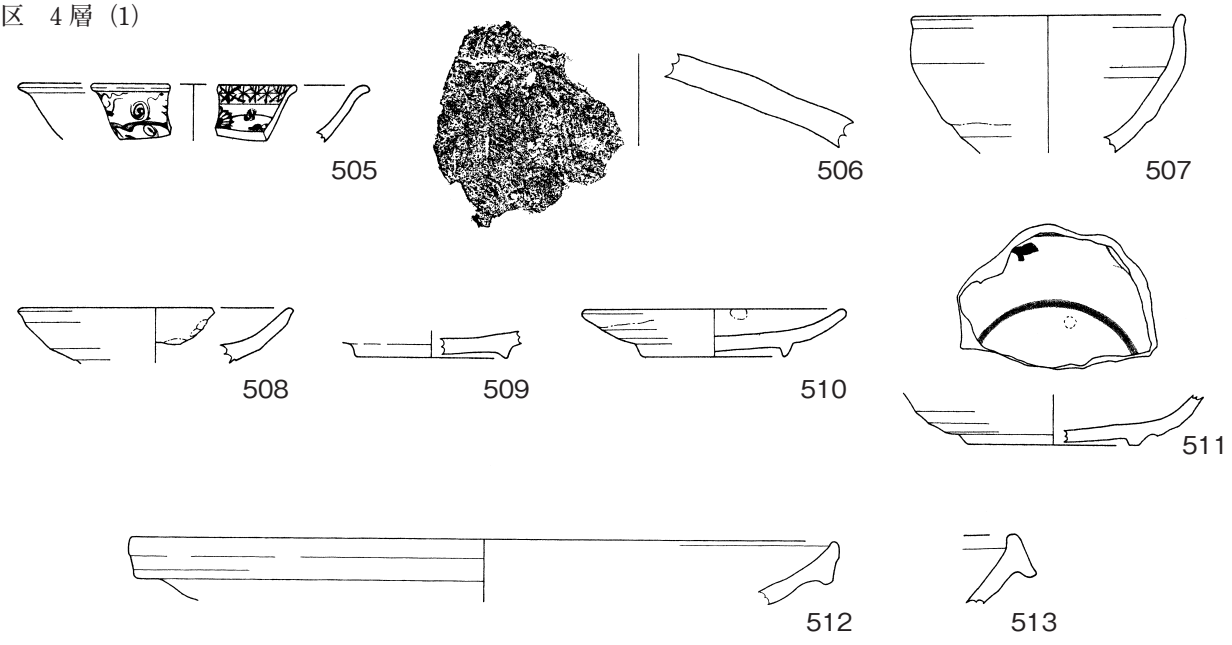


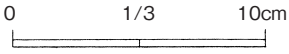
D区　3層



491 ～ 494・501 ～ 503 は平置実測

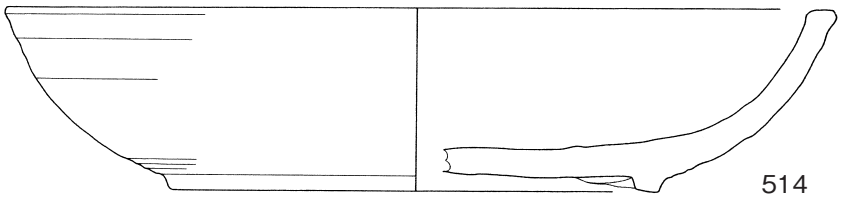
D区　4層（1）

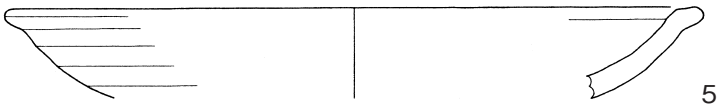


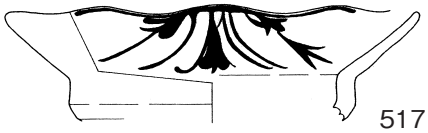


第42図　土器類34

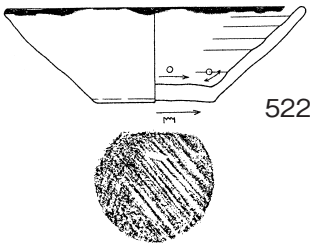
D区　4層（2）

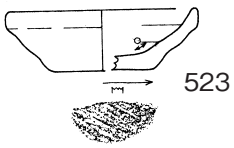


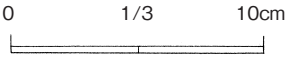




519 ～ 521 は平置実測

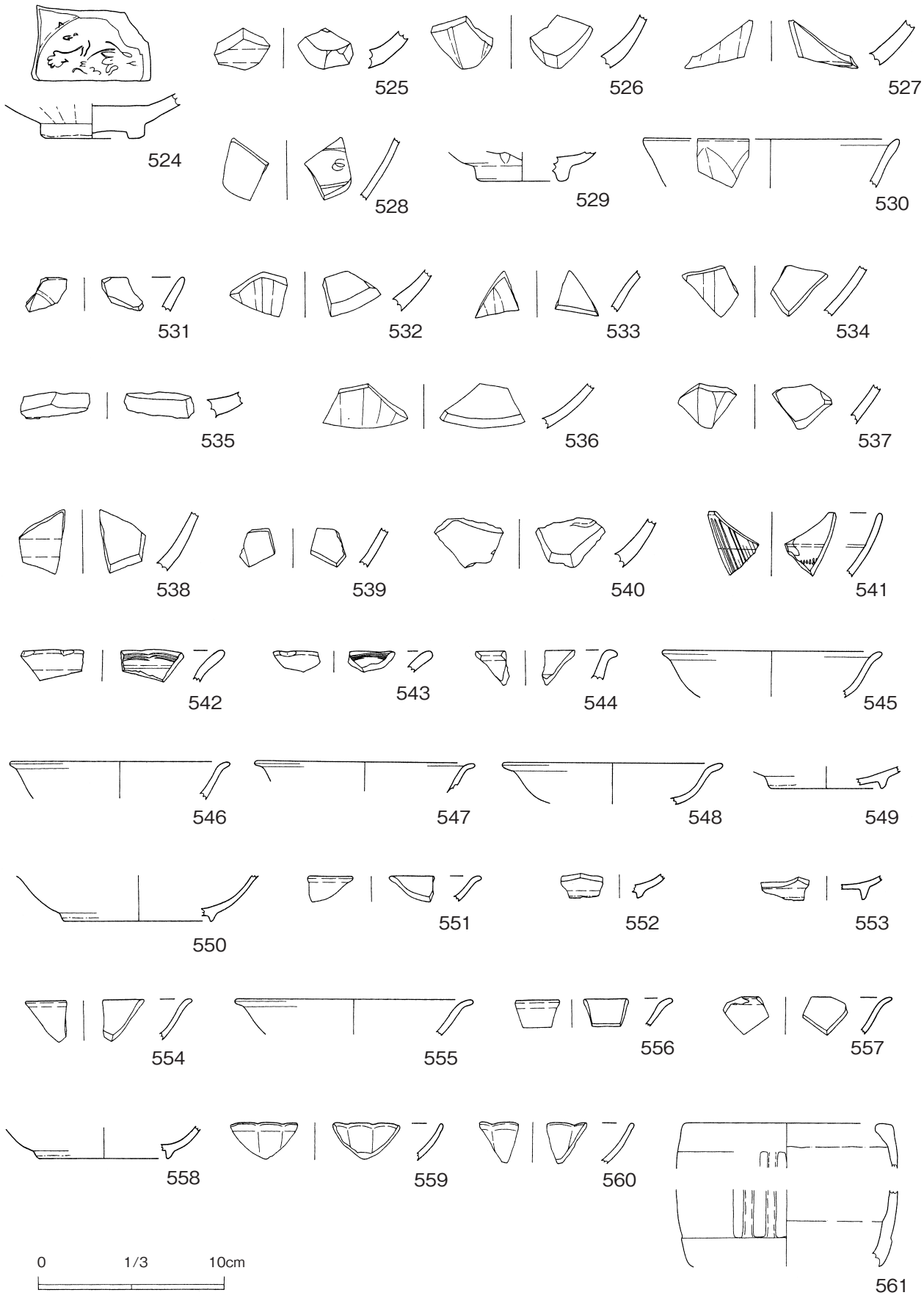






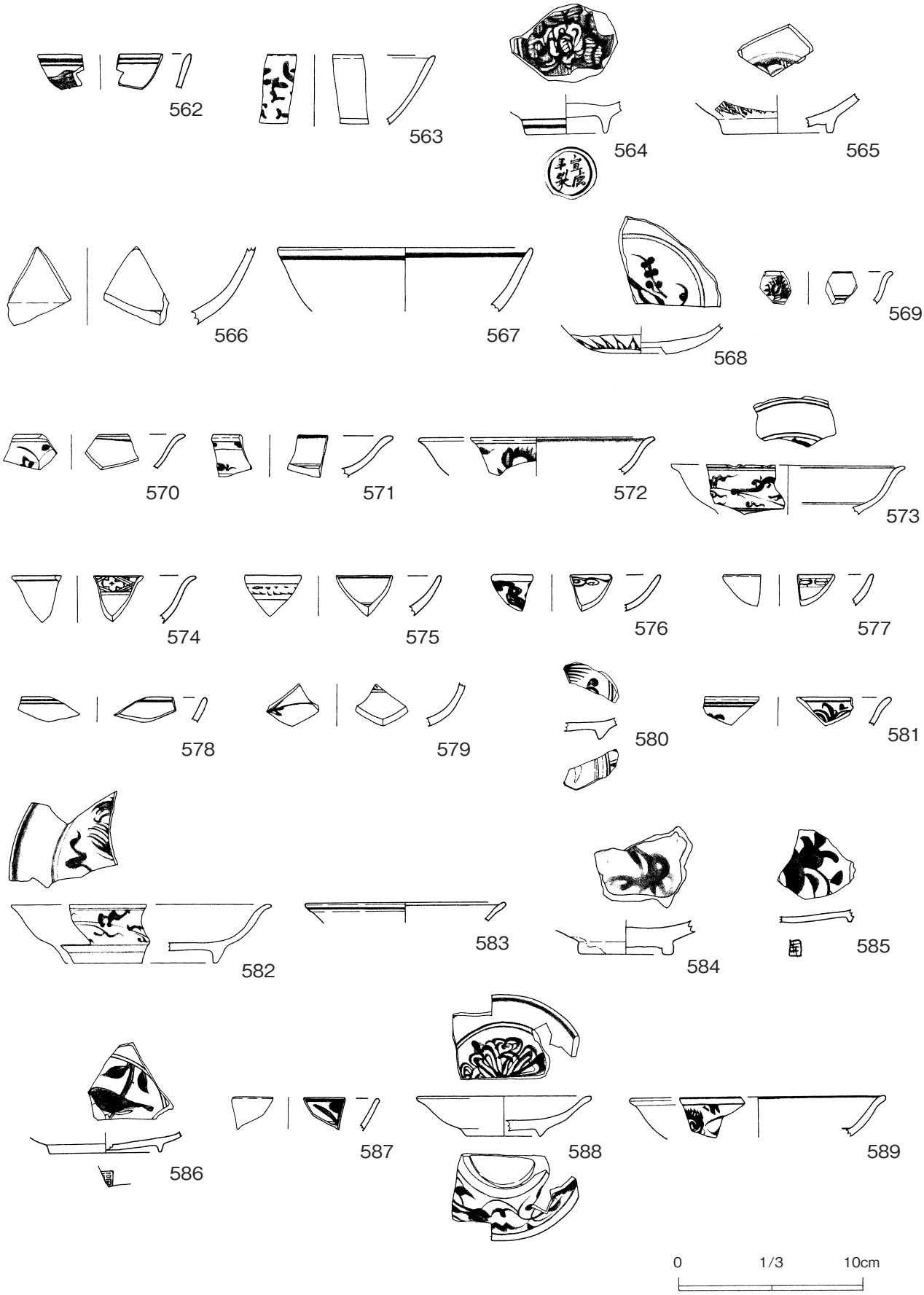
第43図　土器類35

遺構外



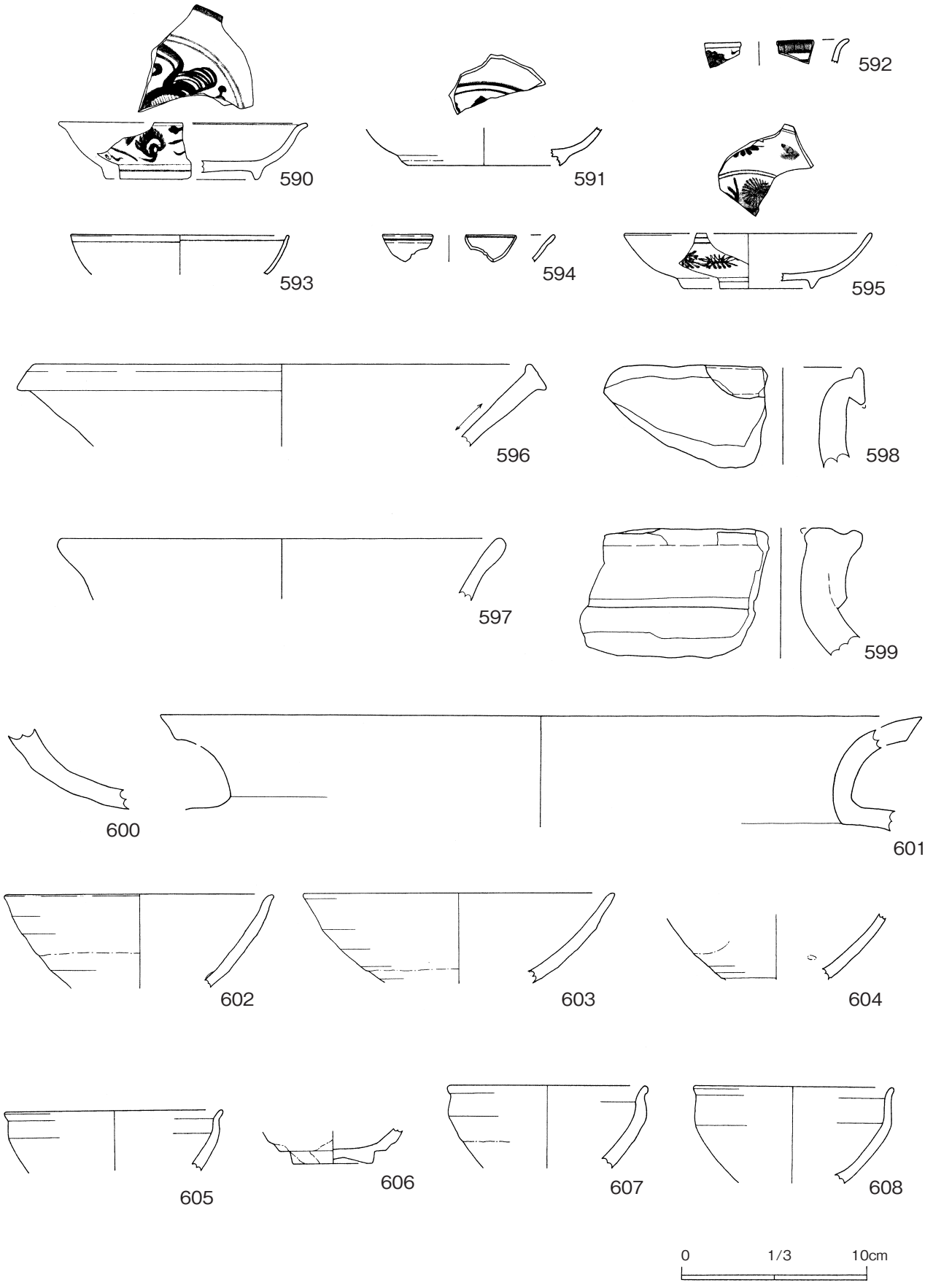
第44図　土器類36

遺構外



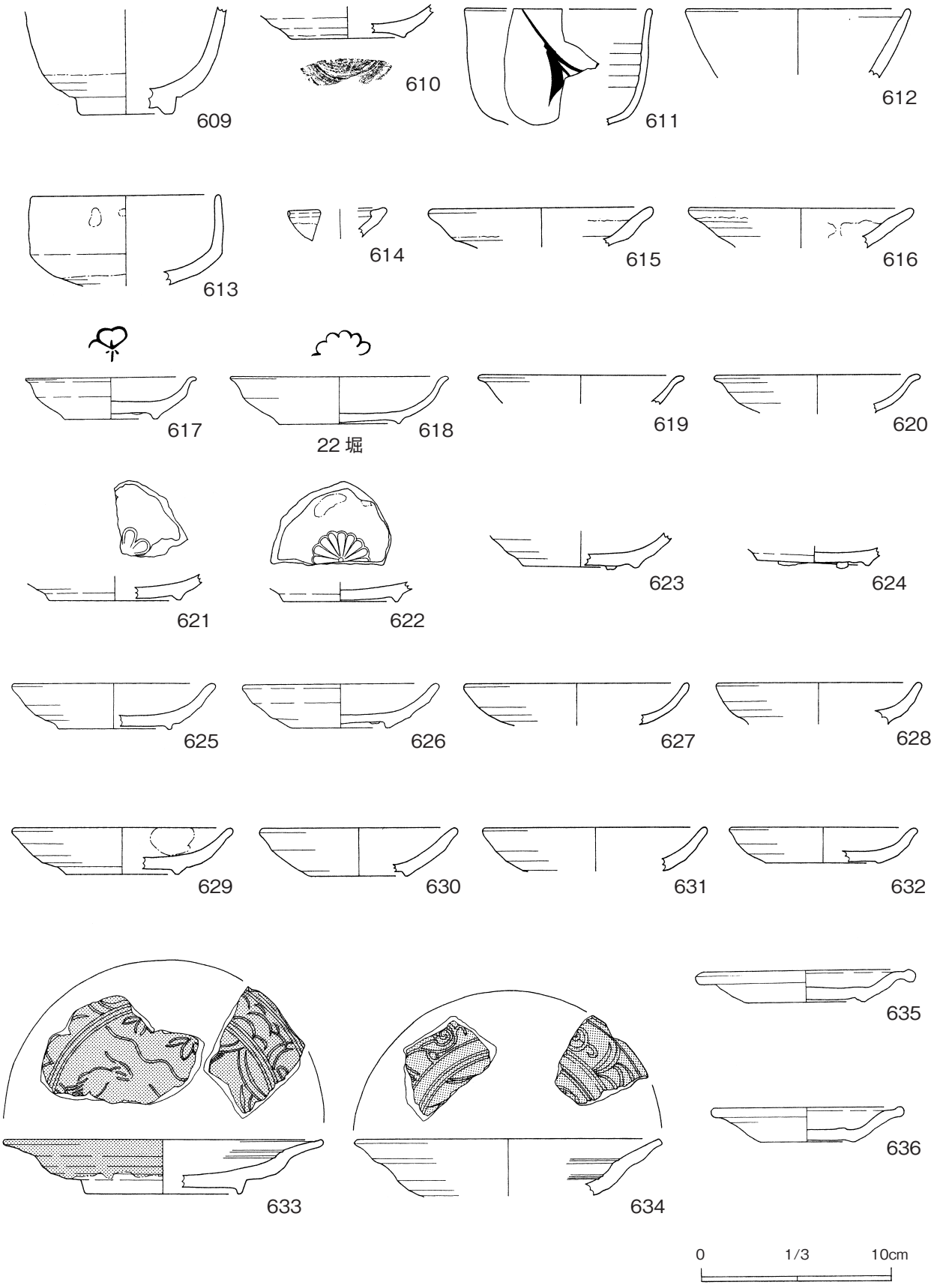
第45図　土器類37

遺構外



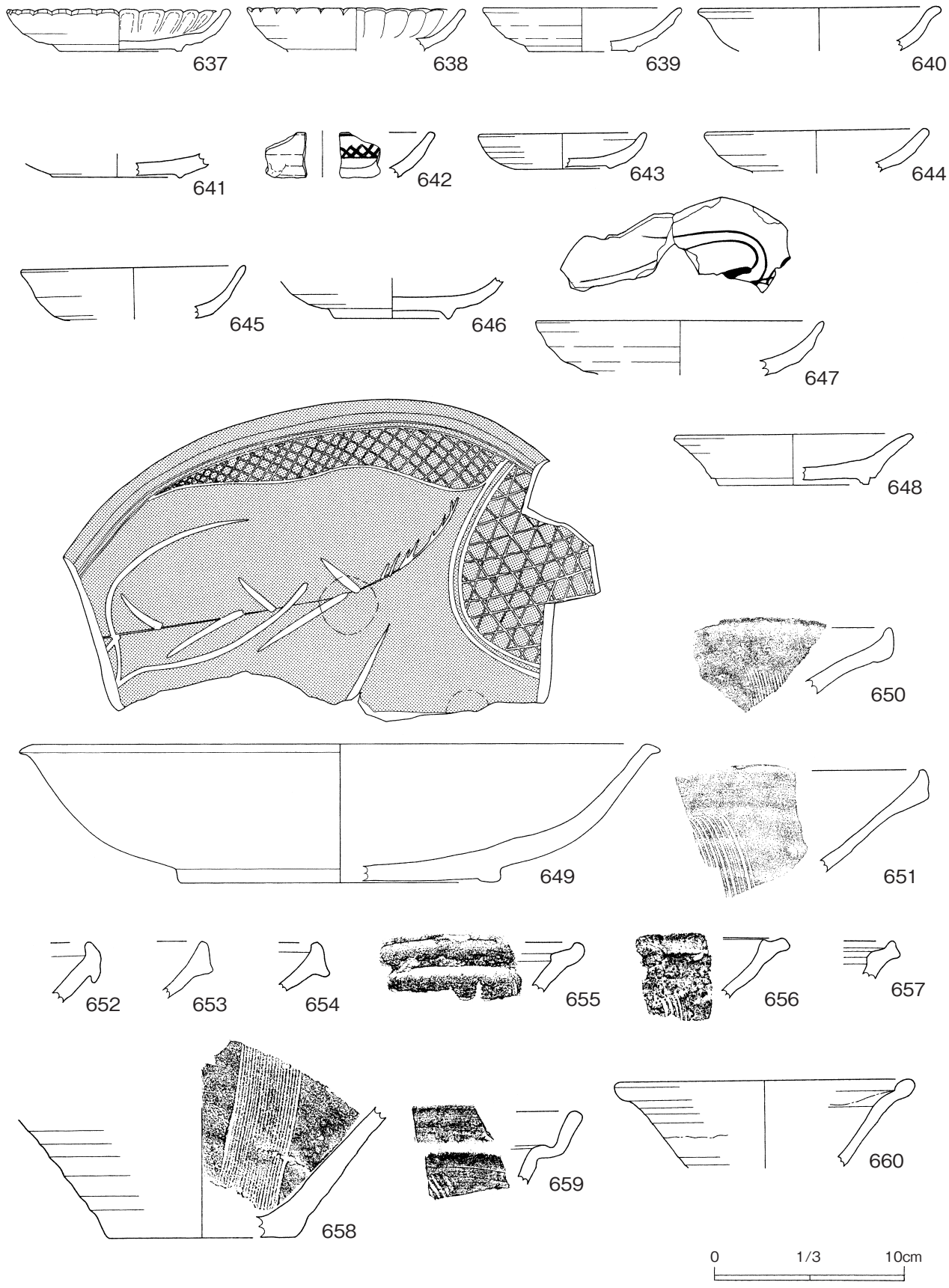
第46図　土器類38

遺構外



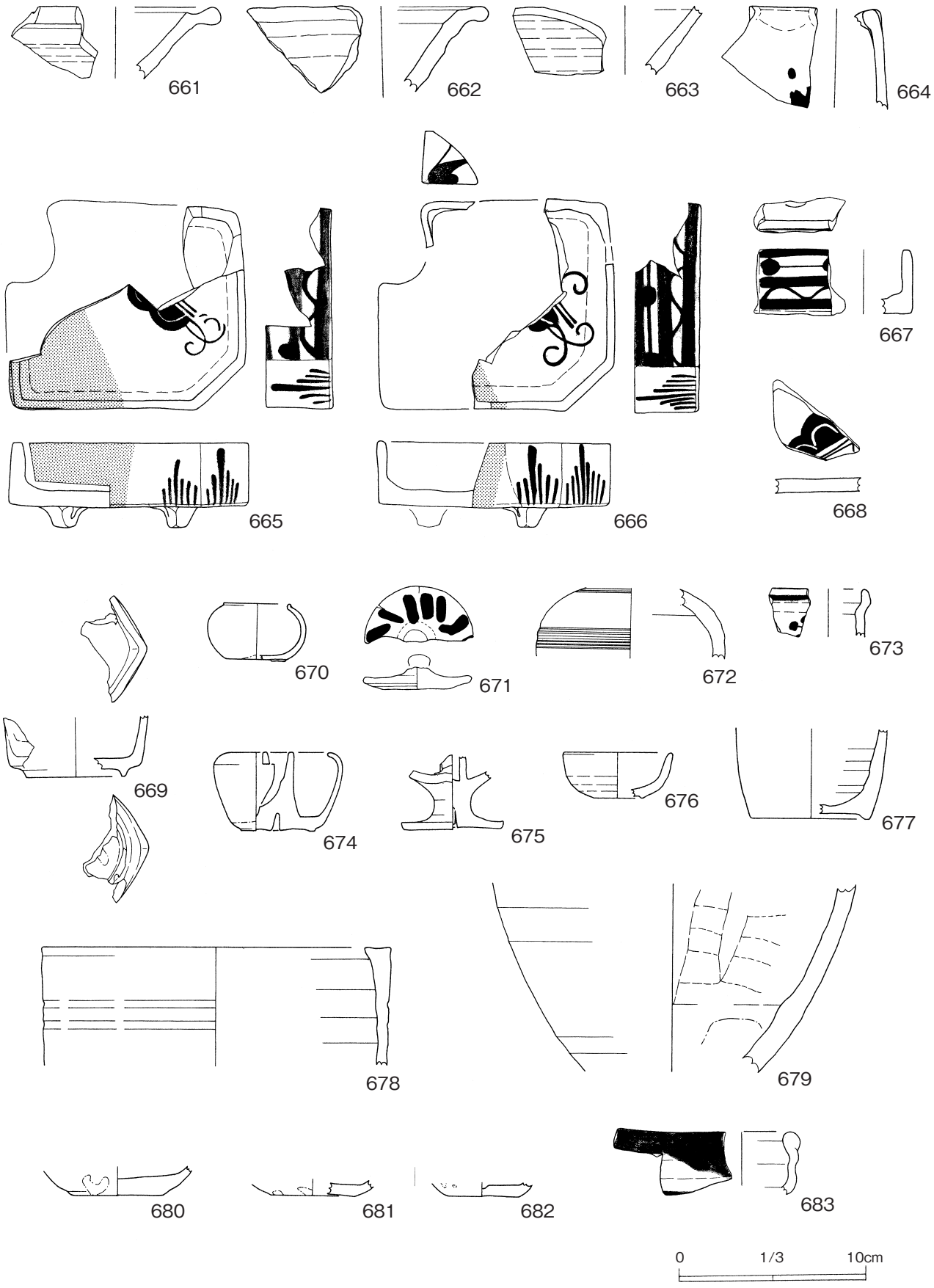
第47図　土器類39

遺構外



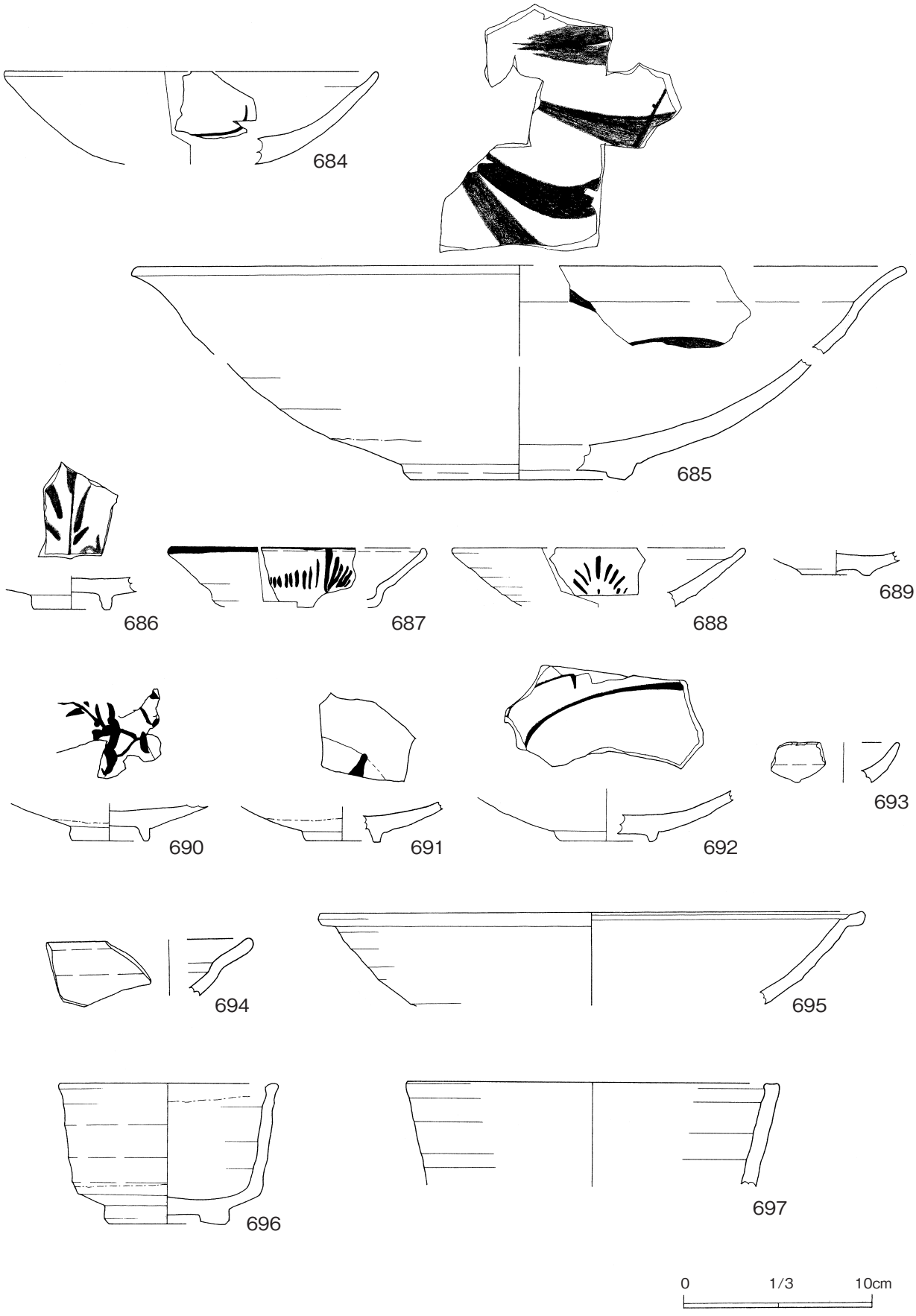
第48図　土器類40

遺構外



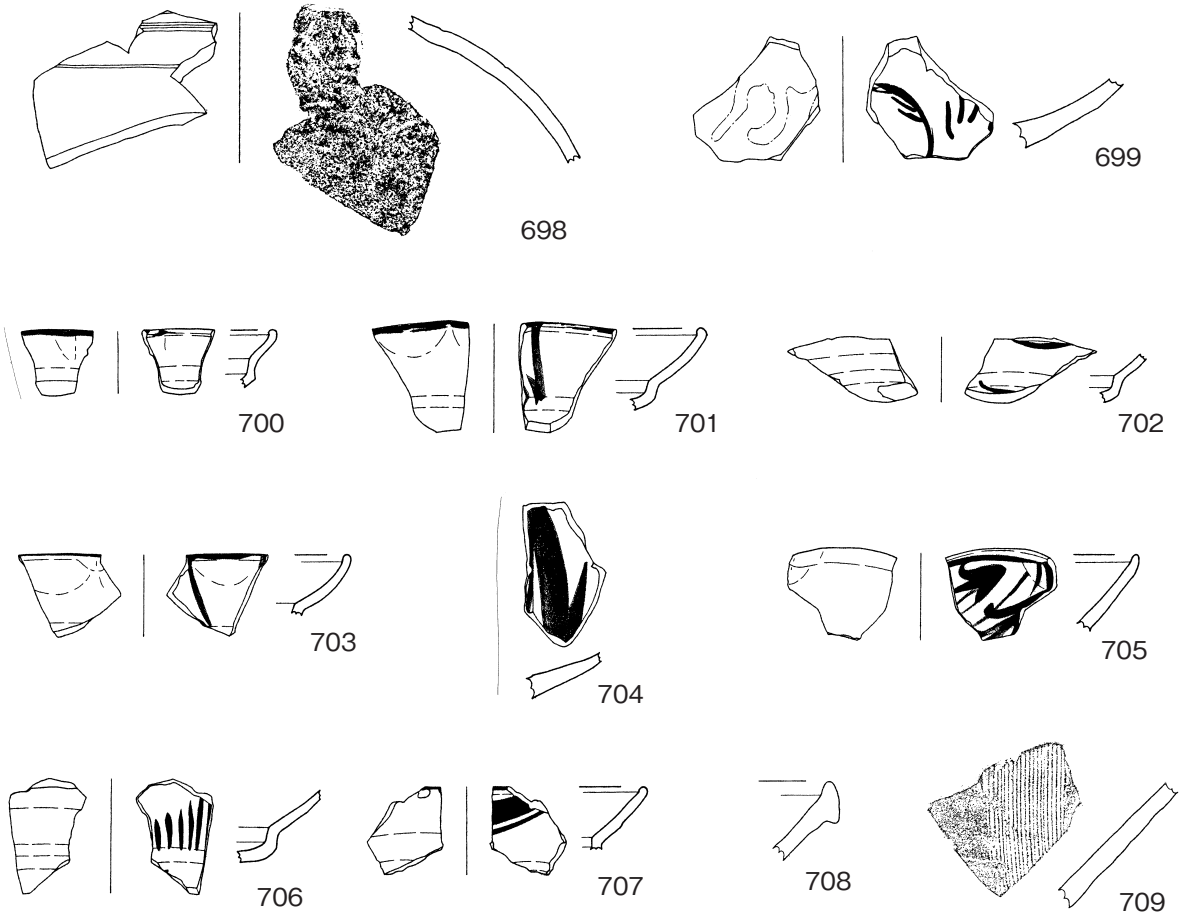
第49図　土器類41

遺構外

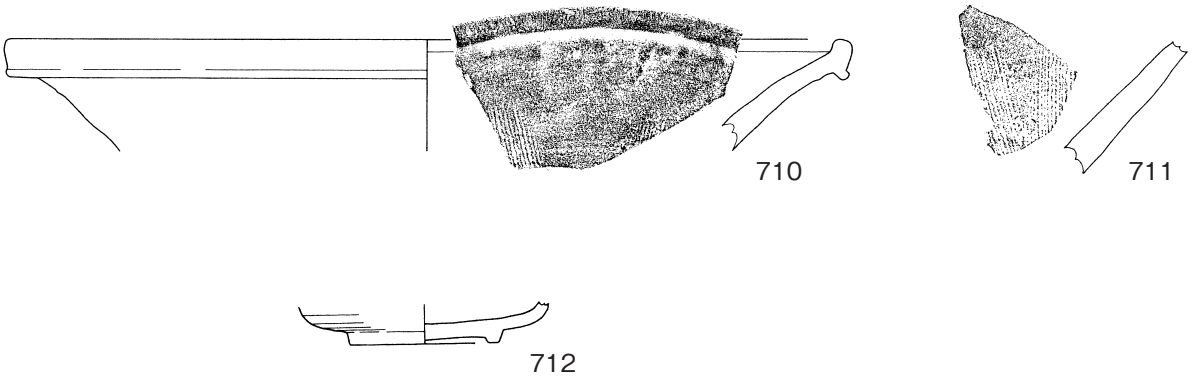


第50図　土器類42

遺構外



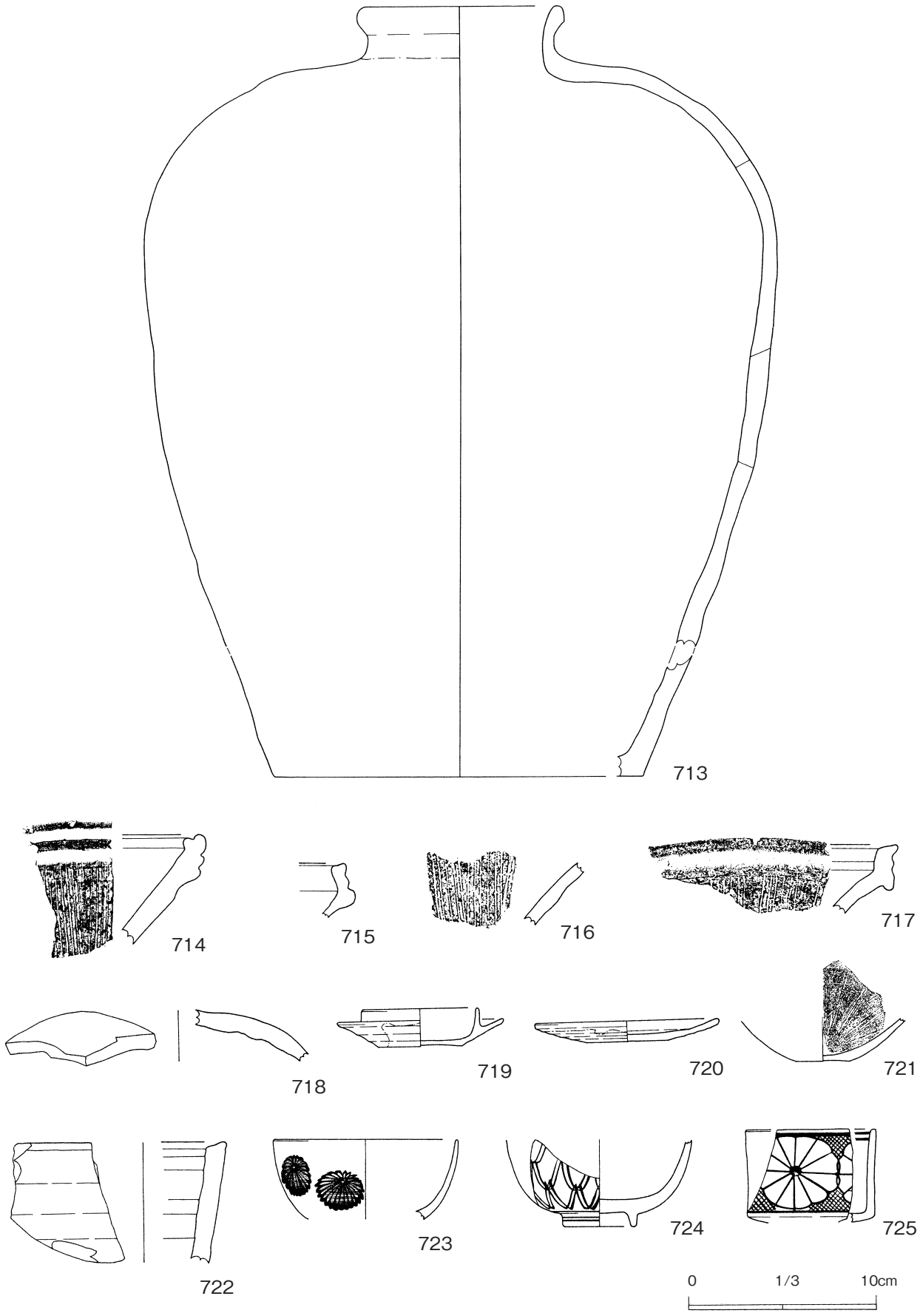
699 ～ 707 は平置実測



0 1/3 10cm

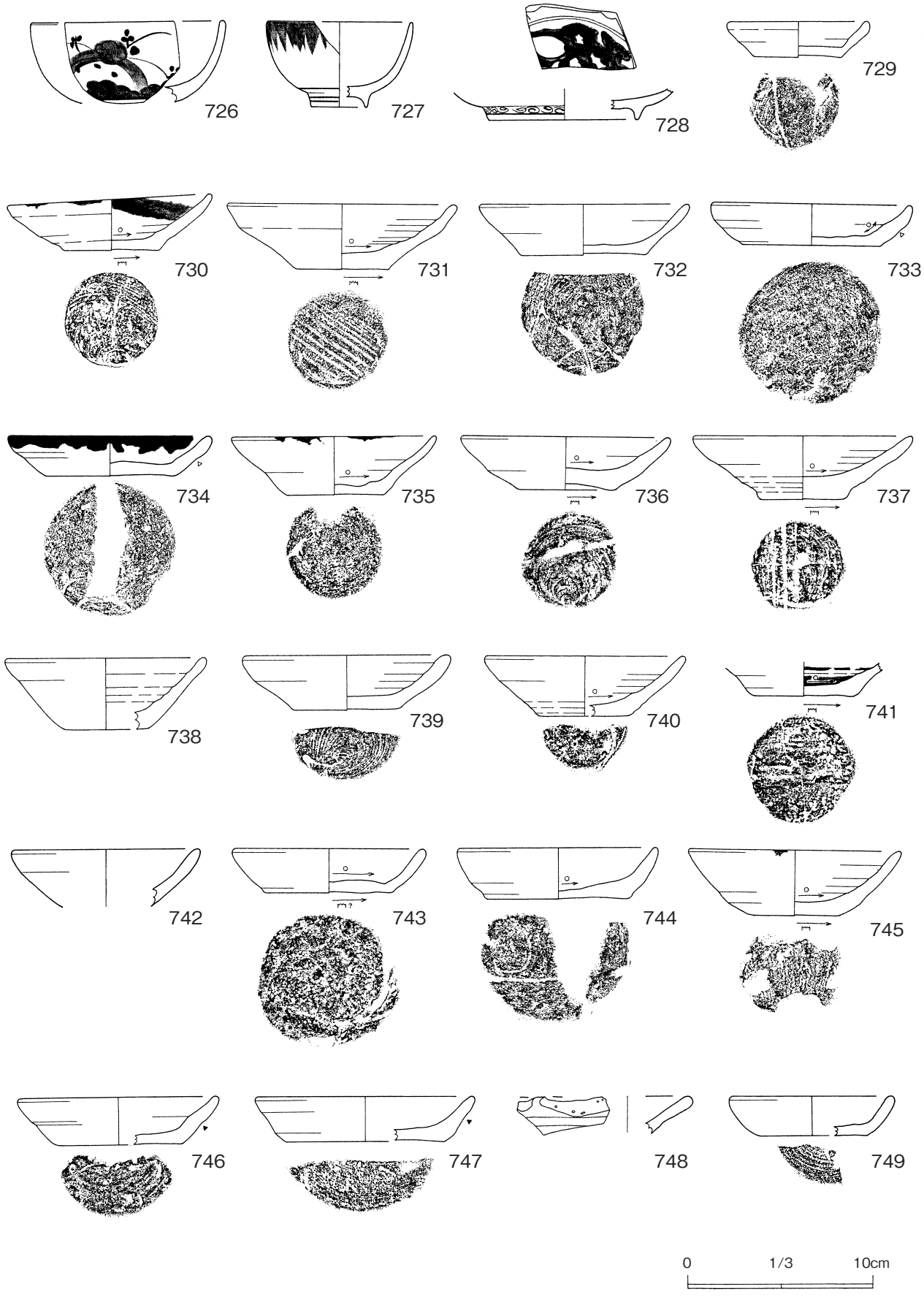
第51図　土器類43

遺構外



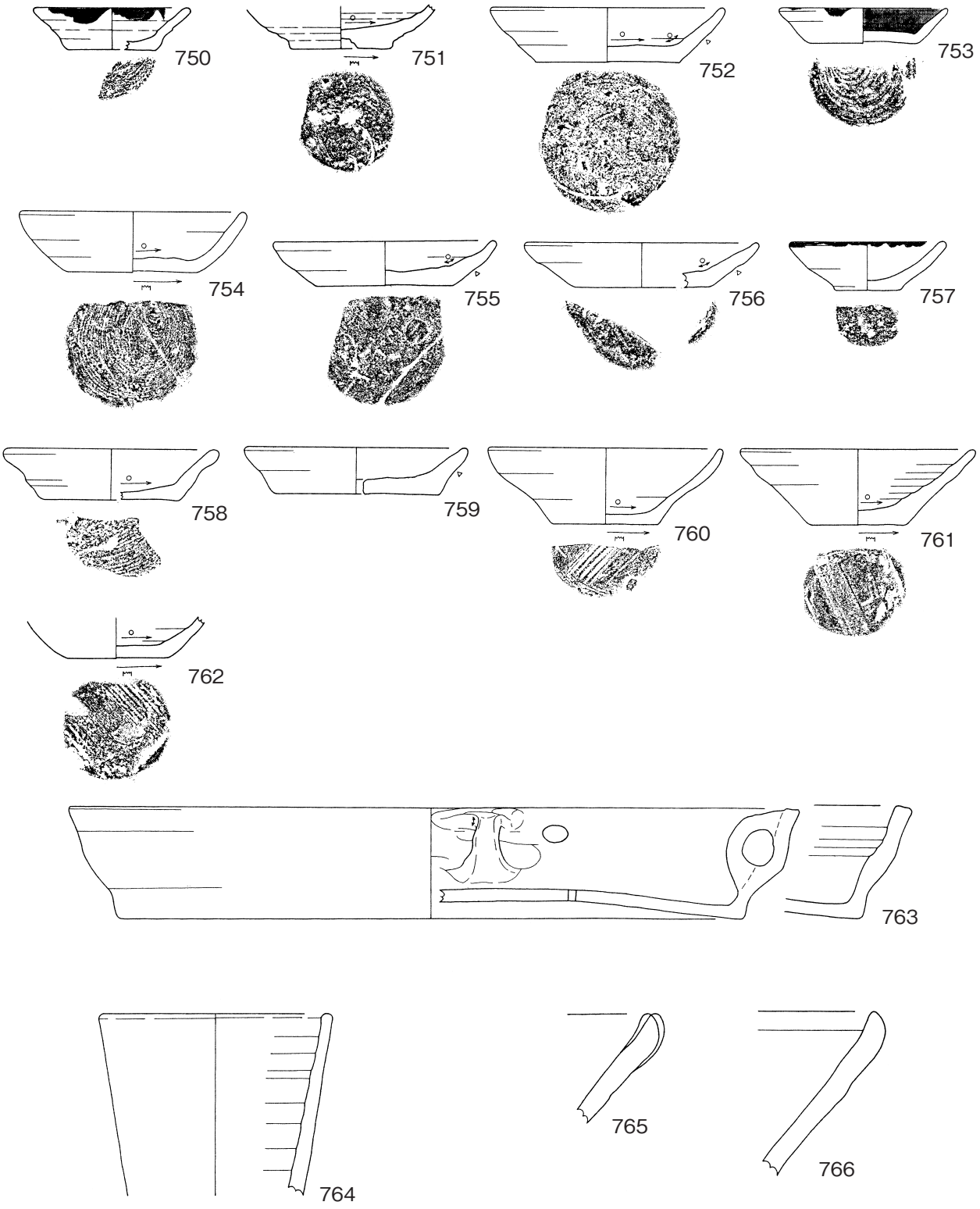
第52図　土器類44

遺構外



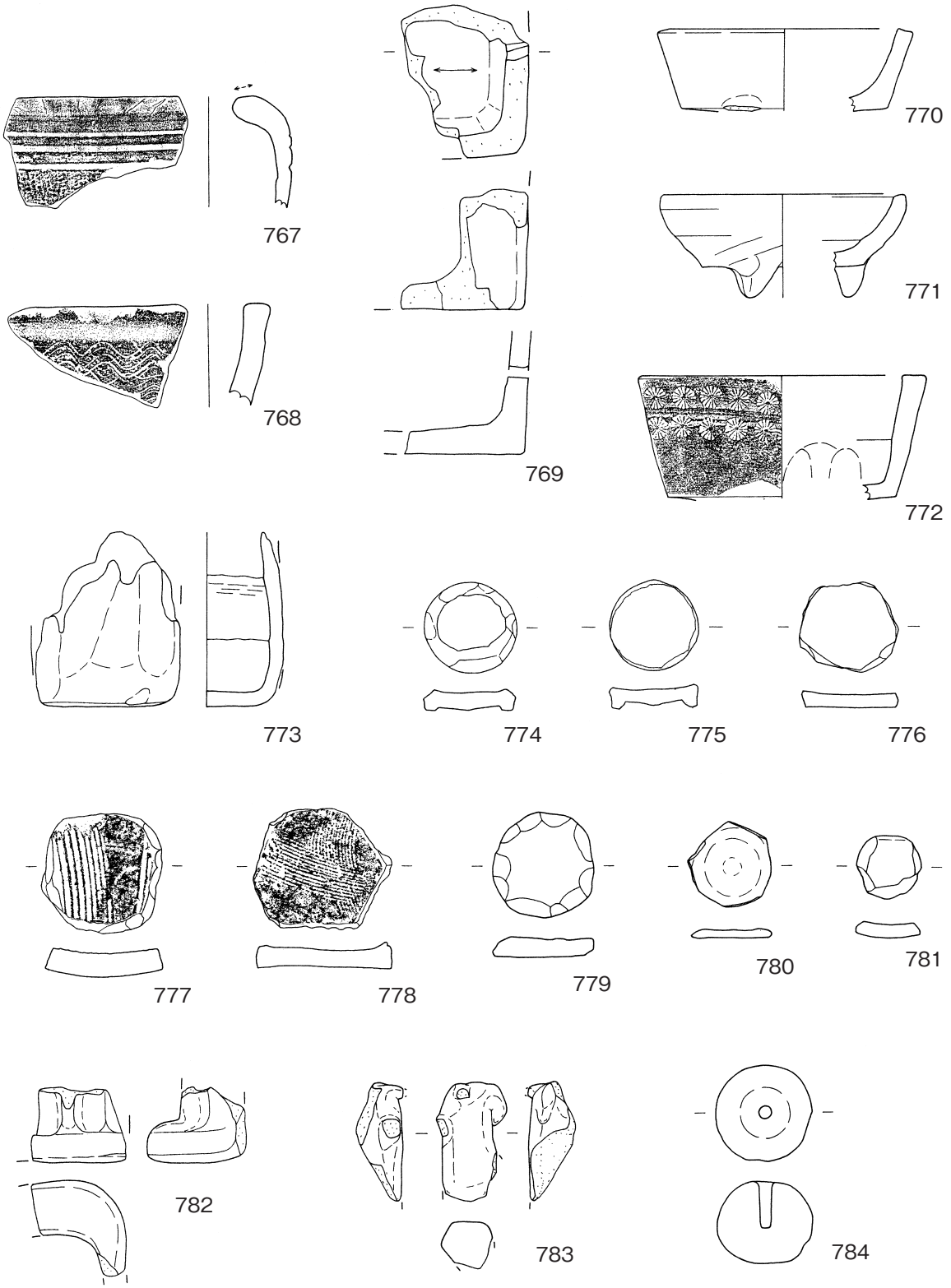
第53図　土器類45

遺構外



第54図　土器類46

遺構外



第55図　土器類47

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
1	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	1堀5層 D区No.282	-	-	-	B-0群		青03	蓮弁文/内外青白色	<10
2	磁器・皿/白磁皿	中国	1堀5層 D区No.134	＊13.0	＊7.3	2.6	E群	16c末～17c	町白021	内外灰白色の釉・高台端部露胎	20
3	磁器・皿/白磁皿	中国	1堀5層 D区No.271	-	-	-	E類	15c～16c	白04	内外灰白色の釉	<10
4	陶器・甕	常滑ヵ	1堀5層 D区No.279・280	-	-	-			袋07	軟質/表面整形痕	<10
5	陶器・碗/織部黒沓形茶碗	瀬戸美濃	1堀5層 D区No.245	14.2	6.1	8.5	大4末	17c初	町碗033	内外鉄釉/口縁1～3条の沈線/体部2条の垂下線7単位/高台成形雑	90
6	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	1堀5層 D区No.298、D区4層No.21	11.7	6.4	2.9	登1	17c初	町皿143	内外長石釉/内面円錐ピン痕3ヶ所	95
7	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	1堀5層 D区No.309、C区1層、KB15	12.1	6.8	2.9	大4後	17c初	町皿147	内外長石釉/内面円錐ピン痕3ヶ所/市教委15集土450で報告	85
8	陶器・皿/志野菊皿	瀬戸美濃	1堀（5層D区No.316・425、一括）、D区4層No.97、C区	12.0	6.8	2.6	大4後	17c初	町皿096	内外長石釉/内外円錐ピン痕3ヶ所	100
9	陶器・皿/総織部皿	瀬戸美濃	1堀5層 D区No.305・482	＊16.0	-	-	登1	17c初	皿02	口縁内面銅緑色	10
10	陶器・青織部汁注	瀬戸美濃	1堀5層 D区No.231・312・364、D区4層(No.19・52・107・108)、D区（1層、2層、3層、5層、一括）	-	-	-	登1	17c初	町他003	口縁～体部上方銅緑釉/鉄で垣根に蔓草文・網干文	30
11	陶器・向付	肥前（唐津）	1堀5層 D区No.251	-	-	-			他12	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄で垂下文	<10
12	陶器・碗/天目茶碗	初山	1堀5層 D区No.174、D区2層	-	-	-	大3	16c後	町天064	内外鉄釉・腰部錆釉ヵ	<10
13	土器・かわらけ	在地	1堀5層 D区No.166	12.0	7.0	2.9			K001	底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面3条刻線（ナデ痕ヵ）	100
14	土器・かわらけ	在地	1堀5層 D区No.184・258	11.8	6.5	2.8			K002	内面体底部境弱いナデ	75
15	土器・かわらけ	在地	1堀5層 D区No.261	12.0	6.8	2.6			K003	底部内面線条痕/内面体底部境弱いナデ/底部外面板ナデヵ	85
16	土器・かわらけ	在地	1堀5層 D区No.262	12.0	6.6	2.9			K004	内面体底部境ナデ	90
17	土器・かわらけ	在地	1堀5層 D区No.297	12.1	7.0	2.9			K005	底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ	90
18	土器・かわらけ	在地	1堀5層 D区No.304・317	＊11.4	5.0	4.0			K112	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	70
19	土器・ほうろく	在地	1堀5層 D区No.348	＊26.0	-	-			H28	金雲母多量に含む	<10
20	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	1堀6層 D区No.322	＊12.0	-	-	大2・3	16c	天01	内外鉄釉　被熱による縮れ	<10
21	陶器・皿/小皿	瀬戸美濃	1堀6層 D区No.146	-	＊6.0	-	古後ヵ		皿01	底部内面灰釉斑/糸切	10
22	陶器・徳利	瀬戸美濃	1堀6層 D区No.321	-	-	-	登ヵ		袋01	外面鉄釉（黒色）	<10
23	土器・かわらけ	在地	1堀6層 D区No.256	12.3	7.0	2.6			K006	底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ	85
24	土器・かわらけ	在地	1堀6層 D区No.263	＊8.0	＊5.5	1.8			K007		30
25	土器・かわらけ	在地	1堀6層 D区No.324・327・461	-	6.6	-			K116	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	40
26	土器・かわらけ	在地	1堀6層 D区No.446	-	5.0	-			K115	底部内面指頭ナデ	60
27	土器・ほうろく	在地	1堀6層 D区No.148・181	-	-	5.1			H01	底部外面板ナデ/外面ス付着	<10
28	土器・ほうろく	在地	1堀6層 D区No.334	-	-	5.5			H02		<10
29	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	1堀7層 D区No.490	-	＊5.0	-	B-1群	13c末～14c初	青05	内外黄緑色・高台内露胎	10
30	磁器・盤/青磁盤	龍泉窯系中国	1堀7層 D区No.487	-	-	-			青04	内外緑色	<10
31	焼締陶器・甕	常滑	1堀7層 D区No.226	-	-	-			袋08		<10
32	土器・かわらけ	在地	1堀7層 D区No.193	11.0	7.0	2.2			K008	底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面糸切後ナデ	80
33	土器・かわらけ	在地	1堀7層 D区No.202	＊7.4	＊4.0	2.3			K009	内面体底部境ナデ/底部外面板ナデヵ/口縁端部欠損ヵ	50
34	土器・かわらけ	在地	1堀7層 D区No.354	-	5.0	-			K113	底部内面指頭ナデ　3本/底部外面板ナデ	60
35	土器・かわらけ	在地	1堀7層 D区No.366	＊11.2	＊7.0	3.4			K010	内面体底部境ナデヵ	40
36	土器・かわらけ	在地	1堀7層 D区No.390	＊12.0	-	-			K114	底部内面指頭ナデヵ	30
37	土器・かわらけ	在地	1堀7層 D区No.421	＊12.0	＊6.0	3.5			K011	外面ス厚く付着/ロクロ痕多い	30
38	土器・ほうろく	在地	1堀7層 D区No.384・422・476	＊37.0	＊32.0	5.5			H03	底部外面板ナデ/外面ス多量に付着	20
39	土器・鉢/擂鉢	在地	1堀8層 D区No.406	-	11.0	-			鉢02	内外被熱の為剥落/櫛目交差	60
40	土器・鉢/擂鉢	在地	1堀8層 D区No.437・473、C区	-	＊13.0	-			鉢06	内面上部剥落	20
41	磁器・皿/白磁皿	中国	1堀 D区	-	＊7.0	-	E類	15c～16c	白05	内外灰白色の釉・高台端部無釉	<10
42	磁器・皿/染付皿	中国	1堀 D区	-	-	-	B-2群	16c中	染01	四方襷文・圏線	<10

第2表　土器類一覧表1

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
43	陶器・碗形鉢ヵ	瀬戸美濃	1堀 D区	-	-	-	古後		鉢19	内外灰釉	<10
44	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	1堀 D区	-	-	-	大3前 Ⅰ類A	16c後	鉢20	内外錆釉	<10
45	陶器・ひょうそく	瀬戸美濃	1堀 D区	-	4.2	-	登11	19c後	他03	内外鉄釉・底部外面露胎/脚なし	50
46	磁器・碗/染付碗	中国	2堀 C区	＊14.0	-	-	F群ヵ	17c初	染02	内外釉乳濁/圏線・唐草文ヵ	<10
47	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	2堀 C区	-	5.0	-	登1・2ヵ		天02	内面鉄釉・外面露胎/輪高台	10
48	陶器・織部徳利	瀬戸美濃	(2堀、1層、一　括)C区、D区(1層、2層、一括)、一括	-	＊7.5	-	登1	17c初	町袋033	鉄で蔓草文	20
49	土器・かわらけ	在地	2堀 C区	-	-	4.5			K012	底部外面板ナデ	20
50	磁器・皿/白磁皿	中国	4堀 C区	＊20.0	-	-			白01	内外透明釉	<10
51	焼締陶器・鉢/片口鉢	常滑	4堀 C区	-	-	-	8型式	1350～1400	鉢21	―	<10
52	陶器・碗/刷毛目碗	肥前	4堀 C区、3壙A区	-	＊4.8	-		17c後～	碗15	白化粧土	10
53	土器・かわらけ	在地	4堀 C区	11.6	4.8	2.9			K013	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/内外黒色付着物(ススヵ)/器厚全体に薄い	80
54	土器・土鍋	在地	4堀 C区	-	-	-			D01	―	<10
55	土器・鉢/捏鉢	在地	4堀 C区	＊26.0	-	-		14c後	町鉢052	瓦質	10
56	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	5堀 C区	＊12.0	-	-	大2・3	16c中・後	皿03	外面鉄釉	<10
57	陶器・皿/鉄絵皿	瀬戸美濃	5堀 C区	＊14.0	＊6.2	3.1	登1	17c初	町皿085	内外長石釉/鉄で海老文/内面円錐ピン痕1ヶ所	20
58	陶器・鉢/黄瀬戸大皿	瀬戸美濃	5堀 C区	＊26.0	-	-	登1～4	17c初～後	鉢22	内外灰釉　被熱による縮れ	<10
59	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	5堀 C区	＊34.4	-	-	Ⅱ類、登1	17c初	町鉢106	内外鉄釉厚い	<10
60	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	5堀 C区	＊35.0	-	-	Ⅰ類、登1	17c初	町鉢111	内外鉄釉	<10
61	陶器・皿/鉄絵皿	肥前(唐津)	5堀 C区、5CⅠ層 C区No.247	-	4.1	-		16c末～17c前	町皿107	内外透明釉/鉄で草花文/底部内面目痕4ヶ所/高台内兜巾	70
62	土器・かわらけ	在地	5堀 C区	11.2	6.8	3.0			K014	底部内面浅いロクロ痕	90
63	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	6堀(㋑2層 C区No.552、上部 C区)	＊28.6	-	-	Ⅰ類、大1	15c末～16c前	町鉢113	内外鉄釉・口唇釉剥落	<10
64	土器・鉢/擂鉢	在地	6堀(㋑2層 C区No.550・551、㋘4層 C区No.588、㋘5層 C区No.568、㋘6層 C区、㋭5層 C区No.601)	＊28.0	-	-			鉢03	櫛目放射状	20
65	磁器・碗/青磁双魚文碗	龍泉窯系中国	6堀㋑5層 C区No.563	-	6.6	-			町青045	内外青緑色の釉・高台内環状に無釉/双魚文陰刻	40
66	土器・かわらけ	在地	6堀㋑7層 C区No.554	＊11.0	＊7.0	2.6			K026	―	25
67	土器・かわらけ	在地	6堀㋑8層 C区No.493	6.8	3.0	2.5			K030	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	95
68	土器・かわらけ	在地	6堀㋑9層 C区No.532	6.6	4.0	2.0			K031	底部内面ナデ痕(凹まるい)/底部外面糸切後整形/灯芯油痕	100
69	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	6堀㋑ C区	＊12.0	-	-	登5・6ヵ		天04	内外鉄釉	10
70	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	6堀㋘2層 C区No.597・598	-	＊5.0	-	大3	16c後	天03	内外灰白色　被熱による縮れ変色・腰部露胎	20
71	陶器・鉢/鉄絵鉢	肥前(唐津)	6堀㋘2層 C区No.596、C区、KB15(1堀上、13堀上No.6)	＊21.4	＊6.8	-		16c末～17c前	町鉢029	内外透明釉・口唇・底辺部錆/鉄で文様/市教委15集土6で報告	10
72	陶器・鉢/煙硝擂	瀬戸美濃	6堀㋘ C区	＊14.0	-	-		17c後ヵ	鉢23	口縁内面・外面鉄釉	<10
73	陶器・碗/沓型碗	肥前(唐津)	6堀㋭2層 C区No.616、C区	-	-	-		16c末～17c前	町碗012	内外長石釉・口縁体部鉄釉	<10
74	磁器・皿/染付皿	中国	6堀㋭4層 C区No.627	＊20.0	-	-			染04	鮮やかな青の文様	<10
75	陶器・向付/織部向付ヵ	瀬戸美濃	6堀㋭4層 C区No.628ヵ	-	-	-	登1ヵ		他02	内外薄い緑釉・外面下端鉄釉	<10
76	陶器・皿/鉄絵皿	肥前(唐津)	6堀㋭4層 C区No.628	-	4.4	-		16c末～17c前	町皿070	内外灰釉/鉄で草花文	50
77	磁器・皿/白磁皿	中国	6堀㋭5層 C区No.603	-	＊7.0	-	Ⅸ類		白07	内面淡青白色の釉・外面白色の釉	<10
78	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	6堀㋭5層 C区No.673	＊10.0	-	-	大1	15c末～16c前	皿04	内外灰釉ヵ　被熱による荒れ変色	10
79	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	6堀㋭5層 C区No.719	＊10.0	-	-	大1	15c末～16c前	皿05	内外灰釉	10
80	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	6堀㋭5層 C区No.644、C区No.55	＊29.8	-	-	Ⅰ類、大3前	16c後	町鉢119	内外鉄釉	<10
81	陶器・尊式花瓶	瀬戸美濃	6堀㋭5層 C区No.645	-	-	-	古後		袋02	外面灰釉	<10

第3表　土器類一覧表2

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
82	土器・かわらけ	在地	6堀㋑5層 C区No.642	-	5.0	-			K117	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	60
83	土器・かわらけ	在地	6堀㋑5層 C区No.646・649	＊11.0	＊4.8	3.3			K015	器厚薄い	40
84	土器・かわらけ	在地	6堀㋑5層 C区No.710・711	＊12.0	＊8.0	2.7			K016	底部内面黒色付着物	25
85	土器・かわらけ	在地	6堀㋑5層 C区No.716	＊10.8	＊5.8	2.6			K017	底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ	50
86	土器・かわらけ	在地	6堀㋑5層 C区No.717	＊11.0	＊7.0	3.3			K018	内面体底部境ナデ	25
87	土器・かわらけ	在地	6堀㋑5層 C区No.718	12.0	6.6	2.5			K019	内面体部下～底部ナデ	100
88	土器・ほうろく	在地	6堀㋑5層 C区No.599・667、6堀㋑7層 C区No.605・606	＊35.6	＊32.0	5.5			H05	外面下部タール・ス付着	20
89	土器・ほうろく	在地	6堀㋑5層 C区No.643、5CⅠ層C区No.452、C区No.169、一括	＊36.5	＊32.0	5.5			H08	底部外面板ナデ	25
90	土器・ほうろく	在地	6堀㋑5層 C区No.648・650・653・721	＊36.0	-	-			H04	―	15
91	土器・ほうろく	在地	6堀㋑5層 C区No.703・705、9・10堀埋土C区、13堀C区、C区	＊36.3	32.0	5.8			H15	―	30
92	土器・鉢/擂鉢	在地	6堀（㋑5層 C区No.700、㋺6層 C区No.757）	＊28.0	＊12.0	9.9			鉢08	内面下半磨痕/内外剥落顕著	20
93	土器・鉢/擂鉢	在地	6堀（㋑5層C区No.701・702、㋺6層C区No.755、7層C区）	27.1	-	-			町鉢067	櫛目放射状	40
94	土器・かわらけ	在地	6堀㋑6層 C区No.688	＊12.0	＊6.8	2.7			K020	内面体底部境ナデ	40
95	土器・かわらけ	在地	6堀㋑6層 C区No.692	11.5	7.0	2.5			K021	底部内面指頭ナデ/内面体底部境浅いナデ/口縁下部稜	100
96	土器・かわらけ	在地	6堀㋑6層 C区	11.7	6.5	2.7			K024	内面体底部境ナデ	100
97	土器・かわらけ	在地	6堀㋑6層 C区	12.2	7.2	2.8			K025	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	95
98	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	6堀㋑7層 C区No.617	＊26.6	-	-	Ⅰ類、古後Ⅳ（新）	15c後	町鉢157	内外鉄釉	<10
99	土器・ほうろく	在地	6堀㋑7層 C区No.607	＊35.6	＊32.0	5.2			H06	土88と同一個体ヵ	10
100	土器・鉢/擂鉢	在地	6堀㋑7層 C区No.608・610・612	＊26.8	＊12.0	11.4			町鉢058	櫛目交差	25
101	土器・かわらけ	在地	6堀㋑8層 C区No.674	10.7	6.8	2.7			K028	―	50
102	土器・かわらけ	在地	6堀㋑9層 C区No.678	-	5.0	-			K118	内外ス付着　黒化	40
103	磁器・皿/白磁皿	中国	6堀㋑ C区	＊12.6	-	-			町白029	内外白色の釉+灰色班	10
104	焼締陶器・甕	常滑	6堀㋑ C区	-	-	-			袋03	―	<10
105	磁器・皿/染付皿	中国	6堀㋺6層 C区No.741	＊12.0	-	-	B-2群	16c中	染05	四方襷文	<10
106	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	6堀㋺6層 C区No.768	-	＊5.4	-	大2・3	16c中・後	皿07	内外灰釉/付高台/印花	<10
107	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	6堀㋺6層 C区	-	＊6.0	-	大2・3	16c中・後	皿06	内外灰釉/付高台/印花	10
108	土器・かわらけ	在地	6堀㋺外6層 C区No.743	＊11.0	＊7.0	2.7			K022	底部内面指頭ナデ	25
109	土器・かわらけ	在地	6堀㋺6層 C区No.752	-	6.6	-			K119	底部内面指頭ナデヵ	70
110	土器・かわらけ	在地	6堀㋺6層 C区No.761	＊11.4	＊7.0	2.8			K023	内面体底部境ナデ/口縁部内外ス付着	25
111	土器・かわらけ	在地	6堀㋺6層 C区No.795	-	5.4	-			K120	底部内面指頭ナデ	60
112	土器・鉢/擂鉢	在地	6堀㋺6層 C区No.740・745	-	-	-			鉢07	口唇部剥落	10
113	土器・鉢/擂鉢	在地	6堀（㋺6層 C区No.753、7層 C区）	＊32.0	-	-			鉢04	内外剥落顕著	25
114	土器・鉢/擂鉢	在地	6堀（㋺6層 C区No.759、7層 C区）	＊28.0	＊12.0	13.6			鉢05	内面上下部磨痕/内面中部剥落	15
115	土器・かわらけ	在地	6堀㋺7層 C区（No.796、一括）	＊11.4	6.5	3.0			K029	口縁外面ス付着/内面黒化	60
116	土器・ほうろく	在地	6堀㋺7層 C区	＊34.0	＊30.0	5.0			H07	外面ス多量に付着	20
117	陶器・入子	瀬戸美濃	6堀7層 C区	-	＊3.0	-	古前Ⅳ～中Ⅱヵ		他01	内面灰釉斑	<10
118	陶器・向付	肥前（唐津）	6堀7層 C区	-	-	-			他15	内外透明釉/鉄で植物文	<10
119	土器・かわらけ	在地	6堀7層 C区	＊12.0	＊7.0	2.1			K027	底部外面板ナデ	30
120	土器・ほうろく	在地	6堀7層 C区、C区	＊37.0	＊32.0	5.0			H09	体部内面中位工具による段形成（凹み）/底部外面板ナデ/外面ス多量に付着	50
121	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	6堀上部 C区	-	-	-	古後Ⅲヵ		碗01	内外灰釉	<10
122	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	6堀上部 C区	＊10.0	＊6.0	1.9	登4・5ヵ		皿08	内外長石釉/削込高台/被熱のため貫入	20
123	陶器・皿/梅文皿ヵ	瀬戸美濃	6堀上部 C区	-	＊4.4	-	登	18c後ヵ	皿09	内面透明釉・底部周辺露胎/胎土緻密	20
124	陶器・向付	肥前（唐津）	6堀上部 C区	-	-	-			他14	内外透明釉・藁灰釉/鉄で文様	<10
125	磁器・壺/白磁壺	中国	6堀 C区	-	-	-			白06	内外淡黄白色の釉	<10
126	磁器・碗/染付碗	中国	6堀 C区	＊12.0	-	-	E群ヵ		染03	圏線	10

第4表　土器類一覧表3

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
127	陶器・向付/青織部向付	瀬戸美濃	6堀 C区	-	-	-			他10	内外銅緑釉/被熱	<10
128	陶器・向付	肥前（唐津）	6堀 C区、C区	-	-	-			他20	内外透明釉/鉄で弧線文	<10
129	陶器・皿	志戸呂	6堀 C区	-	＊5.0	-			皿10	内外錆釉・底部外面露胎	<10
130	土器・かわらけ	在地	7堀1層 C区No.816	＊11.5	7.4	2.6			K032	外面ナデによる段/底部内面指頭ナデ	45
131	土器・かわらけ	在地	7堀1層 C区No.820	11.6	6.6	2.7			K033	内面体底部境ナデ	95
132	土器・ほうろく	在地	7堀1層 C区No.821、C区堀埋土、北	＊35.8	＊30.0	6.2			H10	器厚底部が特に厚い/外面ス付着	20
133	陶器・擂鉢	瀬戸美濃	7堀2層 C区No.813	-	-	-			鉢24	内外暗紫色錆釉/上断面磨痕で丸味	10
134	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.800	11.2	7.0	2.6			K036	底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ	95
135	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-1	11.5	7.4	2.2			町K156	口直下ナデ・体部外面段/内面体底部境ナデ	90
136	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-2	11.1	6.8	2.5			町K157	体部外面段/内面体底部境ナデ	100
137	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-3	11.6	5.7	3.2			町K158	底部内面指頭ナデ/赤褐色	100
138	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-4	11.4	5.9	2.9			町K159	底部内面指頭ナデ/赤褐色	100
139	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-5	11.8	6.8	2.6~2.9			町K160	体部外面段/内面体底部境ナデ	90
140	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-6	11.6	5.9	2.9			町K161	底部内面指頭ナデ/赤褐色	95
141	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-7	11.7	7.4	2.7			町K162	体部外面段/内面体底部境ナデ	95
142	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-8	11.6	5.7	2.9~3.3			町K163	底部内面指頭ナデ/赤褐色	95
143	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-9	11.5	7.3	2.9			町K146	口縁下強いナデ/底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ	100
144	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-10	11.6	6.7	3.3			町K088	底部内面指頭ナデ/明赤褐色	100
145	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-11	11.1	6.8	2.7			町K164	口縁下強いナデ/底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ	90
146	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-12	11.2	6.9	2.5			町K165	外面ナデによる段/内面体底部境ナデ	95
147	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-13	11.8	6.0	2.8			町K166	底部内面指頭ナデ弱/赤褐色	100
148	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-14	11.9	6.0	2.9			町K042	底部内面指頭ナデ/赤褐色	100
149	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-15	＊11.8	7.3	2.4			町K167	体部外面段	80
150	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-16	11.6	5.7	3.2~3.4			町K168	底部内面指頭ナデ/赤褐色	100
151	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-17・18	11.8	7.4	2.5			K037	体部外面段	70
152	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-19	11.8	7.1	2.2~2.4			町K169	内面体底部境ナデ弱	90
153	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-20	11.7	5.7	3.2			町K170	底部内面指頭ナデ/赤褐色	100
154	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.804-21	11.8	5.9	3.3			町K171	底部内面指頭ナデ弱/赤褐色	100
155	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.814	＊12.0	7.2	2.7			K034	外面ナデによる段/底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ	50
156	土器・かわらけ	在地	7堀2層 C区No.815	11.7	7.0	2.9			K035	外面ナデによる段/底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ	80
157	土器・ほうろく	在地	7堀2層 C区No.810	-	-	-			H11		10
158	土器・かわらけ	在地	7堀3層 C区No.808	＊10.8	＊6.0	2.6			K038		25
159	土器・かわらけ	在地	7堀3層 C区	-	6.6	-			K121	内面体底部境ナデ	50
160	陶器・向付	肥前（唐津）	7堀7層ヵ C区No.811（注記1層）	-	-	-			他16	内外透明釉/鉄で文様	10
161	土器・かわらけ	在地	8堀 C区	12.0	8.0	2.7			K039	内面体底部境ナデ	30
162	土器・ほうろく	在地	側溝（8堀ヵ）	35.3	31.2	5.2			町H038	底部外面板状痕/底面補修孔2×3ヶ所/外面ス付着	90
163	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	9堀上層 C区	-	-	-	大3	16c後	天05	内外鉄釉	10
164	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	9堀上層 C区	-	-	-	古後Ⅳ（古）ヵ	15c中	皿11	口縁内面～口唇部灰釉	<10
165	陶器・鉢/平鉢	備前	（9堀上層、19堀、3C層）C区、1壙、一括	＊36.4	＊26.7	5.4		17c前	町鉢046	―	遺物無
166	土器・かわらけ	在地	9堀上層 C区	-	4.0	-			K122	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	50
167	土器・かわらけ	在地	9堀中層 C区	11.3	6.0	3.4			K040	内面ス付着	100
168	土器・かわらけ	在地	9堀中層 C区	＊11.0	5.0	2.8			K041	口縁内外に厚く灯芯油痕/内外被熱剥落	30
169	土器・かわらけ	在地	9堀中層 C区	11.6	5.8	3.4			K042	底部内面指頭ナデ	100
170	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	9堀下層 C区	9.1	4.9	2.3	大1	15c末～16c前	町皿073	内外灰釉・高台周辺薄い/印花かたばみ	90
171	焼締陶器・甕	常滑	9堀下層 C区	-	-	-			袋04	外面自然釉	<10

第5表　土器類一覧表4

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
172	陶器・徳利	瀬戸美濃	9堀下層 C区	＊7.4	-	-	古後Ⅳ（新）	15c後	町袋008	内外鉄釉	10
173	土器・かわらけ	在地	9堀（下層・中層） C区	12.0	6.5	3.2			K043	内面ロクロ痕	50
174	土器・かわらけ	在地	9堀下層 C区	＊11.2	5.0	3.3			K044	底部内面指頭ナデ	30
175	焼締陶器・甕	常滑	（10堀上層、13堀、一括）C区	-	-	-	12形式	1550～1600	町袋020	―	10
176	土器・かわらけ	在地	10堀上層 C区	＊11.0	＊6.6	2.4			K051	体部外面段/灯芯油痕	40
177	土器・かわらけ	在地	10堀上層 C区	7.0	4.6	1.8			K052	―	95
178	土器・ほうろく	在地	10堀上層 C区	-	-	5.8			H12	―	<10
179	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	10堀中層 C区	-	-	-	Ⅰ類、大3前	16c後	町鉢146	内外錆釉	<10
180	土器・かわらけ	在地	10堀中層 C区	10.6	4.5	3.3			K045	底部内面指頭ナデ/内面ロクロ痕	100
181	土器・かわらけ	在地	10堀中層 C区	＊11.6	7.0	2.6			K048	体部外面段/底部内面ロクロ渦巻/内面体底部境ナデ	60
182	土器・かわらけ	在地	10堀（中層・上層） C区	＊11.6	6.3	3.3			K049	底部内面横ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ	35
183	土器・かわらけ	在地	10堀（中層・上層） C区	12.0	8.0	2.7			K050	体部外面段/底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデヵ	75
184	土器・かわらけ	在地	10堀下層 C区	11.0	5.2	2.5			K046	灯芯油痕	95
185	土器・かわらけ	在地	10堀下層 C区	＊11.4	＊6.0	3.7			K047	底部高台風	20
186	土器・香炉	在地	10堀下層 C区、9・10堀埋土 C区	12.4	8.2	-			香01	足1ヶ所貼付	75
187	陶器・瓶子	常滑	10b堀 C区	-	-	-	古		袋05	外面灰釉/底辺部	<10
188	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	10b堀埋土 C区	-	＊10.0	-			鉢25	内外錆釉	10
189	土器・ほうろく	在地	10堀埋土 C区	-	-	-			H13	―	<10
190	土器・かわらけ	在地	9・10堀埋土 C区	＊11.0	4.6	3.5			K053	底部内面指頭ナデ/内面ロクロ痕/底部外面板ナデ/灯芯油痕（内面多量）	60
191	土器・かわらけ	在地	9・10堀埋土 C区	＊11.4	＊6.6	2.2			K054	外面ナデによる段/内面体底部境ナデ	40
192	土器・鉢/片口鉢	在地	9・10堀埋土C区、堀埋土C区	＊28.0	-	-			鉢18	内外剥落顕著	35
193	磁器・皿/染付皿	中国	11堀 C区、5CⅡ層 C区№389、C区（3C層、堀埋土、南、一括）、1TC、2TC下	＊13.0	＊7.3	2.8	皿E群	16c後	町染012	昆虫文・動物文・唐草文	50
194	焼締陶器・広口壺	常滑	（11堀、12堀、4溝、南 堀 上、一 括）C区、2溝A区、B区㊀、2T2層、堀　埋土1層、オチキワ	＊12.8	-	-	11形式	1500~1550	町袋029	自然釉	20
195	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	11堀C区、A区西	-	＊5.2	-		16c末～17c初	町皿109	内外透明釉/鉄分吹出・/鉄で文様	20
196	土器・かわらけ	在地	11堀 C区	11.5	6.6	2.8			K055	底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ	90
197	土器・かわらけ	在地	11堀 C区	6.5	4.0	1.8			K056	内面体部下～底部ナデ/灯芯油痕	95
198	陶器・徳利	志戸呂	12堀 C区	-	-	-			袋06	外面錆釉	<10
199	土器・鉢/擂鉢	在地	12堀 C区、13堀 C区	＊28.0	-	-			鉢09	内面剥落	10
200	磁器・碗/染付碗	中国	（13堀、3C層、南、南 堀 上、一 括）C区、一括	＊10.5	＊4.8	5.6	碗CV群	15c後～16c後	町染036	花卉文・唐草文・略蓮弁文	20
201	土器・かわらけ	在地	13堀 C区	11.8	7.0	2.6			K057	底部内面ロクロ渦巻/内面体底部境ナデ	80
202	土器・ほうろく	在地	13堀C区	35.4	31.3	5.5			町H039	外面スス付着	70
203	土器・ほうろく	在地	13堀 C区	＊34.4	＊30.0	5.9			H14	外面スス付着	20
204	土器・ほうろく	在地	14堀上層 C区	-	-	5.8			H16	―	<10
205	焼締陶器・甕	常滑	15堀上層 C区	-	-	-	11形式	1500 ～1550	町袋019	―	<10
206	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	15堀C区、C区、2TC下	9.2	4.8	1.8	登1	17c初	町皿138	碁笥底	90
207	陶器・壺	肥前（唐津）	15堀 C区、C区№215、5C層C区、C区堀埋土1層、2T C下	＊7.8	＊4.7	＊9.3		16c末～17c前	町袋001	内外透明釉/鉄で唐草文	30
208	磁器・皿/白磁皿	中国	16堀中層 C区	-	＊7.4	-	C群ヵ	15c後～16cヵ	白02	内外灰色味・高台端部露胎/底部内面ヘラによる沈線	30
209	土器・かわらけ	在地	16堀上層 C区	＊11.0	6.6	2.8			K058	内面体部下～底部ナデ	75
210	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	18堀埋土 C区	9.2	5.0	2.5	大1	15c末～16c前	町皿150	内外灰釉・内外白色部分（被熱）、外面釉なし部分あり、高台部剥落/高台内輪ドチ痕/一部黒化	75
211	磁器・皿/青磁菊皿	龍泉窯系中国	19堀 C区	-	＊6.0	-			青02	内外淡青緑色・高台端部無釉	15
212	土器・かわらけ	在地	19堀上層 C区	＊12.0	＊6.0	2.1			K059	内面体底部境ナデ	30

第6表　土器類一覧表5

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
213	土器・鉢/擂鉢	在地	19堀 C区	-	＊12.0	-			鉢13	底部一部黒化/櫛目体部曲線・底部カゴメ	20
214	土器・鉢/擂鉢	在地	19堀 C区	-	＊14.0	-			鉢14	内面黒色付着物/底部外面スス付着/櫛目体部直線・底部放射状ヵ	20
215	土器・火鉢	在地	19堀中層 C区	＊38.0	-	-			火鉢01	口唇部連続押圧	10
216	土器・火鉢	在地	(19堀、3C層)C区	＊37.0	＊32.5	12.7			町鉢300	口唇部連続押圧/粘土紐貼付/外面スス付着	25
217	土器・ほうろく	在地	21堀埋土土塁 C区	35.5	32.2	6.0			町H037		80
218	土器・ほうろく	在地	21堀埋土土塁 C区	-	-	5.5			H17	外面スス付着	<10
219	磁器・碗/青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	22堀㋑ A区	＊10.4	-	-	Ⅰ-5	14c	町青040	蓮弁文/内外青緑色の釉/被熱	30
220	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	22堀㋑ 埋土 A区	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青20	蓮弁文/内外暗緑色の釉/被熱	<10
221	磁器・皿/白磁皿	中国	22堀㋑ 埋土 A区	＊9.0	＊5.2	2.0			町白027	内外乳白色の釉・高台端部露胎	20
222	磁器・皿/染付皿	中国	22堀㋑ A区	＊14.0	-	-	B-2群	16c中	染06	四方襷文	<10
223	焼締陶器・甕	渥美	22堀ヵ(11T堀)	-	-	-	3形式		町袋010	—	<10
224	焼締陶器・鉢/片口鉢	常滑	22堀㋕ B区	＊28.0	-	-	Ⅱ類、11形式	1500～1550	町鉢125	内面スス付着	<10
225	焼締陶器・鉢/片口鉢	常滑	22堀㋑ 埋土A区	-	-	-			鉢29	—	<10
226	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	22堀㋣ A区	＊16.0	-	-	古 後Ⅱヵ	14c末～15c初	碗02	内外灰釉	10
227	陶器・皿/志野皿	瀬戸美濃	22堀㋓ B区	＊11.4	＊5.2	2.5	登3・4ヵ		Ⅲ12	内外に灰色に近い長石釉・高台周辺露胎	30
228	陶器・皿/輪禿皿	瀬戸美濃	22堀㋓ B区	＊14.0	＊7.6	2.6	登2	17c前	Ⅲ13	口縁外面・内面長石釉/底部内面周縁釉を拭う	25
229	陶器・皿/灯明具	瀬戸美濃	22堀(㋓・㋖)B区	＊16.0	-	-	登3	17c中	町Ⅲ162	内外鉄釉・体部外面露胎/内外スス付着	30
230	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	22堀㋐ B区	＊26.6	-	-	Ⅰ類、大2	16c中	町鉢161	内外錆釉/口唇部剥落	<10
231	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	22堀㋖ B区	-	-	-	Ⅰ類、大2	16c中	町鉢145	内外錆釉	<10
232	陶器・鉢/煙硝擂	瀬戸美濃	22堀㋓ B区	-	＊7.0	-	登	17c後ヵ	鉢26	内外体部鉄釉	25
233	陶器・鉢/柄付片口	瀬戸美濃	22堀㋐ B区	＊18.0	-	-	古後Ⅱヵ	14c末～15c初	鉢28	内外灰釉	10
234	陶器・向付/青織部向付	瀬戸美濃	22堀ヵ(11T堀)	-	-	-			他09	内外長石釉・銅緑釉・底部外面露胎/鉄で文様/足貼付	10
235	陶器・碗/刷毛目碗	肥前	22堀㋐ B区	＊10.6	＊3.6	4.7	九:Ⅲ～Ⅳ期	17c後～18c末	碗03	内外刷毛目文/高台端部無釉	25
236	陶器・鉢/擂鉢	丹 波・信楽	22堀㋓ B区	-	-	-			鉢27	内外錆釉	<10
237	土器・かわらけ	在地	22堀埋土出丸 A区	10.8	6.6	3.0			K062	内面体底部境凹	95
238	土器・かわらけ	在地	22堀埋土出丸 A区	＊11.0	＊6.6	2.3			K063	全内面・外面一部スス付着	50
239	土器・かわらけ	在地	22堀埋土出丸 A区	-	4.4	-			K123	底部内面指頭ナデ	30
240	土器・かわらけ	在地	22堀㋑ A区	11.0	6.5	3.1			K060	焼成不良	95
241	土器・かわらけ	在地	22堀㋑埋土 A区	＊10.4	＊7.0	2.3			K061	内面ロクロ沈線	40
242	土器・かわらけ	在地	22堀㋒ A区	-	-	5.5			K064	—	70
243	土器・かわらけ	在地	22堀㋐ A区	-	-	5.0			K065	底部内面指頭ナデ	50
244	土器・かわらけ	在地	22堀㋓ B区、B区㋓	＊9.0	5.5	1.9			K078	内外黒化	60
245	土器・ほうろく	在地	22堀㋣ 埋土 A区	＊35.6	＊32.0	5.0			H19	外面スス付着	10
246	土器・ほうろく	在地	22堀㋕ B区	-	-	-			H20	外面スス付着	<10
247	土器・鉢/擂鉢	在地	22堀(㋘・㋣) A区	＊28.0	-	-			鉢15	櫛目蛇行・垂下	20
248	土器・鉢/擂鉢	在地	22堀㋣ 埋土 A区	-	-	-			鉢16	口唇磨痕/外面スス付着	<10
249	土器・鉢/擂鉢	在地	29堀 B区	-	-	-			鉢17	内面剥落	<10
250	土器・かわらけ	在地	29堀B区、30堀B区、B区㋓	12.2	5.0	3.5			K066	底部内面指頭ナデ/内面ロクロ痕/底部外面板ナデ	75
251	磁器・碗/青磁碗	中国	30堀㋐ 埋土 B区	-	-	-			青01	内外暗緑色	<10
252	陶器・皿/縁釉はさみ皿	瀬戸美濃	30堀埋土 B区	-	-	-	大1ヵ		Ⅲ14	口縁内面灰釉	<10
253	陶器・鉢/擂鉢	丹 波・信楽	30堀㋐ 埋土 B区	-	＊13.0	-		17c～	鉢30	外面ロクロ強いナデ/長石多量信楽ヵ	<10
254	土器・ほうろく	在地	30堀㋓ B区、B区㋖	＊34.4	＊30.0	4.7			H18	内外スス付着	20
255	磁器・碗/染付碗	中国	1溝 A区	-	＊4.5	-	碗E群	16c中	町染040	鳥文・大明年■の文字/被熱黒化	30
256	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	1溝 A区	＊120	-	-	大2	16c中	天06	内外鉄釉・腰部錆釉	10

第７表　土器類一覧表６

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
257	陶器・皿/卸皿	瀬戸美濃	1溝 A区	＊10.0	-	-	大2・3	16c中・後	皿35	内外鉄釉	<10
258	陶器・鉢/大皿	瀬戸美濃	1溝 A区	＊29.7	-	-	大4	16c末～17c初	町皿199	内外錆釉・露胎部釉不足ヵ	10
259	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	1溝 A区	-	-	-	Ⅰ類、大2	16c中	町鉢175	内外錆釉	<10
260	土器・かわらけ	在地	1溝 A区	＊11.0	＊5.5	2.8			K079	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	30
261	土器・かわらけ	在地	1溝 A区	-	5.0	-			K124	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	30
262	土器・かわらけ	在地	1溝 A区	-	6.0	-			K125	内面体底部境ナデ	50
263	土器・かわらけ	在地	1溝 A区						K142	被熱断面発泡	<10
264	土器・かわらけ	在地	1溝 A区、1建 A区						K143	被熱断面発泡	30
265	土器・甕	在地	1溝 A区、1建 A区	＊20.0	-	-			袋26	小石含む	10
266	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	2溝 A区	＊10.0	＊6.0	2.6	大1後	16c前	皿23	内外灰釉	10
267	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	2溝 A区 、A区西	＊12.0	＊6.5	2.9	大4後	17c初	皿47	全面長石釉（灰味）/見込・高台裏円錐ピン痕/口縁部周辺にスス付着	30
268	陶器・向付/志野向付	瀬戸美濃	2溝A区・A区・A区西・C区南・9T・一括、KB15 9堀上層	＊13.8	＊13.0	6.1	大4後	17c初	町鉢031	内外長石釉（厚い）/鉄で草文・車文ヵ/内外円錐ピン痕ヵ/市教委15集土64で報告	40
269	磁器・皿/染付端反皿	中国	3溝C区、5CⅡ層 C区No.21・30・458・459☆台帳に458なし	10.8	5.8	2.5	皿E群?		町染010	鳥・瑞果/被熱	75
270	陶器・碗/色絵碗	肥前系（京焼風）	3溝C区、A区西	10.0	＊3.1	5.9		18c後～19c前	町碗016	透明釉/染付に緑青・赤で花文	75
271	土器・かわらけ	在地	3溝 C区	＊11.5	＊7.0	2.9			K126	外面ナデによる段/内面体底部境ナデ	30
272	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	4溝C区	-	＊11.0	-	大		鉢42	内外錆釉/櫛目15本	10
273	磁器・碗/染付碗	肥前	4溝 C区	8.0	3.2	3.7		18c～19cヵ	伊07	寿文	90
274	陶器・甕	不明	8溝 A区（=7・9溝）	-	-	-			袋24	整形痕/砂粒多い/褐色味	<10
275	陶器・皿/緑釉小皿	瀬戸美濃	9溝A区	＊10.5	-	-	古後Ⅲ・Ⅳ	15c前・中	皿30	口縁内外灰釉/やや扁平・体部に稜	<10
276	陶器・鉢/擂鉢	志戸呂	10溝 A区	-	-	-		16c	町鉢183	内外錆釉	<10
277	土器・捏鉢	在地	10溝 A区	-	-	-			鉢60	硬質/内面磨耗痕	<10
278	土器・瓦/平瓦	在地	13溝 A区	(8.0)	(9.5)	1.9			瓦9	上下面灰色/下面布目痕/上面前後左右方向に木挽痕→熨斗瓦ヵ	10
279	陶器・甕	不明	15溝最上層 A区	-	-	-			袋25	須恵質	<10
280	陶器・皿	瀬戸美濃	2井 C区	＊11.0	-	-	登ヵ		皿15	内外長石釉	10
281	焼締陶器・甕	常滑	7井 C区	-	-	-			袋09	表面整形痕	10
282	陶器・徳利	肥前（唐津）	（8井、3C層、南、一括）C区、堀埋土1層	9.0	12.0	29.0		16c末～17c初	町袋005	口縁～肩部藁灰釉・銅部灰釉/底部上げ底/内面同心円叩き	70
283	土器・かわらけ	在地	12井No.7 C区	7.2	3.6	2.4			K073	底部外面板ナデ/内外被熱剥落	95
284	土器・かわらけ	在地	12井C区	＊11.0	4.5	3.6			K074	底部内面指頭ナデ/内外ロクロ痕	50
285	土器・ほうろく	在地	12井No.3 C区	＊35.4	-	-			H22	口唇端部突出/赤褐色	10
286	土器・かわらけ	在地	13井 B区	10.6	4.5	3.0			K075	底部内面ロクロ痕・指頭痕	75
287	磁器・碗/白磁碗ヵ	中国	20井 A区	-	-	-	E2類	15c～16c	白03	内外白色の釉	<10
288	陶器・碗/広東碗	肥前	20井 A区	-	5.8	-		18c末～19c前	伊01	―	50
289	土器・瓦/伏間瓦	在地	20井 A区	29.5	23.5	1.7		18c後	瓦1	内外灰色/内面弱いみがき/外面金属粉状光沢	100
290	土器・瓦/平瓦	在地	20井 A区	(16.0)	25.0	1.7			瓦2	上下面灰色/下面左右にナデヵ/上面金属粉状光沢	30
291	土器・瓦/桟瓦	在地	20井 A区	(15.0)	(19.5)	1.8			瓦3	上下面灰色/下面左右にケズリ痕/上下面金属粉状光沢、粒子脱落痕	20
292	土器・瓦/桟瓦	在地	20井 A区	(14.0)	(21.0)	1.6			瓦4	上下面灰色/頭の切り込み	30
293	土器・瓦/丸瓦	在地	20井 A区	(7.5)	(4.0)	2.2			瓦5	内外灰色/内面整形不明	<10
294	土器・かわらけ	在地	21井 A区	12.0	5.0	3.3			K076	底部外面板ナデ	95
295	土器・鉢/擂鉢	在地	21井 A区	30.8	12.4	10.4			町鉢055	瓦質	50
296	土器・鉢/擂鉢	在地	21井 A区	＊32.0	-	-			鉢10	櫛目直線	10
297	陶器・碗	瀬戸美濃	22井 A区	＊9.4	-	-			碗04	鉄で文様	20
298	土器・瓦/丸瓦	在地	22井 A区	(17.0)	(10.6)	2.1		19c	瓦6	内外灰色/内面前後に凹線痕数条/布目痕・切出し痕・棒の叩目	40
299	土器・瓦/桟瓦	在地	22井 A区	(8.0)	(12.1)	2.0			瓦7	上下面浅黄橙色/下面未調整、桟は前後にナデ/上面光沢	10

第8表　土器類一覧表7

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
300	土器・瓦/平瓦	在地	22井 A区	(10.4)	(7.5)	2.0			瓦8	上下面灰色/下面一部ケズリヵ/上面弱いみがき	10
301	土器・片口鉢	在地	23井 A区	＊28.8	-	-			鉢11	小石多量/外面タール状スス付着	20
302	磁器・皿/白磁皿	中国	24井 A区	-	＊5.6	-			白09	内面淡青灰白色の釉・内面底部蛇の目釉剥ぎ・外面無釉	10
303	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	24井 A区	-	-	-	Ⅰ類、大2	16c中	町鉢174	内外錆釉	<10
304	土器・かわらけ	在地	24井 A区	11.0	6.4	2.5			K077	口縁下強いナデ/内面体底部境ナデ	60
305	土器・片口鉢	在地	24井 A区	＊34.0	＊13.0	17.0			鉢12	小石多量/外面スス付着/土300と同一個体ヵ	20
306	土器・かわらけ	在地	1壙	-	＊5.4	-			K136	外面灰黄褐色・内面黒色/底部内面弱い指頭ナデ	25
307	土器・ほうろく	在地	C区1壙、C区	-	-	-			H25	外面スス付着	10
308	土器・ほうろく	在地	C区1壙	-	-	-			H26	下広・円形	<10
309	陶器・皿/折縁中皿	瀬戸美濃	3壙A区	＊14.0	-	-	古後Ⅲ・Ⅳ	15c前・中	Ⅲ31	内外灰釉・体部外面露胎	10
310	陶器・皿	瀬戸美濃	3壙 A区	-	＊6.0	-	大2・3	16c中・後	Ⅲ44	内外灰釉/付高台/輪ドチ痕/印花文	20
311	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	3壙 A区	＊11.0	-	-	大4後	17c初	Ⅲ48	内外長石釉（厚い）	10
312	陶器・皿/灯明皿	志戸呂	(3壙・西)A区	10.5	4.6	2.1		17c以降	町皿202	外面口縁～内面錆釉/内外スス付着	75
313	焼締陶器・鉢/擂鉢	信楽	3壙A区	-	-	-			鉢61	土製円盤ヵ	<10
314	磁器・碗	肥前	3壙A区	-	＊4.0	-		17c末～18c後	伊8	コンニャク判/銘「大明年製」ヵ	10
315	陶器・皿	瀬戸美濃	8壙（No.1・2、一括） A区、A区東	-	6.0	-	大1・2	15c末～16c中	Ⅲ39	内外灰釉（緑色）/高台方形/外面被熱ヵ	20
316	磁器・青磁花瓶ヵ	龍泉窯系中国	10壙 A区	-	-	-			町青050	内外青緑色の釉	<10
317	陶器・志野向付	瀬戸美濃	1建	-	-	-	大4後	17c初	町鉢263	内外長石釉（厚い）/鉄で文様	<10
318	土器・かわらけ	在地	1建? A区、A区西	-	6.6	-			K144	被熱肥厚発泡	50
319	土器・火鉢	在地	1建	-	-	-			火鉢7	灰落としによるヵ、口唇部上端内外剥離・つぶれ/口唇部上面に凹線巡る	<10
320	土器・瓦/平瓦	在地	1建 A区	(16.0)	(21.2)	1.8			瓦10	上下面灰色/下面未整形/上面金属粉状光沢	40
321	土器・瓦/平瓦	在地	1建 A区	(14.1)	(17.9)	2.3			瓦11	上下面にぶい黄橙色/下面弱いナデヵ	30
322	土器・瓦/平瓦	在地	1建 A区	(19.2)	(12.0)	1.8			瓦12	上下面灰色/下面ケズリヵ、条線前後方向	30
323	土器・瓦/平瓦	在地	1建 A区	(4.7)	(7.4)	1.7			瓦15	上下面灰色/正面刻印　丸に一	<10
324	土器・瓦/軒瓦	在地	1建 A区	(11.6)	(16.0)	(2.0)			瓦13	上下面灰色/顎貼り付け	20
325	土器・瓦/桟瓦	在地	1建 A区	(11.8)	(16.2)	1.7			瓦14	上下面にぶい黄橙色/下面ケズリヵ/上面金属粉状光沢、雲母片少量	20
326	土器・瓦/桟瓦	在地	1建 A区	(8.0)	(10.0)	2.0			瓦16	上面灰黄褐色/下面にぶい黄橙色、未整形/頭の切り込み	10
327	土器・瓦/桟瓦	在地	1建 A区	(8.4)	(10.5)	2.0			瓦17	上面灰褐色/下面灰白色/頭の切り込み/表面に雲母片微量	10
328	土器・瓦/軒平・軒桟瓦	在地	1建 A区	(2.8)	(7.2)	4.5			瓦18	灰色/表面に雲母片多量/特殊文様	<10
329	土器・瓦/軒平・軒桟瓦	在地	1建 A区	(3.2)	(4.7)	(3.8)			瓦19	灰色/表面に雲母片少量	<10
330	土器・瓦/軒平・軒桟瓦	在地	1建 A区	(2.6)	(3.6)	(3.5)			瓦20	暗灰色/唐草文	<10
331	土器・瓦/軒瓦	在地	1建 A区	(2.9)	(4.6)	(3.5)			瓦21	暗灰色/上面にドベイ痕/顎貼り付け/唐草文	<10
332	土器・瓦/軒瓦	在地	1建 A区	(12.1)	(4.7)	7.2		18c後～	瓦22	内外浅黄橙色/表面金属粉状光沢（綺羅粉）、雲母片多量/唐草文・東海式	10
333	土器・瓦/桟瓦	在地	1建 A区	(3.4)	(4.7)	(4.5)			瓦23	内外浅黄橙色/江戸式	<10
334	土器・瓦/鬼瓦ヵ	在地	1建 A区	(3.2)	(7.5)	(2.1)			瓦24	内外灰色/外面光沢	<10
335	土器・瓦/丸瓦	在地	1建 A区	(7.5)	(5.6)	3.0			瓦25	内外灰色/内面布目痕	10
336	土器・瓦/丸瓦	在地	1建 A区	(5.7)	(7.1)	2.2			瓦26	内外灰色/内面布目痕	10
337	土器・瓦/丸瓦	在地	1建 A区	(13.6)	(8.0)	2.0			瓦27	内外灰色～灰白色/内面布目痕/土339と同一個体ヵ	20
338	土器・瓦/丸瓦	在地	1建 A区	(7.5)	(8.6)	1.9			瓦28	外面淡橙色～黒褐色/内面淡橙色/木挽痕	10

第9表　土器類一覧表8

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出 土 地 点	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率(％)
339	土器・瓦/丸瓦	在地	1建 A区	(10.4)	(5.2)	1.9			瓦29	外面黒色/内面灰色～浅黄橙色/布目痕/土337と同一個体ヵ	10
340	土器・瓦/平瓦	在地	1建 A区	(5.4)	(5.4)	1.7			瓦31	上面黒色、灰被り/下面灰褐色	<10
341	土器・瓦/平瓦	在地	1建 A区	(5.0)	(7.0)	1.8			瓦32	上面明赤褐色/下面にぶい赤褐色(被熱)/被熱により発泡	10
342	土器・瓦/平瓦	在地	1建 A区	(5.7)	(5.2)	1.7			瓦34	上面橙色/下面淡赤褐色/被熱により発泡	10
343	土器・瓦/平瓦	在地	1建 A区	(13.1)	(10.3)	1.7			瓦35	上下面明赤褐色(被熱)/上面被熱により発泡	20
344	土器・瓦/平瓦	在地	1建 A区	(2.6)	(5.1)	2.0			瓦37	上下面灰赤色(被熱)/被熱により全面発泡	<10
345	土器・瓦/平瓦	在地	1建 A区	(3.6)	(3.7)	1.7			瓦39	上下面にぶい橙色/上面被熱により発泡	<10
346	土器・瓦/桟瓦	在地	1建 A区	(6.1)	(5.3)	1.4			瓦30	上面灰赤色、熔融物付着/下面にぶい橙色	<10
347	土器・瓦/桟瓦	在地	1建 A区	(6.2)	(7.6)	1.7			瓦33	上面にぶい赤褐色/下面灰褐色/被熱により発泡	10
348	土器・瓦/桟瓦	在地	1建 A区	(5.4)	(4.0)	2.3			瓦36	上面にぶい橙色/下面灰赤色(被熱)/被熱により発泡	<10
349	土器・瓦/桟瓦	在地	1建 A区	(11.0)	(9.3)	1.7			瓦38	上面明赤褐色～赤黒色(被熱)/下面にぶい橙色/上面被熱により発泡、浅い線	10
350	土器・瓦/桟瓦	在地	1建 A区	(5.0)	(8.2)	1.7			瓦40	上面明赤褐色～灰褐色(被熱)/被熱により発泡	<10
351	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区焼土中(1建内?)	10.0	5.5	2.2	大1後ヵ		町皿072	内外灰釉・釉白色(被熱)/高台内輪ドチ痕/スス付着	80
352	焼締陶器・甕	常滑	3C層 C区	-	-	-	12形式	1550～1600	袋23	口唇自然釉	<10
353	陶器・皿/総織部皿	瀬戸美濃	3C層 C区	16.2	8.0	3.1	登1	17c初	町皿003	内面銅緑釉/山と煙文・花文・青海波文/内外に円錐ピン痕	90
354	陶器・向付	肥前(唐津)	3C層 C区	-	-	-			他18	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄でトクサ文	<10
355	陶器・向付	肥前(唐津)	3C層 C区	-	-	-			他27	内外透明釉・口唇鉄釉	<10
356	陶器・向付	肥前(唐津)	3C層 C区	-	-	-			他30	内外透明釉・口唇鉄釉	<10
357	土器・ほうろく	在地	3C層下層 C区	-	-	-			H23	―	10
358	土器・ほうろく	在地	3C層下層 C区	-	-	5.0			H27	外面スス付着	10
359	磁器・六角坏	中国	5C Ⅰ層 C区No.312	＊7.4	＊2.6	-		15c前～中	町白020	内外白色の釉・腰部露胎	20
360	磁器・皿/染付皿	中国	5C Ⅰ層 C区No.276、5C層C区	＊10.2	-	-	皿E群	16c後	町染024	被熱荒れ	20
361	磁器・鉢/染付芙蓉手鉢	中国	5C Ⅰ層 C区No.273・421、5C Ⅱ層 C区No.390、5C 層 C区No.732・733・736、C区、3C層、オチキワ☆台帳No.733は唐津No.731ヵ	＊14.2	＊7.0	4.8		16c末～17c初	町染011	草花文・窓に草花文・竹文・動物文/被熱荒れ	50
362	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	5C Ⅰ層 C区(No.300・301)	＊11.8	-	-	登1ヵ		町皿149	内外長石釉/被熱黒化荒れ	25
363	陶器・皿	瀬戸美濃	5C Ⅰ層 C区No.313	＊12.0	-	-	登1ヵ		皿70	内外長石釉/被熱黒化	20
364	陶器・皿/志野鐎皿	瀬戸美濃	5C Ⅰ層 C区No.365、一括	＊10.7	6.4	2.2	大4後	17c初	町皿154	内外長石釉/内外円錐ピン痕	45
365	陶器・青織部向付	瀬戸美濃	5C Ⅰ層 C区No.240、C区堀埋土	-	-	-	登1	17c初	町他007	内外長石釉・底部外面露胎/鉄で文様/足貼付/町史では別個体の土666と合成図	<10
366	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	5C Ⅰ層 C区No.132	＊36.6	-	-	Ⅱ類、登1	17c初	町鉢116	内外錆釉/被熱で釉ちぢみ	10
367	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	5C Ⅰ層 C区No.413	＊32.5	-	-	Ⅱ類、登1・2	17c初・前	町鉢112	内外鉄釉/被熱黒化	10
368	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	5C Ⅰ層 C区No.418	-	-	-	Ⅰ類、大4後	17c初	町鉢144	内外鉄釉	<10
369	陶器・碗/筒形碗	肥前(唐津)	5C Ⅰ層 C区No.242	＊12.0	-	-			碗05	内外長石釉	10
370	陶器・向付	肥前(唐津)	5C Ⅰ層 C区No.239	-	-	-			他26	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄で文様	<10
371	陶器・徳利	備前	5C Ⅰ層 C区No.101・244・275、5C Ⅱ層 C区No.398、5C層 C区	-	＊7.5	-		16c	町袋003	スス付着	30
372	土器・かわらけ	在地	5C Ⅰ層 C区(No.121・122・181)	11.2	8.4	2.3			町K175	内面体底部境ナデ/底部内面指頭ナデ	90
373	土器・かわらけ	在地	5C Ⅰ層 C区No.145	＊12.0	＊9.0	2.5			K095	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/内面薄黒化	40
374	土器・かわらけ	在地	5C Ⅰ層 C区No.185	＊10.0	＊7.0	2.4			K127	口縁下強いナデ	20

第10表　土器類一覧表 9

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
375	土器・かわらけ	在地	5CⅠ層 C区No.253	＊12.0	＊7.0	2.6			K096	口縁下強いナデ	30
376	土器・かわらけ	在地	5CⅠ層 C区No.405	＊11.4	＊8.0	2.4			K097	口縁下強いナデ/内面体底部境凹/皿重なって表裏にスス付着	30
377	土器・かわらけ	在地	5CⅠ層 C区No.419	＊11.0	＊7.0	2.6			K128	口縁下強いナデ	20
378	土器・ほうろく	在地	5CⅠ層 C区No.135	＊35.0	＊32.0	6.2			H24	外面スス付着	10
379	土器・火鉢ヵ	在地	5CⅠ層 C区No.417、5CⅡ層 C区No.434	＊22.0	-	-			火鉢4	瓦質/外面・内面体底部境ナデ/外面スス付着/口縁部剥落	<10
380	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	5CⅡ層 C区No.437	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青10	内外青緑色	<10
381	磁器・皿/白磁皿	中国	5CⅡ層 C区No.79	-	＊7.0	-	E類	15c～16c	白08	内外灰白色の釉・高台端部無釉	10
382	磁器・碗/染付碗	中国	5CⅡ層 C区No.102	＊11.5	-	-	碗E群	16c中	町染042	—	10
383	磁器・碗/染付碗	中国	5CⅡ層 C区No.146・97	＊12.0	-	-	碗E群	16c中	町染048	蛟龍文ヵ/被熱	10
384	磁器・碗/染付碗	中国	5CⅡ層 C区No.423	-	＊5.0	-	碗E群	16c中	町染018	瑞果文/スス付着	80
385	磁器・皿/染付皿	中国	5CⅡ層 C区No.12・484	9.8	5.2	2.5	皿E群	16c後	町染037	四方襷文・花文/内外スス付着	100
386	磁器・皿/染付皿	中国	5CⅡ層 C区（No.15・22、一　括）、シ-96-7	10.8	5.8	2.3	皿E群	16c後	町染009	蟹文/スス付着	50
387	磁器・皿/染付皿	中国	5CⅡ層 C区No.71	＊12.2	＊7.2	2.8	皿E群	16c後	町染023	—	25
388	磁器・皿/染付皿	中国	5CⅡ層 C区No.278	-	-	-	E群ヵ		染25	底部内面くぼむ/蛟龍文ヵ・字款	<10
389	磁器・皿/染付皿	中国	（5CⅡ層・5C層）C区	＊13.4	-	-	皿E群	16c後	町染038	唐草文・花卉文ヵ/被熱荒れ黒化	30
390	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.397・487、C区	＊11.2	＊4.4	6.5	登1	17c初	町天002	内外鉄釉・高台周辺露胎	60
391	陶器・碗/総織部碗	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.414、C区	＊11.4	-	-	登1	17c初	町碗024	内外緑色釉	20
392	陶器・碗/志野織部碗	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.349・351・388、5C層C区	＊10.4	＊4.4	7.7	登	17c初ヵ	碗07	内外透明釉/鉄で松林文	20
393	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.328・410・411	10.7	5.4	2.3	大3後	16c後	町皿146	内外灰釉/高台内輪トチ/被熱白変・スス付着	90
394	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	5CⅡ層C区(No.310・314・433)、5CⅠ層C区（No.233・279・317）	12.4	6.5	2.9	登1	17c初	町皿064	内外長石釉/被熱黒化	75
395	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	5CⅡ層C区（No.409・427）、C区5C層、C区No.358	12.0	5.8	3.0	登1	17c初	町皿063	内外長石釉・高台周辺露胎/底部内面円錐ピン痕	75
396	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.466、C区	11.3	6.6	2.0	大4後	17c初	町皿148	内外長石釉・高台周辺露胎/輪ドチ痕/スス付着	50
397	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.481	＊11.6	＊6.8	2.3	登1	17c初	町皿142	内外長石釉/内面円錐ピン痕・高台内輪ドチ痕/被熱黒化荒れ	30
398	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	5CⅡ層C区No.7・20・31～36・38・76～78・82・89・230、5CⅠ層C区No.117、C区No.83、	31.6	9.8	12.4	Ⅱ類、大4後	17c初	町鉢166	内外鉄釉/底部内面櫛目交差・内面4ヶ所露胎/被熱荒れ	80
399	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.149	＊31.8	-	-	Ⅰ類、大2	16c中	町鉢107	内外錆釉/口縁磨痕	<10
400	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.309	＊32.0	-	-	Ⅱ類、登1	17c初	町鉢123	内外鉄釉/被熱黒化	10
401	陶器・鉢/志野鉢	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.399・489、C区No.220	＊18.6	＊13.0	5.4	大4後	17c初	町鉢011	内外長石釉（厚い）/鉄で草花文/高台内円錐ピン痕/被熱黒化	75
402	陶器・茶入	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.46・90・96・131、C区	＊3.4	＊2.8	-	登1・2	17c初・前	町他005	鉄釉＋灰釉流掛/底部周辺露胎	25
403	陶器・青織部向付	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.415・475	-	-	-	登1	17c初	他08	内外銅緑釉・底部外面露胎/足貼付	10
404	陶器・青織部向付	瀬戸美濃	5CⅡ層 C区No.488	-	-	-	登1	17c初	町他002	内外長石釉・底部外面露胎/鉄で文様/町史では別個体の土665と合成図	<10
405	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	5CⅡ層 C区No.192・318	＊11.5	-	-		16c末～17c前	町皿099	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄でトクサ文・垂下文	20
406	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	5CⅡ層 C区No.321	＊12.3	-	-		16c末～17c前	町皿102	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄で文様/内外被熱	遺物無
407	陶器・鉢/鉄絵鉢	肥前（唐津）	5CⅡ層 C区No.396	20.2	-	-		16c末～17c前	町鉢001	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄でトクサ文・垂下文	10
408	陶器・向付	肥前（唐津）	5CⅡ層 C区No.189	-	-	-			他28	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄でトクサ文・垂下文	<10
409	陶器・向付	肥前（唐津）	5CⅡ層 C区No.318ヵ	-	-	-			他24	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄でトクサ文・垂下文	<10
410	陶器・向付	肥前（唐津）	5CⅡ層 C区	-	-	-			他22	内外透明釉・口唇鉄釉/口縁熔着剥落/鉄で弧線文	<10

第11表　土器類一覧表10

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
411	陶器・瓶	朝鮮	5CⅡ層 C区No.4・5・6・8・9・10・13・14・16・17・25・26・28・29・37・66・68・75・137・144・196・457・461、C区 5C層、一括	-	＊16.2	-		15c～16c	町袋039	外面黒釉+灰釉/肩部に上下沈線により2条の稜・胴下部に工具痕カ/内面同心円の叩き目/厚さ3～4㎜/内面ス付着	30
412	陶器・瓶	朝鮮	5CⅡ層 C区No.352・353・387・392・450・468、5CⅠ層 C区No.246、5C層C区(No.733、一 括)、C区(No.271、堀埋 土、南、一 括)、D区20T(?)、2TC層、2T2層、3C層、北、一括	-	＊14.0	-		15c～16c	町袋040	内外灰釉・底部外面無釉/肩に3条の沈線/内面円形の凹み・叩き目をナデ消す・底部外面中程に円形の稜・中央が凹む/厚さ3～5㎜/被熱	30
413	陶器・瓶	朝鮮	5CⅡ層 C区No.404・463、5C層 C区	-	＊18.0	-		16c後	袋11	外面黒釉・底部外面灰釉/底部外面板ナデ・底辺部外面成形痕・内面同心円の叩き目	10
414	陶器・瓶	朝鮮	5CⅡ層 C区No.482、5C層 C区	-	-	-		16c後	袋13	外面黒釉/内面同心円の叩き目/厚さ3～4㎜/土413と同一個体	<10
415	陶器・水滴	志戸呂	5CⅡ層 C区No.371・443、C区No.360	＊4.2	-	-			町他010	内外灰釉・底辺部外面露胎	30
416	陶器・徳利	志戸呂	5CⅡ層 C区No.350・354・385・386・449・451・469、5C層 C区No.736・737、C区	＊3.8	-	-		17cカ	町袋004	錆釉+灰釉流掛/被熱黒化	20
417	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.39	10.4	7.5	2.4			町K177	体部外面段/内面体底部境ナデ	90
418	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.43	＊10.6	7.8	2.4			K094	被熱により炻器化	60
419	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.50	10.2	5.0	2.2~2.4			町K154	内外ス付着(重ね痕)	100
420	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.62	10.8	7.6	2.2			町K089	体部外面段/底部内面指頭ナデヵ	100
421	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.65	10.6	7.9	2.6			町K153	体部外面段	100
422	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.93	10.4	5.5	2.3			町K155	―	100
423	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.125	10.1	6.8	2.9			町K181	―	80
424	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区(No.126・448)	＊11.2	＊8.0	2.3			町K173	体部外面段	60
425	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.284・285、5CⅠ層 C区No.288	11.0	8.2	2.3~2.5			町K180	口縁直下ナデ/体部外面段/内面体底部境ナデ	60
426	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.366	＊11.4	8.0	2.2			町K185	口縁直下ナデ/体部外面段/内面体底部境ナデ	60
427	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.367、C区No.363	11.3	8.3	2.2			町K178	口縁直下ナデ/体部外面段	60
428	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.384・440、C区No.362	11.2	7.8	2.2			町K176	体部外面段	95
429	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.406	10.6	7.3	2.4			町K179	体部外面段/底部内面指頭ナデ	95
430	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.430	10.4	6.6	1.9~2.2			町K172	内外ス付着	60
431	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.471	＊11.0	7.0	2.2			K098	底部内面中央ロクロ痕/内外ス付着	40
432	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.483	10.8	6.9	2.5			町K044	―	100
433	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.485	＊11.0	＊8.0	2.2			K099	底部内面指頭ナデヵ/底部外面板ナデヵ	30
434	土器・かわらけ	在地	5CⅡ層 C区No.486、5C層	＊11.0	＊7.0	2.4			K100	内面体底部境ナデ	30
435	陶器・碗/志野丸碗	瀬戸美濃	5C層最下層 C区	11.0	4.9	7.3	登2	17c前	町碗002	内外長石釉/内面円錐ピン痕/黒化(被熱)ヵ	100
436	陶器・皿	瀬戸美濃	5C層C区	-	6.0	-	大1・2	15c末～16c中	皿40	内外灰釉(緑色)/付高台/輪ドチ痕/印花文ヵ	30
437	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	5C層C区	-	-	-	大4後	17c初	皿51	内外長石釉(灰味・厚い)	10
438	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	5C層 C区	＊15.0	＊7.8	3.2	大4後	17c初	町皿159	内外長石釉/高台内輪ドチ痕/ス貫入	40
439	陶器・碗/碗	肥前(唐津)	5C層 C区	＊14.0	-	-		16c末～17c前	町碗008	内外鉄釉・内面鉄釉溜ヵ	10
440	陶器・皿/鉄絵皿	肥前(唐津)	5C層C区	-	-	-			皿69	内外灰釉ヵ/鉄で文様	<10
441	陶器・皿/鉄絵皿	肥前(唐津)	5C層 C区	＊16.3	-	-		16c末～17c前	町皿103	内外透明釉/鉄で文様	10
442	陶器・皿/鉄絵皿	肥前(唐津)	5C層 C区	-	-	-		16c末～17c前	町皿115	内外灰釉/鉄で文様	15
443	陶器・向付	肥前(唐津)	5C層 C区	-	-	-			他19	内外透明釉・外面藁灰釉掛流/鉄で植物文	<10
444	陶器・向付	肥前(唐津)	5C層 C区	-	-	-			他21	内外透明釉/鉄で弧線文・垂下文	10
445	土器・かわらけ	在地	5C層 C区	11.1	7.6	2.4			町K152	体部外面段/底部内面中央回転ナデ/内外黒化(重ねヵ)/金雲母微量	100
446	土器・かわらけ	在地	5C層 C区	10.8	7.3	2.4			町K174	体部外面段/底部内面中央回転ナデ/内外黒化(重ねヵ)	90
447	土器・かわらけ	在地	5C層 C区	10.8	7.3	2.1			町K182	体部外面段/底部内面中央回転ナデ/内外黒化(重ねヵ)	100
448	土器・かわらけ	在地	5C層 C区	10.8	7.2	2.4			町K183	体部外面段/底部内面中央回転ナデ/内外黒化(重ねヵ)	90

第12表　土器類一覧表11

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
449	土器・かわらけ	在地	5C層 C区	＊10.7	7.6	2.1			町K184	体部外面段/底部内面中央回転ナデ	75
450	土器・かわらけ	在地	5C層 C区	＊10.0	7.2	2.4			K104	体部外面段	20
451	土器・かわらけ	在地	5C層 C区	＊11.0	＊8.0	2.5			K129	体部外面段	20
452	土器・かわらけ	在地	5C層 C区	＊10.6	＊8.0	2.4			K130	内外黒化（重ねヵ）	20
453	土器・かわらけ	在地	5C層 C区	＊11.0	＊8.0	2.1			K131	―	25
454	土器・火鉢ヵ	在地	5C層 C区	-	-	-			火鉢2	瓦質	<10
455	土器・火鉢	在地	5C層 C区	-	-	-			火鉢3	脚部 赤化	<10
456	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	C区1層	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青15	蓮弁文/内外青緑色	<10
457	磁器・皿/染付皿	中国	C区1層	-	-	-	E群ヵ		染26	―	<10
458	磁器・皿/染付皿	中国	C区1層	＊11.0	-	-	Ⅲ B1群	15c後～16c後	染22	唐草文	<10
459	陶器・碗	瀬戸美濃	C区1層	-	3.8	-			碗12	内外灰釉・高台周辺露胎	40
460	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	C区1層	＊12.0	-	-	古後Ⅳヵ		Ⅲ28	口縁内外灰釉/口径大きいが扁平	10
461	陶器・向付/志野向付	瀬戸美濃	C区1層	-	-	-	大4後	17c初	町鉢266	内外長石釉（厚い）/鉄で文様	10
462	陶器・香炉/筒形香炉	瀬戸美濃	C区1層	-	-	-			香04	外面灰釉・底辺部露胎/器厚薄い	10
463	磁器・小坏/染付小坏	中国	C区中層	＊6.2	-	-			町染053	草花文ヵ	10
464	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	C区中層	＊11.0	＊6.3	2.4	登1・2ヵ		Ⅲ46	内外長石釉・高台内露胎	30
465	土器・かわらけ	在地	C区中層	11.4	5.0	3.0			K101	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデヵ	100
466	磁器・皿/青磁菊皿	龍泉窯系中国	C区南土塁	＊11.0	-	-	青Ⅲ I		青06	内外暗緑色	10
467	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	C区南土塁	＊13.0	＊5.9	2.4	大1	15c末～16c前	町Ⅲ172	口縁灰釉/内面被熱黒化	30
468	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	D区1層、D区2層	＊12.0	-	-	大1後	16c前	Ⅲ22	内外灰釉	20
469	陶器・鉢/志野織部大皿	瀬戸美濃	D区1層	-	＊15.0	-			鉢32	内外長石釉/鉄で文様	10
470	陶器・鉢/青織部大鉢	瀬戸美濃	D区1層	-	＊14.0	-			鉢33	内面不透明な長石釉に銅緑釉掛け・外面銅緑釉　高台無釉/鉄で草文/内面トチン痕	10
471	陶器・香炉/筒形香炉	瀬戸美濃	D区1層	-	＊13.0	-	登3～7	17c中～18c後	香05	外面鉄釉	10
472	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	D区1層、KB15	＊15.6	-	-		16c末～17c前	町Ⅲ106	内外長石釉/鉄で文様/市教委15集土478で報告	10
473	陶器・鉢/大皿	肥前（唐津）	D区1層	-	-	-	Ⅱ期	17c初～前	鉢35	釉　被熱により白化/胴部屈曲	10
474	焼締陶器・鉢/擂鉢	備前系	D区1層	-	-	-		18c	鉢55	―	10
475	土器・かわらけ	在地	D区1層、D区2層	＊8.4	＊5.0	2.3			K111	底部外面板ナデ	30
476	磁器・皿/白磁皿	中国	D区2層	-	＊8.0	-	C-1群		白19	内外灰白色の釉（無光沢）・高台端部無釉	<10
477	磁器・皿/白磁皿	中国	D区2層	-	-	-	C-1群		白21	内外乳白色の釉	<10
478	陶 器・皿/灯 明 皿（受皿）	瀬戸美濃	D区2層	＊11.0	-	-		19c中ヵ	Ⅲ67	内外錆釉/外面重ね焼き痕	15
479	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	D区2層	-	-	-	Ⅱ類、登1	17c初	町鉢173	内外錆釉	10
480	陶器・鉢/煙硝擂	瀬戸美濃	D区2層	＊15.0	-	-	登4・5	17c末～18c初	鉢51	内外口縁～体部 鉄釉	10
481	陶器・鉢/志野織部大皿	瀬戸美濃	D区2層	-	＊15.0	-	登1	17c初	鉢31	内外不透明な長石釉・高台内無釉/鉄で草文ヵ/高台内放射状の削り段	10
482	陶器・向付/織部向付	瀬戸美濃	D区2層	-	-	-			他06	内外長石釉・底部外面一部露胎/鉄で幾何学文	10
483	陶器・向付/志野向付	瀬戸美濃	D区2層、私5 1堀No.61	-	-	-	大4末	17c初	他54	内外長石釉（厚い）/鉄で文様/騎調5集　15図-55で報告	10
484	陶器・筒形容器	瀬戸美濃	D区2層	-	-	-	古後		袋16	外面灰釉	<10
485	陶器・壺/四耳壺ヵ	瀬戸美濃	D区2層	-	-	-	古前ヵ		袋14	外面灰釉/無文	<10
486	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	D区2層、D区3層、KB15	-	-	-		16c末～17c前	町Ⅲ112	内外灰釉/鉄で文様/市教委15集土229で報告の遺物を分割	10
487	陶器・皿	肥前ヵ（唐津）	D区2層	＊11.0	-	-			Ⅲ19	内外灰釉	15
488	陶器・皿	肥前ヵ（唐津）	D区2層	＊11.0	-	-			Ⅲ20	内外長石釉	10
489	陶器・皿	肥前ヵ（唐津）	D区2層	＊12.0	-	-			Ⅲ21	内外透明釉	10

第13表　土器類一覧表12

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
490	陶器・鉢/小鉢	肥前（唐津）	D区2層、D区3層	＊10.2	-	-		16c末～17c前	町鉢028	内外長石釉	20
491	陶器・向付	肥前（唐津）	D区2層、D区3層、15T	-	-	-			他34	内外透明釉・外面藁灰釉掛流/鉄で植物文	10
492	陶器・向付	肥前（唐津）	D区2層	-	-	-			他35	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄で弧線文＋垂下文	<10
493	陶器・向付	肥前（唐津）	D区2層	-	-	-			他37	内外透明釉・外面藁灰釉掛流/鉄で植物文	<10
494	陶器・向付	肥前（唐津）	D区2層、D区3層	-	-	-			他41	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄で垂下文	<10
495	陶器・碗/天目茶碗	初山	D区2層	-	-	-	大3	16c後	町天065	内外鉄釉・腰部錆釉ヵ	<10
496	陶器・碗	不明	D区2層	＊10.0	-	-			碗14	内外透明釉/呉須で文様	10
497	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	D区3層	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青21	内外青緑色	<10
498	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	D区3層	＊12.0	-	-	登		Ⅲ55	内外透明釉（長石ヵ）	25
499	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	D区3層	-	-	-	Ⅱ類、登1	17c初	町鉢169	内外鉄釉	10
500	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	D区3層	-	＊5.6	-		16c末～17c前	町皿110	底部内面藁灰釉/鉄で文様/高台内兜巾	40
501	陶器・向付	肥前（唐津）	D区3層	-	-	-			他42	内外長石釉/鉄で文様	<10
502	陶器・向付	肥前（唐津）	D区3層	-	-	-			他36	内外透明釉/鉄で垂下文	<10
503	陶器・向付	肥前（唐津）	D区3層	-	-	-			他39	内外透明釉/鉄で文様	<10
504	土器・かわらけ	在地	D区3層	＊12.0	＊7.0	2.3			K139	外面ロクロナデ条線	30
505	磁器・皿/染付皿	中国	D区4層№129	＊14.0	-	-	ⅢB1群	15c後～16c後	染38	菊文ヵ・唐草文	<10
506	焼締陶器・甕	常滑	D区4層№40	-	-	-			袋21	外面磨痕	<10
507	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	D区4層№100	＊11.0	-	-	大4ヵ		天09	内外鉄釉・腰部露胎	20
508	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	D区4層№30	＊11.0	-	-		17c初ヵ	Ⅲ54	内外長石釉・内面緑釉流し掛け	10
509	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	D区4層№48	-	＊6.0	-	登2～4	17c前～後	Ⅲ65	内外長石釉/円錐ピン痕/削込高台	25
510	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃ヵ	D区4層№57	＊10.6	＊5.6	1.9			Ⅲ66	内面・口縁外面灰釉/口縁内面に鉄流し掛け/気泡多し/削出高台	25
511	陶器・皿/鉄絵皿	瀬戸美濃	D区4層№45ヵ（台帳では№45かわらけ）	-	＊7.4	-	登1～4	17c初～後	Ⅲ45	内外透明釉/内面円錐ピン痕	30
512	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	D区4層№43	＊28.4	-	-	Ⅰ類、大2	16c中	町鉢115	内外鉄釉	<10
513	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	D区4層№88	-	-	-	Ⅰ類A、大2	16c中	鉢39	内外錆釉	<10
514	陶器・鉢/大鉢	瀬戸美濃	D区4層№86、D区2層、C区№223、KB15（6堀 ・Ⅲ層・Ⅱ層）	＊33.2	＊19.5	7.3	登1	17c初	町皿164	内外長石釉/鉄で草花文/内外目痕/市教委15集土24で報告	25
515	陶器・鉢/大皿	瀬戸美濃	D区 4層№124、D区3層	＊28.0	-	-			鉢34	内外灰釉/黄瀬戸ヵ/被熱荒れ	10
516	陶器・碗/陶器碗	肥前（唐津）	D区4層№121	-	＊4.4	-			碗13	内外透明釉・高台端部露胎	25
517	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	D区4層№110、15T、D区2層	＊16.6	-	-			町皿065	内外透明釉/鉄で草花文/鉄の吹出し	20
518	陶器・鉢	肥前（唐津）	D区 4層№58	-	-	-			鉢37	内外長石釉/土490と同一個体ヵ	<10
519	陶器・向付	肥前（唐津）	D区4層	-	-	-			他38	内外長石釉/鉄で文様	<10
520	陶器・向付	肥前（唐津）	D区4層№47	-	-	-			他40	内外長石釉/鉄で弧線文	<10
521	陶器・向付	肥前（唐津）	D区4層	-	-	-			他44	内外長石釉/鉄で弧線文	<10
522	土器・かわらけ	在地	D区4層№38・39	＊12.0	4.8	3.8			K110	底部内面指頭ナデ/内面体底部境弱いナデ/底部外面板ナデ/口唇に灯芯油痕	50
523	土器・かわらけ	在地	D区4層№45	＊7.8	＊4.0	2.4			K138	内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ	25
524	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	A区西	-	＊5.0	-	Ⅰ-5		町青048	蓮弁文/花文ヵ/内外青緑色	20
525	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	A区西	-	-	-	A群		青23	内外暗緑色	<10
526	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	A区西	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青11	蓮弁文/内外暗緑色	<10

第14表　土器類一覧表13

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
527	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	A区東	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青13	蓮弁文/内外青緑色	<10
528	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	A区P	-	-	-	A-4・I-4		青30	蓮華文ヵ・片彫/内外黄緑色	<10
529	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	A区	-	＊5.0	-	B-1群	13c末～14c初	青07	蓮弁文/内外青緑色	<10
530	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	A区	＊14.0	-	-	B-1群	13c末～14c初	青08	蓮弁文/内外黄緑色	<10
531	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	A区	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青14	蓮弁文/内外青緑色	<10
532	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	A区	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青16	蓮弁文/内外青緑色	<10
533	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	C区No.261	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青19	蓮弁文/内外緑色	<10
534	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	C区	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青18	蓮弁文/内外黄緑色	<10
535	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	C区	-	-	-			青26	内外青緑色	<10
536	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	一括	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青12	蓮弁文/内外暗緑色	10
537	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	一括	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青17	蓮弁文/内外青緑色	<10
538	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	一括	-	-	-	B-1群	13c末～14c初	青22	内外黄緑色	<10
539	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	3T	-	-	-			青25	内外黄緑色	<10
540	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	用水	-	-	-	A-4群		青24	内外緑色	<10
541	磁器・碗/青磁碗	同安窯系中国	A区	-	-	-	I-1-b		青27	内外黄緑色/外面櫛目	<10
542	磁器・Ⅲ/青磁稜花Ⅲ	龍泉窯系中国	一括	-	-	-			青28	内外黄緑色/口縁輪花/内面線刻	<10
543	磁器・Ⅲ/青磁稜花Ⅲ	龍泉窯系中国	一括	-	-	-			青29	内外黄緑色/口縁輪花/内面線刻	<10
544	磁器・盤/青磁盤	龍泉窯系中国	一括	-	-	-	青盤Ⅲ		青09	内外青緑色	<10
545	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	A区	＊12.0	-	-	C-1群		白10	内外乳白色の釉	10
546	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	A区カクラン	＊12.0	-	-	C-1群		白20	内外白色の釉	<10
547	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	B区	＊12.0	-	-	C-1群		白11	内外乳白色の釉	<10
548	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	C区堀埋土	＊12.0	-	-	C-1群		白12	内外灰白色の釉（灰色斑）	10
549	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	C区堀埋土	-	＊6.0	-	C-1群		白13	内外灰白色の釉（灰色斑）・高台端部無釉	10
550	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	C区堀埋土	-	＊8.0	-	C-1群		白14	内外白色の釉・高台端部露胎	<10
551	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	C区南堀上	-	-	-	C-1群		白17	内外乳白色の釉	<10
552	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	C区	-	-	-	C-1群		白15	内外乳白色の釉	<10
553	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	C区	-	-	-	C-1群		白16	内外白色の釉・高台端部露胎	<10
554	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	C区	-	-	-	C-1群		白18	内外白色の釉	<10
555	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	一括	＊13.0	-	-	C-1群		白24	内外白色の釉（灰色斑）	<10
556	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	一括	-	-	-	C-1群		白25	内外白色の釉	<10
557	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	一括	-	-	-	C-1群		白26	内外白色の釉	<10
558	磁器・Ⅲ/白磁Ⅲ	中国	一括	-	＊7.0	-	C-1群		白27	内外白色の釉・高台端部露胎	<10
559	磁器・Ⅲ/白磁菊Ⅲ	中国	C区	-	-	-	D群・Ⅲ期	16c後	白22	内外乳白色の釉	<10
560	磁器・Ⅲ/白磁菊Ⅲ	中国	一括	-	-	-	D群	15c	白23	内外乳白色の釉	<10
561	磁器・香炉	中国	一括、KB15 5溝	＊11.4	-	-			町白41・元青83	市教委15集土209で報告時から遺物なし	遺物無
562	磁器・碗/染付碗	中国	A区	-	-	-	E群	16c中	染17	山水文ヵ	<10
563	磁器・碗/染付碗	中国	B区	-	-	-	C群Ⅲ	15c後～16c後	染21	くの字状文	<10
564	磁器・碗/染付碗	中国	C区	-	＊4.4	-	碗E群	16c中	町染029	饅頭心碗/花卉文・宜徳年製の文字	20
565	磁器・碗/染付碗	中国	C区南堀上	-	＊6.0	-	C群	15c後～16c後	染36	蓮子碗/花卉文ヵ・芭蕉葉文	10
566	磁器・碗/染付碗	漳州窯系中国	C区堀埋土	-	-	-			染33	胎土赤化（被熱）	10
567	磁器・碗/染付碗	漳州窯系中国ヵ	一括	＊14.0	-	-			染40	釉厚い/胎土赤化（被熱）/文様にじむ	10

第15表　土器類一覧表14

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
568	磁器・皿/染付小皿	中国	A区	-	＊2.8	-	ⅢC群	15c後～16c後	町染046	芭蕉葉文・草花文/碁笥底/被熱荒れ	25
569	磁器・皿/染付皿	中国	A区西	-	-	-	ⅢB1群	15c後～16c後	染10	唐草文ヵ	<10
570	磁器・皿/染付皿	中国	A区東、一括	-	-	-	ⅢB1群	15c後～16c後	染11	唐草文	<10
571	磁器・皿/染付皿	中国	A区㋑	-	-	-	ⅢB1群	15c後～16c後	染08	唐草文/土588と同一個体ヵ	<10
572	磁器・皿/染付皿	中国	A区	-	-	-	ⅢB1群	15c後～16c後	染09	唐草文　文様にじむ	10
573	磁器・皿/染付皿	中国	A区	＊12.8	-	-	ⅢB1群	15c後～16c後	町染034	唐草文/被熱荒れ	10
574	磁器・皿/染付皿	中国	A区西	-	-	-	B2群	16c中	染12	四方襷文	<10
575	磁器・皿/染付皿	中国	A区西	-	-	-	C群	15c後～16c後	染13	波濤文帯ヵ	<10
576	磁器・皿/染付皿	中国	A区	-	-	-	E群	16c後	染16	雷文ヵ文様かすむ	<10
577	磁器・皿/染付皿	中国	A区P	-	-	-	E群ヵ		染18	雷文ヵ	<10
578	磁器・皿/染付皿	中国	B区㋕	-	-	-	E群ヵ		染19	圏線	<10
579	磁器・皿/染付皿	中国	B区㋬	-	-	-	E群ヵ		染20	植物文ヵ	<10
580	磁器・皿/染付皿	中国	C区No.225	-	-	-	ⅢB1群	15c後～16c後	染24	高台端部露胎/玉取獅子ヵ	<10
581	磁器・皿/染付皿	中国	C区	-	-	-	ⅢB1群	15c後～16c後	染23	唐草文	<10
582	磁器・皿/染付皿	中国	C区堀埋土、一括	＊14.2	＊8.2	3.2	ⅢB1群	15c後～16c後	町染031	玉取獅子・唐草文	15
583	磁器・皿/染付皿	中国	C区	＊11.0	-	-	B群ヵ		染31	口縁に段を有す	<10
584	磁器・皿/染付皿	漳州窯系中国	C区堀埋土	-	＊5.0	-	E群	16c後	染35	内外乳濁釉/胎土赤化（被熱）/文様不明瞭	10
585	磁器・皿/染付皿	中国	C区	-	-	-	E群ヵ		染27	高台端部露胎/底部内面くぼむ/瑞果文ヵ・字款「寿ヵ」	<10
586	磁器・皿/染付皿	中国	C区	-	＊6.0	-	E群ヵ		染29	高台端部釉拭き取り/底部内面くぼむ/鳥文・字款「福」	10
587	磁器・皿/染付皿	中国	C区	-	-	-	E群ヵ		染30	花文	<10
588	磁器・皿/染付皿	中国	オチキワ	＊9.6	＊4.0	2.2	ⅢB1群	15c後～16c後	染07	外面釉厚い/十字花文・唐草文/土571と同一個体ヵ	25
589	磁器・皿/染付皿	中国	一括	＊14.0	-	-	ⅢB1群	15c後～16c後	染43	唐草文	10
590	磁器・皿/染付皿	中国	一括	＊13.5	＊8.0	3.2	ⅢB1群	15c後～16c後	町染032	玉取獅子・唐草文	15
591	磁器・皿/染付皿	中国	一括	-	＊10.0	-	B群	15c後～16c後	染39	高台端部拭き取り	10
592	磁器・皿/染付皿	中国	一括	-	-	-	B群ヵ		染44	花文ヵ	<10
593	磁器・皿/染付皿	中国	一括	＊12.0	-	-	E群	16c後	染41	非常に薄い	10
594	磁器・皿/染付皿	中国	一括	-	-	-	E群	16c後	染42	口縁に段を有す	<10
595	磁器・皿/染付皿	中国	一括	＊13.6	＊7.0	3.0	E群	16c後	染45	高台端部拭き取り/植物文・菊文/被熱荒れ・カスレ	15
596	焼締陶器・鉢/片口鉢	常滑	B区㋖	＊29.0	-	-	Ⅱ類、10形式	1450～1500	町鉢187	内面磨痕/長方形	<10
597	焼締陶器・鉢/片口鉢	常滑	C区	＊24.6	-	-	Ⅰ類、6a	1250～1275	町鉢192	長方形	<10
598	焼締陶器・甕	常滑	C区	-	-	-	6a形式	1250～1275	町袋018	三角形	<10
599	焼締陶器・甕	常滑	一括	-	-	-	12形式	1550～1600	町袋017	被熱荒れ/長方形	<10
600	焼締陶器・甕	常滑	一括	-	-	-			袋27	方形	<10
601	焼締陶器・甕	常滑	一括	-	-	-	1~2型式	12c前	袋28	胎土精良・小石なし/長方形	<10
602	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	B区㋕	＊14.6	-	-	古後Ⅲ	14c末～15c中	町平012	内外灰釉・腰部露胎/口縁釉剥落（被熱ヵ）	10
603	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	C区	＊17.0	-	-	古後Ⅰ	14c後	町平006	内外灰釉・腰部露胎	20
604	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	C区南	-	-	-	古後ヵ		碗06	内外灰釉・外面腰部露胎/腰部ヘラ削り	<10
605	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	A区	＊12.0	-	-			天07	内外鉄釉	10
606	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	C区	-	4.4	-	大4ヵ		天08	内外鉄釉/高台内反り・露胎/被熱黒化	10
607	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	D区	＊11.0	-	-	大4前ヵ		天10	内外鉄釉・腰部露胎/口唇玉縁	10

第16表　土器類一覧表15

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
608	陶器・碗/天目茶碗	瀬戸美濃	北	＊11.0	-	-	大4～登2		天11	内外鉄釉・腰部露胎/口唇玉縁・口縁直上	10
609	陶器・碗/総織部碗	瀬戸美濃	A区東	-	＊5.0	-	登1ヵ		町碗025	内外緑釉・高台周辺露胎	25
610	陶器・碗/山茶碗	瀬戸美濃	一括	-	＊6.0	-	7型式	13c中	碗11	底部内面指頭ナデ/高台端部モミガラ痕	10
611	陶器・碗/志野織部碗	瀬戸美濃	C区南堀上	＊10.0	-	-			碗08	内外透明釉/鉄で文様	10
612	陶器・碗/志野丸碗	瀬戸美濃	C区	-	-	-	大4ヵ		碗09	内外長石釉	<10
613	陶器・碗/せんじ碗	瀬戸美濃	B区㋔	＊10.0	-	-	登7・8	18c後	碗10	内外灰釉・鉄釉を落とす・高台周辺露胎	25
614	陶器・皿/卸皿	瀬戸美濃	A区西	-	-	-	古後Ⅰ～Ⅲ	14c後～15c前	Ⅲ36	口縁内外灰釉	<10
615	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	A区オチキワ	＊12.0	-	-	古後Ⅳヵ		Ⅲ29	口縁内外灰釉/口径大きいが扁平・体部に稜	10
616	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	C区	＊12.0	-	-	古後Ⅳヵ		Ⅲ32	口縁内外灰釉/内外スス付着/口径大きいが扁平	10
617	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区東	＊9.0	4.8	2.3	大1	15c末～16c前	町Ⅲ144	内外灰釉/印花かたばみ/高台内トチン痕	75
618	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区㋑、22堀㋑ A区	＊12.0	＊6.7	2.4	大1前	15c末	町Ⅲ181	内外灰釉/印花菊/内面トチン痕ヵ/スス貫入	30
619	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	A区西	＊11.0	-	-	大1前	15c末	Ⅲ24	内外灰釉	10
620	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	一括	＊11.0	-	-	大1	15c末～16c前	Ⅲ25	内外灰釉	10
621	陶器・皿	瀬戸美濃	オチキワ	-	7.0	-	大1・2	15c末～16c中	Ⅲ42	内外灰釉/高台内輪ドチ痕/印花文（カタバミ）	10
622	陶器・皿	瀬戸美濃	A区東	-	＊6.0	-	大1・2	15c末～16c中	Ⅲ43	内面一部・外面　灰釉/内面被熱ヵ/付高台/高台内輪ドチ痕/印花・菊文	20
623	陶器・皿	瀬戸美濃	C区	-	＊6.0	-	大3ヵ		Ⅲ38	内外灰釉/高台内輪ドチ痕	20
624	陶器・皿	瀬戸美濃	A区西	-	＊6.0	-	大		Ⅲ41	内外灰釉/高台内輪ドチ痕	10
625	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	A区（西・P）	＊10.8	＊6.2	2.4	大2後	16c中	町Ⅲ082	内外灰釉/荒れ（被熱ヵ）	40
626	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	B区㋕	＊10.6	5.6	2.4	大2後	16c中	町Ⅲ141	鉄釉後口縁内外灰釉、黄白色/内面トチン・高台内輪ドチ痕	75
627	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	一括	＊12.0	-	-	大1・2	15c末～16c中	Ⅲ27	内外灰釉	10
628	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	C区南堀上	＊11.0	-	-	大2・3	16c中・後	Ⅲ26	内外灰釉/器厚厚い	10
629	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	C区	＊11.8	＊6.0	2.5			Ⅲ64	内外長石釉・緑釉流し掛け/削出高台	25
630	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	C区No.217	-	-	-	大3ヵ		Ⅲ52	内外長石釉/被熱荒れ	10
631	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	20T D区	＊12.0	-	-	登1ヵ		Ⅲ57	内外長石釉/スス付着	10
632	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	15T	＊10.0	＊6.0	1.9	登3・4	17c中・後	Ⅲ56	内外透明釉（長石ヵ）/削込高台	25
633	陶器・皿/総織部皿	瀬戸美濃	C区南	＊17.0	＊8.2	2.0			Ⅲ16	内外銅緑色・高台周辺露胎/口縁部輪花/刻線：青海波文・植物文・水鳥文/内面擦れ	25
634	陶器・皿/総織部皿	瀬戸美濃	C区No.222	＊16.5	-	-			Ⅲ17	内外銅緑色・高台周辺露胎/口縁部輪花/刻線：花文・唐草文	25
635	陶器・皿/折縁皿	瀬戸美濃	A区（西、一括）	＊12.0	6.4	1.8	大4後	17c初	町Ⅲ151	鉄釉＋灰釉	60
636	陶器・皿/折縁皿	瀬戸美濃	A区（9T、一括）、用水	＊10.5	＊5.0	2.0	大4前	16c末	町Ⅲ182	内外灰釉・底部内面露胎/内外トチン痕	25
637	陶器・皿/志野菊皿	瀬戸美濃	A区（東、一括）	12.2	6.8	2.3	大4後	17c初	町Ⅲ153	内外長石釉/内面円錐ピン痕	50
638	陶器・皿/志野菊皿	瀬戸美濃	A区西	＊12.0	-	-	大4後	17c初	町Ⅲ155	内外長石釉（厚い）	20
639	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	C区	＊10.9	＊5.8	2.4	登1	17c初	町Ⅲ152	内外長石釉・高台内露胎	25
640	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	B区	＊13.0	-	-	大4後	17c初	Ⅲ50	内外長石釉（灰味）/外面被熱荒れ	20
641	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	C区	-	-	-	大4後	17c初	Ⅲ53	内外長石釉（厚い）/付高台/内面摩れ	10
642	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	一括	-	-	-	大4後	17c初	Ⅲ58	内外長石釉（厚い）/鉄で格子目文	<10
643	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	C区No.445	＊9.0	＊5.0	1.9	登3～6	17c中～18c前	Ⅲ60	内外長石釉/削込高台	25
644	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	A区西	＊12.0	-	-	登1ヵ		Ⅲ49	内外長石釉	20
645	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	C区	＊12.0	-	-	登1・2	17c初・前	Ⅲ59	内外透明釉（灰色）	10
646	陶器・皿/志野丸皿	瀬戸美濃	一括	-	＊6.0	-	登3～4ヵ		Ⅲ68	内外長石釉/円錐ピン痕/削込高台	25
647	陶器・皿/鉄絵皿	瀬戸美濃	C区、KB15 8堀 No.57上層	＊15.3	-	-	登1	17c初	町Ⅲ086	内外長石釉/海老文/市教委15集土43で報告	10

第17表　土器類一覧表16

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
648	陶器・皿/反り皿	瀬戸美濃	C区、KB15	13.1	8.2	2.8	登3・4	17ｃ中・後	町皿140	市教委15集土454で報告	50
649	陶器・鉢/鼠志野	瀬戸美濃	C区、一 括、KB14 39堀 上 層、KB15 5堀 上層№6、KB18、私5	＊34.2	＊17.0	7.4	大4後	17c初	町鉢49	錆化粧後、文様掻き取り長石釉/芦と斜格子文/団子トチ痕2ヶ所、高台にヨリ土痕/市教委14集土6・15集土19で報告	40
650	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	一括	-	-	-	Ⅰ類、大2	16c中	町鉢180	内外錆釉・ちぢれ	<10
651	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	一括	-	-	-	Ⅰ類、大2	16c中	町鉢181	内外錆釉/口唇磨れ	<10
652	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	一括	-	-	-	Ⅰ類、大3前	16c後	町鉢172	内外錆釉	<10
653	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	C区堀埋土	-	-	-	Ⅰ類C、大2	16c中	鉢40	内外錆釉	<10
654	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	C区	-	-	-	Ⅰ類D、大3	16c後	鉢41	内外錆釉	<10
655	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	C区	-	-	-	Ⅱ類B、大4	16c末～17c初	鉢43	内外錆釉	<10
656	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	北	-	-	-	Ⅱ類A、登1	17c初	鉢44	内外鉄釉	<10
657	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	一括	-	-	-	Ⅱ類A、大4	16c末～17c初	鉢45	内外錆釉	<10
658	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	B区	-	＊10.0	-	大ヵ		鉢46	内外錆釉	10
659	陶器・鉢/擂鉢	瀬戸美濃	C区	-	-	-	登8	18c末	鉢49	内外鉄釉	<10
660	陶器・鉢/煙硝擂	瀬戸美濃	D区	＊16.0	-	-	登4・5	17c末～18c初	鉢52	内外口縁～体部　柿釉	<10
661	陶器・鉢/黄瀬戸鉢	瀬戸美濃	C区	-	-	-	登	17cヵ	鉢47	内外灰釉・緑釉流し掛け/折縁鉢/櫛目無し	10
662	陶器・鉢	瀬戸美濃	C区	-	-	-	登	17cヵ	鉢48	内外灰釉・緑釉流し掛け	<10
663	陶器・鉢	瀬戸美濃	B区㋑	-	-	-	古後		鉢57	内外灰釉	<10
664	陶器・鉢	瀬戸美濃ヵ	C区№210	-	-	-			鉢38	内外透明釉/鉄で文様/口縁外面がくぼむ	<10
665	陶器・向付/織部向付	瀬戸美濃	C区№218	-	-	-			町他02	内外長石釉・銅緑釉・底部外面露胎/鉄で横線・半円・植物文・トクサ文・幾何学文/足貼付/町史では土404と合図	40
666	陶器・向付/織部向付	瀬戸美濃	C区堀埋土	-	-	-			町他07	内外長石釉・銅緑釉・底部外面露胎/鉄で渦巻・横線・半円・植物文・トクサ文・幾何学文/足貼付/町史では土365と合図	10
667	陶器・向付/織部向付	瀬戸美濃	C区	-	-	-			他05	内外長石釉・底部外面露胎/鉄で幾何学文	10
668	陶器・向付/織部向付	瀬戸美濃	C区	-	-	-			他07	内外長石釉・底部外面露胎/鉄で半円	<10
669	陶器・向付/黄瀬戸向付	瀬戸美濃	C区堀埋土	-	-	-			他04	内外・高台内灰釉/六角形ヵ/被熱荒れ	10
670	陶器・茶入	瀬戸美濃	A区P	＊3.6	＊3.2	3.1	大1	15c末～16c前	町他035	内外鉄釉・外面底部露胎	10
671	陶器・蓋	瀬戸美濃	1T	＊5.9	-	-	登1	17c初	町他033	上面長石釉/鉄で文様	50
672	陶器・水滴	瀬戸美濃	A区西	-	-	-	古前Ⅳ	13c後	町他039	外面灰釉/内面～断面スス付着(厚い)	<10
673	陶器・水注/織部水注ヵ	瀬戸美濃	C区	-	-	-	登	17c初ヵ	他47	内外透明釉/鉄で梅鉢文	10
674	陶器・ひょうそく	瀬戸美濃	B区㋕	最大径＊7.0	4.0	4.3	登11	19c後	他50	内外鉄釉・底部露胎/底部糸切/底部刺突痕	60
675	陶器・ひょうそく	瀬戸美濃	B区㋖	-	5.5	-	登7～10	18c後～19c前	他51	内外鉄釉・底部露胎/底部糸切/底部刺突痕	50
676	陶器・小坏ヵ	瀬戸美濃	A区㋑	＊6.0	＊2.6	2.5			他49	内外灰釉/底部削込	30
677	陶器・徳利	瀬戸美濃	B区㋕	-	＊6.5	-	(東)Ⅷa～c、登	19c前	袋17	内外灰釉・胴下端釉拭き取り?/2合半徳利	20
678	陶器・半胴	瀬戸美濃ヵ	B区㋕	＊19.0	-	-	登8	18c末	袋19	内外柿釉・長石の吹き出し/体部上方に二条の沈線/口唇に重焼きの砂付着	10
679	陶器・四耳壺	瀬戸美濃	オチキワ	-	-	-	古前Ⅰ・Ⅱ		町袋049	外面薄い灰釉/内面横ナデ後縦ナデ	<10
680	陶器・袋物ヵ	瀬戸美濃	9T丸部	-	＊6.0	-			他53	内外露胎・外面一部灰釉/内外炭化物付着/底部外面回転糸切痕	<10
681	陶器・不明	瀬戸美濃	A区西	-	＊4.5	-			Ⅲ33	内外灰釉・外面底部周辺露胎/底部外面回転糸切痕	<10

第18表　土器類一覧表17

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
682	陶器・不明	瀬戸美濃	C区南堀上	-	3.8	-			他48	内面灰釉/中央に刺突/底部外面回転糸切痕/炭化物付着	10
683	陶器・碗/沓型碗	肥前（唐津）	C区、私6 3溝	-	-	-		16c末～17c前	町碗013	内外長石釉・口縁.体部に鉄釉	<10
684	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	A区西、KB15外掘	＊20.0	-	-		16c末～17c前	町皿118	内外長石釉/鉄で文様/市教委15集土345で報告	10
685	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	C区、KB15（2堀 、10堀 上 層、22堀上層、土橋下、外堀、3T、Ⅱ層、Ⅲ層、一括）、私5次1堀 No.119・151	＊41.4	＊11.5	-		16ｃ末～17c前	町皿117	内外長石釉/鉄で文様/市教委15集土12で報告	25
686	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	C区No.228	-	＊4.2	-		16c末～17c前	町皿114	内面透明釉/鉄で草花文	<10
687	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	C区	＊13.5	-	-		16c末～17c前	町皿100	内外透明釉・口唇に鉄釉/鉄でトクサ文	10
688	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	C区	＊15.6	-	-		16c末～17c前	町皿104	内外長石釉/鉄で文様	10
689	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	C区	-	3.6	-		16c末～17c初	町皿111	内面灰釉/高台内兜巾	30
690	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	C区	-	＊3.8	-		16c末～17c前	町皿113	内外透明釉/鉄で草花文	10
691	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	C区	-	＊4.0	-		16c末～17c前	町皿116	内外透明釉/鉄で文様	10
692	陶器・皿/鉄絵皿	肥前（唐津）	D区	-	5.2	-		16c末～17c前	町皿088	内外透明釉/鉄で文様	30
693	陶器・皿	肥前（唐津）	C区	-	-	-			皿18	内外灰釉	<10
694	陶器・鉢/大皿	肥前（唐津）	A区 オチキワ	-	-	-	Ⅱ期	17c初～前	鉢36	内外透明釉/胴部屈曲	<10
695	陶器・鉢	肥前（唐津）	B区㋑	＊29.2	-	-		16c末～17c前	町鉢027	内外灰釉	10
696	陶器・香炉	肥前（唐津）	C区堀埋土	＊11.8	＊6.3	7.5		17c	町香005	長石釉/口唇部欠損連続・灰落しヵ	30
697	陶器・火入れヵ	肥前（唐津）	一括	＊20.0	-	-			袋10	内外灰釉/口縁上端～外面釉剥落	<10
698	陶器・壺/耳付壺ヵ	肥前（唐津）	D区	-	-	-		16c末～17c初	袋12	外面鉄釉・内面灰釉/内面同心円の叩き目	<10
699	陶器・向付又は皿ヵ	肥前（唐津）	A区	-	-	-			他46	内外長石釉/鉄で文様	<10
700	陶器・向付	肥前（唐津）	C区No.447	-	-	-			他25	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄で弧線文	<10
701	陶器・向付	肥前（唐津）	C区	-	-	-			他17	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄で垂下文	<10
702	陶器・向付	肥前（唐津）	C区	-	-	-			他23	内外透明釉/鉄で弧線文	<10
703	陶器・向付	肥前（唐津）	C区	-	-	-			他29	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄で垂下文	<10
704	陶器・向付	肥前（唐津）	C区	-	-	-			他31	内外透明釉/鉄で文様	<10
705	陶器・向付	肥前（唐津）	D区	-	-	-			他43	内外透明釉・外面藁灰釉掛流/鉄で植物文	<10
706	陶器・向付	肥前（唐津）	D区	-	-	-			他45	内外透明釉/鉄でトクサ文	<10
707	陶器・向付	肥前（唐津）	一括	-	-	-			他33	内外透明釉・口唇鉄釉/鉄で弧線文	<10
708	陶器・鉢/擂鉢	志戸呂	A区オチキワ	-	-	-	大4	16c末～17c初	町鉢171	内外錆釉	<10
709	陶器・鉢/擂鉢	志戸呂	B区㋕	-	-	-			町鉢186	内外錆釉	<10
710	陶器・鉢/擂鉢	志戸呂	C区	＊34.0	-	-	大4ヵ		町鉢104	内外錆釉	10
711	陶器・鉢/擂鉢	志戸呂	C区	-	-	-			町鉢184	内外錆釉	<10
712	陶器・向付	志戸呂	C区	-	＊6.0	-			他11	内外錆釉	10
713	陶器・壺	備前丹波	B区㋒、オチキワ、私5（1堀No.87・95、1堀 下 層、1堀、1壙No.29、一 括）、私6（3溝、3T、一 括）、KB15（1T4堀、7堀下No.5、3T8堀、33堀　下、5溝、1・5・6溝、土橋下No.105・162、外堀、1T、3T、3T 上 層、8T、2層、3層、一 括）、KB18（西堀2層No.33、西堀、一括）	＊11.0	＊20.0	＊41.5		15c	町袋041	肩に自然釉/小石含む/市教委15集土31で報告	25
714	焼締陶器・鉢/擂鉢	備前系	一括	-	-	-			鉢56	—	<10
715	陶器・鉢/擂鉢	信楽	C区	-	-	-		17cヵ	鉢50	内外自然釉・長石粒含む	<10
716	陶器・鉢/擂鉢	信楽	C区	-	-	-			鉢53	内外自然釉・長石粒含む	<10

第19表　土器類一覧表18

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
717	陶器・鉢/擂鉢	信楽	一括	-	-	-		17c	鉢54	内外自然釉・長石粒含む	<10
718	陶器・壺	信楽ヵ	B区㋑	-	-	-	中世		袋18	灰釉（自然釉）・長石粒含む・緻密	<10
719	陶器・皿/灯明皿（受皿）	不明	C区	9.0	4.4	2.1			皿61	内面・外面一部錆釉/体部外面重ね焼き痕	50
720	陶器・皿/灯明皿（油皿）	不明	C区	＊10.0	＊4.2	1.1			皿63	内面・外面口縁錆釉	25
721	陶器・煙硝擂ヵ	不明	C区	-	＊2.8	-			他52	外面鉄釉ヵ/細かいロクロ目/内面櫛目	20
722	焼締陶器・甕	不明	C区	-	-	-			袋22	—	<10
723	磁器・碗	肥前	B区㋑・㋒	＊10.0	-	-		17c末～18c	伊02	コンニャク印判・菊文	20
724	磁器・碗	肥前	B区㋓	-	＊4.0	-		17c末～18c初	伊05	二重網目	25
725	磁器・碗/筒形碗	肥前	B区㋓	＊7.0	-	-			伊06	格子目・菊文	20
726	磁器・碗	肥前	C区	＊10.6	-	-	（東）Va期・JB-1-V	18c	伊03	梅樹文	10
727	磁器・碗	肥前	C区	＊8.0	＊3.0	4.7	（東）Ⅳb期ヵ・JB-1-uヵ	17c末ヵ	伊04	コンニャク印判ヵ・雨降り文	25
728	磁器・皿/染付皿	肥前	C区	-	＊8.0	-		18c	伊09	唐草文	10
729	土器・かわらけ	在地	北壙	7.8	4.8	2.0			K067	内面体底部境凹	75
730	土器・かわらけ	在地	P	11.2	5.2	3.0			K068	底部内面弱い指頭ナデ/底部外面弱い板ナデ/口縁部ス付着内面多/口縁部1ヶ所ゆがむ	100
731	土器・かわらけ	在地	P	＊12.6	5.2	3.6			K069	底部内面指頭ナデ/内面ロクロ痕/底部外面板ナデ	50
732	土器・かわらけ	在地	A区№13	＊11.5	7.0	2.8			K080	底部内面浅いロクロ渦巻	60
733	土器・かわらけ	在地	A区西	11.0	7.5	2.3			K081	内面体底部境ナデ/体部外面段/底部内面浅いロクロ渦巻	90
734	土器・かわらけ	在地	A区西	11.2	7.0	2.2			K082	体部外面段/口縁内外灯芯油痕/金雲母微量	95
735	土器・かわらけ	在地	A区西	11.2	5.4	3.2			K083	底部内面指頭ナデ/口縁部灯芯油痕/内面ス付着	90
736	土器・かわらけ	在地	A区西	11.4	5.0	2.9			K084	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	75
737	土器・かわらけ	在地	A区西	12.0	5.0	3.5			K085	底部内面指頭ナデ/内外ロクロ痕明瞭/底部外面板ナデ/内面光沢黒色物付着	60
738	土器・かわらけ	在地	A区西	＊11.0	＊4.5	3.9			K086	内面ロクロ痕明瞭	25
739	土器・かわらけ	在地	A区西	＊11.4	＊6.0	3.0			K093	内面ロクロ痕	50
740	土器・かわらけ	在地	A区東	＊11.0	＊5.0	3.3			K087	底部内面指頭ナデ/内面ロクロ痕明瞭/内面ス付着	50
741	土器・かわらけ	在地	A区東	-	5.5	-			K134	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/内面ス付着	75
742	土器・かわらけ	在地	A区	＊10.4	-	-			K135	内面ス付着	25
743	土器・かわらけ	在地	A区	＊10.6	7.2	2.4			K088	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデヵ	75
744	土器・かわらけ	在地	A区	＊11.0	8.0	2.8			K089	底部内面指頭ナデ	50
745	土器・かわらけ	在地	A区	＊11.6	5.0	3.6			K090	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/灯芯油痕	60
746	土器・かわらけ	在地	A区	＊11.0	＊6.8	2.6			K091	口縁下強いナデ	30
747	土器・かわらけ	在地	A区	＊12.0	＊8.6	2.5			K092	口縁下強いナデ	30
748	土器・かわらけ	在地	A区㋑	-	-	-			K145	被熱断面発泡	10
749	土器・かわらけ	在地	B区㋕	＊9.0	＊6.0	2.2		17cヵ	K140	底部内面凹む	20
750	土器・かわらけ	在地	B区㋑	＊8.0	＊4.6	2.2			K141	口唇部内外灯芯油痕/体部外面稜あり	20
751	土器・かわらけ	在地	C区№294	-	5.2	-			K132	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	70
752	土器・かわらけ	在地	C区堀埋土	12.0	7.4	2.8			K102	底部内面指頭ナデ/内面体底部境ナデ/外面ナデによる段	75
753	土器・かわらけ	在地	C区堀埋土	8.6	5.5	2.3			K103	内面体下部ナデ/灯芯油痕/内面黒化	75
754	土器・かわらけ	在地	C区	＊11.6	6.6	3.1			K105	底部内面ロクロ渦巻→ナデ/底部外面板ナデ	50
755	土器・かわらけ	在地	C区	＊11.4	7.0	2.3			K106	内面体底部境ナデ/体部外面段	40
756	土器・かわらけ	在地	C区	＊12.0	＊7.0	2.3			K107	内面体底部境ナデ/体部外面段	25

第20表　土器類一覧表19

＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位は㎝　（東）はP86参照、<10は10％以下

図No.	器　種	産　地	出　土　地　点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	時期・形式	年代	遺物ID	備考	残存率（％）
757	土器・かわらけ	在地	C区	＊8.0	＊3.5	2.5			K108	灯芯油痕	50
758	土器・かわらけ	在地	C区	＊11.0	＊7.0	2.6			K109	底部内面指頭ナデ	25
759	土器・かわらけ	在地	西	＊11.4	＊8.4	2.4			K072	底部中央穿孔/体部外面段	30
760	土器・かわらけ	在地	一括	＊12.0	＊5.4	3.9			K070	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/器厚均一薄い	30
761	土器・かわらけ	在地	一括	＊12.0	＊5.0	3.9			K071	底部内面指頭ナデ/内面ロクロ痕/底部外面板ナデ	50
762	土器・かわらけ	在地	一括	-	5.2	-			K133	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	60
763	土器・ほうろく	在地	C区	＊37.0	＊32.0	5.8			H21	内耳２ヶ所外側磨痕/外面スス付着	25
764	土器・鉢	在地	A区	＊12.0	-	-			鉢01	新しいヵ	10
765	土器・片口鉢	在地	A区オチキワ	-	-	-			鉢58	軟質灰色	<10
766	土器・片口鉢	在地	A区	-	-	-			鉢59	軟質灰色	<10
767	土器・火鉢	在地	B区㋬	-	-	-			火鉢５	灰落としによる､口唇部上端一部剥離/下部文様は原体押圧ヵ/瓦質/角閃石含む	<10
768	土器・火鉢	在地	10T	-	-	-			火鉢６	灰落としによるヵ､口唇部上端内外剥離･つぶれ/櫛歯状工具による､４条１単位の文様/内面黒化	<10
769	土器・火鉢ヵ	在地	一括	-	-	-			火鉢８	瓦質/右側面に穿孔径５mm弱/底部内面横ナデ	<10
770	土器・香炉	在地	B区㋑	＊12.4	＊10.0	-			香02	足１ヶ所貼付痕	20
771	土器・香炉	在地	B区	＊12.0	＊8.0	5.0			香03	足１ヶ所貼付	20
772	土器・香炉	在地	一括	＊14.0	-	-			香６	印花　花弁17枚/三足ありヵ/砂粒含む	20
773	土器・壺/焼塩壺ヵ	在地	A区西	-	7.0	(8.5)			素他38	外面剥離	30
774	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	A区西	幅4.4	-	厚1.2			他55	天目	
775	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	B区㋓	幅4.2	-	厚1.0			町つぶて石16	天目	
776	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	５CⅡ層ヵ C区No.361	幅4.6	-	厚0.6			他58	志野皿	
777	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	C区	幅5.6	-	厚1.2			他56	擂鉢	
778	陶器・土製円盤	瀬戸美濃	C区堀埋土	幅6.6	-	厚1.2			他57	擂鉢	
779	土器・土製円盤	在地	１堀５層 D区No.214	幅5.0	-	厚1.0			素他36	擂鉢	
780	土器・土製円盤	在地	B区㋑	幅4.0	-	厚0.4			他59	かわらけ	
781	土器・土製円盤	在地	D区 20T	幅3.1	-	厚0.7			他60	かわらけ	
782	土器・人形の足ヵ	在地	３溝 C区	-	-	-			素他１	中空	
783	土器・不明	在地	D区 No.414層	-	-	-			素他２		
784	土器・有穴球状土製品	在地	９堀上層 C区	径4.7	-	3.9			素他37	白色粒子（石英ヵ）多量	100

第21表　土器類一覧表20

（東）：東京大学埋蔵文化財調査室　1999『東京大学構内遺跡研究年報』２　別冊

第2節　土壁片

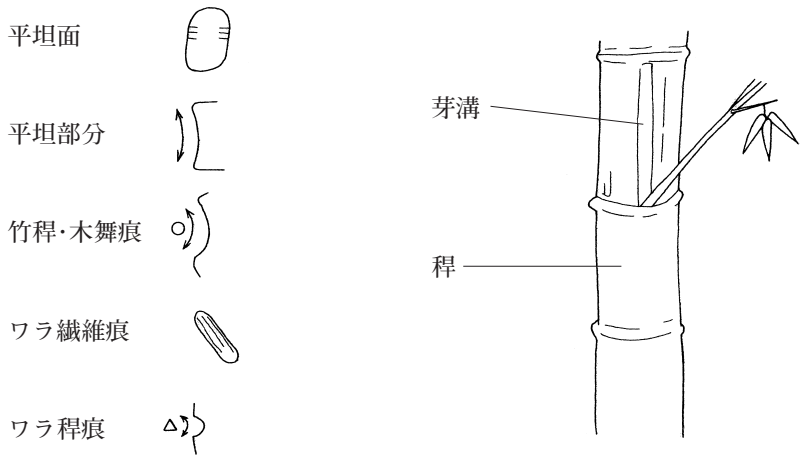
土壁としたものは、素焼の土塊で、竹や木舞の痕跡が認められるもので、平坦部分を有するものがある。胎土中には藁などの繊維の痕跡も認められる。KB15区でも僅かに見られたが、19区では大量に出土したので項を設けて報告する。なお、計測値はサンプリングされた重量で、全て採取したものではない。（27ﾘｯﾄﾙ入収納箱3箱）

堀　1堀168g　7堀5g　10堀75g　19堀55g
　　22堀10g
井戸　2井5g　25井50g
1建164g
5C層14.8kg
A区3.1kg　B区45g　C区1.3kg　D区165g

以上のように5C層で大量に出土している。図化したものは平坦面を有するもので土壁とする。堅緻に焼き締まったものや焼成の甘いものがある。

1は1堀7層出土で焼成堅緻。2～6・8～32は5C層出土。7は1建出土。

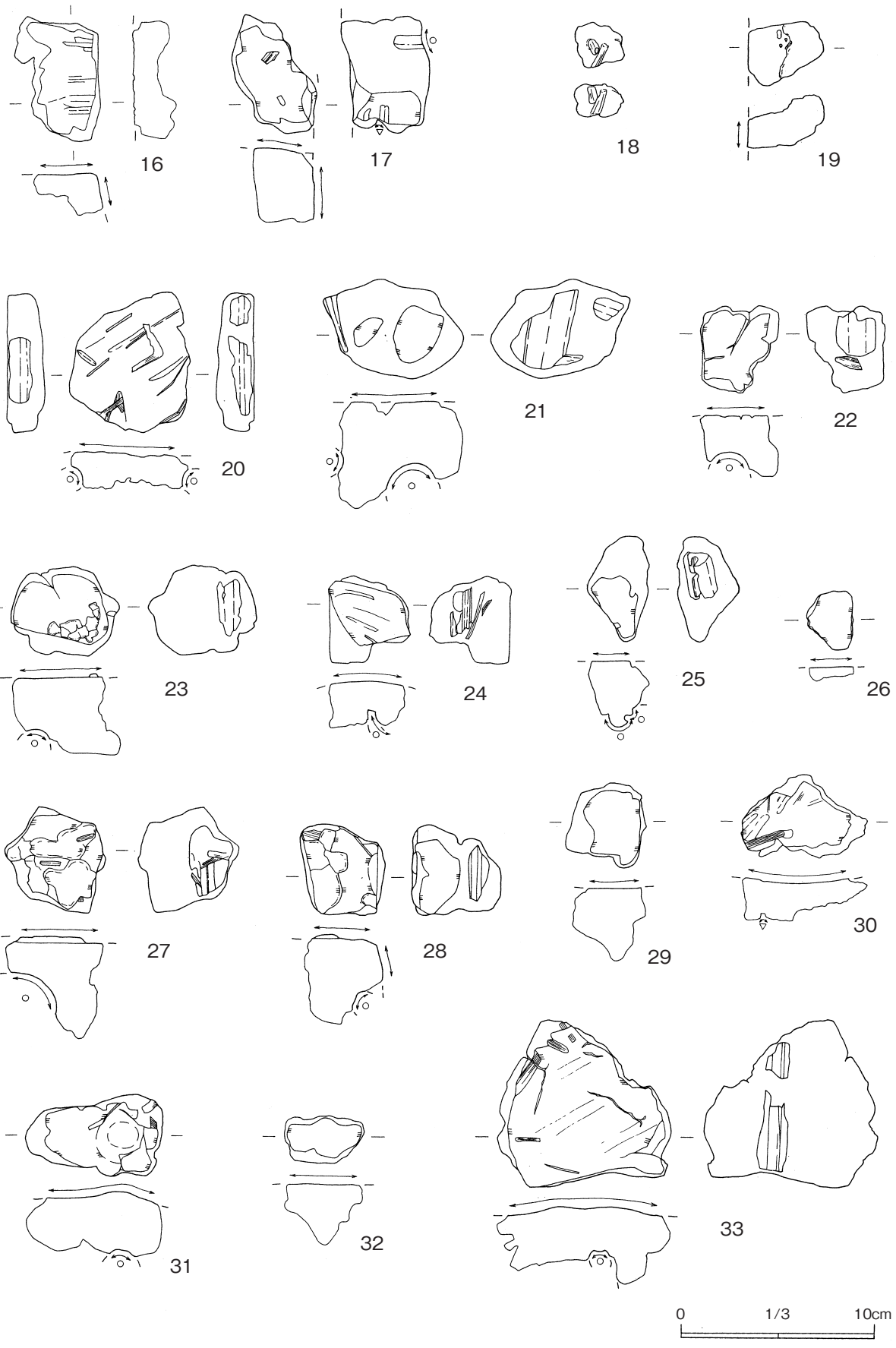
隣接して2面平坦面があるもの（2・3・14・15・16・17・28）、表裏に平坦面があるもの（5・13）がある。壁厚は表裏平坦のものから5cm前後と思われ、最大6cmを超える（9）。なお、18には炭化した藁が、19には植物繊維が遺存していた。



土壁片　凡例

C区　調査

第56図　土壁片１



第57図　土壁片 2

（ ）は残存値、法量の単位はcm

図No.	器種	産地	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID	備考
1	土器・土壁片	在地	1堀7層 D区No.380	(4.9)	(5.8)	(3.8)	素他35	平坦+ワラ/正面やや凸凹・ナデ痕・ワラ繊維痕/裏面ワラ繊維痕/全面赤化、堅緻に焼ける
2	土器・土壁片	在地	16T 5C層 C区	(6.2)	(5.9)	6.6	素他12	隣接2面平坦/正面平担屈曲あり/右側面平滑段あり/割面にワラ痕（穴）/全面やや良く焼ける、ほぼ赤褐色/壁厚5.7cm
3	土器・土壁片	在地	16T 5C層 C区	(5.5)	(4.8)	(4.2)	素他13	隣接2面平坦/正面平滑段あり/右側面平担屈曲あり/割面にワラ痕（穴）/正面赤化、全面やや良く焼ける/壁厚4.6cm
4	土器・土壁片	在地	16T 5C層 C区	(8.9)	(5.5)	4.8	素他19	平坦+竹/正面ナデ痕両端高い/左側面平滑、右端屈曲し左端土塊高い/右側面大きい弧で凹む、竹稈痕ヵ/全面赤化、良く焼ける/壁厚4.8cm
5	土器・土壁片	在地	16T 5C層 C区	(4.7)	(4.2)	4.8	素他14	隣接2面平坦/正面・裏面平担/全面にワラ痕（穴）繊維痕/全面赤化（橙色）やや良く焼ける/壁厚4.8cm
6	土器・土壁片	在地	16T 5C層 C区	(4.0)	(5.8)	2.3	素他28	平坦+ワラ/正面平担/全面ワラ稈痕・繊維痕/赤化、良く焼ける/壁厚2.3cm
7	土器・土壁片	在地	1建	(4.1)	(7.3)	3.4	素他34	平坦+ワラ/正面平担、ワラ繊維痕/裏面ワラ繊維痕/正面赤化良く焼ける、裏面灰色やや良く焼ける/壁厚3.4cm
8	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(7.9)	(5.8)	5.3	素他3	厚手+竹/正面平坦に土塊貼付/上部・右割面に竹稈痕/割面にワラ痕（穴）/正面右断面赤化良く焼ける/壁厚5.3cm
9	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(7.3)	(7.6)	6.0	素他4	厚手+竹/正面平坦にやや凹む/右割面に竹稈痕/割面にワラ痕（穴）、炭化繊維遺存/全面やや良く焼ける、裏面赤化/壁厚6.0cm
10	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(7.7)	(5.2)	5.5	素他5	厚手+ワラ/正面平坦下部立ち上がる/割面ワラ痕（穴）繊維痕/正面良く・他やや良く焼ける、全面赤化/壁厚5.2cm
11	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(6.9)	(6.0)	5.3	素他6	厚手+ワラ/正面平坦、ワラ繊維痕/右割口に竹稈痕/割面ワラ痕（穴）/左割面を除き赤化、良く焼ける/壁厚5.3cm
12	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(8.1)	(7.0)	3.7	素他7	厚手+ワラ/正面平坦、土粒貼付/全面ワラ繊維痕/正面下部・下割面赤化、正面良く焼けひび割れる/壁厚3.6cm
13	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(5.4)	(5.3)	5.3	素他8	厚手+刃ヵ/正面平坦、やや上部に刃による切込痕ヵ/裏面平坦ヵ/正面割面にワラ繊維痕/裏面以外赤化、正面やや良く焼ける/壁厚5.3cm
14	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(4.8)	(6.9)	6.0	素他9	2面平坦+竹/正面・下面平坦/右割面に竹稈痕/正面下部・下面右割口赤化、良く焼ける/壁厚5.8cm
15	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(4.2)	(4.3)	(3.3)	素他10	2面平坦+竹/正面平滑・右側面平坦ナデ痕/裏割面に竹稈痕/全面赤化、良く焼ける
16	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(6.6)	(4.5)	(2.2)	素他11	2面平坦+条痕/正面平坦ワラ束状ナデ/右側面平坦ケズリ痕/右側面以外赤化、全面良く焼ける
17	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(6.2)	(4.5)	(4.6)	素他15	隣接2面/正面やや凸凹/右側面ナデ痕/右割面竹稈痕/全面にワラ痕（穴）繊維痕
18	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(2.5)	(2.5)	-	素他16	割面ワラ繊維痕・ワラ痕（穴）/全面黒化/炭化物遺存・脱落
19	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(4.7)	(3.5)	-	素他17	割面ワラ繊維遺存・ワラ痕（穴）/全面赤化（橙色）
20	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(7.3)	(6.2)	2.0	素他18	平坦+竹/正面やや凸凹/左右断面に竹稈痕/正面・裏面・下断面にワラ痕（穴）繊維痕/正面黒化・赤化、裏面赤化、やや良く焼ける/木舞ヵ間隔5.5cm/壁厚2.0cm
21	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(5.3)	(7.3)	5.6	素他20	平坦+竹/正面平坦/左側面竹稈痕、裏面大小2ヶ所竹稈痕、ワラ繊維痕/全面赤化、やや良く焼ける/壁厚5.6cm
22	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(4.6)	(4.1)	(3.2)	素他21	平坦+竹/正面平滑/裏面竹稈痕、ワラ繊維痕/全面赤化、良く焼ける
23	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(4.7)	(5.7)	(4.0)	素他22	平坦+竹/正面平担土付着/裏面竹稈痕、割面ワラ稈痕/全面赤化（橙色）、良く焼ける
24	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(4.5)	(4.2)	(2.4)	素他23	平坦+竹/正面ナデにより平担だがやや膨らむ/裏面竹稈半截内面痕、ワラ繊維痕/全面赤化、良く焼ける
25	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(5.6)	(3.2)	(3.5)	素他24	平坦+竹/正面平担/裏面竹稈半截内面痕、ワラ稈痕、豆痕ヵ/全面赤化、良く焼ける
26	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(3.1)	(2.4)	0.7	素他27	平坦/正面平担鮫膚状/裏面ワラ繊維痕/灰黄褐色/化粧壁ヵ/壁厚0.7cm
27	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(5.5)	(5.3)	5.4	素他25	平坦+竹/正面平担土塊貼付/裏面竹稈・芽溝痕/全面ワラ稈・繊維痕/全面赤化（橙色）、良く焼ける/壁厚5.0cm
28	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(4.8)	(4.5)	4.7	素他26	平坦+竹/正面平担土塊付着、ワラ繊維痕/裏面竹稈・芽溝痕/右側面平坦ヵ/裏面竹芽溝痕/断面ワラ稈痕/全面赤化（橙色）、やや良く焼ける/壁厚4.4cm
29	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(4.3)	(4.5)	3.8	素他29	平坦+ワラ/正面平担やや凹む/割面ワラ稈痕・繊維痕/全面赤化（橙色）、良く焼ける/壁厚3.8cm
30	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(6.6)	(4.4)	2.2	素他30	平坦+ワラ/正面平担、ナデ不十分、荒れる、やや凹む/全面ワラ稈痕・繊維痕・籾痕・葉痕/全面赤化、良く焼ける/壁厚1.9cm
31	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(7.2)	(4.3)	(3.2)	素他31	平坦+竹/正面平担やや膨らむ、一部凸/裏面竹稈痕ヵ/全面ワラ稈痕・繊維痕/全面赤化（橙色）、やや良く焼ける
32	土器・土壁片	在地	5C層 C区	(2.5)	(4.1)	3.2	素他32	平坦+ワラ/正面平担ひび割れ/割面ワラ稈痕・繊維痕・ヒエ・豆痕・炭化籾ヵ/全面赤化、良く焼ける/壁厚3.1cm
33	土器・土壁片	在地	A区 東	(8.9)	(9.1)	4.0	素他33	平坦+竹/正面凸凹・ナデ整形痕・ワラ繊維痕・ヒビ/裏面竹芽溝痕・ワラ稈痕/正面赤化堅緻に焼ける、裏面灰色やや良く焼ける/壁厚3.9cm

第22表　土壁片一覧表

第３節　木製品類

（１）概要

本報告KB19区の調査では、生活用具・生業の道具・信仰にかかわるもの・その他、加工がなされている材など、広範囲の用途の遺物が出土している。

なお、６号堀については遺物の出土地点が、堀の北寄りの㋑～㋥地点と、南寄りの㋺地点の２箇所に分かれている。この堀では土層堆積図を２箇所作成し、同じ７～９層でも異なる層位となっているため、㋑～㋥地点と㋺地点に分けて取り扱った。

樹種名に＊がついているものは、分析は行ったが複数の漆椀の結果が混在したため、肉眼で観察を行い分離したものである。

図Noが太字・斜字のものは、漆製品の分析を行っている。分析は、漆器文化財科学研究所　四柳嘉章氏に依頼した。なお、分析結果については、後日改めて報告をする予定である。

○生活に関するもの

「衣」では下駄が出土している。

１～６は下駄類である。

１は６号堀㋺地点出土の連歯下駄。セクションベルトの取り外し時に出土した。７、８層相当出土か。後歯は残るが前歯が無い。緒穴は方形に近く、前後とも残っている。節があるが、台表は丁寧に整形している。前歯が無いことから、未成品、または失敗品の可能性もある。樹種はスギ。

２は９号堀中層出土の連歯下駄。歯はほとんど残らず、台のみである。後緒穴付近一部欠損。緒穴は方形に近い。後顎付近は一部炭化。樹種は広葉樹。

３・４は16号堀中層出土の連歯下駄の一部。

３は歯の一部分のみ残る小破片。

４は後緒穴付近の一部が残る。緒穴は円形。小破片であるが、台表を丁寧に整形している。

５・６は22号堀出土　５は連歯下駄。緒穴は方形。後歯の残りが悪い。前歯は片減りか。僅かに歯が残る。台表は一部炭化。樹種はクリ。

６は差歯下駄の歯。片減りしている。樹種はケンポナシ。騎西城跡では、ほかの調査区出土の差歯下駄もケンポナシである。

「調理」では鍋敷板ヵ、**「貯蔵」**では桶類が出土。

７は６号堀出土の鍋敷板の一部ヵ。中央付近は、円状に炭化している。２枚に割れ、離れた地点で出土したが接合できた。樹種はツガ類。

８～30は桶板類である。

８～12までは１号堀７層、13は８層出土。

８は小型の側板。タガを締めた痕がよく残る。

９は大きく欠損し、上部のみ残る。棒を差し通す孔があった可能性が高い。外面広範囲に炭化。

10も側板。タガの場所を除き、外面広く炭化。

11は側板と想定したが、反りがほとんど無いため、板材片である可能性もある。内外面は広く炭化。

12も側板であるが、大きく欠損。やや小型。内外面ともに広く炭化。

13は底板。両面を整形している。片面には暗茶褐色の付着物が見られるが、未分析のため詳細は不明。表面に筋が観察できる。転用か。

14～21までは、６号堀の㋑～㋥地点出土。

14～16は５層出土。

14は小型の側板で、一部欠損。

15・16はともに欠損した側板で、一部炭化。接合関係を確認。同一個体である。

17・18は８層出土で、いずれも広く炭化。17はかなり大型のため、樽の側板の可能性も高い

19・20は９層出土。

19は側面に木釘痕が残る底板ヵ。一部炭化。

20はやや大型の側板。

21は６号堀㋺地点７層出土の側板である。一部欠損。外面広く炭化。樹種はモミ近似種。

22・23は９号堀出土。

22は中層出土。側板で、接合関係を確認。22-３には茶褐色の付着物があるが、未分析のため詳細不明。遺物の状態は悪く、崩壊寸前。

23は下層出土。小径のため、曲物の底板か。

24～27は15号堀出土。

24・25は上層出土。側板としたが、非常に幅が狭く、断面は、あまり反りが無い。両面に細かい整形痕あり。この2点は同一個体である可能性が高い。

26も上層出土。底板ヵ。遺物の状態は不良であるが、側面に木釘穴が残る。

27は中層出土の側板。遺物の状態は不良。棒を差し通すための孔が認められる。

28は16号堀中層出土の側板片ヵ。小片のため詳細不明。

29は23号井戸出土。薄い。蓋板の可能性がある。遺物の遺存状態が悪く、実測後崩壊したため、写真撮影はできなかった。

30は 4 号井戸出土の桶一式。30－1～9は側板。1と10の樹種はスギ。10は底板。接合面に木釘も残る。11はタガ。出土当時は、良好な状態で残存。後に破片化。実測できたものが11である。

側板9枚の接合関係は図に示したとおりである。

「食膳」では31～92までの漆器類・白木皿類と93～95の杓子ヵや折敷がある。

31～40は 1 号堀出土の漆椀・白木皿である。

31～33は5層出土で、31は内面赤色外面黒色塗りの大型の漆椀。高台が厚い。胴部外面には赤色で「松」を施文。高台裏には赤色の痕跡あり。取り上げ当初「松」は明確で、2単位確認されたが、その後、劣化が著しく漆が剥落。現在は、ほぼ確認できない。図の文様は、取り上げ当時の写真から復元した。樹種はアサダ。

32も内面赤色外面黒色塗りであるが、劣化が進行し、破片化。詳細は不明である。樹種はブナ属。

33は破片で、見込みと思われる部分のみ残存。黒色地に赤色で「鳥」を描く。「鶴ヵ」。

34～38は7層出土の漆椀である。

34は浅めの椀で、内面赤色外面黒色塗り。外面に「松葉」を赤色で施文するが、ほとんど残っていない。樹種はカツラ。やはり写真から復元。

35は内外面黒色塗りの破片。胴部外面に赤色で「鶴と亀」を描く。含水率高く、その後崩壊。

36は内面赤色外面黒色塗り。大きく欠損しているが、残った部分に「鶴と亀」、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文。比較的大きな椀か。樹種はクリ。

37 は総赤色漆塗り（皆朱）の浅めの椀。

高台裏のみ黒色系漆塗り。無文。炭粉渋下地・赤色の漆層（朱）の2層。器壁薄く、ヨコ木取り（柾目）。樹種は分析したが、不明。

38は内面の漆は剥落、外面黒色塗り。高台周辺のみ残存。高台裏には赤色で文字。「上ヵ」。

39・40は8層出土。

39は白木皿。外面に面取あり。樹種はトチノキ。

40は内面赤色外面黒色塗り。高台周辺のみ残存。状態悪く、崩壊。施文は確認できなかった。

41～53は 6 号堀㋑～㋥地点出土。

41は5層出土。内面赤色外面黒色塗り、低い高台の椀。胴部外面に赤色で施文、文様の意匠は不明。高台裏に赤色で「上ヵ」。状態悪く崩壊寸前。

42～45は7層出土。

42 は内面赤色外面黒色系漆塗りの浅い椀。（二の椀か）。内面は炭粉渋下地･漆層･赤色（朱）漆層の3層、外面は炭粉渋下地・漆層の2層。外面に3単位の赤色（朱）漆絵で施文の意匠は不明。高台裏にも赤（朱）の痕跡。ヨコ木取り（柾目）。樹種はケヤキヵ＊。

43は白木の高盤か。一部欠損。樹種はクリ。

44は内外面黒色塗りの浅い椀。見込みに「帆掛け舟」、外面に「船」を2単位、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文。内面の文様は残りが悪く、取り上げ当時の写真を元に復元。

45は内面赤色外面黒色塗り。口縁部周辺は欠損、大きく厚い高台であることから大型椀か。大きくゆがむ。外面、高台裏に赤色の痕跡。

46～51は8層出土。

46 は内面赤色外面黒色系漆椀。内面は炭粉渋下地･漆層･赤色（朱）漆層の3層。外面は炭粉渋下地･漆層。2単位の花唐草状の文様を赤色(ベンガラ)で施文。全体にゆがみ、口縁部欠損。樹種はケヤキ。

47は内面赤色外面黒色塗り。遺物の状態が悪く、詳細不明。施文も確認できなかった。

48は内外面黒色塗りの大型椀。口縁部欠損。外面に「丸に鶴」を2単位、「亀ヵ」を2単位、見込みは意匠不明、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文。樹

種はクリヵ＊。

49は内面赤色外面黒色塗り。漆の剥落が著しい。外面に「菊水」を2単位、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文。見込みの施文は確認できず。「菊水」は取り上げ当時の写真で実測図を補足。樹種はクリヵ＊。

50も内面赤色外面黒色塗り。遺物の状態悪く、椀全体大きく欠損。高台裏に赤色の痕跡。

51は内面黒色塗りか。高台のみ残存。見込みに「笹ヵ」、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文。高台の大きさから、大型椀と推測。

52・53は9層出土。

52は内面赤色外面黒色塗り。状態悪く、破片化。椀の全体像は明確でない。外面に、2単位の「扇ヵ」、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文。

53は内外面黒色塗りの大型椀。外面の2単位の施文。意匠は不明、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文。その後、十字に線刻。樹種はクリ。

54～64までは、6号堀㈡地点出土。

54～59は7層出土。

54は内面赤色外面黒色塗りの浅い椀。一部欠損。外面に2単位の「松葉」、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文。樹種はハンノキ属。

55も内面赤色外面黒色塗りの浅い椀。外面に2単位の「幾何学文ヵ」、高台裏は赤色の痕跡。樹種はスギ。

56は内外面黒色塗り。大きく欠損。低い高台の深めの椀か。外面に2単位の「亀甲」の省略形ヵ、と高台裏には「四つ菱ヵ」、を赤色で施文。崩壊寸前。

57は内面赤色外面黒色塗りの大型椀。外面に「花亀甲」3個を一組とし2単位を、高台裏に細かい線を刻んだ後「四つ菱」を赤色で施文。樹種はブナ属。

58は内外面黒色塗りの大型椀か。口縁部大きく欠損し、ゆがむ。外面に赤色の痕跡がわずかに残る。詳細不明。高台裏に線刻の後「四つ菱」を赤色で施文。

59も内外面黒色塗り。遺存状態非常に悪く詳細不明。

60～64は8層出土。8層は㈡地点の最下層。

60は白木皿。粗く整形。内面にはロクロ痕、外面に面取りあり。口縁部大きく欠損。樹種はエノキ属。

*61*は内面黒色系外面赤色漆椀。高台裏は黒色系漆塗り。厚底の高台、深めの小型椀。内面は炭粉渋下地･漆層。外面は炭粉渋下地･漆層･赤色（朱）漆層の3層からなる。外面には3単位の「沢瀉」を肉眼では黒色に見えるが、赤色（朱）で施文。騎西城で、外面の赤色に、赤色で施文している漆椀はこの1点のみである。樹種はカツラヵ＊。

62は内外面黒色塗り。遺存状態悪く詳細不明。低い高台の小さめの椀か。

63は内面赤色外面黒色塗りの漆椀の胴部破片。外面に「朝顔」を赤色で施文。破片の厚さから、大型椀の可能性が高い。樹種はトチノキ。

64は内外面黒色塗りの椀。大きくゆがむ。厚底の高台。見込みに「南天の葉」、外面に2単位の「南天または笹ヵ」、を赤色で施文。樹種はクリ。

65・66は9号堀下層出土。

*65*は総黒色系漆塗りの合子蓋。高い蓋表（甲盛）とシャープな肩を持つ。内外面は炭粉渋下地に漆層を重ねる。蓋表全体に赤色(ベンガラ)で中央に「鳥」、境界に見立てた細線の円を施文。全体の塗りは、薄くむらがあり、やや粘質。珍しい器形であるが、塗りは簡素。

66は内面赤色外面黒色塗り。口縁部、高台端部が欠損。漆の状態悪く、剥落箇所あり。高台裏に赤色で「井上ヵ」。

67～72は15号堀出土。

67は上層出土。内外面黒色塗りの大型椀。漆の剥落著しい。見込みに「亀甲の省略形ヵ」、外面に2単位の「花亀甲」、高台裏に「一」を赤色で施文。樹種はクリ。

68は中層出土。内面赤色外面黒色塗りの大型椀か。遺存状態悪く破片化。胴部の破片と高台のみ実測。

外面には1箇所「松」を赤色で施文、他は確認できず。

69～72は下層出土。

69は白木皿。粗い整形。内面にロクロ痕が、外面には面取りあり。遺存状態悪く、実測後崩壊。報告書用写真は撮影できず。

70は内外面黒色塗り。大きく欠損。低い高台。外

面に1箇所「幾何学文ヵ」、高台裏は「四つ菱ヵ」を赤で施文。

71も内外面黒色塗り。厚底の大型椀。見込みに「双鳥」、外面に4単位の「鶴ヵ」、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文。樹種はブナ属ヵ＊。

72も内外面黒色塗り。遺存状態悪くゆがむ。口径に比べ高台径が小さい。口縁が広がり、ゆがんでいる可能性が高い。見込みに「松葉ヵ」、外面に2単位、意匠は不明、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文。高台裏は滑らかではなく、削り残しのまま漆塗りか。

73～75は、16号堀中層出土。

*73*は内面赤色外面黒色系漆塗りの浅い椀（三の椀か）、または盃か。遺存状態は非常に悪く、詳細不明。器壁薄い。内面は炭粉渋下地･赤色（朱）漆層の2層、外面も炭粉渋下地･漆層の2層からなる。全体に塗りが薄い。

74は内面赤色外面黒色塗り。口縁部は大きく欠損し、全体にゆがむ。高台が低く、深めの椀か。外面に「破線状の線」、高台裏は「四つ菱ヵ」、を赤色で施文。「菊水」の施文された破片も容器に同封されていたが、同一個体かは不明。

75は内外面黒色塗りの大型椀。遺存状態悪く破片化。図上で復元。高台は厚底。見込みに「複数の線」、外面に施文の痕跡、高台裏は「四つ菱」を赤色で施文。

76は29号堀出土。内外面赤色塗りで、高台裏のみ黒色。騎西城では珍しい。37より器高が低いが、塗りは類似。大きく欠損。遺存状態悪く、実測後崩壊。

77は30号堀出土。内外面黒色塗りか。高台部のみの破片。やや厚底の高台。見込みに赤色で施文。意匠は不明。

78・79は、C区一括取り上げの漆椀片。

78は内面赤色外面黒色塗りの胴部破片。外面に「花亀甲」を赤色で施文。

79は高台部付近の破片。内外面黒色塗り。見込みに赤色の痕跡。塗りか施文かは不明。遺存状態非常に悪い。

このように、19区からは、多数の椀類が出土している。特に1・6･15号堀から、さまざまなタイプの椀が存在している。高台が低く浅い椀・高台は低いが少し深めの椀・高台が高く大型椀の3種類に大きく分類できる。樹種はクリが多いが、他の樹種も採用している。これは、江戸時代の同一樹種を採用する傾向とは、異なるものである。

80～89は、炭化した椀である。

白木のままか、漆製品が炭化したものかは、表面観察では判別できなかった。しかし、高台を削る途中と思われるものが多いことから、白木の椀の製作途中の可能性が高い。これらの中で、堀から出土は、15堀出土の80のみ。81～83はC区3C層、84～86は5C層、87・88はC区2T、89はC区一括取り上げである。83は高台が明確でないため、皿の可能性が高いが、他については椀と考えている。84・85は胴部破片であり、詳細は不明である。

86～89は、内面にはロクロ痕が、高台裏は88を除き、削りを観察できる。特に、87・89は高台裏のほとんどを削り残したままで、ロクロから外して間もないと考えられる。その後、80・86のように徐々に削りを進行させ、81に至るのであろう。

これらは、いずれも破片であり、製作途中で廃棄された可能性が高いが、いつの段階で炭化したかは不明であり、今後3C層、5C層のほかの遺物と併せて考えていく必要がある。

90～92は、漆製品である。

90は6号堀8層出土（㈧地点ヵ）の両面黒色塗りの円形板。大きく欠損。非常に薄い。柾目。樹種はヒノキ。

91は6号堀7層出土(㈡地点ヵ）の漆塗り容器ヵ。破片。内外面黒色塗り。外面の黒色はわずかに残るのみ。内面にはハケのような痕跡あり。節があるため、容器として使用できたかは不明。樹種はイヌガヤ。

92はB区一括取り上げの両面黒色塗りで円盤状。縁が高い。樹種は広葉樹。

93～97は食器以外の生活用具である。

93は9号堀出土のヘラ状製品。大きく欠損。片面

には丁寧な整形を施す。小破片のため詳細は不明。

94・95は折敷ヵ。いずれも小破片。

94は15堀下層出土の柾目の薄い板。折敷の底板ヵ。

95は16号堀出土の隅切り折敷の底板。

96は６号堀７層（㈢地点ヵ）**出土**の板状製品。中央に円形の孔あり。箱の蓋ヵ。一部に木釘痕あり。面を丁寧に整形。樹種はモミ属。

97は６号堀８層（㈥地点ヵ）**出土**の脚付円形板。脚は外れているが、接合箇所は確認。木釘、及び木釘痕多数あり。中央に穿孔、その孔から筋が走る。残存している脚の部品は１つのみであるが、下部には４箇所の脚を想定する。一部炭化。形状から灯明台の脚部ヵ。樹種はサワラ。

「遊び」では、羽子板と将棋の駒がある。

98は６号堀７層（㈢地点ヵ）**出土**の羽子板。かなり薄く小形のため、実際に使用できたかは不明。文様等は確認できなかった。柾目取り。一部炭化。樹種はサワラ。

99は１号堀７層出土の将棋の駒。「金将」と墨書されていたと思われ、わずかに盛り上がっているが、肉眼では確認しづらい。板目取り。

○生業に関するもの（100・101）

「編具」と「木槌」がある。

100は15号堀中層出土の編具。出土当初は、表面に細かい面取りを確認できたが、後に含水率が高くなり変形。

101は１号堀７層出土の木槌。槌の部分が一部欠損。全体に面を整形。実測時には、槌の部分の使用痕は確認できなかった。

○信仰に関するもの（102～104）

信仰に関するものは、位牌の台、呪符などがある。

102は１号堀８層出土の位牌の台。白木。上面・正面には赤と黒で丁寧に彩色しているが、側面・背面・底面は簡単な彩色や粗い整形。このことから、正面から見える部分のみを重要視していたと考える。

103は６号堀７層（㈢地点ヵ）**出土**の呪符。文字の残り具合から、左右欠損していると考えている。１面には、梵字で「阿弥陀三尊」、その下に「月」・「日」・「下」・「正」・「天」などの文字を並べる。更にその下に、「急急如律令ヵ」。故水野正好氏に解釈を依頼したが、残念ながら何を祈念したかはわからなかった。反対面には、「ア・バン・ウン・カンマーン・タラン」の種字をしるす。

104は16号堀出土の彩色板。欠損しているため全体は不明。両面に赤と黒で文様を描く。「笹」や「松」があるように思われるが、意匠は不明。

○その他（105～150）

製品かまたは明確な加工はあるが、その性格、名称が不明なものをあげた。

105～108は６号堀（㈠～㈥地点ヵ）**出土。**

105は８層（㈠～㈥地点ヵ）出土の何かの柄ヵ。欠損しているため詳細不明。

106は８層（㈥地点ヵ）出土の板状製品。大きな切込みが入り、「L字状」になる。片面に茶褐色の付着物があるが未分析のため不明。

107は９層（㈠～㈥地点ヵ）出土の小角材。１面に溝が残るが、本来のものかは不明。

108は下層（㈠～㈥地点ヵ）出土の円形状製品。中央に穿孔あり。１/２残存ヵ。遺存状態悪い。

109は６号堀７層（㈢地点ヵ）**出土**の角材状製品。「L字状」。部材ヵ。遺存状態悪く、詳細不明。

110～112は９号堀出土。

110は下層出土の刳り込み状製品。角材の１面を深く刳り込み整形。「舟形」の可能性もあるが先端が尖っていない。また、「硯台」の可能性も考えたが、他例に比べ、かなり小形であることから不明とした。含水率非常に高く、崩壊寸前。

111は極小さい板状製品。丁寧に面が整えられているが、小破片のため詳細不明。

112は角材状製品。部材または、製作途中の「刀型ヵ」。全面に細かい加工を施す。

113はＣ区３Ｔ西堀（12号堀ヵ）出土の筒状漆製品。筒中央に布着せをし、全体に黒色の塗りを施している。欠損部も多く、詳細は不明。片側端部は貫通していない。樹種は広葉樹。なお、「騎西町史考古資料編」では、「指物旗の受け筒」と記されて

いるが、本報告では、「筒状漆製品」として取り扱うこととした。

114～116は16号堀中層、下層出土。

114は部材ヵ。小形で、「L字状」。丁寧に全面加工。用途不明。

115は小形の板状製品。全面に丁寧な加工を施し、1箇所を大きく抉る。

116は二股木製品。全面に加工を施し、面を整えている。ただ、片面の整形は粗い。表裏を意識か。樹種はクリ。用途不明。

117～150は加工材である。

117は6号堀7層（㈢地点ヵ）**出土**の板状製品。非常に薄く柾目取り。中央付近に方形の孔あり。全体に線状の筋あり。何かの使用痕か。

118は10号堀出土の板状製品。柾目取りで、片側端部に細かい刻みが残る。他の板材などと組み合わせるためのものか。片面広範囲に炭化。樹種はモミ属。

119は16号堀下層出土の厚目の板材。全体に炭化し、詳細は不明。断面を観察すると、かまぼこ状に片面が盛り上がっている。

120は1号堀5層出土の丸棒材。全面を加工。

121～124は6号堀㋑～㋩地点出土。

121は6層出土の板材片。遺存状態悪く、詳細不明。

122は7層出土の角材。節周辺を整形している。

123も7層出土の板材片。板目取り。両面を丁寧に整形。

124は9層出土の板材片。両面を簡単に整える。

125は7層出土の角材片。芯持ち材。2面を丁寧に整形。

126・127は6号堀㈡地点の7層出土。

126は板材。片側端が立ち上がる。両面を整形しているが、欠損部も多く、詳細不明。

127は板材片。面はほとんど整形していない

128は9号堀出土の小角材。2面を丁寧に整形。

129～131は15号堀出土。

129は上層出土の小板材。面を整えているが、遺存状態が悪く、詳細不明。

130・131は下層出土。

130は小板材片。芯持ち材の一部を使用か。

131は半截材を加工したもの。節が多く、その周辺を中心に整形している。

132・133は16号堀出土。

132は下層出土の板材片。板目取り。簡単に整形。

133は130に類似の板材片。やはり、2面を丁寧に整形。

134～147は、A区22号井戸出土の中の一部。

134は135と同一個体の可能性が高い角材。134には1箇所切込みが入る。135は先端が尖る。両者とも2面を丁寧に整形している。

136～138は小板材を加工したもの。なかでも、136は丁寧に面を作り出している。

139～142は薄い板状の小破片。細かい整形があり、何かを作り出そうとした屑か。142は特に薄い。

143は少し厚目の板材片。片面に段がある。

144は非常に薄い板材片。断面形は、わずかに丸みを帯びる。遺存状態非常に悪く、崩壊寸前。

145～147はみかん割り材を加工したもの。

145はほぼ割ったままで、節の周りを簡単に整形。

146は板材近くまで整形。145・146ともに表面に線状の細かい傷がある。

147は145の状態から少し面の加工が進んだ段階か。表面に明確な線が引かれている。ケビキ痕か。

この22号井戸では、削り屑のような板材片などが多量に出土している。今回はその中から、特徴的なもの15点を図化、掲載し、そのほかは集合写真を掲載した。この井戸に一括廃棄されたと考えると、どこから、何に使われた屑なのか、木製品以外の遺物とともに検討が必要である。

148～150は、C区2T出土。

148は板材小片。板目取り。両面を丁寧に整形。

149は薄い板材片。上部を斜めに成形する。

150は丸棒材片。小片で状態も悪いため詳細不明。先端が尖る。

151は7号堀下層出土の籠状製品である。およそ

0.8㎝幅の樹皮を２本１セットで巻いている。遺存状態は非常に悪く、土と分離できず実測後崩壊した。籠の縁、あるいは持ち手か。

以上が図化できたものである。

このKB19区では、この他に遺物の遺存状態が悪く、図化できなかったものが多数存在している。その中で観察できたものを一覧表後半に掲載した。以下はその説明である。その他に、崩壊し観察できなかったものも存在する。

「生活に関するもの」では漆椀片は31点ある。その内容は以下のとおりである。

１号堀では６・７層から１点ずつ、８層から２点出土しているが、状態が悪い。いずれも内面赤色で、２点のみ外面黒色を確認しているが、詳細は不明である。ただ、図化したものでは、内面赤色外面黒色塗りが多数を占めていることから、この４点も同様と思われる。

６号堀㋑～㋭地点では、５層から４点、７・９層から１点ずつ、８層から２点一括取り上げで２点出土している。

５層では、図化したものは高台の小型の椀であったが、未図化のうち２点は、大型の破片である。このため、大型椀は５層にも存在していた可能性が高い。

７層では、内外面赤色で高台裏のみ黒色の低い高台の椀の存在は、図化した椀（42・44）と違い興味深い。

８層の内面赤色外面黒色塗りの破片は、46・47のような薄手のものであろう。

９層の内外面黒色塗りの破片は、見込みに赤色の施文、低い高台で、図化したもの（52・53）とは違うタイプである。

他に一括取り上げでは、内面赤色外面黒色塗りの低い高台の椀が２点出土している。１点は、出土当時の写真から、外面に「松葉」、高台裏に梵字のようなものが赤色で描かれている。現在は崩壊。

６号堀㋩地点では、６層の１点、７層の２点のうち１点は、塗りの状態が悪く、外面が黒色塗りであることのみ確認できた。７層のほかの１点は、内外面黒色塗りで、赤色で見込みと高台裏に施文、高台裏は「四つ菱」。

８層の３点は内外面黒色塗り。低い高台で、そのうち２点は、器壁薄い。また、高台裏に「四つ菱」を２点、そのうち１点は、見込みに「鶴」を赤色で施文。

７号堀３層は、内面赤色外面黒色塗り。胴部外面に赤色で「弧状の線」を施文する浅い椀。含水率高く崩壊。

９号堀は内外面黒色塗りの破片。外面に赤色の痕跡。

10号堀中層・15号堀下層も、内外面黒色塗りの破片。10号堀出土は器壁薄い。15号堀出土は見込みと外面に赤色で施文。厚い破片のため、大型椀か。

16号堀では、上層から２点、中層から１点出土。上層の１点は、高台部欠損の底部付近の破片。内面赤色外面黒色塗り。器壁厚いが詳細不明。残り１点は、内外面黒色塗り、低い高台の薄い椀。高台裏には「四つ菱」、内外面にも赤色の痕跡あり。

中層出土は、内外面黒色塗りで破片化。低い高台の椀か。内外面に赤色で施文の痕跡。

22号堀は内外面黒色塗りの胴部破片。外面に「丸に鶴」を赤色で施文。大きく厚い破片のため、大型椀の可能性もある。

29号堀は、内外面黒色塗りの小破片。詳細不明。

Ｃ区２Ｔからも、内面赤色外面黒色塗りの小破片出土。外面に「弧状の線」を赤色で施文するが、詳細不明。

他に調査区の北寄りで内面赤色外面黒色塗りの胴部破片が見つかっているが、崩壊し、詳細不明。

また、漆製品と確認できていないが、Ｃ区一括取り上げで外面赤色の漆塗膜が見つかっている。木胎は観察できないが、モミごと炭化し、漆膜が残ったものヵ。

この他に、角材、板材片が出土している。その中で、Ａ区22号井戸からは、多量の板材片など出土している。一部は図化したが残りは写真を掲載した。

また、D区、C区から、ひょうたんの破片が少量ではあるが見つかっている。破片化しており詳細は不明であるが、容器として使用した可能性も考えている。

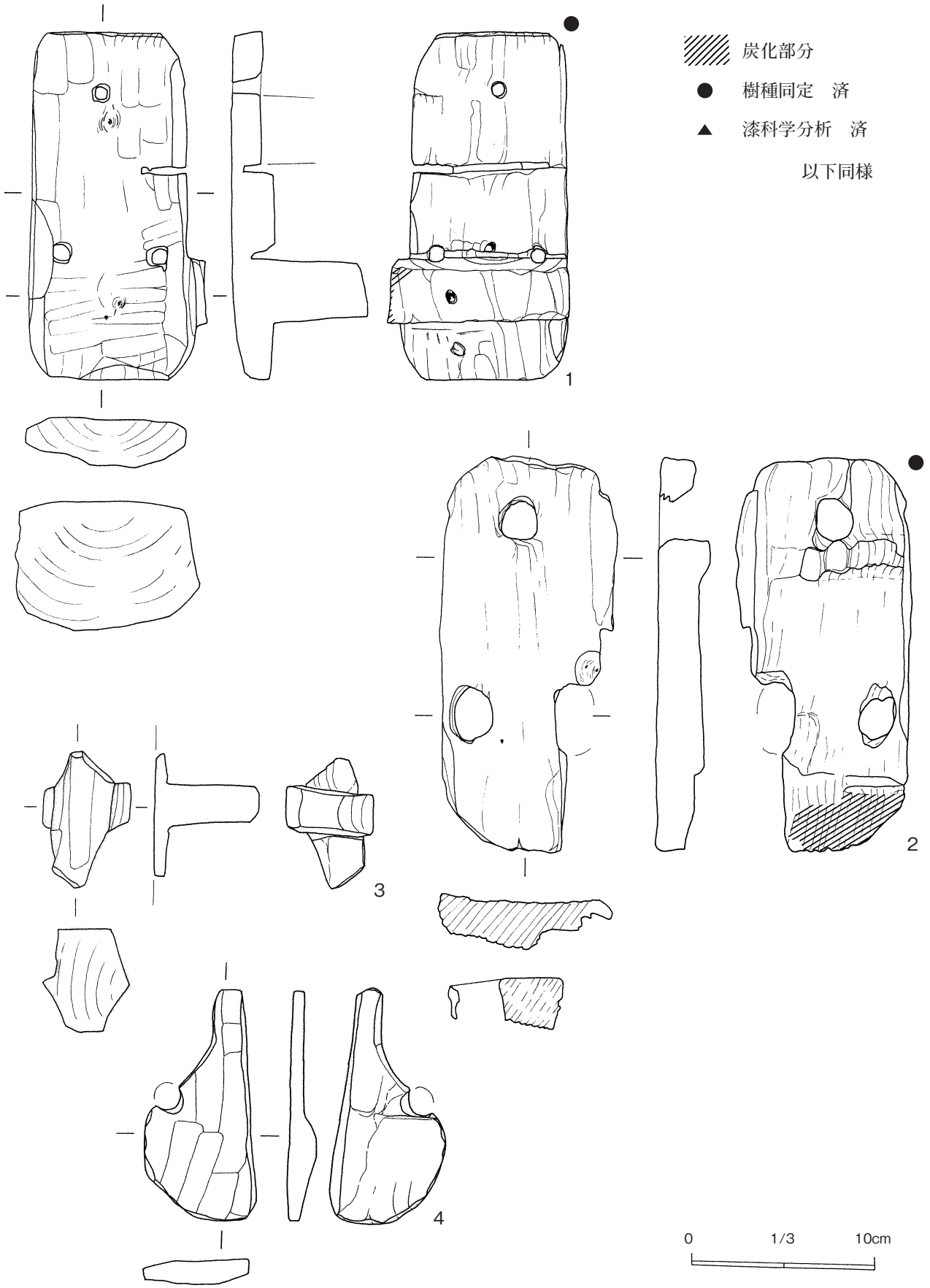
今回報告のKB19区は、騎西城跡・騎西城武家屋敷跡の中でも、遺物量が多く、なかでも木製品の出土量は最多である。特に１・６・15号堀では、漆椀類が多い。そのなかで、６号堀では各層からいろいろなタイプの漆椀が出土している。今後は、土器類との共伴関係も考慮し、漆椀類の変遷を考えていきたい。

参考文献

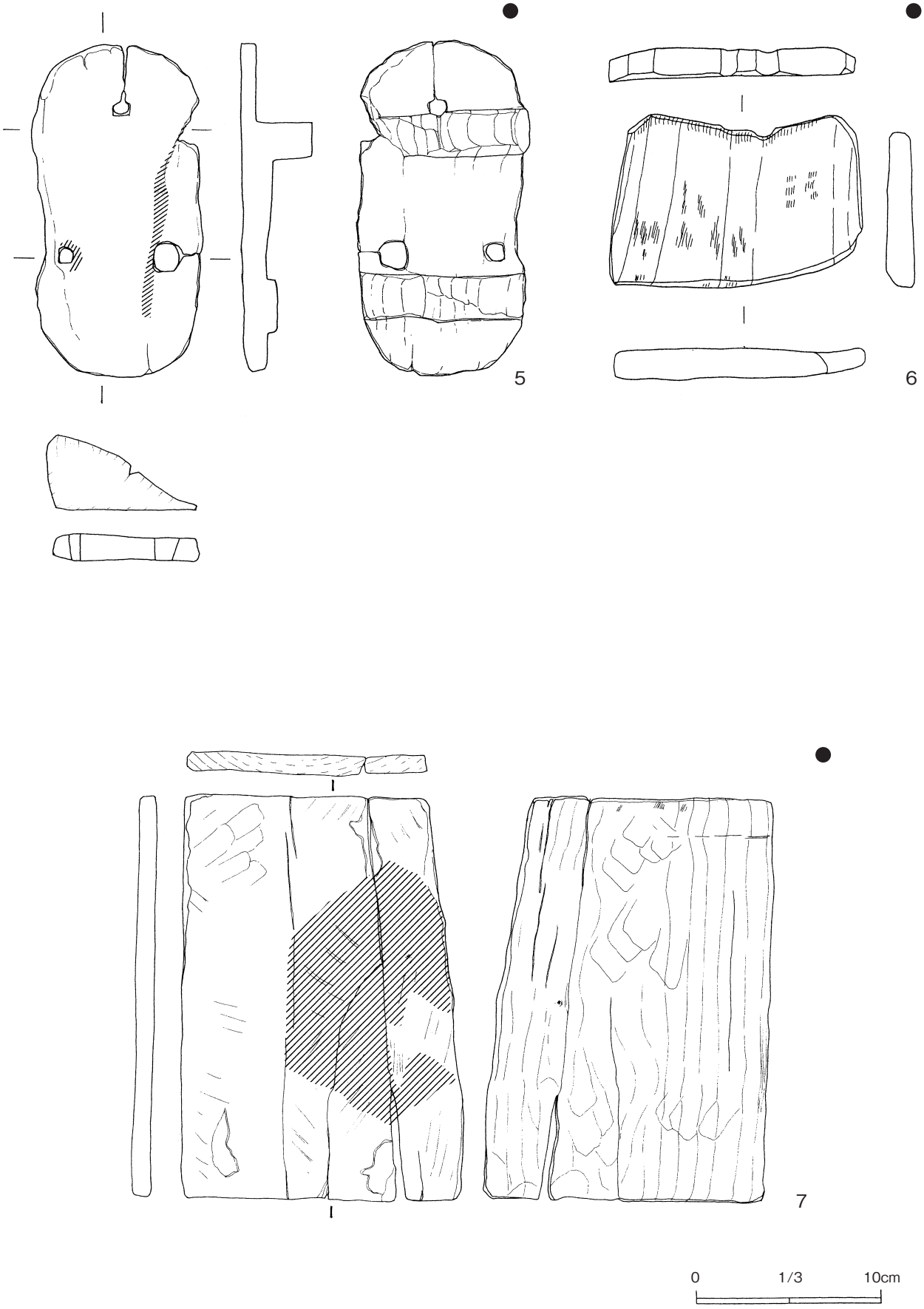
橋本鉄夫　1979　『ろくろ』ものと人間の文化史31
法政大学出版局
西川栄明　2021　『木の図鑑』－日本の有用種101
創元社

漆椀（木37）

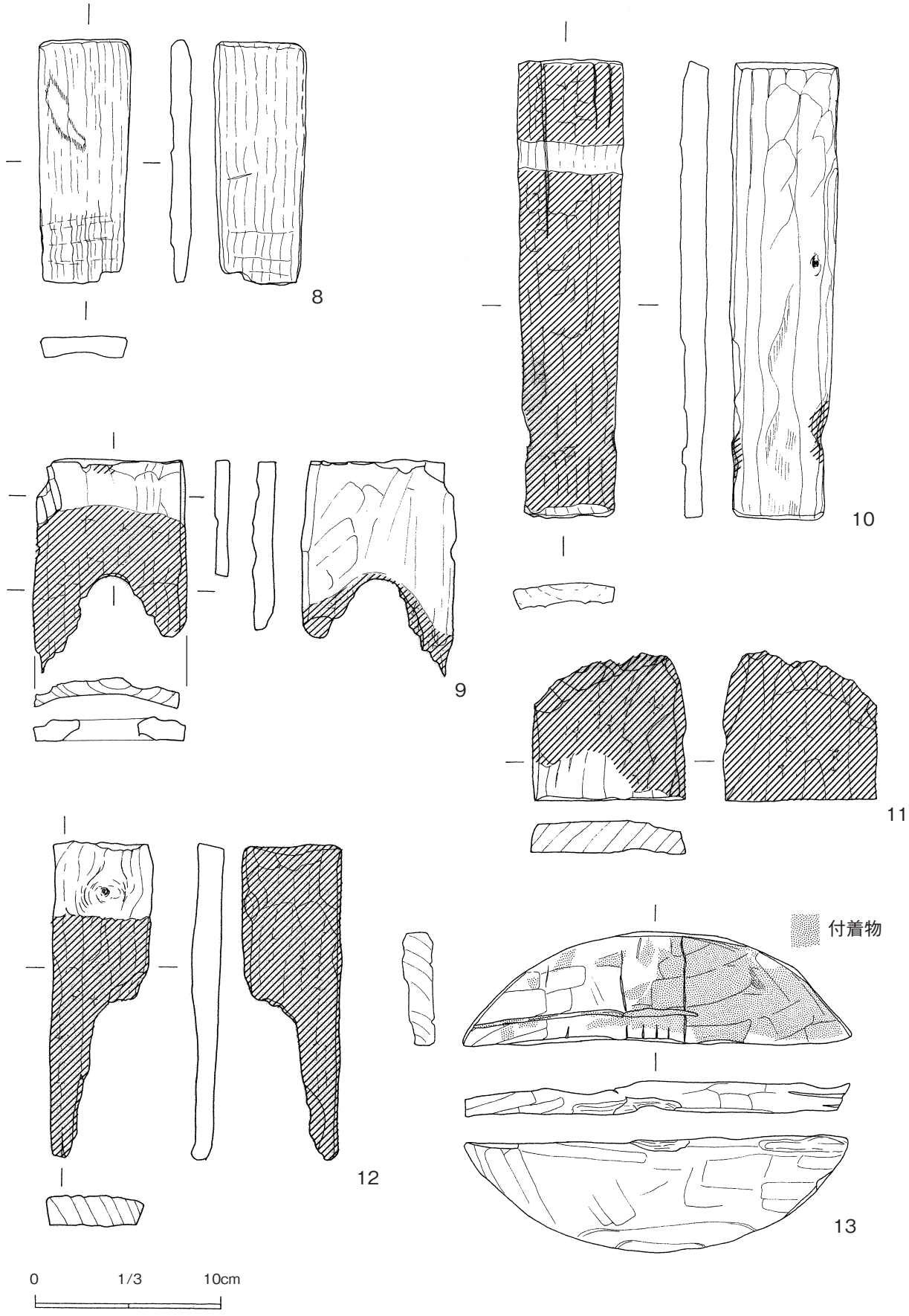
呪符（木103）



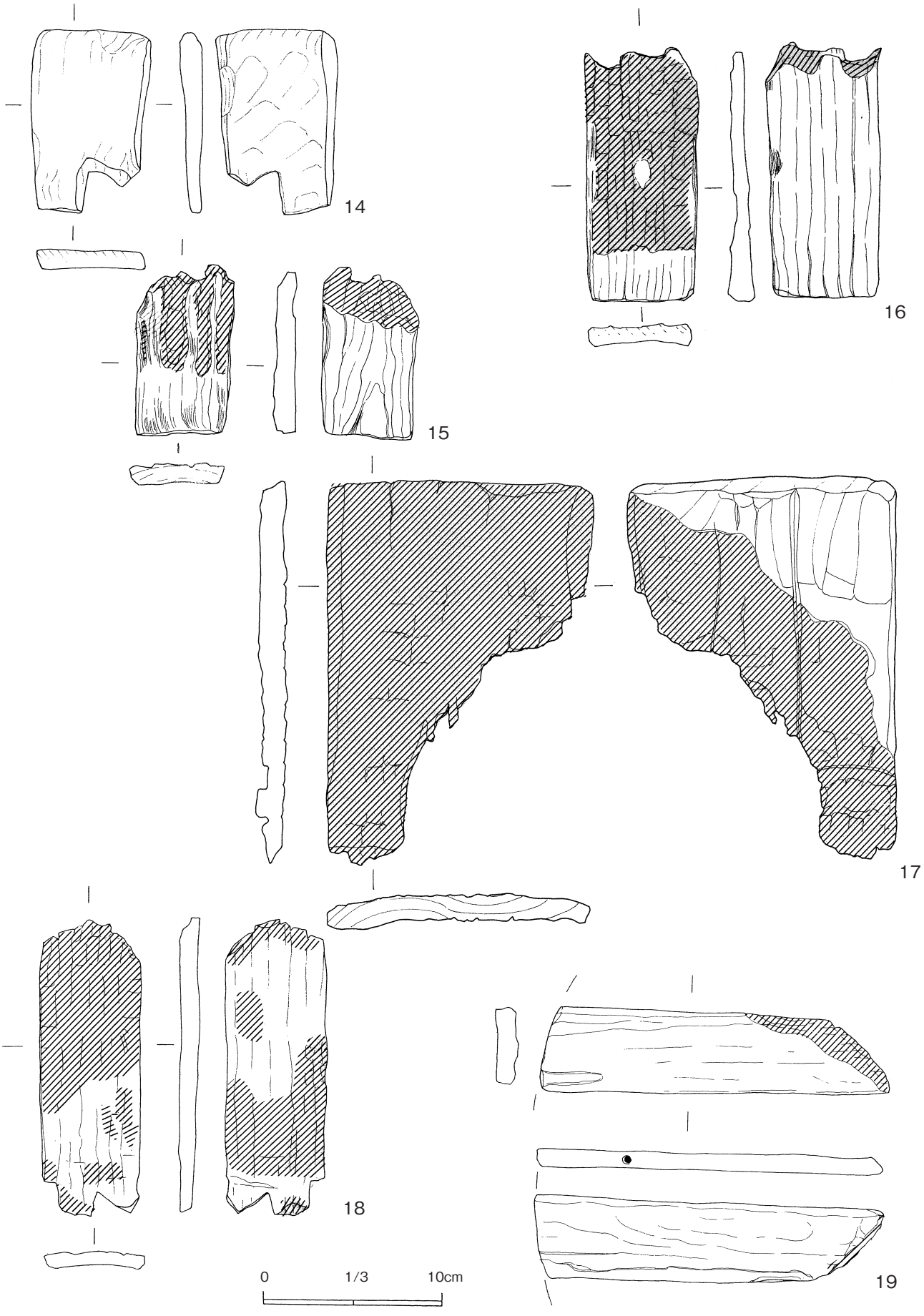
第58図　木製品類１



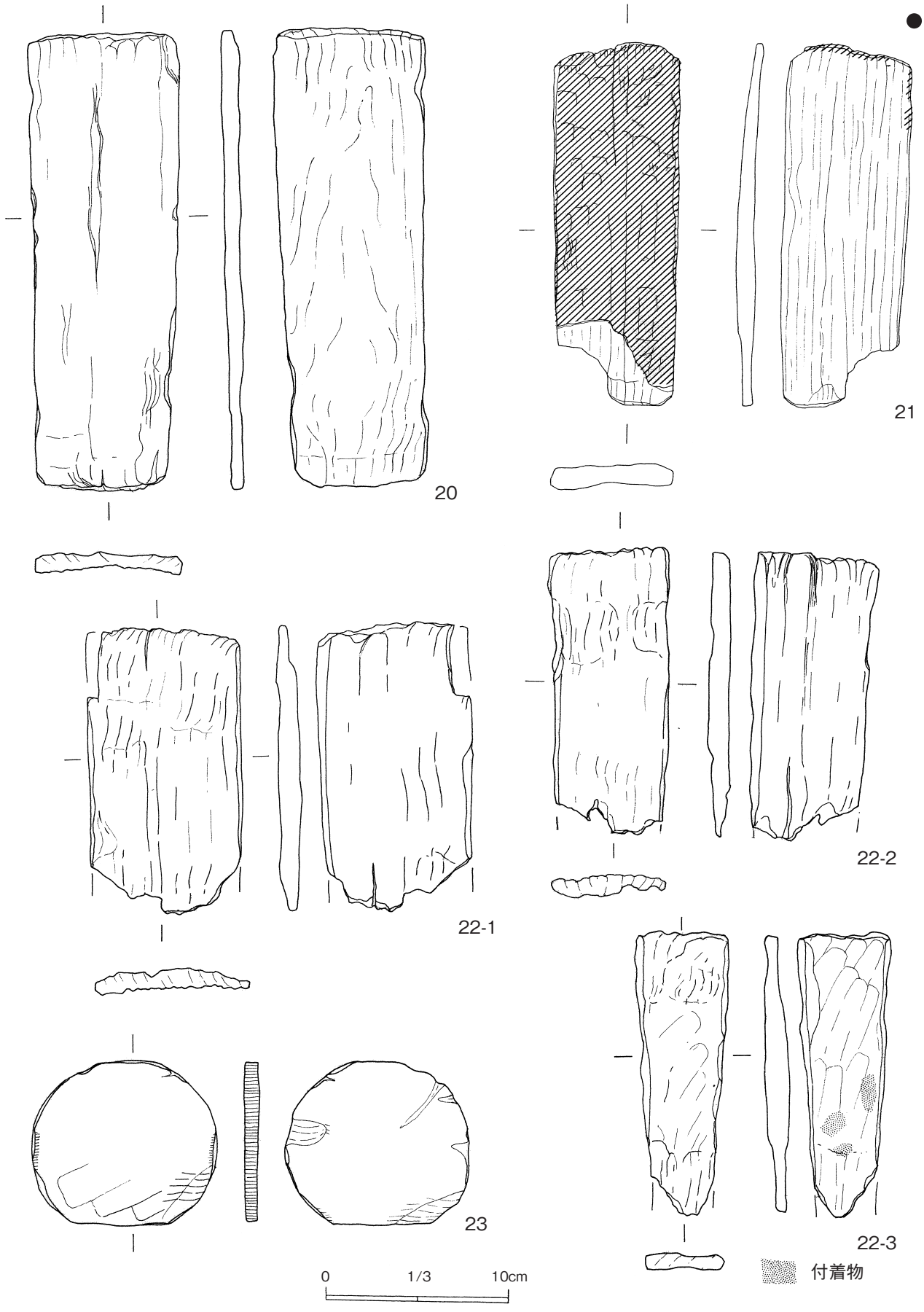
第59図　木製品類 2



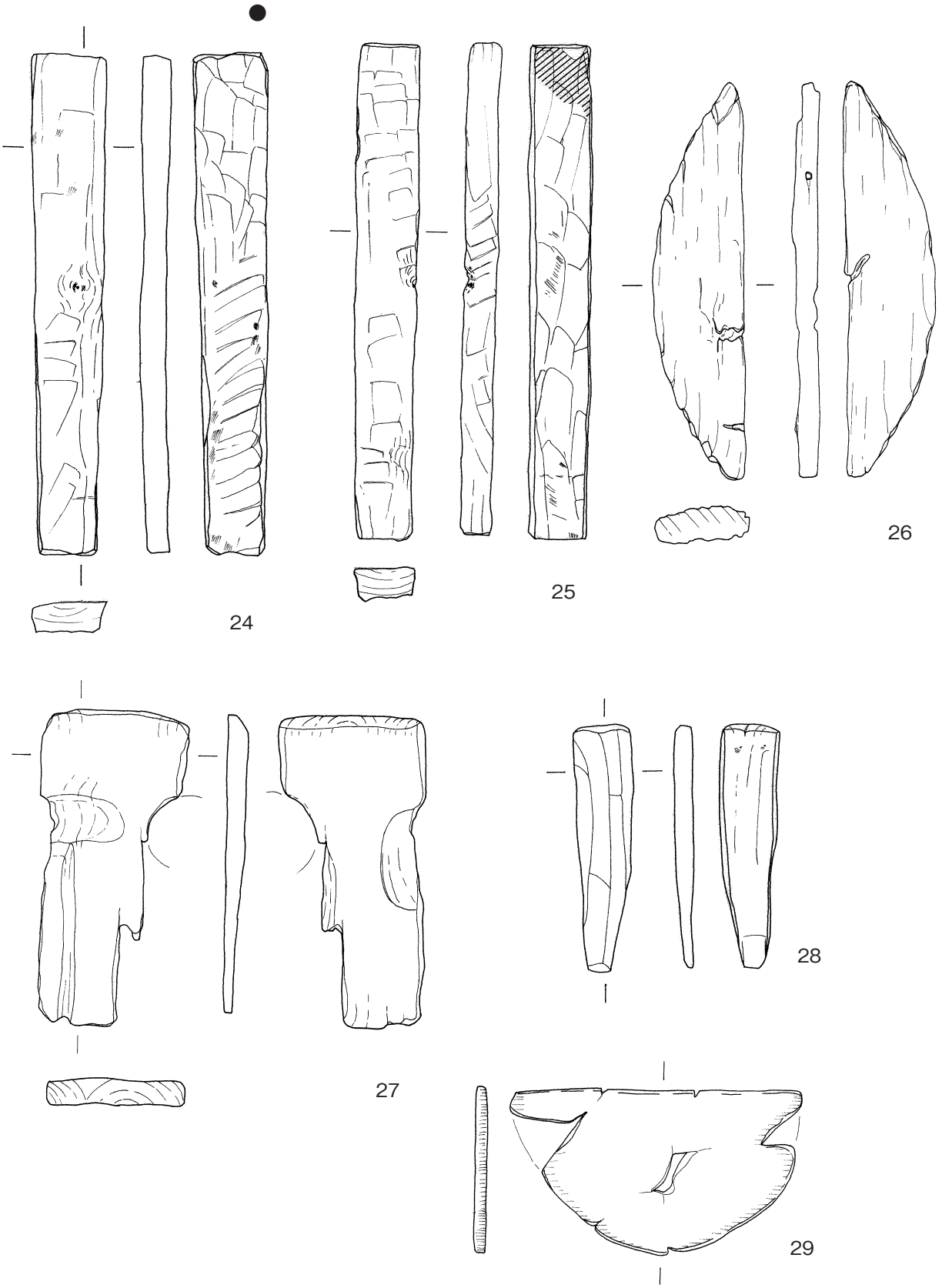
第60図　木製品類３



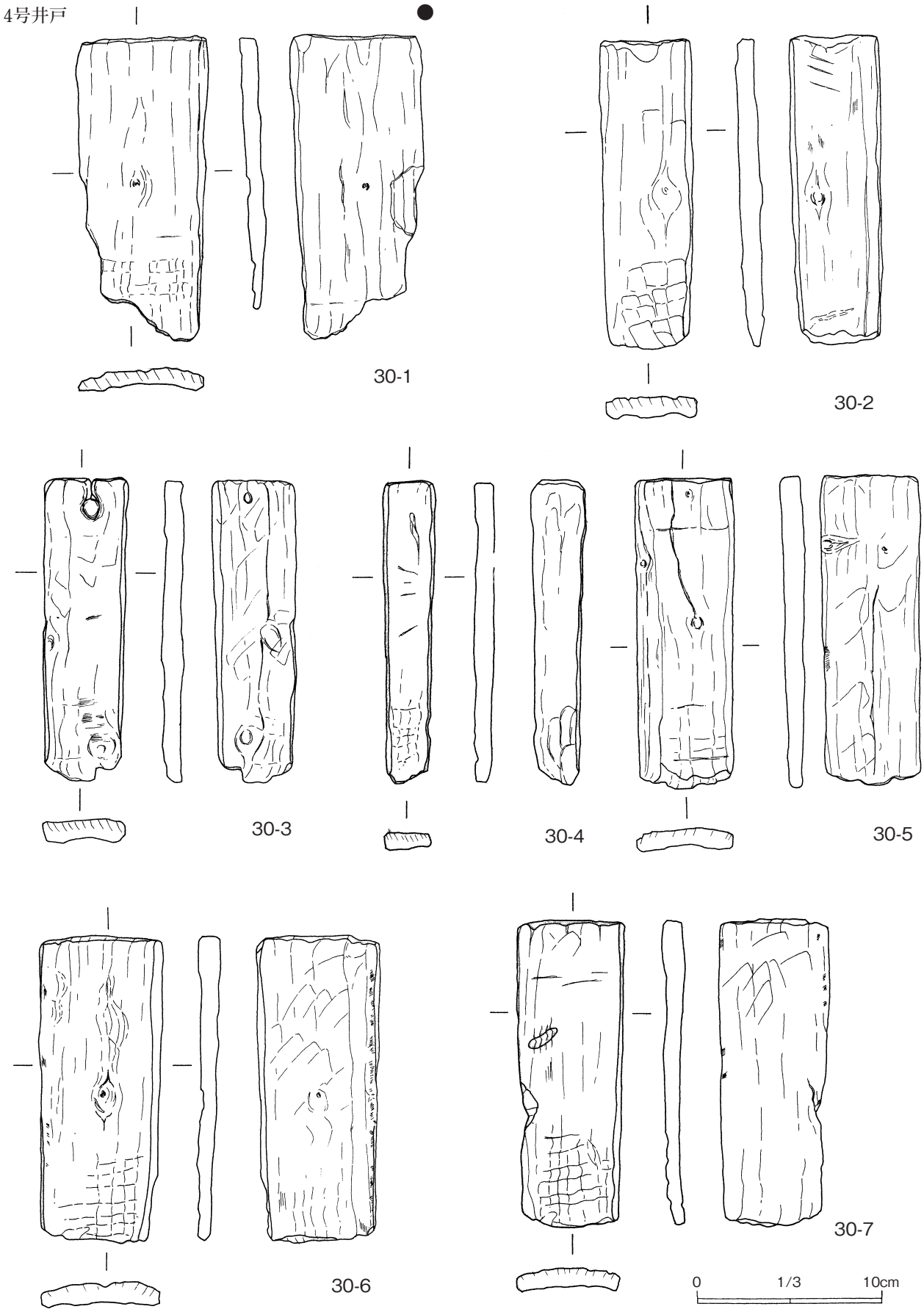
第61図　木製品類 4



第62図　木製品類５

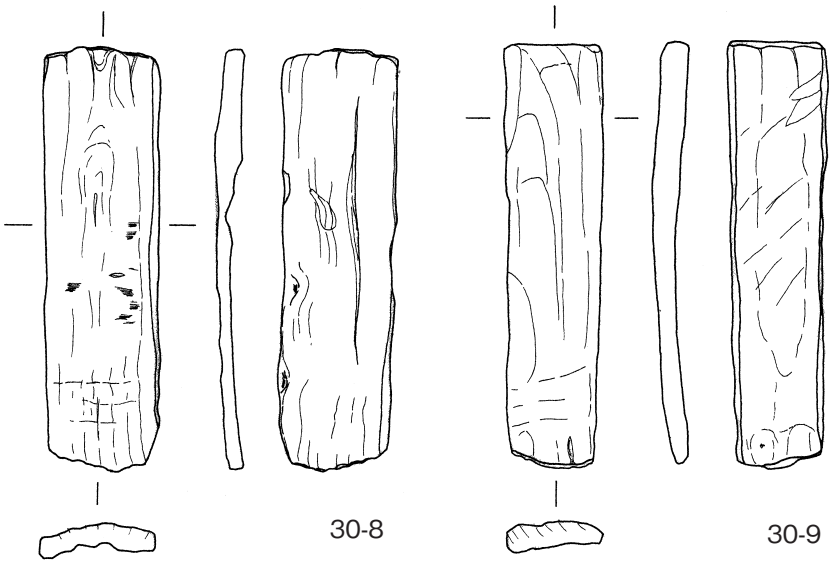


第63図　木製品類 6



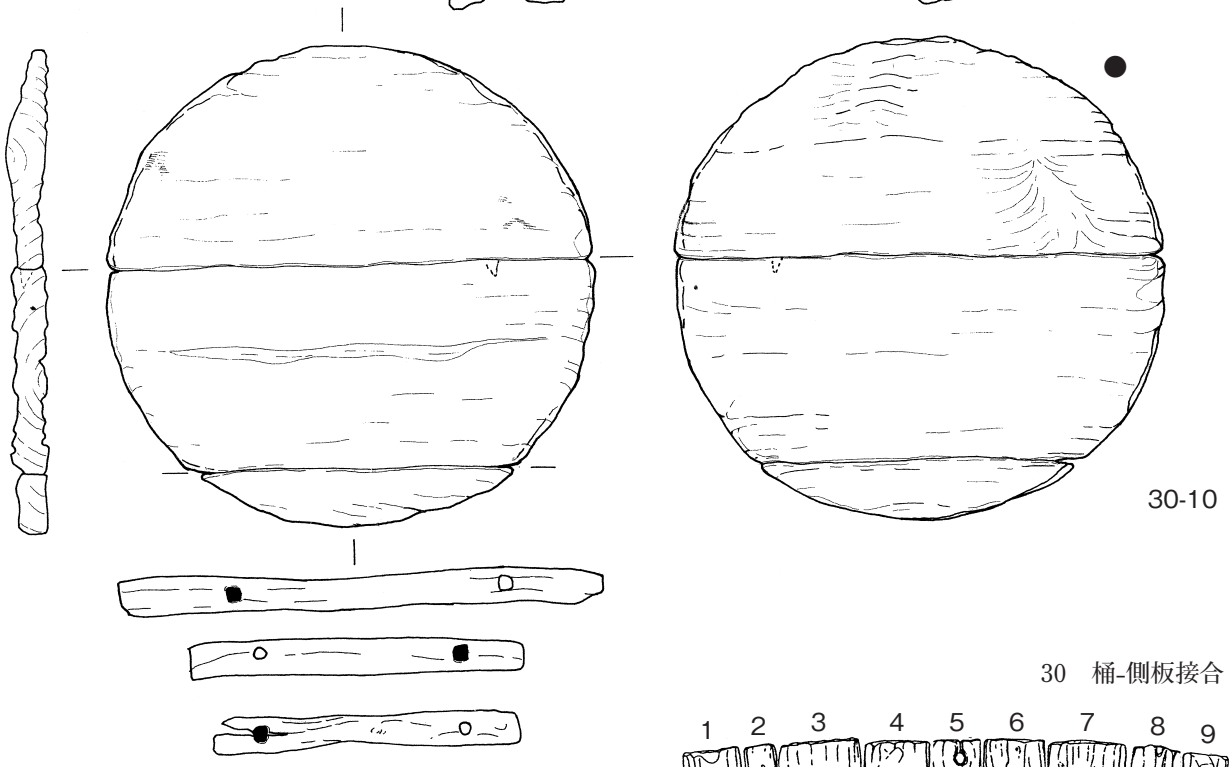
第64図　木製品類７

4号井戸



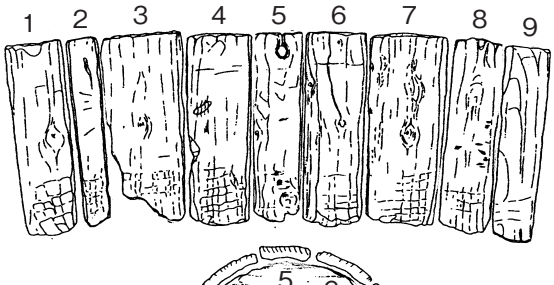
30-8

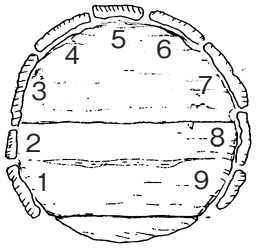
30-9

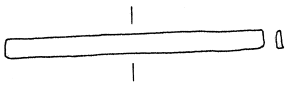


30-10

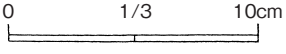
30　桶-側板接合







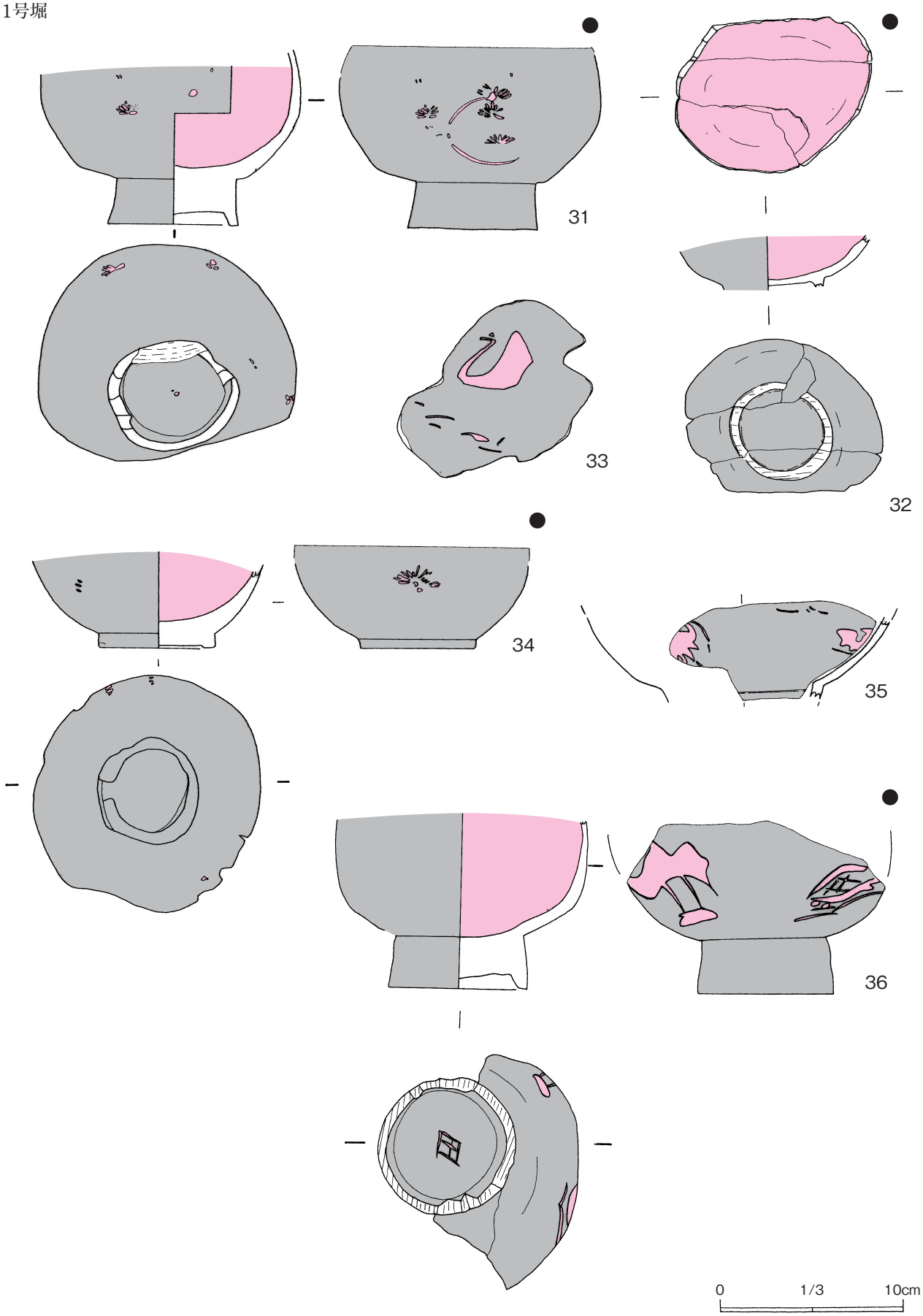
30-11



縮尺任意

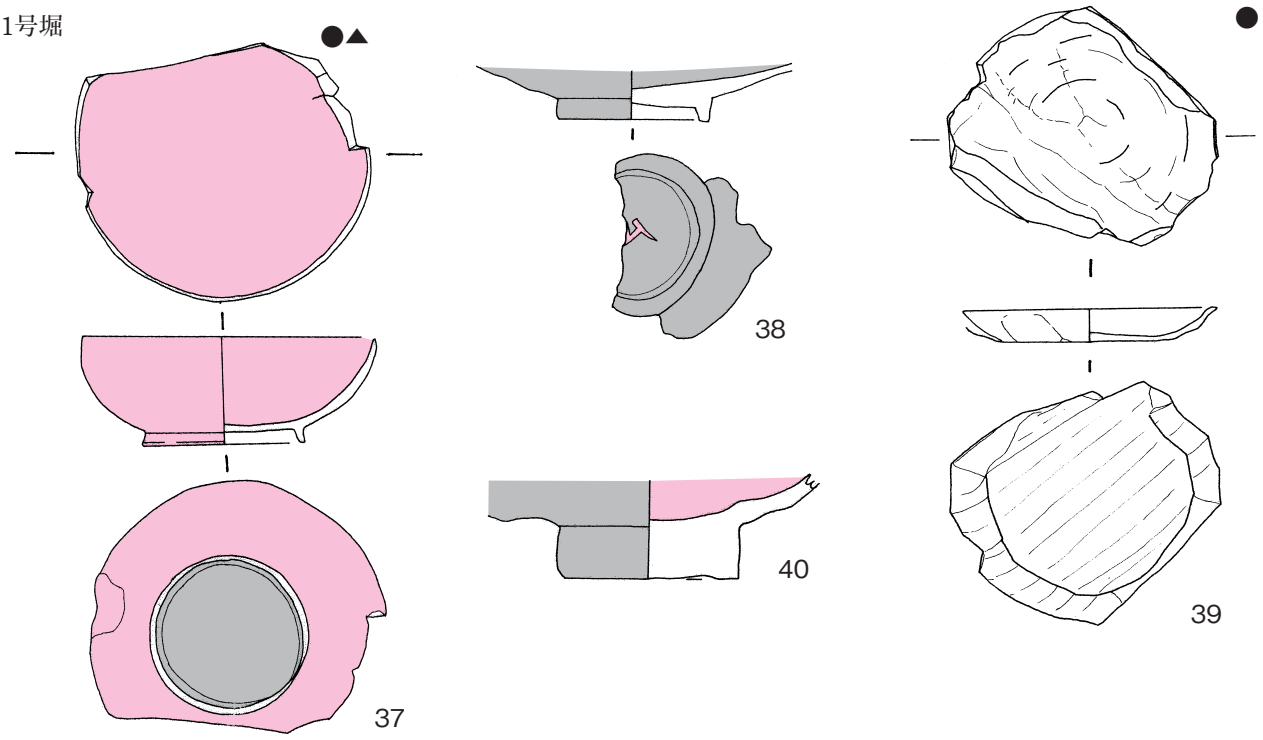
第65図　木製品類 8

1号堀

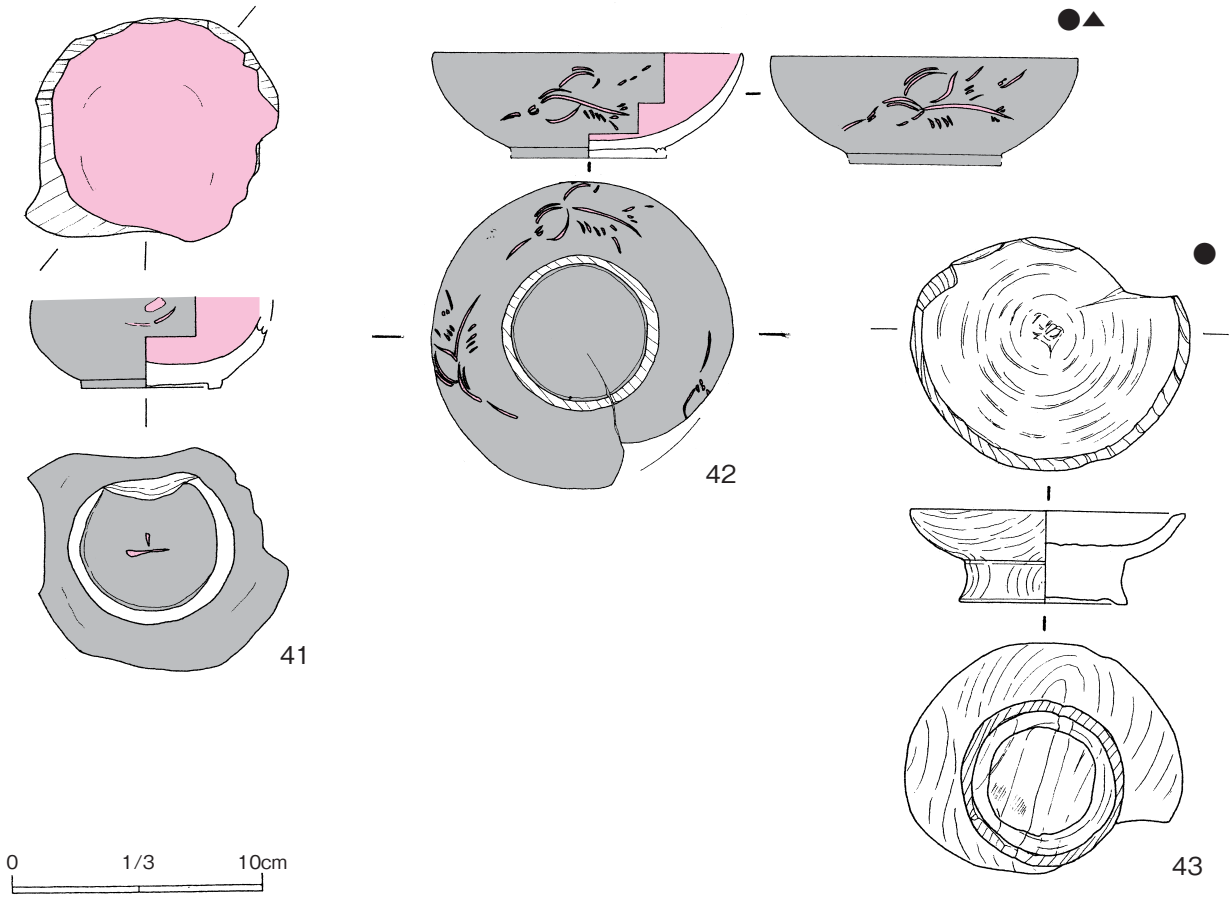


第66図　木製品類 9

1号堀

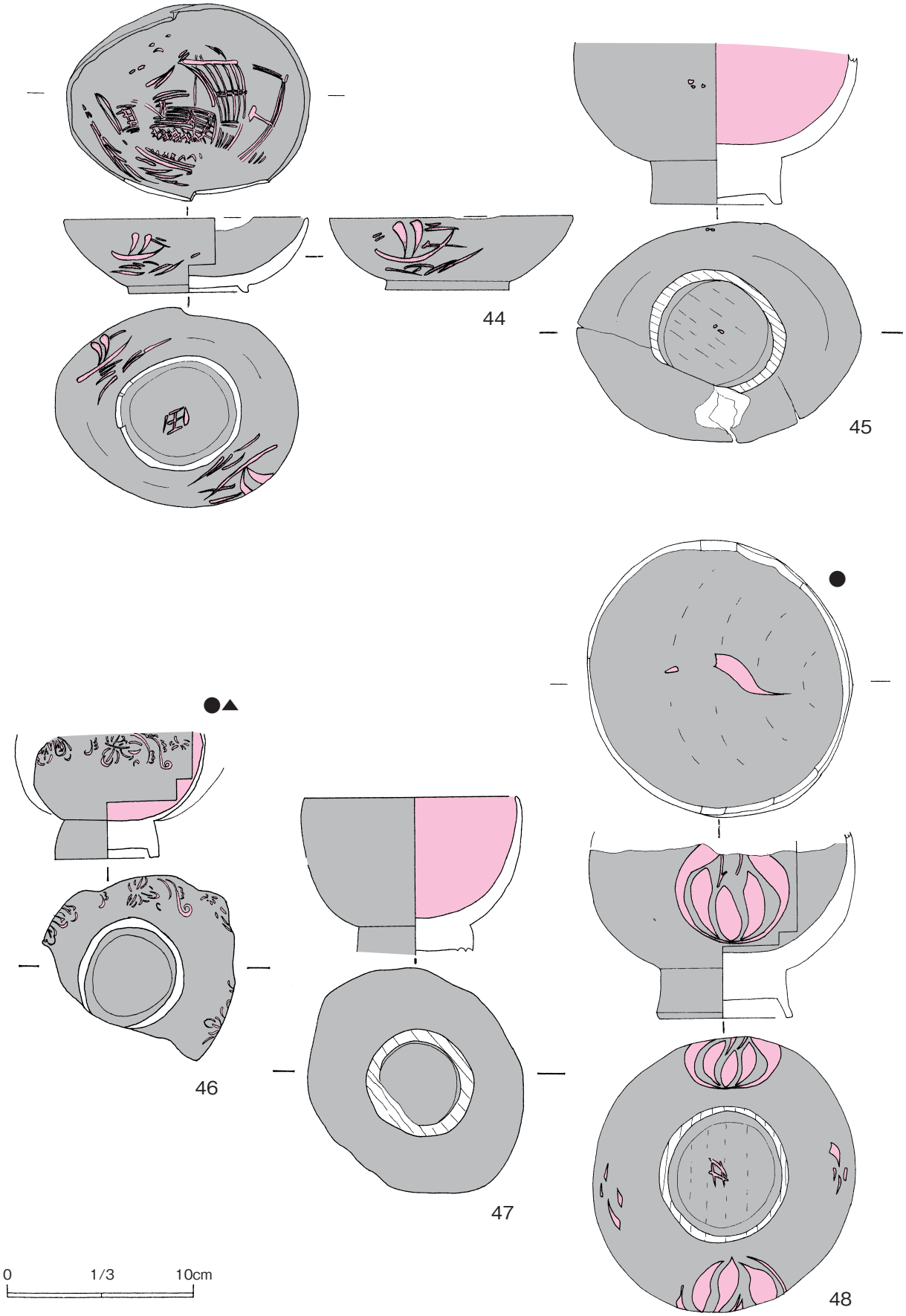


6号堀㋑～㋥地点



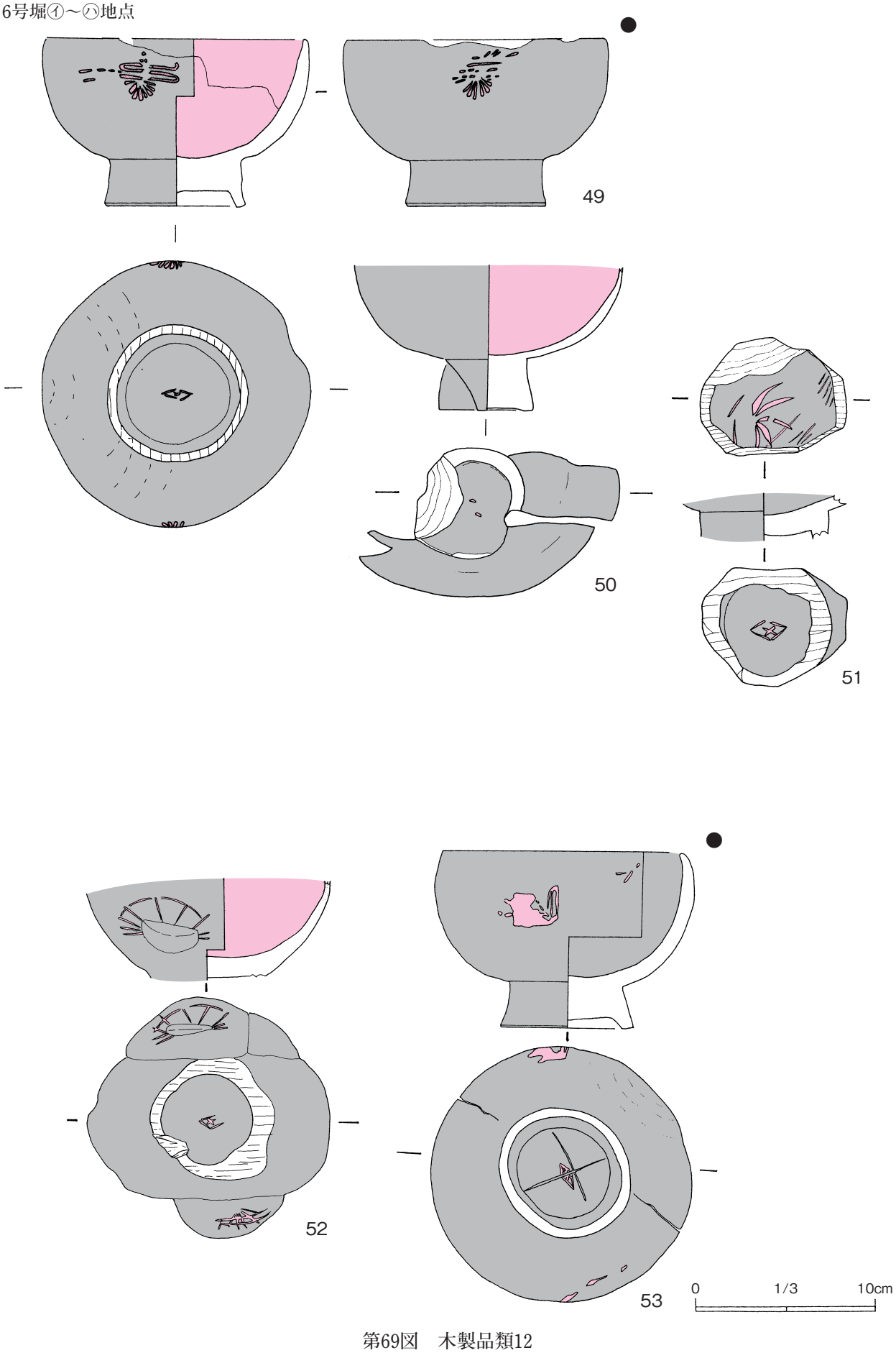
第67図　木製品類10

6号堀㋑～㋩地点



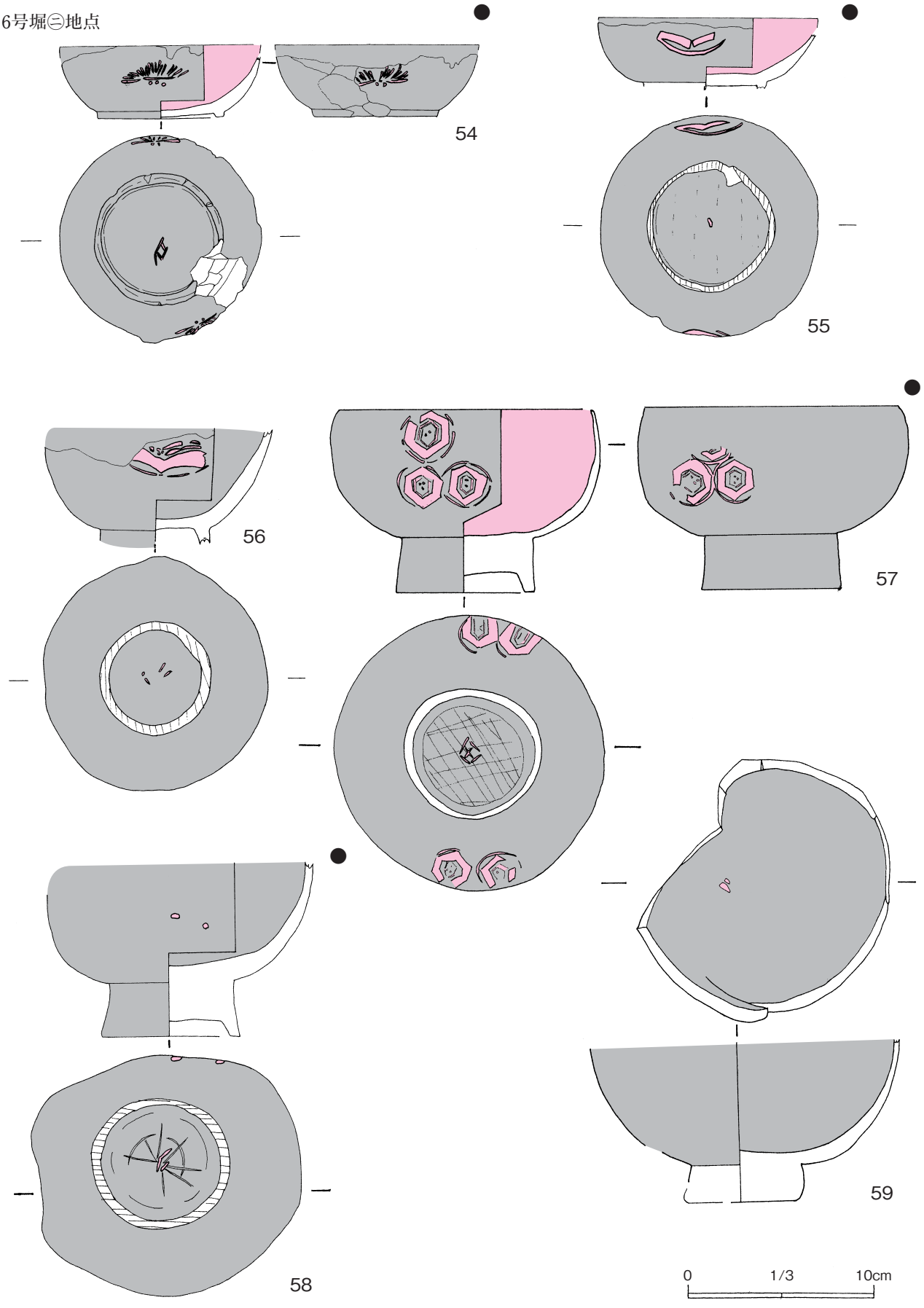
第68図　木製品類11

6号堀㋑～㋩地点

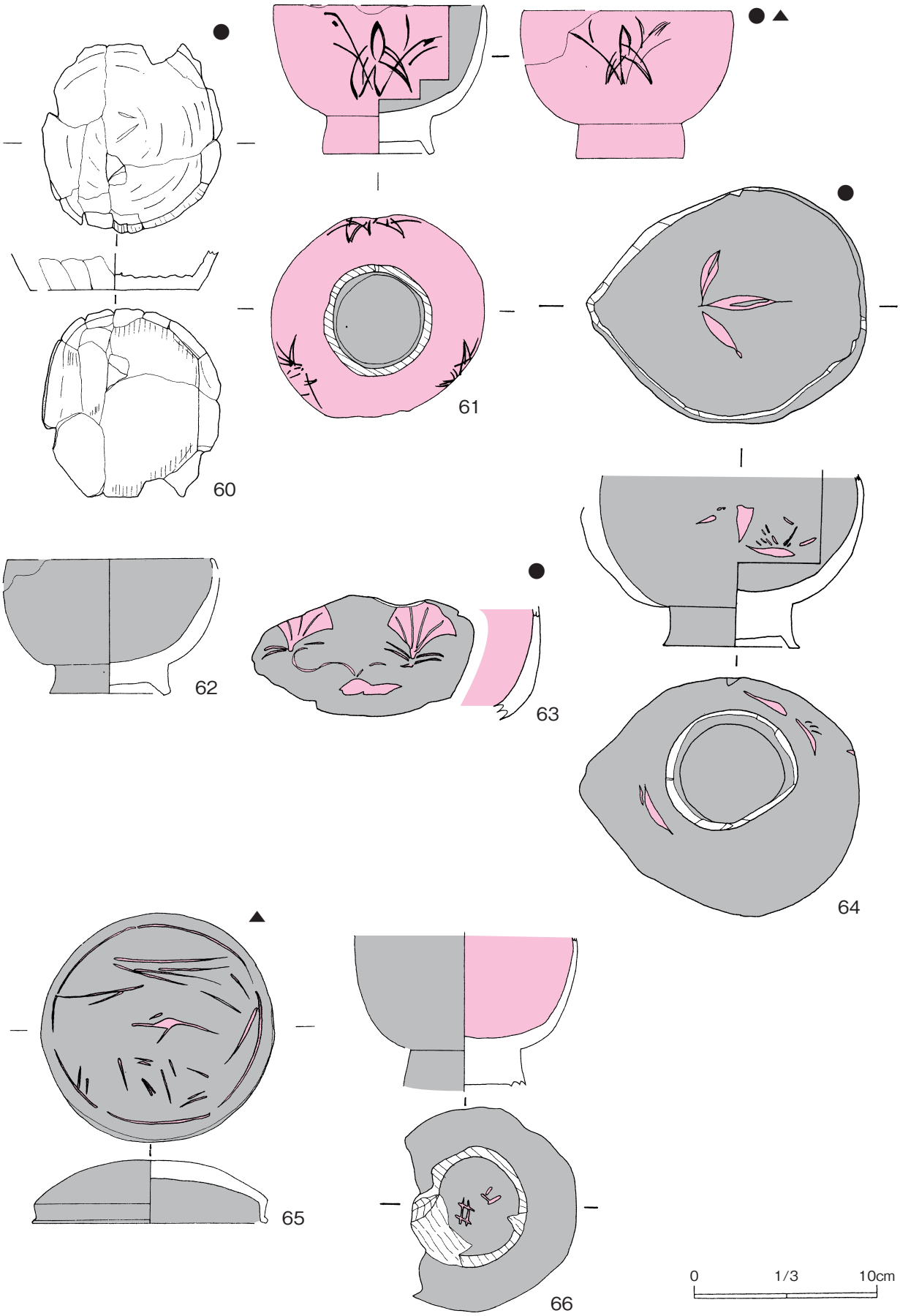


第69図　木製品類12

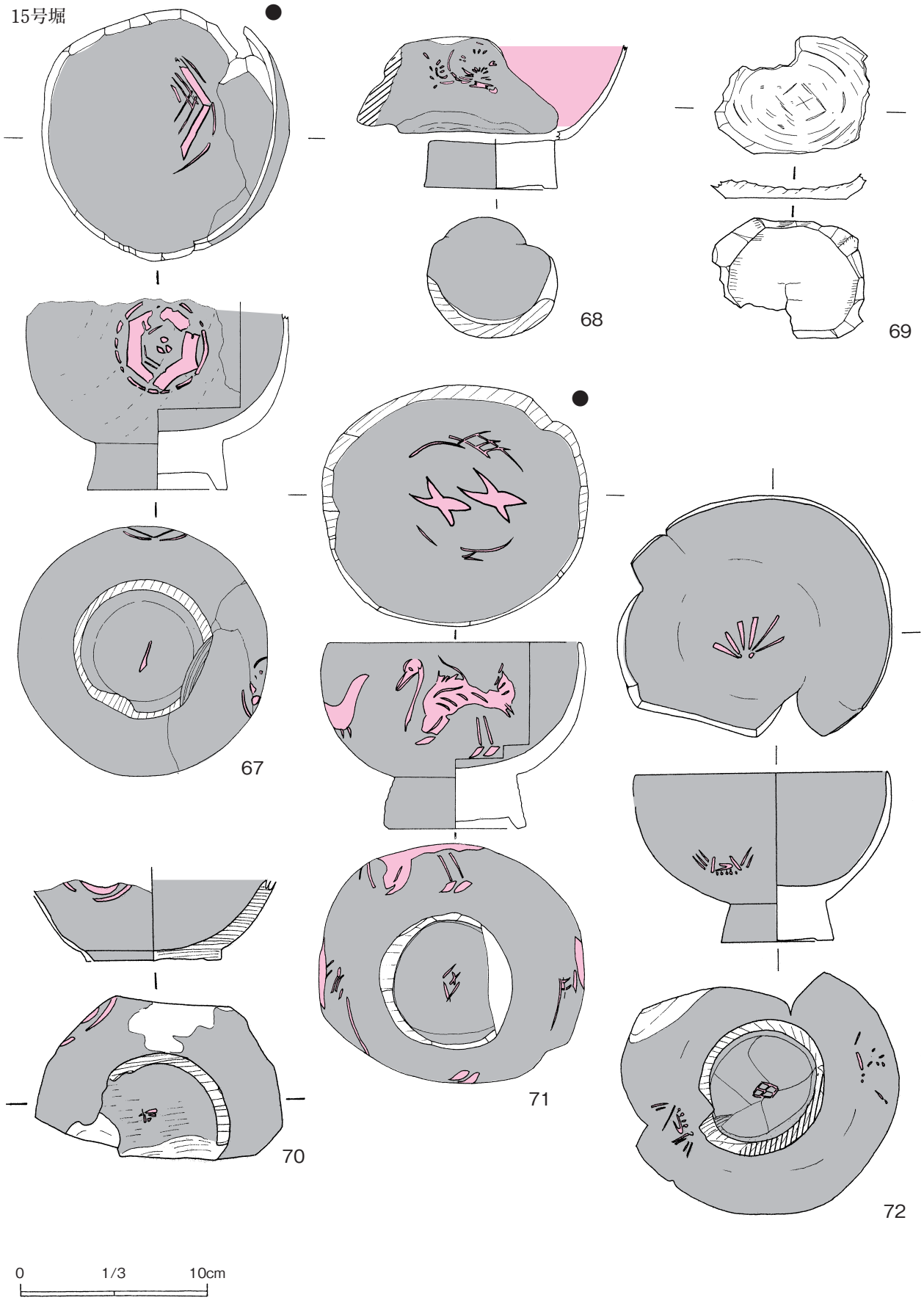
6号堀㈢地点



第70図　木製品類13

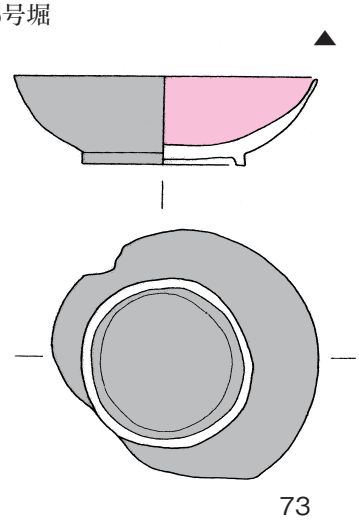


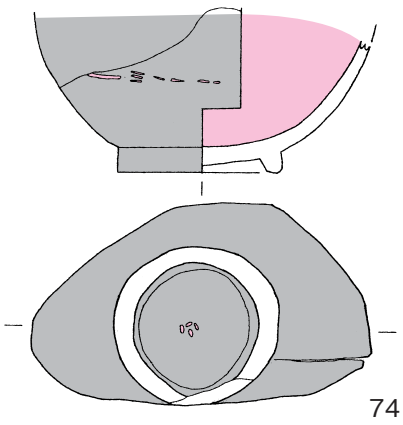
第71図　木製品類14

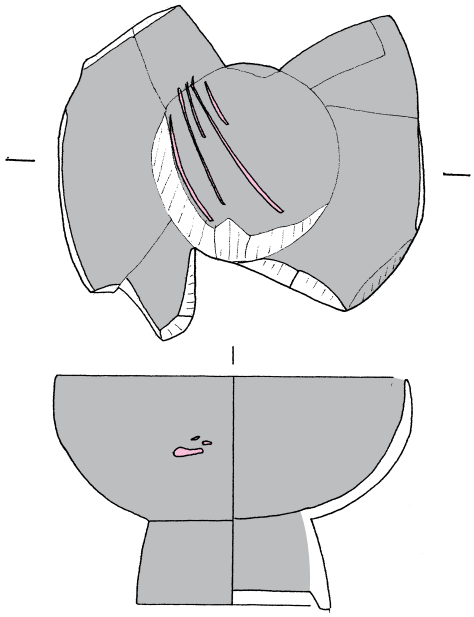


第72図　木製品類15

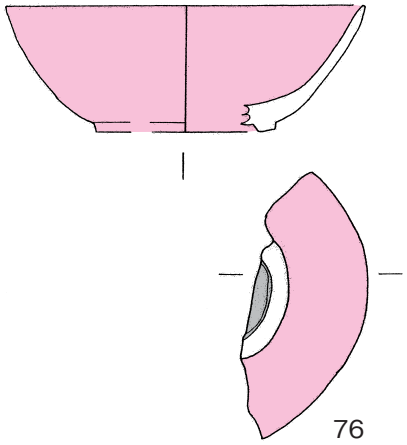
16号堀



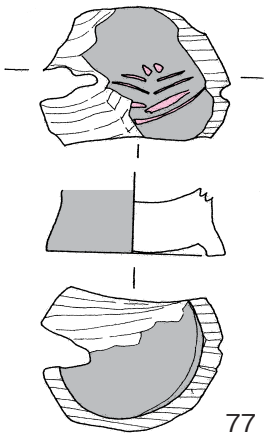


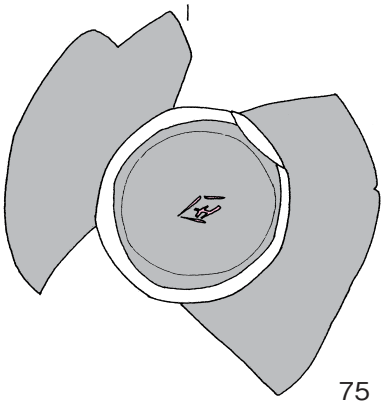


29号堀

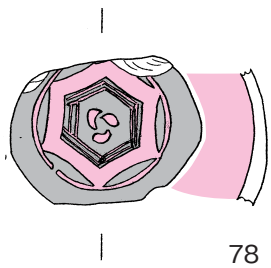


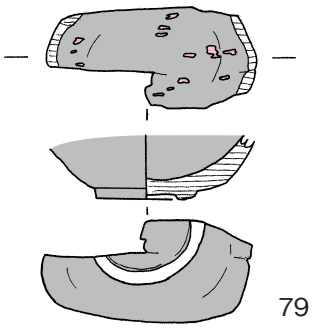
30号堀

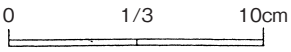




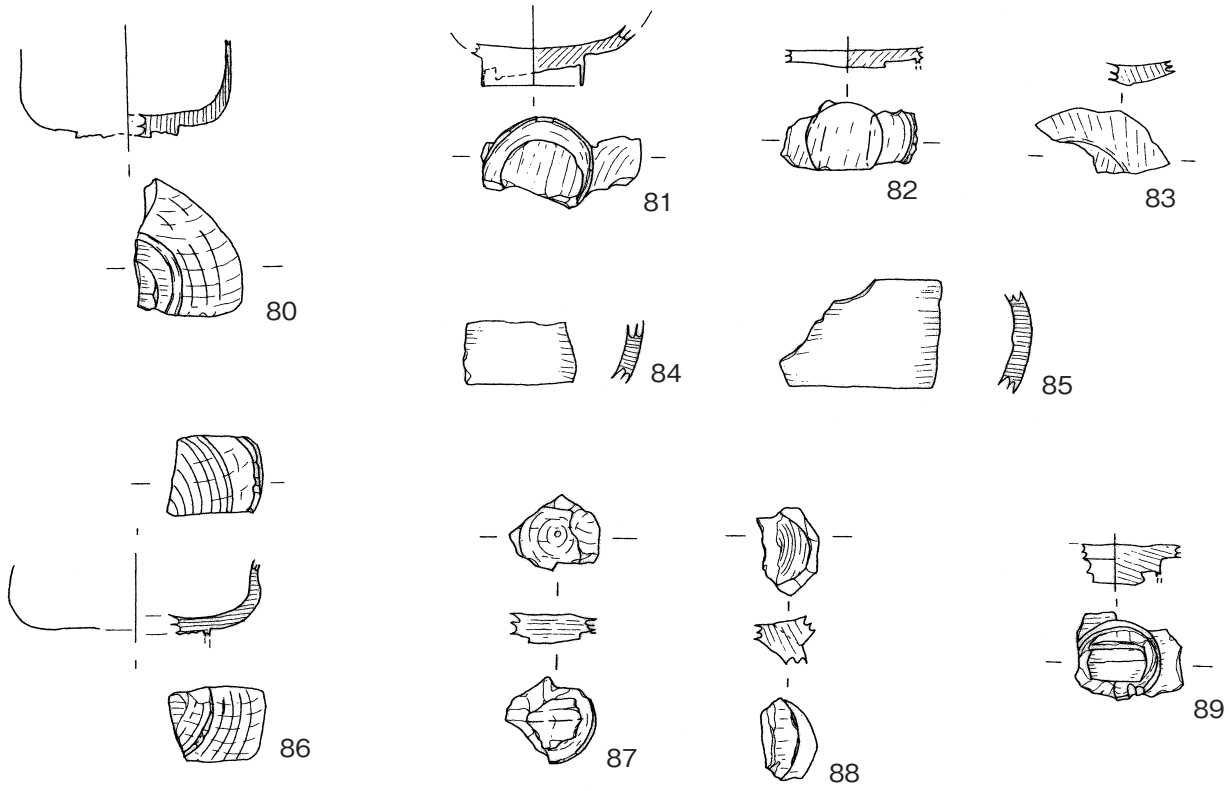
C区一括



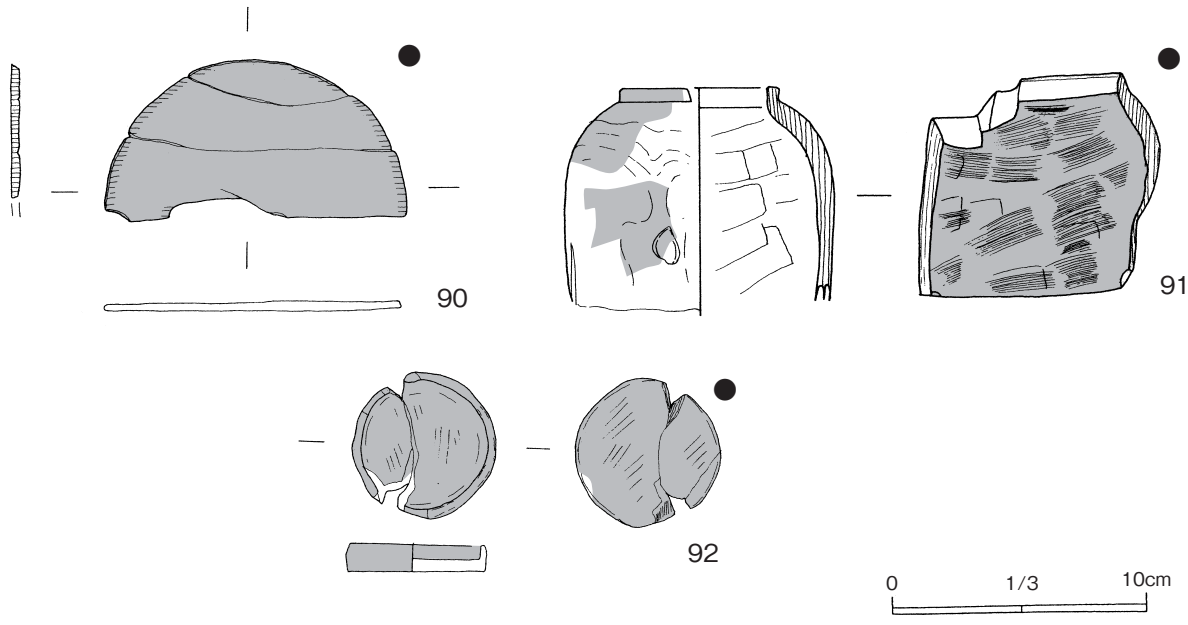




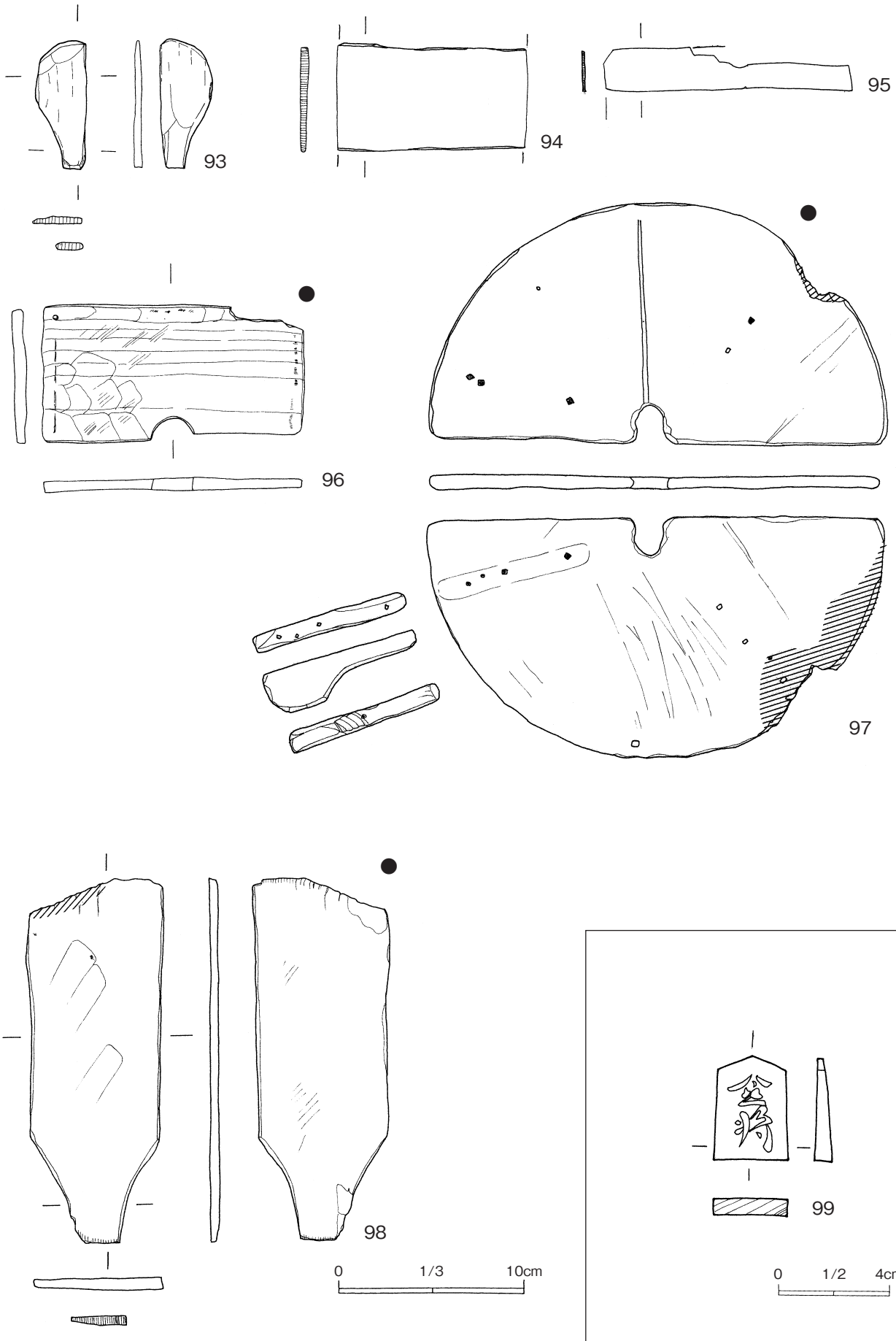
第73図　木製品類16



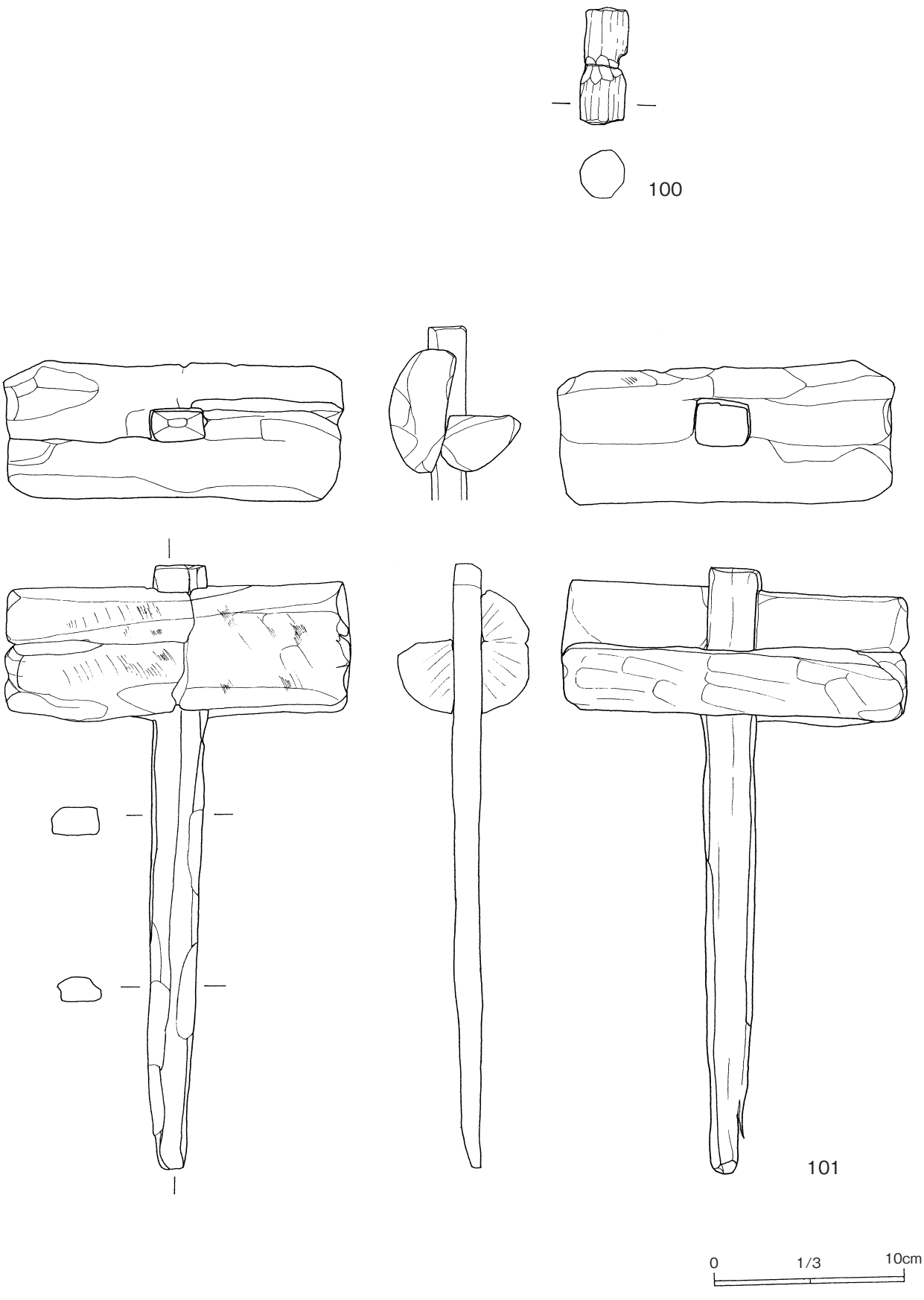
※80～89　炭化椀



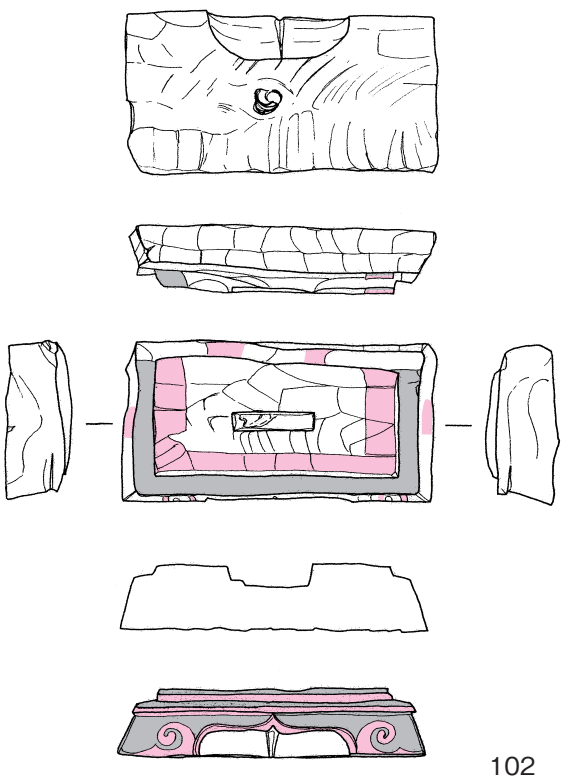
第74図　木製品類17

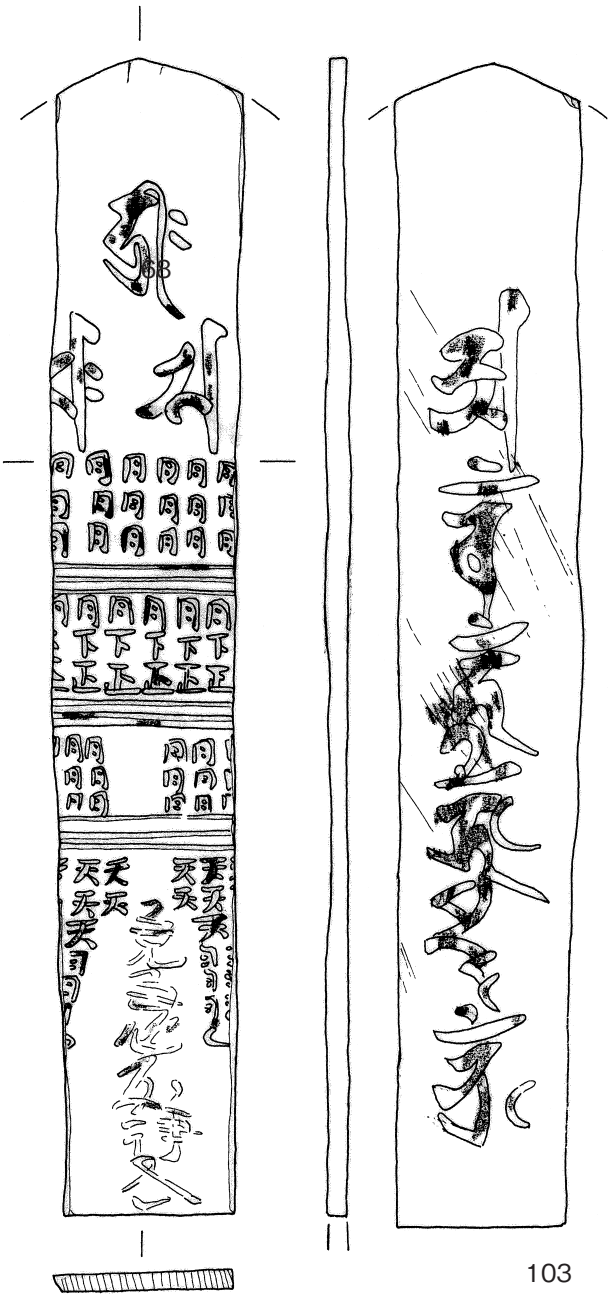


第75図　木製品類18

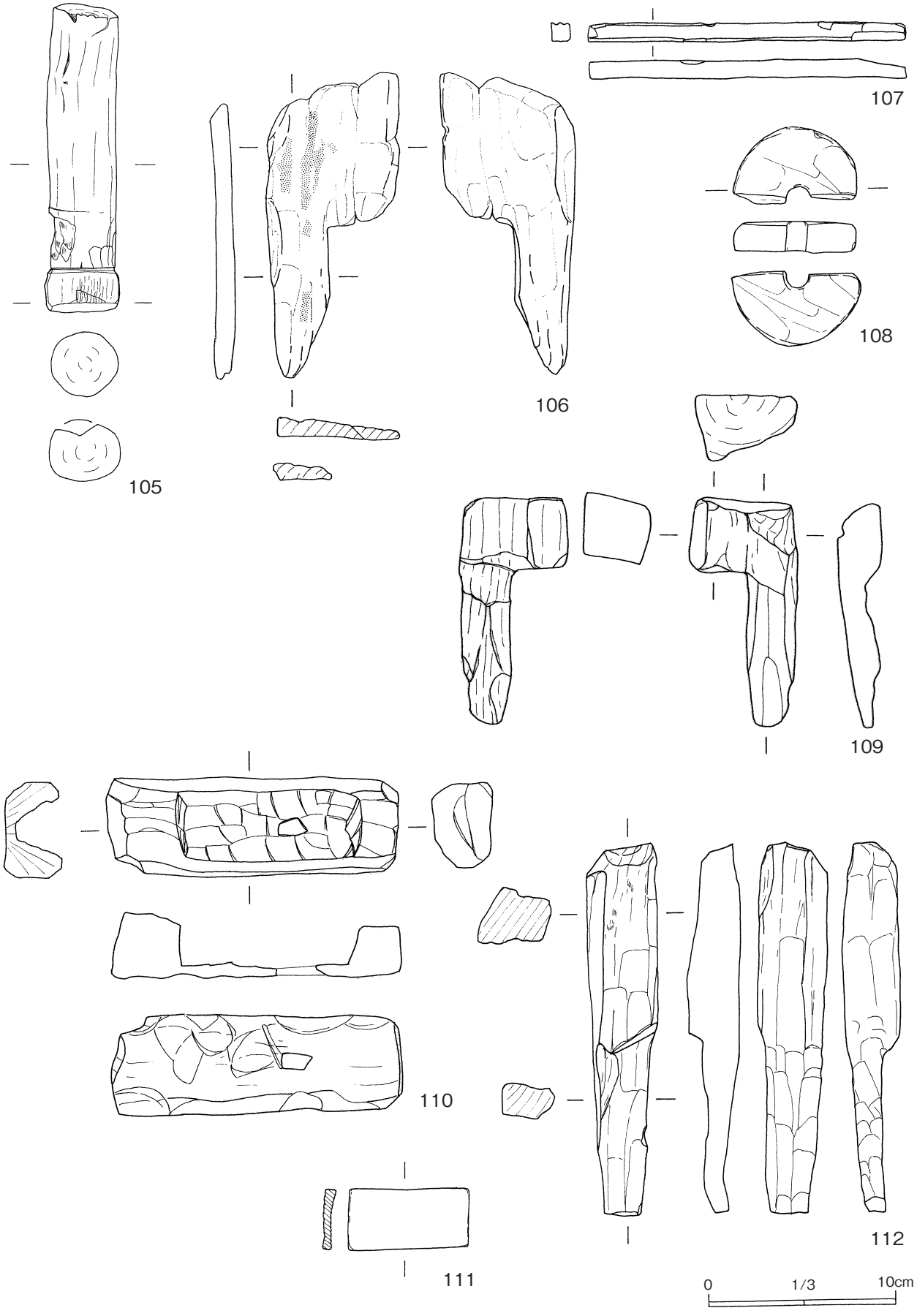


第76図　木製品類19

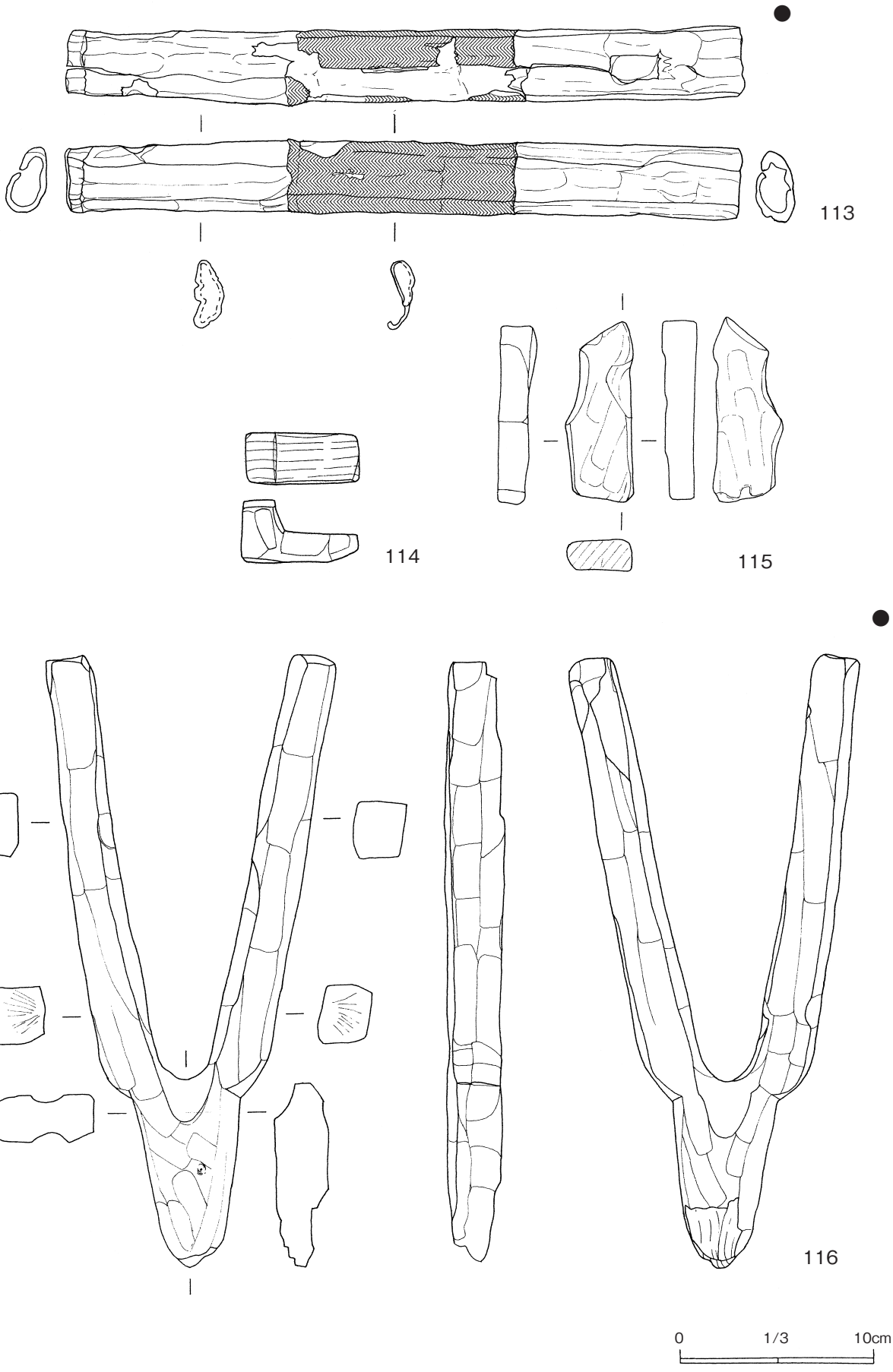




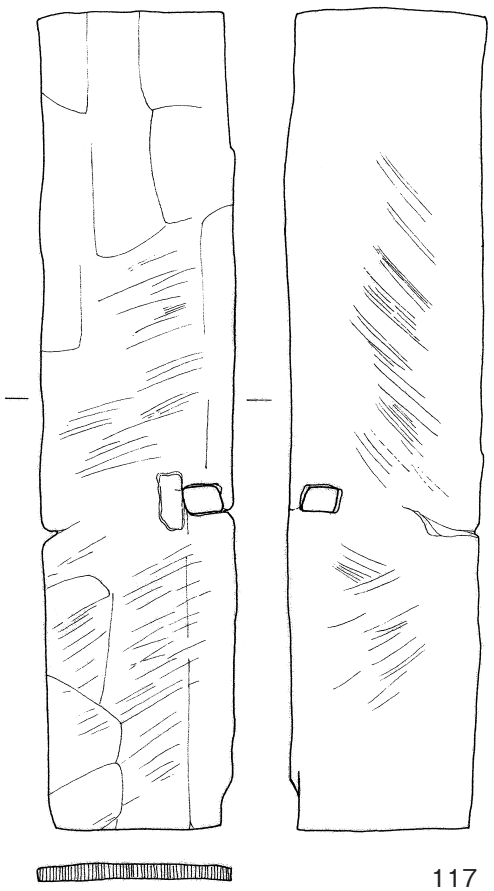
第77図　木製品類20

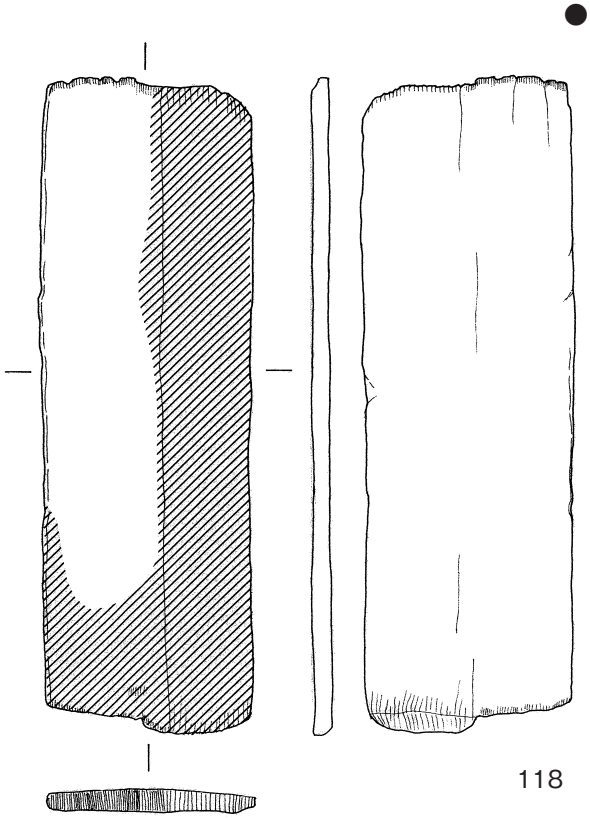


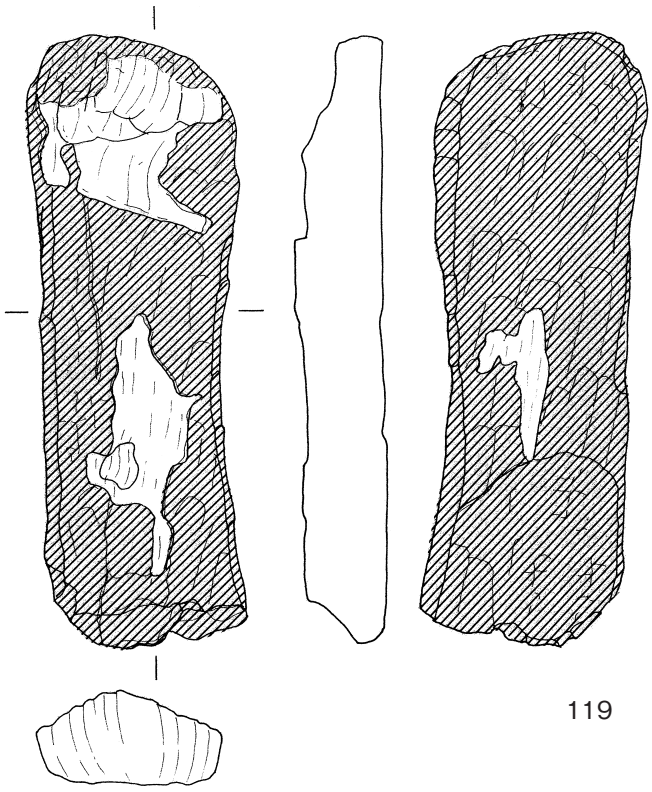
第78図　木製品類21

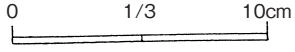


第79図　木製品類22

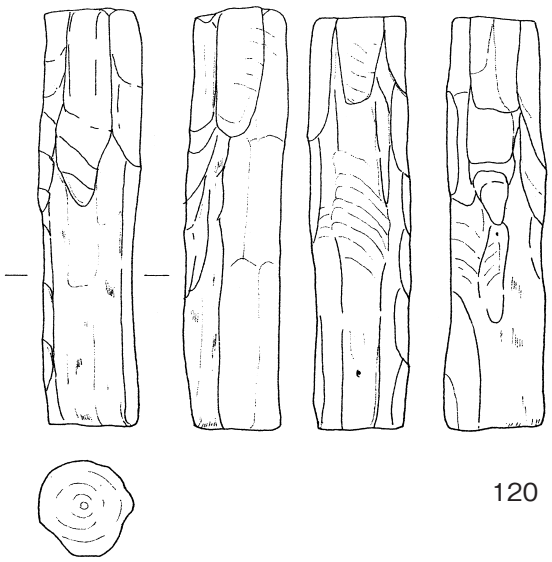


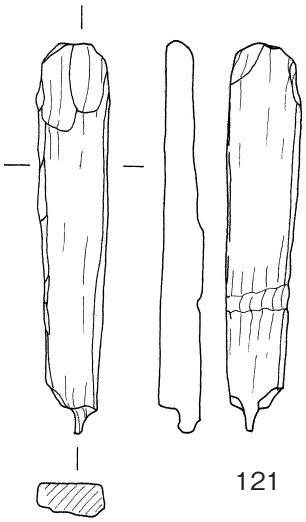


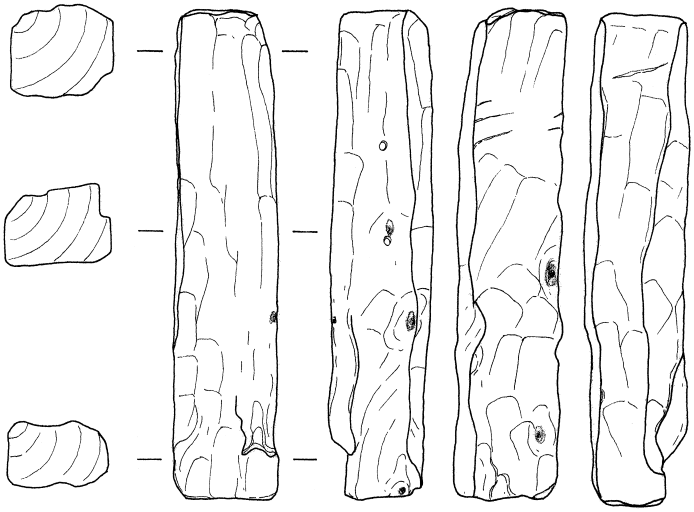


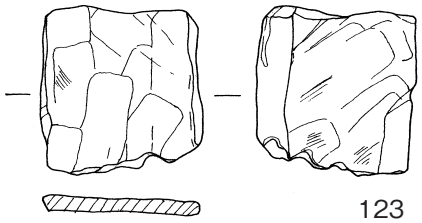


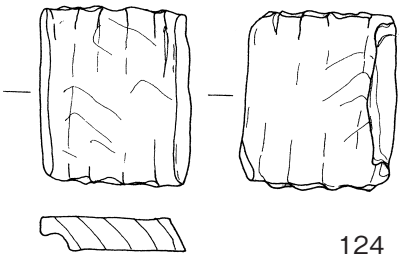
第80図　木製品類23

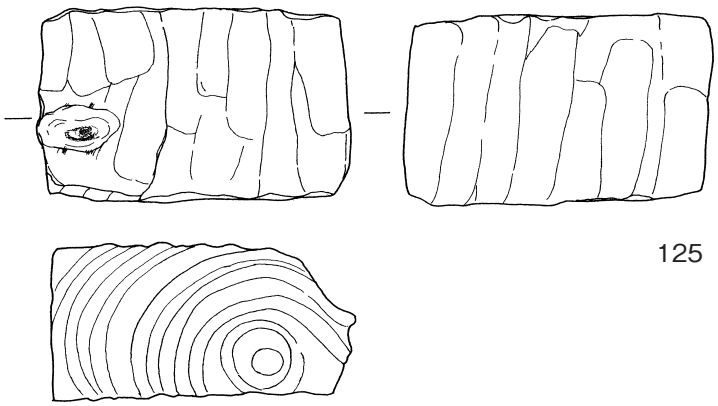


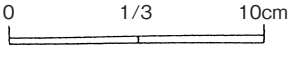




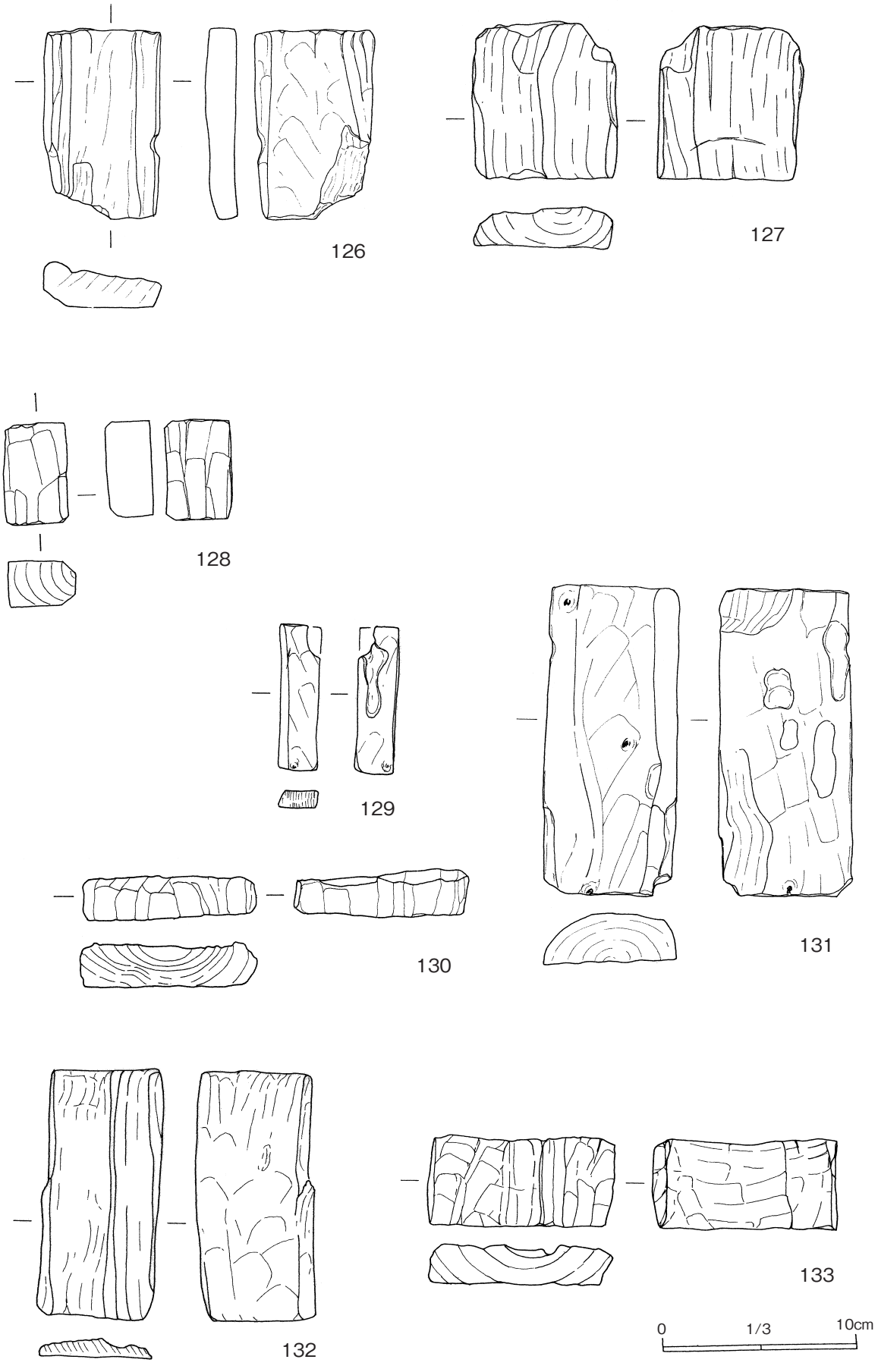






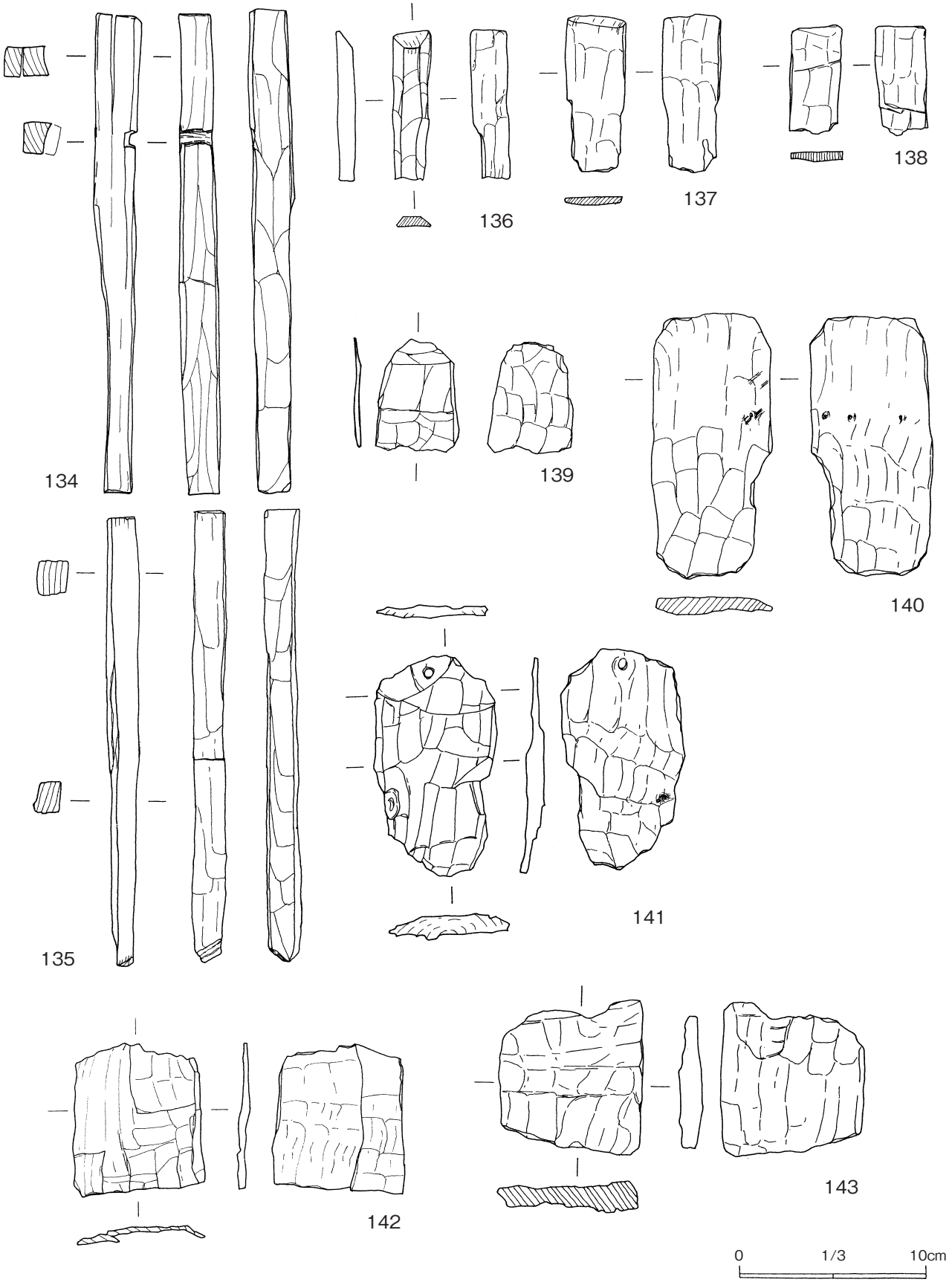


第81図　木製品類24

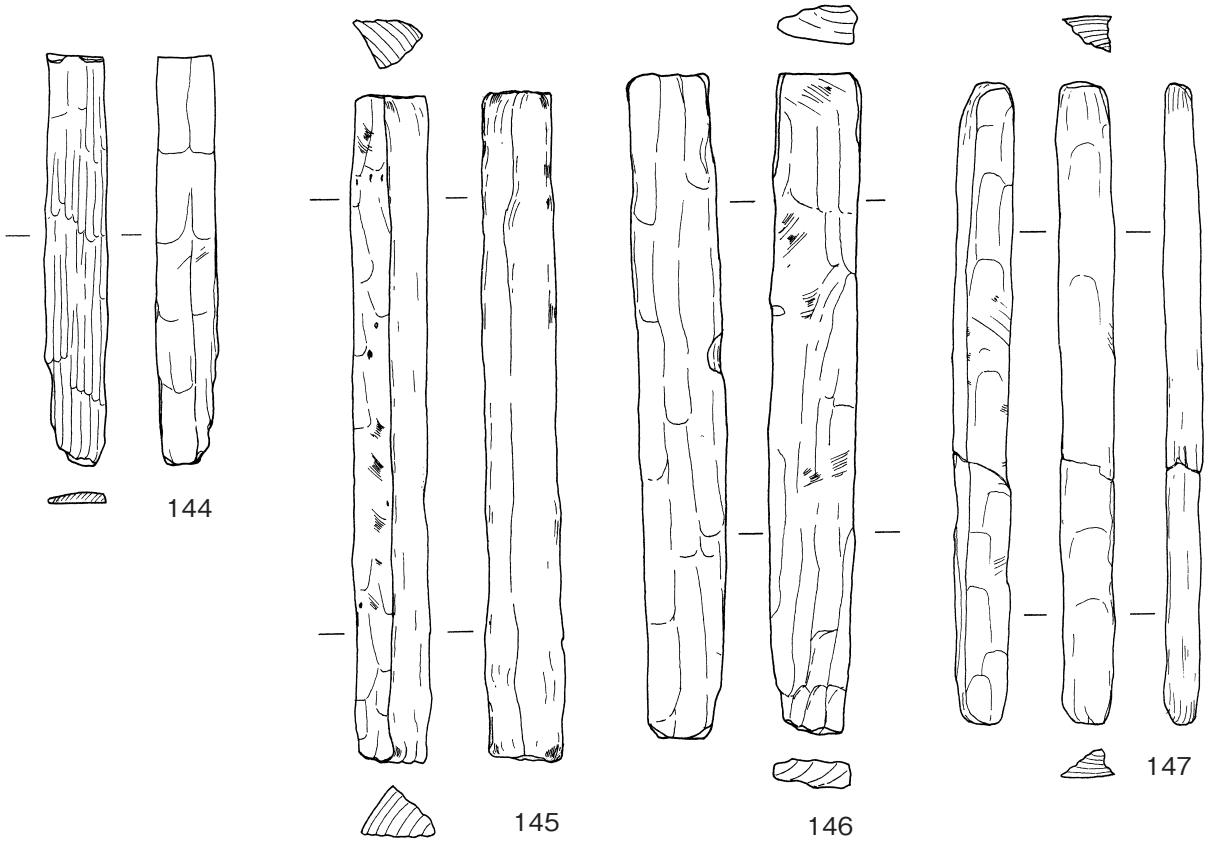


第82図　木製品類25

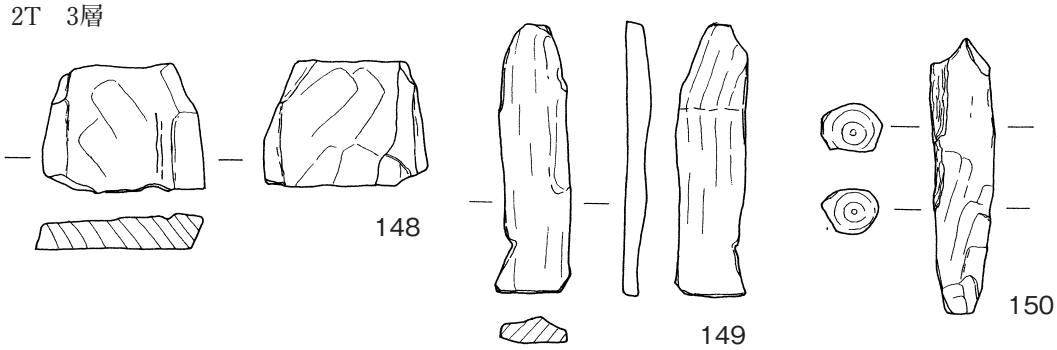
22号井戸



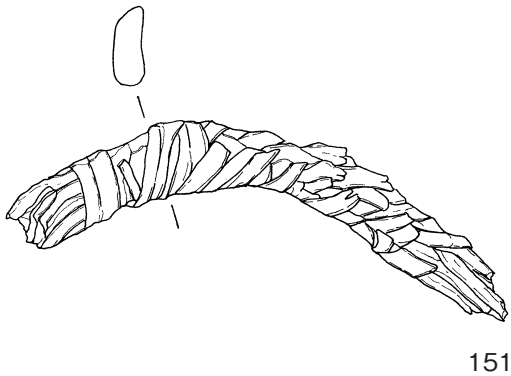
第83図　木製品類26



C区　2T　3層



7号堀



第84図　木製品類27

図№太字は保存処理済　　（ ）は残存値

図№	遺物名	出土地点	法量(cm)	特徴	樹種	備考	遺物ID (661-0705)	保存処理№
1	下駄	C区6号堀 (7層ヵ)	長さ18.5/幅9.5/高さ7.2	連歯下駄。節が多い。台表は丁寧な加工	スギ	歯の一部炭化。前歯無し。切り込みあり	-0019-0095	056
2	下駄	C区9号堀中層	長さ21.2/幅8.0/高さ(2.7)	連歯下駄。緒穴は方形か	広葉樹	右緒穴と歯は欠損。台裏の一部炭化	-0019-0098	057
3	下駄	C区16号堀中層	長さ(7.4)/幅(4.6)/高さ5.7	連歯下駄か		歯の一部のみ。小破片。詳細不明	-0019-0165	
4	下駄	C区16号堀中層	長さ(12.3)/幅(5.7)/厚さ(1.5)	連歯下駄		後緒穴付近の小破片。台のみ。台裏状態不良	-0019-0127	
5	下駄	B区22号号堀㊦	長さ18.0/幅8.7/厚さ3.9	連歯下駄。緒穴は方形	クリ	前歯欠損。後歯は摩耗ヵ。台表一部炭化	-0019-0138	221
6	下駄	B区側溝(22号堀ヵ)	幅13.0/高さ9.4/厚さ1.8	差歯下駄の歯。上部に切り込みあり	ケンポナシ属	大型の歯。歯は片減りヵ	-0019-0152	367
7	鍋敷板ヵ	C区6号堀8層№614/7層№663	長さ(20.6)/幅15.0/厚さ1.2	中央部、円形に炭化、面を整える	ツガ属	2地点の破片が接合	-0019-0044/0052	295
8	桶－側板	D区1号堀7層№161	長さ13.0/幅5.0/厚さ1.2	板目取り			-0019-0003	322
9	桶－側板	D区1号堀7層№479	長さ(11.4)/幅7.4/厚さ1.0	板目取り。棒を通す円形の孔あり		大きく欠損。広く炭化	-0019-0156	
10	桶－側板	D区1号堀7層№480	長さ24.4/幅5.6/厚さ1.8	板目取り		外面炭化	-0019-0157	327
11	桶－側板ヵ	D区1号堀7層№415	長さ(7.7)/幅8.1/厚さ1.8	板目取り		破片。両面炭化。反りが無いため板材の可能性あり	-0019-0017	
12	桶－側板	D区1号堀7層№484	長さ(16.6)/幅5.1/厚さ1.5	板目取り。大きな節あり		両面炭化。大きく欠損	-0019-0158	
13	桶－底板	D区1号堀8層№397	径12.0/厚さ1.5	片面に暗褐色付着物あり、未分析		底板の一部。片面に筋、転用ヵ。側面の状態悪し	-0019-0016	
14	桶－側板	C区6号堀5層№524	長さ(10.0)/幅(6.0)/厚さ1.1	板目取り		一部欠損。劣化が著しく、詳細不明	-0019-0029	
15	桶－側板	C区6号堀5層№708	長さ(9.3)/幅5.2/厚さ1.2	板目取り		先端欠損、一部炭化。16と接合	-0019-0063	326
16	桶－側板	C区6号堀5層№668	長さ(13.8)/幅6.2/厚さ1.6	板目取り		一部欠損、片面炭化。15と接合	-0019-0054	
17	樽－側板ヵ	C区6号堀8層№540	長さ(20.8)/幅14.5/厚さ1.4	かなり大型。板目取り		大きく欠損。両面炭化	-0019-0036	
18	桶－側板	C区6号堀8層№494	長さ(16.4)/幅5.5/厚さ1.0	板目取り		両端欠損。広く炭化	-0019-0025	
19	桶－底板ヵ	C区6号堀9層№621	径24.4/厚さ1.2	側面に木釘あり		一部炭化	-0019-0045	323
20	桶－側板	C区6号堀9層№622	長さ25.0/幅8.1/厚さ0.9	板目取り		保存処理前の状態悪く、詳細不明	-0019-0046	324
21	桶－側板	C区6号堀7層No766	長さ(19.7)/幅6.7/厚さ0.9	板目取り。木目が詰まる	モミ近似種	片面炭化。一部欠損	-0019-0067	344
22-1	桶－側板	C区9号堀中層	長さ(15.4)/幅8.2/厚さ1.0	板目取り		状態悪く、乾燥した痕跡あり	-0019-0099-1	
22-2	桶－側板	C区9号堀中層	長さ(15.6)/幅6.5/厚さ1.0	板目取り		状態悪く、乾燥した痕跡あり	-0019-0099-2	
22-3	桶－側板	C区9号堀中層	長さ(15.1)/幅(5.0)/厚さ0.9	板目取り、片面に付着物あり、未分析		状態悪く、乾燥した痕跡あり	-0019-0099-3	
23	曲物－底板	C区9号堀下層	径10.0/厚さ0.7	柾目取り		一部欠損	-0019-0103	
24	桶－側板	C区15号堀上層	長さ25.6/幅3.5/厚さ1.4	節を丁寧に削り整える	スギ	あまり反りがない。25と接合ヵ	-0019-0113-1	345-1
25	桶－側板	C区15号堀上層	長さ25.5/幅3.0/厚さ1.7	節を丁寧に削り整える		あまり反りがない。一部炭化。24と接合ヵ	-0019-0113-2	345-2
26	桶－底板	C区15号堀上層	径14.4/厚さ1.2	断面に木釘痕が残る		含水率高く、劣化進行中	-0019-0162	
27	桶－側板	C区15号堀中層	長さ(15.6)/7.5/厚さ1.3	棒の通し穴の痕跡ヵ。円形の孔あり		含水率高く、崩壊寸前	-0019-0116	
28	桶－側板	C区16号堀中層	長さ(12.5)/幅(2.6)/厚さ1.0	板目取り。外面には加工痕有り		内面の状態悪く、詳細不明	-0019-0166	
29	曲物－底板	23号井戸	径15.0/厚さ0.6	非常に薄い。柾目取り		含水率高く、破片化し、崩壊	-0019-0148	
30-1	桶－側板	C区4号井戸	長さ16.2/幅6.7/厚さ1.0	板目取り	スギ	一部欠損。側板9枚の中の1枚	-0019-0144-1	339-1
30-2	桶－側板	C区4号井戸	長さ16.6/幅4.8/厚さ1.1	板目取り。大きな節が残る		側板9枚の中の1枚	-0019-0144-2	339-2

第23表　木製品一覧表1

図№太字は保存処理済　　（ ）は残存値

図№	遺物名	出土地点	法量(cm)	特徴	樹種	備考	遺物ID (661-0705)	保存処理№
30-3	桶－側板	C区4号井戸	長さ16.3/幅4.4/厚さ1.2	板目取り。大きな節が複数あり		側板9枚の中の1枚	-0019-0144-3	339-3
30-4	桶－側板	C区4号井戸	長さ16.3/幅2.7/厚さ1.0	板目取り		側板9枚の中の1枚。保存処理前の状態不良	-0019-0144-4	339-4
30-5	桶－側板	C区4号井戸	長さ16.8/幅5.2/厚さ1.5	板目取り。節が残る。タガの痕跡明確		側板9枚の中の1枚	-0019-0144-5	339-5
30-6	桶－側板	C区4号井戸	長さ16.4/幅6.3/厚さ1.2	板目取り。タガの痕跡、整形痕、明確		側板9枚の中の1枚	-0019-0144-6	339-6
30-7	桶－側板	C区4号井戸	長さ16.5/幅5.7/厚さ1.3	板目取り。タガの痕跡明確		側板9枚の中の1枚	-0019-0144-7	339-7
30-8	桶－側板	C区4号井戸	長さ16.8/幅4.5/厚さ1.0	板目取り。節が残る		乾燥の痕跡あり。側板9枚の中の1枚	-0019-0144-8	339-8
30-9	桶－側板	C区4号井戸	長さ16.8/幅3.8/厚さ1.2	板目取り。整形痕、明確		側板9枚の中の1枚	-0019-0144-9	339-9
30-10	桶－底板	C区4号井戸	径19.0/厚さ1.5	断面に木釘が良く残る。板目取り	スギ	3枚に分かれている	-0019-0144-10	339-10
30-11	桶－タガ	C区4号井戸	幅0.7	竹か		後に破片化	-0019-0143	
31	漆椀	D区1号堀5層№198	口径13.5/器高9.6/高台径7.5	内面赤色外面黒色。胴部に「松」、高台裏も赤色で施文か	アサダ	胴部文様は実測以前の写真を参考に復元	-0019-0007	168
32	漆椀	D区1号堀5層№313	口径不明/器高(3.0)/高台径5.3	内面赤色外面黒色。施文は不明。薄い	ブナ属	遺存状態悪く、歪む	-0019-0010	333
33	漆椀片	D区1号堀5層№432	計測できず	内外面黒色、見込みに鳥文、「鶴ヵ」		含水率高く崩壊。崩壊前の写真から平面図を作成	-0019-0020	
34	漆椀	D区1号堀7層№391	口径13.0/器高5.7/高台径6.3	内面赤色外面黒色。「松葉」を施文か、浅い椀	カツラ	口縁部大きく欠損。取り上げ当初の写真から文様を復元	-0019-0008	169
35	漆椀	D区1号堀7層№485・488	口径等不明/器高(6.0)	内外面黒色。胴部外面に赤色で「鶴と亀」。低い高台		高台は僅かに残る。含水率高く崩壊寸前。以前の写真を参考に実測	-0019-0159	
36	漆椀	D区1号堀7層№475	口径不明/器高(8.9)/高台径7.2	内面赤色外面黒色。胴部外面、「鶴・亀」、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文	クリ	大きく欠損	-0019-0023	360
37	漆椀	D区1号堀7層№426	口径11.6/器高4.4/高台径6.4	内外面赤色、高台裏のみ黒色。器壁薄く、浅い椀	不明	口縁部大きく欠損。漆分析済み	-0019-0019	118
38	漆椀片	D区1号堀7層№212	口径不明/器高(2.8)/高台径6.0	内面不明、外面黒色。高台裏に赤色で「上ヵ」		高台周辺の破片。内面炭化。大きく歪む	-0019-0009	
39	白木皿	D区1号堀8層№394	口径10.0/器高1.3/底径6.6	外面に面取り、内面のロクロ痕も明確	トチノキ	状態悪く、歪む	-0019-0014	254
40	漆椀片	D区1号堀8層№434	口径不明/器高(3.8)/高台径7.0	内面赤色外面黒色。施文の有無は不明		破片化、高台部のみ実測。含水率高く劣化進行、詳細不明	-0019-0021	
41	漆椀	C区6号堀5層№528	口径不明/器高(3.0)/高台径5.0	内面赤色外面黒色。胴部外面の一部と高台裏に赤色で施文。高台裏は「上ヵ」		口縁部大きく欠損。含水率高く崩壊	-0019-0031	
42	漆椀	C区6号堀7層№697	口径12.2/器高4.2/高台径6.2	内面赤色外面黒色。胴部外面に赤色で施文、意匠は不明。高台裏も赤の痕跡	ケヤキヵ＊	一部欠損。漆分析済み	-0019-0061	062
43	白木高盤ヵ	C区6号堀7層№675	口径10.8/器高6.4/器高3.8	高盤形。ロクロ目が明確。芯持ち材を使用	クリ		-0019-0055	161
44	漆椀	C区6号堀7層№689	口径12.0前後/器高3.8/高台径6.3前後	内外面黒色。見込み・胴部に「船」、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文		全体に大きく歪む、見込みの漆の剥落著しい	-0019-0059	039
45	漆椀	C区6号堀7層№722	口径不明/器高(8.8)/高台径7.0	内面赤色外面黒色、胴部外面・高台裏に赤色の痕跡		口縁部大きく欠損。漆の剥落著しい。大きく歪む	-0019-0064	411
46	漆椀	C区6号堀8層№594	口径不明/器高(6.9)/高台径6.0	内面赤色外面黒色。胴部外面に「唐草草花」を赤色で施文	ケヤキ	大きく欠損し、歪む。漆分析済み	-0019-0042	219
47	漆椀	C区6号堀8層№587	口径11.0/器高(8.2)/高台径6.0	内面赤色外面黒色。施文は確認できず		大きく楕円に歪む。高台端部欠損。、崩壊寸前	-0019-0041	

第24表　木製品一覧表 2

図№太字は保存処理済　　（ ）は残存値

図№	遺物名	出土地点	法量(cm)	特徴	樹種	備考	遺物ID (661-0705)	保存処理№
47	漆椀	C区6号堀8層 №587	口径11.0/器高(8.2)/高台径6.0	内面赤色外面黒色。施文は確認できず		大きく楕円に歪む。高台端部欠損。、崩壊寸前	-0019-0041	
48	漆椀	C区6号堀8層 №676	口径不明/器高(9.4)/高台径7.4	内外面黒色。胴部外面の2単位は「丸に鶴」、高台裏は「四つ菱」。赤色で施文	クリ ヵ *	口縁部大きく欠損。大型椀	-0019-0056	063
49	漆椀	C区6号堀№609	口径14.0/器高9.2/高台径8.0	内面赤色外面黒色。胴部外面に「菊水」、高台裏に「四つ菱」、赤色で施文	クリ ヵ *	漆の剥落著しい。大型椀	-0019-0043	060
50	漆椀	C区6号堀8層 №545	口径不明/器高(8.0)/高台径5.4	内面赤色外面黒色。高台裏に赤色の痕跡		大きく欠損。含水率高く崩壊寸前、詳細不明	-0019-0037	
51	漆椀	C区6号堀8層 №685	口径不明/器高(2.3)/高台径6.5	内外面黒色。見込みに「笹ヵ」、高台裏は「四つ菱」。赤色で施文		高台周辺のみ残存。遺存状態非常に悪し	-0019-0057	
52	漆椀	C区6号堀9層 №536	口径不明/器高(5.5)/高台径6.2	内面赤色外面黒色。胴部外面に「扇」、高台裏に「四つ菱」。赤色で施文		口縁部、高台端部欠損。含水率高く崩壊寸前	-0019-0033	
53	漆椀	C区6号堀9層 №633	口径13.2/器高9.7/高台径7.3	内面外面黒色。胴部外面に施文、意匠は不明。高台裏に「四つ菱」、その後線刻。赤色で施文。	クリ	漆の剥落著しい	-0019-0048	068
54	漆椀	C区6号堀7層 №774	口径11.0/器高(4.0)/高台径7.0	内面赤色外面黒色。胴部外面に「松葉」、高台裏に「四つ菱」。赤色で施文	ハンノキ属	口縁部大きく欠損、漆の状態も不良	-0019-0070	361
55	漆椀	C区6号堀7層 №778	口径12.0/器高(4.0)/高台径6.8	内面赤色外面黒色。胴部外面に赤色で施文、「幾何学文ヵ」。高台裏にも赤色の痕跡	スギ	口縁部欠損著しい	-0019-0074	292
56	漆椀	C区6号堀㊀7層	口径不明/器高(6.4)/高台径6.0	内外面黒色。胴部に赤色で施文、意匠は不明。高台裏にも赤の痕跡、「四つ菱ヵ」		含水率高く崩壊寸前	-0019-0088	
57	漆椀	C区6号堀7層 №762	口径14.9/器高9.8/高台径7.4	内面赤色外面黒色。胴部外面に「花亀甲」、高台裏に「四つ菱」。赤色で施文。高台内に細かい線あり	ブナ属	大型椀	-0019-0066	119
58	漆椀	C区6号堀7層 №769	口径不明/器高(9.6)/高台径7.6	内外面黒色。胴部外面に赤色の痕跡。高台裏に赤色で「四つ菱」と線刻	トチノキ	口縁部大きく欠損。全体に楕円形に歪む	-0019-0068	293
59	漆椀	C区6号堀7層 №775	口径不明/器高(8.5)/高台径6.4	全体に漆剥落、内面は黒色か。見込みに、わずかに赤色の痕跡		大きく欠損。含水率高く、崩壊寸前。高台裏は詳細不明	-0019-0071	
60	白木皿	C区6号堀8層 №792	径11.00/高さ(2.0)	内面のロクロ痕が明確、外面は面取り	エノキ属	口縁部欠損	-0019-0081	355
61	漆椀	C区6号堀8層 №777	口径11.4/器高8.0/高台径6.0	内面黒色外面赤色高台裏黒色。胴部に赤色の「沢瀉」	カツラ ヵ *	口縁部の一部欠損。漆分析済み	-0019-0073	064
62	漆椀	C区6号堀8層 №798	口径11.0/器高7.0/高台径6.6	内外面黒色。施文は確認できず		大きく欠損。漆の剥落著しい	-0019-0084	389
63	漆椀	C区6号堀8層	厚さ0.5	内面赤色外面黒色。胴部に赤色で「朝顔」を施文	トチノキ	胴部小破片	-0019-0094	171
64	漆椀	C区6号堀8層 №788	口径≒15.0/器高(10.0)/高台径7.5	内外面黒色。見込みに赤色で「南天」、外面は「笹ヵ」	クリ	大きく歪む。漆の剥落著しい	-0019-0079	170
65	漆合子蓋	C区9号堀下層	口径13.8/器高3.5	内外面黒色。天井部に「線と鳥」を赤色で施文		外面の漆は剥落箇所あり。漆分析済み	-0019-0100	040
66	漆椀	C区9号堀下層	口径不明/器高(7.0)/高台径6.6	内面赤色外面黒色。胴部・見込みに施文は確認できず。高台裏に赤色で「井上ヵ」		口縁部、高台欠損。内面の漆剥落進行。含水率高く崩壊	-0019-0101	

第25表　木製品一覧表 3

図№太字は保存処理済　　（ ）は残存値

図№	遺物名	出土地点	法量(cm)	特徴	樹種	備考	遺物ID (661-0705)	保存処理№
67	漆椀	C区15号堀上層	口径不明/器高(10.3)/高台径7.6	内外面黒色。胴部に「花亀甲」、見込みは「亀甲」の省略形ヵ、高台裏に「一」を赤色で施文	クリ	口縁端部欠損。大型椀	-0019-0112	306
68	漆椀	C区15号堀中層	口径不明/器高(7.5)/高台径7.0	内面赤色外面黒色。胴部に赤色で「松」。高台裏の施文は不明		含水率高く、詳細不明。写真撮影時には胴部破片崩壊。一部炭化	-0019-0114	
69	白木皿	C区15号堀下層	口径不明/器高1.4/底径6.8	全体に荒削り。内面にロクロ痕残る。外面は面取り		含水率高く、実測後崩壊	-0019-0123	
70	漆椀	C区15号堀下層	口径不明/器高(4.2)/高台径7.2	内外面黒色。胴部外面に赤色で施文、「幾何学文ヵ」。高台裏には赤の痕跡		大きく欠損。全体に歪む	-0019-0119	434
71	漆椀	C区15号堀下層	口径13.6/器高10.0/高台径7.8	内外面黒色。胴部・見込み・高台裏に赤色で施文。胴部は「鶴ヵ」。見込みは「双鳥」、高台裏は「四つ菱」	ブナ属ヵ＊	口縁部を大きく欠損	-0019-0117	059
72	漆椀	C区15号堀下層	口径14.5/器高9.0/高台径6.0	内外面黒色。胴部・見込み・高台裏に赤色で施文、見込みは「松葉ヵ」。高台裏は「四つ菱」、他の意匠は不明		含水率高く崩壊寸前、高台裏に施文については、当初の写真から確認	-0019-0118	
73	漆椀	C区16号堀中層	口径12.0/器高3.5/高台径6.5	内面赤色外面黒色。施文は確認できず		大きく欠損。含水率高く崩壊寸前。漆分析済み	-0019-0129	
74	漆椀	C区16号堀中層	口径不明/器高(6.2)/高台径6.5	内面赤色外面黒色。胴部外面・高台裏に赤色で施文、「四つ菱ヵ」		口縁部大きく欠損。同時取り上げ胴部破片より「菊水」の可能性がある	-0019-0130	430
75	漆椀	C区16号堀中層	口径14.0/器高9.0/高台径7.8	内外面黒色。見込み・高台裏に赤色で施文、胴部は赤の痕跡。高台裏は「四つ菱」、他の意匠は不明		含水率高く劣化進行中。破片化	-0019-0128	
76	漆椀	B区29号堀	口径13.0/器高5.5/高台径7.0	内外面赤色、高台裏黒色。施文は確認できず		含水率高く、実測後崩壊	-0019-0140	
77	漆椀	B区30号堀	口径不明/器高(2.7)/高台径7.0	内外面黒色。見込みに赤色で施文意匠は不明。高台裏に赤色で「四つ菱」の記録あり		高台のみ残存。漆の剥落著しい	-0019-0142	
78	漆椀片等	C区	口径、高台径不明/器高(2.0)	内面赤色外面黒色。胴部に赤色で「花亀甲」		胴部破片	-0019-0154	416
79	漆椀片	C区	口径不明/器高(2.5)/高台径3.8	内外面黒色か。内面に赤色の痕跡、施文か		高台のみ残存含水率高く崩壊寸	-0019-0153	
80	炭化椀片	C区15号堀	口径9.2/器高(3.5)/高台径4.0	ロクロの爪痕除去中か		底部周辺破片	-0019-0191	
81	炭化椀片	C区3C層	口径不明/器高(2.4)/高台径4.0	ロクロの爪痕除去中か		底部周辺破片	-0019-0193	
82	炭化椀片	C区3C層	口径・底径不明/器高(1.0)	ロクロの爪痕除去中か		底部周辺破片	-0019-0194	
83	炭化皿片ヵ	C区3C層	口径・底径不明/器高(1.0)			底部小破片	-0019-0195	
84	炭化椀片	C区5C層	口径等不明/厚さ0.6			胴部破片	-0019-0189-2	
85	炭化椀片	C区5C層	口径等不明/厚さ0.7			胴部破片	-0019-0189-1	
86	炭化椀片	C区5C層	口径不明/器高(2.8)/高台径6.0	ロクロの爪痕除去中か		底部破片	-0019-0190	
87	炭化椀片	C区2T	口径・底径不明/器高(1.7)	ロクロの爪痕除去中か		底部破片	-0019-0197	
88	炭化椀片	C区2T	口径・底径不明/器高(1.9)	内面にロクロ痕残る		底部破片	-0019-0196	

第26表　木製品一覧表 4

図№太字は保存処理済　　（ ）は残存値

図№	遺物名	出土地点	法量(cm)	特徴	樹種	備考	遺物ID (661-0705)	保存処理№
89	炭化椀片	C区	口径不明/器高1.5/高台径3.8	ロクロの爪痕除去中か		底部破片	-0019-0192	
90	漆器(円形板)	C区6号堀8層№637	径12.0/厚さ0.3	両面黒色。非常に薄い	ヒノキ	用途不明	-0019-0050	253
91	漆塗り容器ヵ	C区6号堀7層	口径6.2/器高(8.2)	内外面黒色。内面にハケのような痕跡	イヌガヤ	破片。節がある。使用できたか疑問	-0019-0092	163
92	漆器(円盤状)	B区	径5.6/高さ1.1	内外面黒色。縁が高い	広葉樹	用途不明	-0019-0151	362
93	ヘラ状製品	C区9号堀	長さ(7.0)/幅2.8/厚さ0.4	一部面取りあり		小破片のため詳細不明	-0019-0104	269
94	折敷の底板ヵ	C区15号堀下層	長さ10.1/幅(5.6)/厚さ0.4	薄い。折敷の底板か。柾目取り		小破片	-0019-0121	
95	折敷の底板片	C区16号堀	長さ(13.2)/幅(2.3)/厚さ0.2	隅切り折敷の破片。柾目取り		実測後崩壊	-0019-0134	
96	板状製品	C区6号堀7層№780	長さ14.0/幅7.5/厚さ0.6	片側中央に穿孔あり。木釘残る。板目取り	モミ属	箱の蓋ヵ	-0019-0075	366
97	脚付円形板	C区6号堀8層№687	径24.5/厚さ0.8	片側中央に穿孔、1箇所、脚が残る。木釘穴をあり。他に2箇所痕跡あり	サワラ	一部炭化。灯明台の脚部ヵ	-0019-0058	304
98	羽子板	C区6号7層№784	長さ(19.4)/幅7.9/厚さ0.7	柾目取り。非常に薄い	サワラ	一部炭化	-0019-0077	164
99	将棋の駒	D区1号堀7層№418	長さ3.8/幅2.7/厚さ0.6	「金将」の墨書あり、板目取り			-0019-0018	037
100	編具	C区15号堀中層	長さ6.3/径2.4	錘。中央に抉りあり。全面に面取りを施す		含水率高く、変形	-0019-0115	267
101	木槌	D区1号堀7層№494	長さ31.8/幅18.0/柄径2.5×1.5/槌径6.8	槌表面に加工痕あり		一部欠損、明確な使用痕は確認できず	-0019-0006	034
102	位牌の台座	D区1号堀8層№470	幅12.0/奥行6.2/高さ2.6	背面・裏面には彩色なし		正面のみ丁寧に仕上げる	-0019-0022	38
103	呪符	C区6号7層№730	長さ30.8/幅(4.5)/厚さ0.5	表裏に梵字等が書かれている			-0019-0065	35
104	彩色板	C区16号堀	長さ(31.6)/幅(3.2)/厚さ0.5	両面に赤色・黒色で彩色、文様の意匠は不明。柾目取り		欠損し、詳細不明	-0019-0133	36
105	柄ヵ	C区6号堀8層№538	長さ16.8/径3.6	抉りで、柄の部分を作り出している		用途不明	-0019-0035	264
106	板状製品	C区6号堀8層№634	長さ(16.5)/幅(6.5)/厚さ1.1	方形の孔か、切り込みあり。片面の付着物は、未分析のため詳細不明		状態不良で詳細不明	-0019-0049	
107	小角材	C区6号堀9層№533	長さ17.0/幅1.0/厚さ1.0	片面に溝あり、当初のものか不明		含水率高く、詳細不明。何かの部品ヵ	-0019-0032	
108	円形状製品	C区6号堀下層№515	径6.6/厚さ1.6/穿孔径1.2	中央に穿孔、両面加工		半分欠損。含水率高く、崩壊寸前。用途不明	-0019-0026	
109	角材状製品	C区6号堀㊂7層	長さ(12.5)/幅5.8/厚さ2.4	角材をL字に加工。面取りもあり		用途不明	-0019-0169	
110	刳り込み状製品	C区9号堀下層	長さ15.6/幅5.3/高さ3.6	上面中央が彫り込まれている。加工痕明確		含水率高く、崩壊寸前。底が抜ける。硯台の可能性もあり	-0019-0102	
111	板状製品	C区9号堀	長さ(6.4)/(3.3)/厚さ0.6	板目取り。薄い		小破片のため詳細不明	-0019-0171	
112	角材状製品	C区9号堀	長さ(19.1)/幅(3.8)/厚さ3.0	大きく抉る。板目取り。面を整える		製作途中ヵ	-0019-0107	
113	筒状漆製品	3T西堀	長さ(34.5)/幅3.5/厚さ1.5	外面黒色。中央部分に布着せあり	広葉樹	12号堀相当ヵ。一部欠損。用途不明	-0019-0111	058
114	部材ヵ	C区16号堀中層	長さ5.8/幅2.7/厚さ3.1	面取り加工あり。L字状			-0019-0167	
115	板状製品	C区16号堀下層	長さ(9.4)/幅(3.2)/厚さ1.6	明確に抉りあり。丁寧に面を整える。板目取り		小破片で、劣化が進み詳細不明	-0019-0170	
116	二股木製品	C区16号堀中層	長さ31.5/幅14.8/厚さ3.0	片面は丁寧に面取り、反対面は荒れる。	クリ	何かの模造品ヵ	-0019-0126	117
117	板状製品	C区6号堀7層	長さ32.1/幅7.6/厚さ0.6	方形の孔あり。両面に細かい傷あり。薄い		孔は当初のものか不明	-0019-0090	

第27表　木製品一覧表5

図№太字は保存処理済　　（ ）は残存値

図№	遺物名	出土地点	法量(cm)	特徴	樹種	備考	遺物ID (661-0705)	保存処理№
118	板状製品	C区10号堀	長さ(25.5)/幅18.5/厚さ0.5	片面炭化	モミ属	何かの部品ヵ	-0019-0110	365
119	板状製品ヵ	C区16号堀下層	長さ(24.0)/幅7.2/厚さ3.5	全面炭化。片側は平坦に加工		表面に大きな傷あり。製品の可能性もあり	-0019-0132	
120	材/丸棒材	D区1号堀5層№132	長さ16.3/径3.8	大きく削り、面も整えている		加工途中ヵ	-0019-0001	
121	材/板材片	C区6号堀6層№537	長さ(15.2)/幅(2.5)/厚さ1.0	板目取り。劣化進行中で詳細不明		片側端部欠損	-0019-0034	
122	材/角材	C区6号堀7層№698	長さ19.2/幅4.0/厚さ4.0	節が多いが、丁寧に整形		表面の一部が荒れる	-0019-0062	
123	材/板材片	C区6号堀7層№624	長さ(6.5)/幅6.2/厚さ0.6	板目取り。両面の加工痕、明確		含水率やや高い	-0019-0047	
124	材/板材片	C区6号堀9層№558	長さ(6.9)/幅5.7/厚さ1.4	板目取り。簡単な加工あり		欠損あり	-0019-0039	
125	材/角材片	C区6号堀7層№786	長さ5.1/幅8.1/厚さ4.1	芯、節あり。2面は丁寧な加工。		小破片のため詳細不明	-0019-0078	
126	材/板材片	C区6号堀7層№773	長さ(9.8)/幅(6.0)/厚さ1.9	片面の端が縁のように高い		劣化が進行中	-0019-0069	
127	材/板材片	C区6号堀7層	長さ(8.2)/幅7.3/厚さ2.0	内面の反りがないが、桶の側板の可能性もあり		片側端部欠損	-0019-0091	
128	材/角材片	C区9号堀	長さ5.1/幅3.5/厚さ2.2	板目取り。一部加工、面を全体に整える		小破片のため詳細不明	-0019-0105	
129	材/板材片	C区15号堀上層	長さ7.6/幅2.0/厚さ0.9	丁寧に面を整える。柾目取り		一部欠損	-0019-0168	
130	材/角材片	C区15号堀下層	長さ(4.6)/幅9.6/厚さ2.0	両面に丁寧な加工あり。芯持ち材		小破片のため詳細不明	-0019-0122	
131	材/加工材	C区15号堀Ⅲ層	長さ16.0/幅6.8/厚さ2.6	半裁材を加工ヵ。整形した面もあり		一部傷が多い	-0019-0124	
132	材/板材片	C区16号堀下層	長さ12.5/幅(5.8)/厚さ1.0	板目取り。反りを確認できず		乾燥のため縮む	-0019-0131	
133	材/角材片	C区16号堀	長さ2.2/幅8.8/厚さ2.4	両面に丁寧な加工あり。芯持ち材		小破片のため詳細不明	-0019-0136	
134	材/角材	A区22井	長さ25.4/幅2.4/厚さ2.5	1面に抉りあり。2面には丁寧な加工があるが、他の2面は割ったのみか		135と接合ヵ	-0019-0175	
135	材/角材	A区22井	長さ23.8/幅1.9/厚さ1.3	2面には丁寧な加工があるが、他の2面は割ったのみか		134と類似。接合ヵ	-0019-0176	
136	板状製品	A区22井	長さ(7.9)/幅1.8/厚さ0.6	正面を丁寧に整形している。加工痕明確。裏面は、ほぼ割ったまま。板目取り		一部欠損。小破片のため詳細不明	-0019-0183	
137	材/板材片	A区22井	長さ(8.2)/幅3.0/厚さ0.4	両面を丁寧に整える。板目取り		小破片のため詳細不明	-0019-0187	
138	材/板材片	A区22井	長さ(10.6)/幅2.5/厚さ0.5	両面を丁寧に整える。明確な加工痕あり。柾目取りか		小破片のため詳細不明	-0019-0188	
139	材/板材片	A区22井	長さ(5.8)/幅(4.3)/厚さ0.3	非常に薄い。両面とも大きく加工		製品の製作途中ヵ。小破片のため詳細不明	-0019-0185	
140	材/板材片	A区22井	長さ(14.0)/幅6.2/厚さ0.9	節が残るが、周辺を丁寧に加工。加工痕明確。薄い板目取り		裏面劣化進行	-0019-0179	
141	材/板材片	A区22井	長さ(11.8)/幅(6.4)/厚さ1.3	両面を大きく削り加工。板目取り。節あり		製品の製作途中ヵ	-0019-0181	
142	材/板材片	A区22井	長さ(8.1)/幅(6.9)/厚さ0.4	両面を大きく加工し整形。板目取り。非常に薄い		製作途中ヵ	-0019-0182	
143	材/板材片	A区22井	長さ(8.1)/幅(7.4)/厚さ1.6	正面の加工痕、明確。板目取り。片面の加工は特徴的		製作途中ヵ。片面劣化進行	-0019-0180	
144	材/板材片	A区22井	長さ(16.0)/幅2.3/厚さ0.4	非常に薄い。片面は細かい加工で緩やかなカーブに整える。反対面は簡単に整えている。板目取り		片側端部欠損で、詳細不明	-0019-0184	

第28表　木製品一覧表 6

図№太字は保存処理済　　（ ）は残存値

図№	遺物名	出土地点	法量(cm)	特徴	樹種	備考	遺物ID (661-0705)	保存処理№
145	材/割材	A区22井	長さ26.1/幅2.9/厚さ2.0	みかん割りのまま。一部整形あり			-0019-0178	
146	材/割材	A区22井	長さ26.3/幅3.3/厚さ1.1	粗い面取り。擦痕少しあり		みかん割り材から製品への加工途上ヵ	-0019-0177	
147	材/割材ヵ	A区22井	長さ(25.2)/幅2.0/厚さ1.4	1面のみ、丁寧に整える。他の2面は割ったのみ。線あり、ケビキ線ヵ		2片に割れる	-0019-0186	
148	材/板材片	C区　2T　3層	長さ(5.0)/幅(6.0)/厚さ1.4	厚い。両面に加工痕あり		小破片	-0019-0174	
149	材/板材片	C区　2T　3層	長さ(10.5)/幅(2.6)/厚さ0.6	板目取り、途中で角度がつく		劣化が進行し、詳細不明	-0019-0173	
150	材/丸棒材	C区　2T　3層	長さ(10.8)/径2.5	先端が尖る。加工痕明確		大きく欠損	-0019-0150	
151	籠状製品	C区7号堀下層	幅0.8の樹皮	籠の縁か持ち手。竹製か		状態悪く、実測後崩壊	-0019-0096	
—	漆椀片	D区1号堀6層№396	計測できず	内面赤色外面黒色		胴部破片。含水率高く詳細不明	-0019-0015	
—	漆椀片	D区1号堀7層№504	口径不明/器高(4.0)/高台径5.0	内面赤色、外面・高台裏は漆が剥落。高台裏の「四つ菱」も剥落		含水率高く劣化進行中。破片の大きさから大型椀の可能性あり	-0019-0160	
—	漆椀片	D区1号堀8層№393	口径不明/器高(3.0)/高台径6.0	漆ほとんど剥落、内面は赤色ヵ		高台のみ、含水率高く状態不良	-0019-0013	
—	漆椀片	D区1号堀8層№471	計測できず	内面赤色外面黒色		含水率高く崩壊。破片	-0019-0155	
—	漆椀片	C区6号堀5層№518	計測できず	内外面黒色、厚く大きい破片であることから大型椀の可能性が高い		胴部破片	-0019-0028	
—	漆椀片	C区6号堀5層№557	計測できず	内面赤色外面黒色、破片の大きさと厚さから大型椀の可能性あり		胴部破片	-0019-0038	
—	漆椀片	C区6号堀5層№666	計測できず	内面赤色外面黒色。無高台。盤ヵ、皿ヵ		含水率高く崩壊。破片化	-0019-0053	
—	漆椀	C区6号堀5層№561	口径・器高・高台径不明/厚さ0.6	内外面黒色。胴部外面に赤色の痕跡		漆の剥落著しい、含水率高く崩壊。胴部破片のみ残存	-0019-0040	
—	漆椀片	C区6号堀7層№640	計測できず	内外面赤色、高台裏のみ黒色。低い高台		椀ではなく皿の可能性もあり。高台のみ。含水率高く詳細不明	-0019-0051	
—	漆椀	C区6号堀8層№491	口径・器高不明/高台径6.5	内面赤色外面黒色、外面に赤色で施文。薄手で大きめの椀		破片化。含水率高く崩壊	-0019-0024	
—	漆椀片	C区6号堀8層№693	計測できず	内面赤色外面黒色		胴部破片、含水率高く詳細不明含水率高く崩壊	-0019-0060	
—	漆椀	C区6号堀9層№516	計測できず	内外面黒色、見込みに赤色で施文あり。意匠は不明。低い高台		含水率高く崩壊、特徴は以前の記録から	-0019-0027	
—	漆椀片	C区6号堀㋑	計測できず	内面赤色外面黒色。胴部外面に赤色で「松葉」、高台裏には文字、梵字ヵ。胴部破片厚く。高台低い		漆の剥落進行。含水率高く詳細不明	-0019-0085	
—	漆椀片	C区6号堀㋑	計測できず	内面赤色外面黒色、低い高台か。漆は硬質		高台が僅かに残る小破片	-0019-0086	
—	漆椀片	C区6号堀6層№791㋺	口径不明/器高(1.5)/高台径7.1	外面黒色か。ほとんどが剥落		高台のみ、一部炭化。含水率高く劣化進行	-0019-0080	
—	漆椀片	C区6号堀7層№781㋺	計測できず	外面の一部のみに黒色漆が残る		含水率高く詳細不明、底部付近の破片か	-0019-0076	
—	漆椀	C区6号堀㋺7層	計測できず	内外面黒色、外面に赤色で施文の痕跡、見込みに「幾何学文」、高台裏に「四つ菱」に赤色で施文。低い高台の深めの椀		大きく欠損。含水率高く崩壊	-0019-0089	
—	漆椀片	C区6号堀8層№794㋺	計測できず	内外面黒色、器壁薄い。低い高台		高台が僅かに残る。含水率高く崩壊	-0019-0083	

第29表　木製品一覧表 7

図№太字は保存処理済　　（ ）は残存値

図№	遺物名	出土地点	法量(cm)	特徴	樹種	備考	遺物ID (661-0705)	保存処理№
–	漆椀	C区6号堀8層 №793㊂	計測できず	内外面黒色。高台裏に赤色で「四つ菱」。内面に赤色で施文の痕跡。器壁薄く。高台低い		大きく欠損。含水率高く崩壊	-0019-0082	
–	漆椀片	C区6号堀8層㊂	計測できず	内外面黒色、見込み胴部に「鶴ヵ」、高台裏に「四つ菱」を赤色で施文。低い高台の浅い椀		含水率高く崩壊寸前	-0019-0093	
–	漆椀	C区7号堀3層	計測できず	内面赤色外面黒色、胴部外面に「孤状の線」を赤色で施文		高台欠損。含水率高く崩壊	-0019-0097	
–	漆椀片	C区9号堀	計測できず	内外面黒色。外面に赤色の施文の痕跡		胴部破片、含水率高く崩壊	-0019-0106	
–	漆椀片	C区10号堀中層	計測できず	内外面黒色、胴部に赤色で施文、詳細不明		胴部破片、含水率高く崩壊	-0019-0108	
–	漆椀	C区15号堀下層	計測できず	内外面黒色、見込み、胴部外面に赤色で施文、意匠は不明。破片の大きさから大型椀ヵ		大きく欠損、破片か。含水率高く崩壊	-0019-0120	
–	漆椀片	C区16号堀上層	口径不明/器高(1.3)/高台径6.0	内面赤色外面黒色		底部のみ、高台ほとんど残らず	-0019-0125	
–	漆椀	C区16号堀	計測できず	内外面黒色、高台裏に「四つ菱」、内外面に赤色で施文の痕跡、低い高台の少し深めの椀		含水率高く詳細不明	-0019-0135	
–	漆椀	C区16号堀中層	計測できず	内外面黒色、外面に赤色で施文か。高台低い		劣化進行し、破片化。詳細不明	-0019-0164	
–	漆椀片	B区：22号堀	計測できず	内外面黒色。胴部外面に赤色で「丸に鶴」。破片が大きく厚いため大型椀の可能性あり		胴部破片。含水率高く崩壊	-0019-0139	
–	漆椀片	29号堀㊄	計測できず	内外面黒色、見込みに赤の施文の痕跡		胴部破片。含水率高く崩壊	-0019-0141	
–	漆椀片	C区　2T　3層	計測できず	内面赤色外面黒色、外面に「孤状の線」を赤色で施文		小破片、含水率高く崩壊。14号堀上層に該当ヵ	-0019-0149	
–	漆椀片	KB19(北)	計測できず	内面赤色外面黒色、外面に赤色で施文の痕跡		胴部破片。破片の厚みから大型の椀の可能性有り	-0019-0161	
–	漆塗膜	C区	5×6	モミごと炭化ヵ			-0019-0198	
–	角材片	D区1号堀7層 №176	長さ(9.0)/幅4.8/厚さ2.2	目立った加工痕は確認できず		含水率高く、劣化進行中	-0019-0005	
–	材/板材	D区1号堀6層 №320	長さ(≒23)	切り込みあり		含水率高く、詳細不明	-0019-0012	
–	円形板材	C区10号堀中層	計測できず			含水率高く、崩壊	-0019-0109	
–	材/板材	18号堀	計測できず	含水率高く崩壊		空欄	-0019-0137	
–	竹	D区1号堀8層 №318	長さ(17.2)/径3.0	先端を斜めにカット		含水率高く、崩壊寸前。片側端部欠損	-0019-0011	
–	竹片	C区6号堀7層 №525	長さ6.5/幅1.2～1.5/厚さ0.6	6片に分かれる		破片化。接合箇所の確認ができなかったが、同一個体の可能性が高い	-0019-0030	
–	ひょうたんヵ	D区1号堀7層 №135	無し			破片化	-0019-0002	
–	ひょうたん	C区6号堀ハ6層	無し	外面炭化		破片化	-0019-0087	
–	ひょうたん	C区9号堀	無し			破片化	-0019-0172	

第30表　木製品一覧表 8

（2）自然科学分析－木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 試料

試料はKB19区出土の木製品40点である。試料の詳細は樹種同定結果と共に第31表に表記した。

2 方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切断を作成し、ガム・クロラール（飽水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを制作する。制作したプレパラートは、生物顕微鏡で観察、同定する。

3 結果

樹種同定の結果を第31表に示す。KB19区の木製品は針葉樹7種類（ツガ・ヒノキ・サワラ・モミ近似種・スギ・モミ属・イヌガヤ）、広葉樹9種類（アサダ・カツラ・ブナ属・トチノキ・クリ・ケヤキ・ハンノキ属・エノキ属・ケンポナシ）に分類された。主な解剖学的特徴を以下に示す。

試料3

ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）

ニレ科ケヤキ属

試料は木口面と柾目面の切片が制作できたが、板目面は制作できなかった。環孔材で、孔圏部はほぼ1列、孔圏外で急激に管径を減じた後漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型。高さや配列は不明であるが、木口面・柾目面で観察する限り、8細胞幅以上で30細胞高を超えるものが認められる。放射組織の上下縁辺部には結晶細胞が認められる。

試料4

ケンポナシ属（*Hovenia*）　クロウメモドキ科

環孔材で、孔圏部は2－3列。孔圏外でやや急激に管径を減じたのち、単独または2－3個が放射方向に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1－6細胞幅、1－50細胞高。

試料5

ツガ属（*Tsuga*）　マツ属

軸方向組織は仮道管を主要素とし、他に障害樹脂道が認められる。仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は広い。放射組織は仮道管と柔細胞で構成され、柔細胞壁は柔らかで、じゅず状末端壁が認められる。分野壁はヒノキ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

試料6

モミ近似種（cf. *Abies*）　マツ科

軸方向は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁は、観察した範囲ではらせん肥厚は認められない。放射組織は全体的に保存状態が悪いが、観察した範囲では柔細胞のみで構成され、仮道管は認められない。柔細胞壁は末端壁におけるじゅず状の肥厚の有無や分野壁孔は観察できなかった。放射組織は単列、1～細胞高。

軸方向組織が仮道管のみで構成される種類は、モミ属、コウヤマキ、カヤ、イチイの4種類ある。このうち、カヤとイチイはらせん肥厚を有する。また、コウヤマキは分野壁孔が窓状となる。いずれも今回試料とは特徴がやや異なっており、これらを除外するとモミ属の可能性がある。しかし、厳正のモミ属と比較すると、今回の試料は放射組織の高さが低い。また、保存が悪くじゅず状末端壁の有無が観察できなかったため、今回は近似種とする。

試料9

スギ（*Cyptomeria japonica*（L.f.）D.Don）

スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹枝細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅はやや広い。樹脂細胞が晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2－4個。放射組織

は単列、１－15細胞高。

試料10
トチノキ（*Aesculus tuebnata Blume*）
トチノキ科トチノキ属
試料は保存状態が悪く、切片は柾目面のみ。そのほか、プレパラート中の木材の微少片を観察した。道管は散在状であり、散孔材と考えられる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性階層状に配列する。

試料12
エノキ属（*Celtis*）　ニレ科
試料には数年分の年輪が認められるが、いずれも年輪幅が狭い。環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合し接線・斜方向に帯状に配列するが、年輪が極端に狭い年では小道管があまり観察できないことがある。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん状肥厚が認められる。放射組織は異性、１－８細胞幅、１－50細胞高で鞘細胞が認められる。

試料13
アサダ（*Ostrya japonica Sarg*）　カバノキ科アサダ属
散孔材で、管孔は単独または放射方向に２～４個複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にらせん肥厚が認められる。放射組織は同性～異性Ⅲ型、１－２細胞幅。１－30細胞高。

試料14
ブナ属（*Fagus*）　ブナ科
散孔材で、管孔は単独または放射方向に２－３個が複合して散在し、年輪界付近で形を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織までである。

試料15
カツラ（*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc）
カツラ科カツラ属
散孔材で、管孔は単独または２－３個が複合して散在し、年輪界付近でやや形を減少させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性Ⅱ型、１－２細胞幅、１－30細胞高。

試料16
クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属
環孔材で、孔圏部は２－３列、孔圏外で急激～やや穏やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１－15細胞高。

試料19
ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）
ニレ科ケヤキ属
資料は切片の制作ができず、スライドガラス上で粉砕したものを封入した。ほとんどは柾目面で、木口面の観察はできなかった。道管径の変化から環孔材と判断した。孔圏外の小道管は複数が集まっており、単独のものは認められない。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型で、比較的高い。また、上下縁辺部に結晶細胞が顕著に認められる。

試料23　ハンノキ属（*Alnus*）　カバノキ科
採取できた試料は小片で保存状態が悪い。散孔材で、管孔は単独または２～４個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有するが、壁孔は観察できない。放射組織は同性、単列、１－30細胞高。

試料26　トチノキ（*Aesculus tuebnata* Blume）
トチノキ科トチノキ属
散孔材で器壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または２－３個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。

放射組織は同性、単列。１－15細胞高で階層状に配列する。

試料28　トチノキ（*Aesculus tuebnata* Blume）
トチノキ科トチノキ属

散孔材で道管は単独または２－３個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列。内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１－15細胞高で階層状に配列する。

試料29　クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）
ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は１－３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１－15細胞高。

試料30　クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）
ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は１－４列、孔圏外で急激～やや穏やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１－15細胞高。

試料32
イヌガヤ（*Cephalotaxus harringtonica*（Knight）K. Koch f.）　イヌガヤ科イヌガヤ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。樹脂細胞が早材部及び晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で１分野に１－２個。放射組織は単列、１－10細胞高。仮道管にはらせん肥厚が認められる。

試料33
ヒノキ（*Chamaecyparis obtus*（Sieb. Et Zucc.）Endlcher）

試料は年輪界で割れている。軸方向は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、１分野に１－３個。放射組織は単列、１－15細胞高。

試料35
モミ属（*Abies*）　マツ科

軸方向は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される柔細胞壁は保存が悪いが、垂直壁にじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で１－４個。放射組織は単列、１－20細胞高。

試料36
サワラ（*Chamaecyparis pisifera*（Sieb. et Zucc.）Endlcher）　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅はやや狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ科～ヒノキ型で、１分野に１－３個。放射組織は単列、１－15細胞高。

白木高盤ヵ（木43）

漆椀（木48）

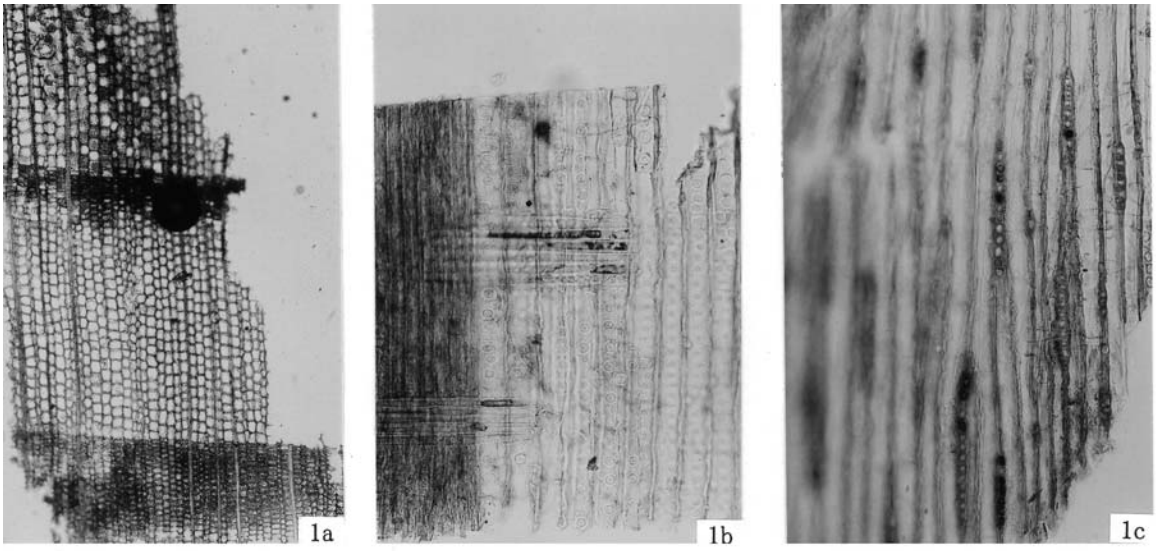
第85図　木製品類樹種同定試料

試料No	遺物名	樹種	図No	遺物ID
1	下駄	スギ	1	661-0705-0019-0095
2	下駄	広葉樹	2	661-0705-0019-0098
3	下駄	クリ	5	661-0705-0019-0138
4	下駄	ｹﾝﾎﾟﾅｼ属	6	661-0705-0019-0152
5	**鍋敷板ヵ**	**ツガ属**	**7**	661-0705-0019-0044/0052
6	桶－側板	モミ近似種	21	661-0705-0019-0067
7	桶－側板	スギ	24	661-0705-0019-0113-1
8	桶－側板	スギ	30-1	661-0705-0019-0144-1
9	桶－底板	スギ	30-10	661-0705-0019-0144-10
10	**白木皿**	**トチノキ**	**39**	661-0705-0019-0014
11	白木高盤ヵ	クリ	43	661-0705-0019-0055
12	**白木皿**	**エノキ属**	**60**	661-0705-0019-0081
13	漆椀	アサダ	31	661-0705-0019-0007
14	**漆椀**	**ブナ属**	**32**	661-0705-0019-0010
15	漆椀	カツラ	34	661-0705-0019-0008
16	**漆椀**	**クリ**	**36**	661-0705-0019-0023
17	漆椀	不明	37	661-0705-0019-0019
18	漆椀	ケヤキヵ	42	661-0705-0019-0061
19	漆椀	ケヤキ	46	661-0705-0019-0042
20	漆椀	クリヵ	48	661-0705-0019-0056
21	漆椀	クリヵ	49	661-0705-0019-0043
22	漆椀	クリ	53	661-0705-0019-0048
23	**漆椀**	**ハンノキ属**	**54**	661-0705-0019-0070
24	漆椀	スギ	55	661-0705-0019-0074
25	漆椀	ブナ属	57	661-0705-0019-0066
26	**漆椀**	**トチノキ**	**58**	661-0705-0019-0068
27	漆椀	カツラヵ	61	661-0705-0019-0073
28	漆椀	トチノキ	63	661-0705-0019-0094
29	漆椀	クリ	64	661-0705-0019-0079
30	**漆椀**	**クリ**	**67**	661-0705-0019-0112
31	漆椀	ブナ属ヵ	71	661-0705-0019-0117
32	漆塗り容器ヵ	イヌガヤ	91	661-0705-0019-0092
33	漆器(円形板)	ヒノキ	90	661-0705-0019-0050
34	漆器(円盤状)	広葉樹	92	661-0705-0019-0151
35	**箱の蓋ヵ**	**モミ属**	**96**	661-0705-0019-0075
36	**脚付円形板**	**サワラ**	**97**	661-0705-0019-0058
37	羽子板	サワラ	98	661-0705-0019-0077
38	板状製品	モミ属	118	661-0705-0019-0110
39	二股木製品	クリ	116	661-0705-0019-0126
40	筒状漆製品	広葉樹	113	661-0705-0019-0111

太字は顕微鏡写真のあるもの

第31表　木製品樹種同定結果

C区　調査

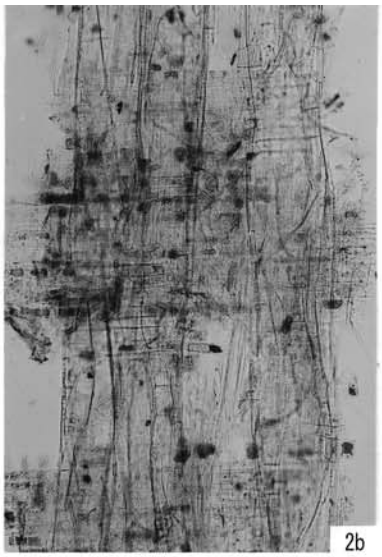


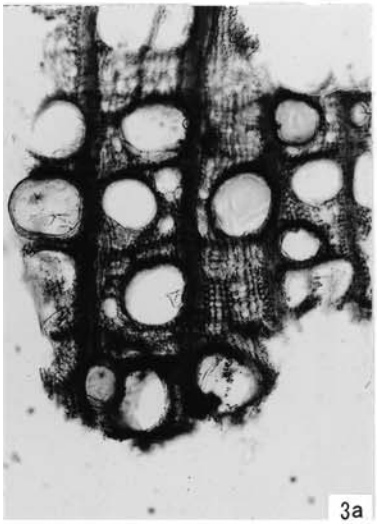
1：ツガ類（試料 5）

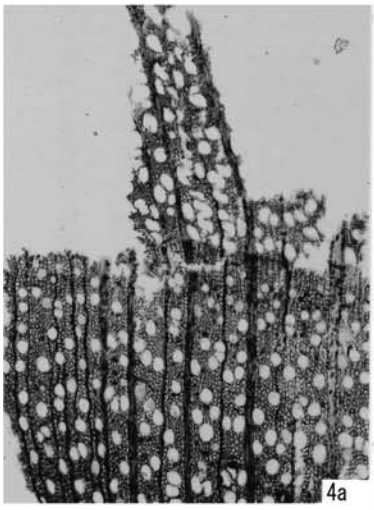
200 μ m:a
200 μ m:b, c

a：木口，b：柾目，c：板目

木製品　顕微鏡写真 1





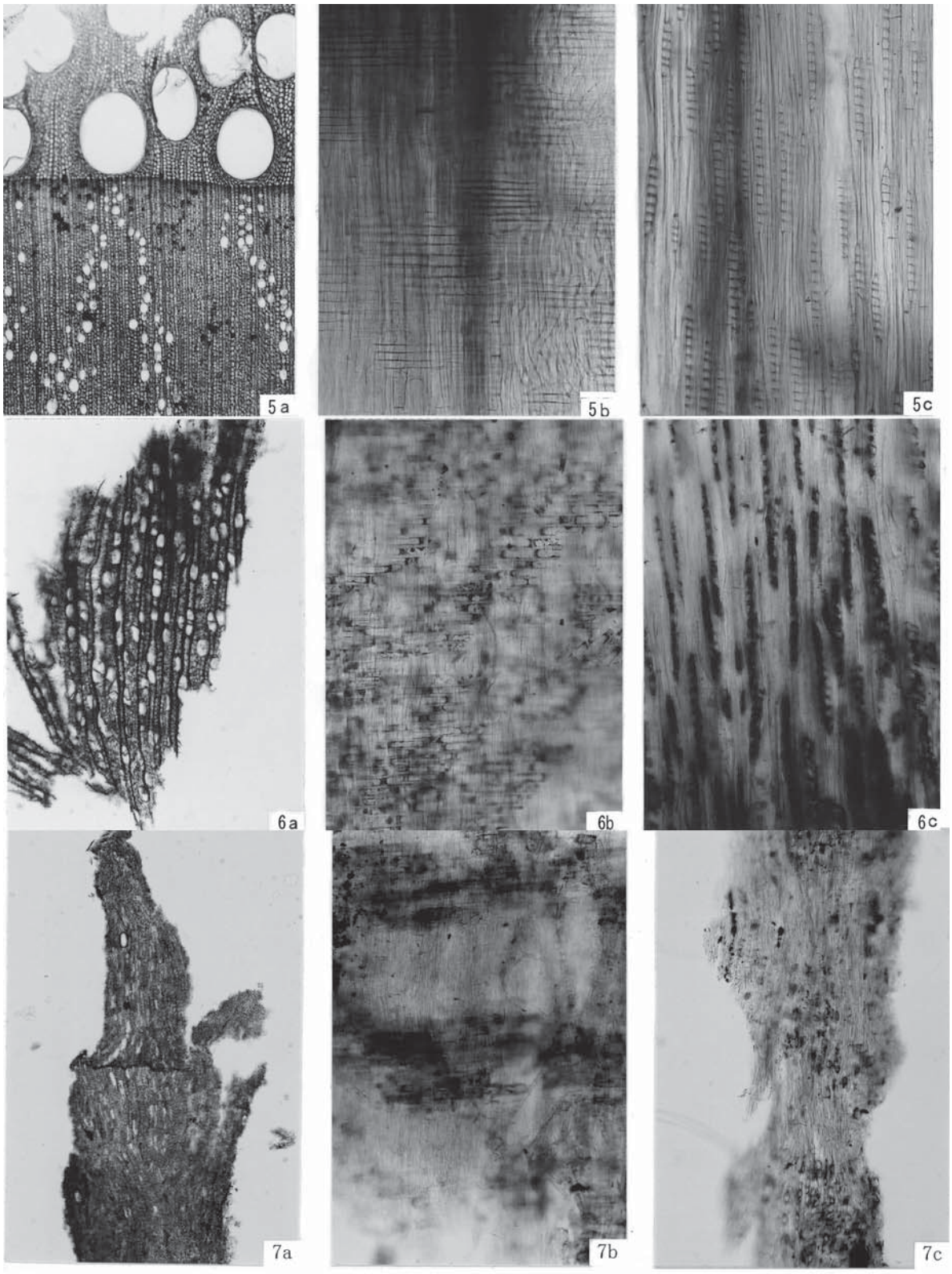


2：トチノキ（試料10）
3：エノキ属（試料12）
4：ブナ属（試料14）

200 μ m:a
200 μ m:b, c

a：木口，b：柾目，c：板目

木製品　顕微鏡写真 2

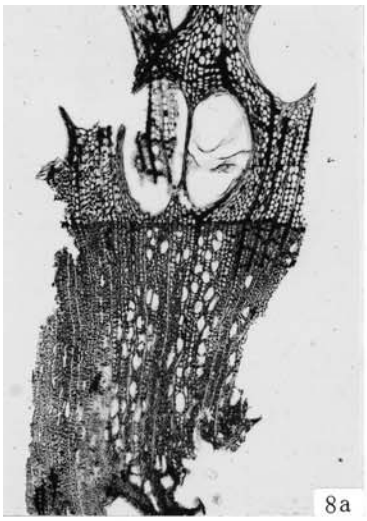


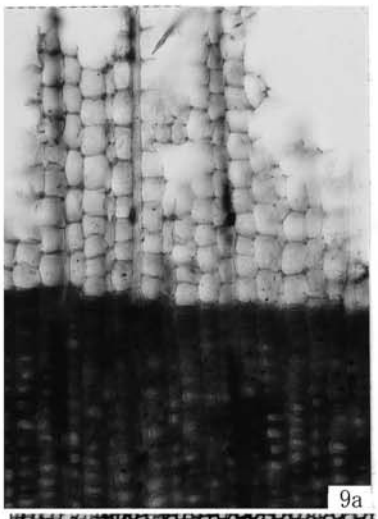
5：クリ（試料16）
6：ハンノキ（試料23）
7：トチノキ（試料26）

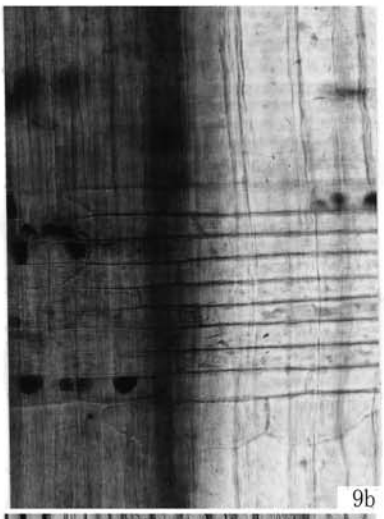
200 μ m:a
200 μ m:b, c

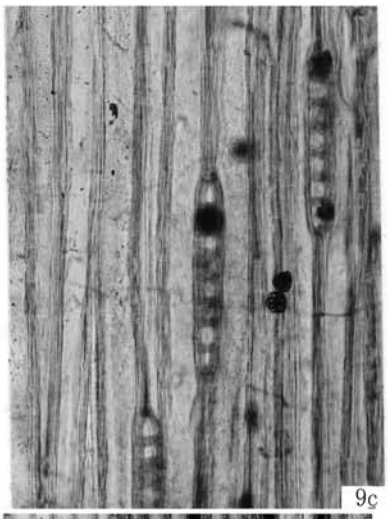
a：木口，b：柾目，c：板目

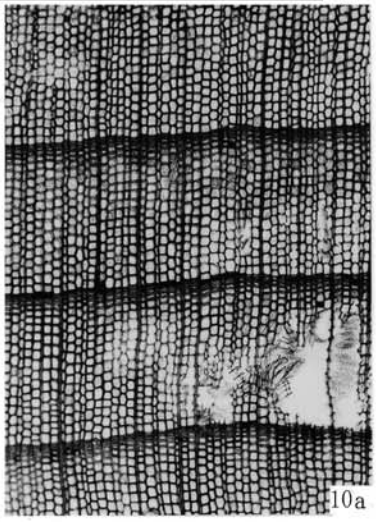
木製品　顕微鏡写真 3

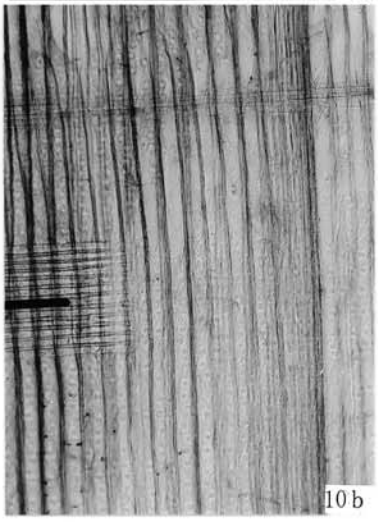


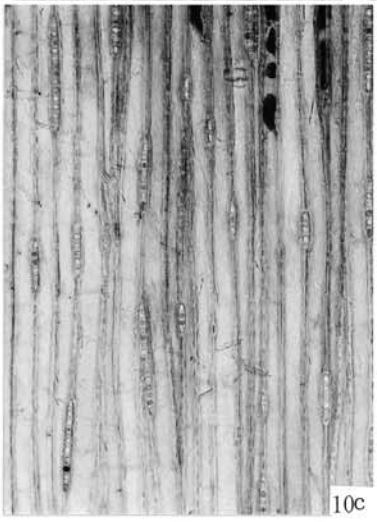












8：クリ（試料30）
9：モミ属（試料35）
10:サワラ（試料36）

200 μ m:a
200 μ m:b, c

a：木口，b：柾目，c：板目

木製品　顕微鏡写真 4

第４節　金属製品

金属製品は、鉄製品と非鉄金属製品がある。それぞれ用途別（例言４参照）に記述するが、銭貨は別に扱う。

（１）鉄製品

○生活に関するもの

「調理」の蓋（１）は鉄瓶のものか。全体に錆による剥落が見られるが、直径8.4cm、高さ2.5cm。下面に高さ2.5mm、直径7.6cmの掛け子を鋳出する。上面は周縁部がおよそ１cmの幅でわずかに段を有する。鈕は剥落により不整形だが球形だったものと思われる。下面の掛け子内に白色の付着物が見られる。C区５C層出土。

「灯り」では火打金（２～５）があり、２は刃の長さ８cmとやや小さく、厚さは錆のない箇所で２mm。山形で肩の傾斜・端部が左右対象ではない。９堀出土。３は長さ10.2cm、高さ4.7cmとやや大きく、錆化顕著だが山形である。一括取上。４は山形で左側欠損。A区オチキワ出土。５は山形だが下辺は弧状に膨らむ。端部は鋭角か。火打金か。一括取上。実測後錆化崩壊。

「住」の釘（６～25）は、発錆顕著で、不明瞭なものが多いが、ほぼ断面矩形。15は円形か。一部釘でないものも含むか。樋受（26）は幅0.9cm、厚さ0.3cmの鉄板を右に折り曲げ、上面に半円形の受けを作る。全長20cm。収まるものは直径４cm程度、基部に３mmの穴を5.2cmの間隔で設ける。受け部分には淡緑色の被膜（緑青か）が付着する。表面黒化ススか。16T５C層出土。

○生業に関するもの

「加工」の紡錘車（27）は直径4.3cmで、中央下面が僅かに窪む。軸棒は欠損する。１溝出土。

○信仰に関するもの

鉄鏡ヵ（28）は上面形角を持ち、方形か。立ち上がりは急で深いものである。厚さ５mm。ピット出土。用途不明。

○いくさに関するもの

「甲冑」の小札（29～33）　29は長さ5.5cm、幅3.6cmと大型で厚さ３mm。中央上部に鉄板が重なったような錆が付着する。短辺断面がややたわむ。X線画像では穿孔らしきものが確認でき小札とした。胸板あるいは兜鉢片との指摘もある。16T５C層出土。30は上部を欠く。幅2.7cm。５ヶ２列の計10ヶの縅穴と思われる。下辺は弧状を呈する。A区西出土。31は上部を欠損し幅3.0cm厚さ２mm。漆が残り、威しの様子がわかる。表面は上段に下縅（したがらみ）（横縫い）の痕跡、下段は漆が全面に塗布される。裏面は、上段は不明瞭であるが下段は下縅（したがらみ）の痕跡がある。A区ピット出土。32は下部を欠損し幅2.1cm厚さ２mm。表に錆の膨らみに漆膜か。頭は斜めで縅穴は右５、左４ヶ所。一括取上。33は板状だが発錆顕著で不明瞭。一括取上。

「刀類」の刀子（34～39）　34は刀子としたが断面は三角ではなく切っ先は鈍い。１溝出土。35は高さ4.1cmと大きい。基部近くと茎部で、屈曲して錆着している。22堀出土。36は発錆顕著で、不明瞭だが、左から右に向けて高くなる（１→1.7cm）。断面矩形で中空。用途不明。５CⅡ層出土。37は切っ先部で断面三角。発錆により剥落崩壊。B区出土。38は断面三角で棟（峰）の厚さは５mmと厚い。刀か。一括取上。39は茎と基部に相当するが断面が三角ではない。白色付着物の上に木質あるいは漆膜が付着する。一括取上。

「弓矢」の鉄鏃（40）は残存長7.5cmで下端を欠損する。鏃身は側面菱形の鎧通。断面は平坦。茎は矩形である。A区出土。

「他」の薙鎌ヵ（41）は、ほぼ錆で形態は不明瞭である。長さ30.5cm刃幅は中程で3.5cm。右下に茎が見られる。茎幅1.2cm。６堀出土。KB15出土の薙鎌は長さ32cmと36cmで本資料はやや小さい。薙刀ヵ（42）は残存長23cm、刃幅5.2cmと大型である。断面三角で、切っ先の峰を上にすると先端が上に反る。５CⅡ層出土。

○不明　火打金状製品（43）は板状でやや弧状を呈する。２溝出土。楔状製品（44）の三角部は断面矩形、茎部は円形。B区出土。円盤状製品（47）は上面平坦。１溝出土。環状円盤（48）は不整円で下部は潰れにより薄いものか。C区出土。環状製品（49・50）の49は断面長方形で３溝出土。50はC区出土。球状製品（51）は錆により不整球。弾丸か。直径２cm。C区出土。板状製品（52）は下部がわずかに薄い。刀子か。一括出土。

（２）非鉄金属

○生活に関するもの

「衣」の小鉤（53）は縁を厚くする。１ヶ所孔あり。一括取上。

「住」の掛金具（54）は２ヶ所孔有り掛け部は欠損する。裏面縁の厚さが本体より１mm厚い。白色の塗膜が遺存する。Ｂ区出土。受金具（55）は打ち込み部（ホゾか）先端を欠損する。本体の先端が折れ上がるため平らのものを受けたものと思われる。断面方形でしっかりしている。全面に鍍金を施す。仏具か。一括取上。

「嗜好・遊び」では、煙管（56～64）があり、56は雁首と吸口が供伴。遺存不良。首は長く吸口胴部が膨らむ。Ｃ区出土。57は雁首と吸口が細長く作られ竹製の羅宇の無いものと思われる。雁首と吸口ははめ込み式で吸口端部はやや厚くなっている。火皿手元側に孔を有する。全長17cm、筒の径５mmである。５ＣⅡ層出土（図は処理前実測）。58は両端を欠くが径６mmの細く長いもので右側に段を持ち径５mmと細くなる。57と同様羅宇が銅製の吸口寄りか。中に黒色物質（やに？）が付着し一部細い棒でつついたような孔がある。雁首（59～62）は、59・61の火皿は深く首が細い。59は１堀、61はＡ区出土。60は火皿が浅く首がほぼ無い。２Ｔ２層出土。62は雁首で火皿を欠く。上面は敲打により平坦となる。Ｂ区出土。63は両端を欠損しほぼ直線的に開く。６堀上部出土。64は体部は厚さ２mmと厚く膨らむ。吸口端部は折り込む。羅宇竹片が残る。Ｄ区１層出土。

○生業に関するもの

「加工」の紡錘車ヵ（65）。円盤状で、左縁部が潰れ、孔が中心を外れる。孔径４mm。重さ19.6ｇ。鉛製。Ｃ区南堀出土。鋺状製品（66）は厚さ１mmで、口縁は細かい輪花状となる。内面に熔融した銅と炭化物が付着する。坩堝として使用か。５ＣⅡ層出土。

○信仰に関するもの

鋺状製品（67）は厚さ１mmで内面黒化する。Ｄ区３層出土。饕餮文尊ヵ（68）は口唇部は三角で、刻みを有する縦長の突起を貼り付ける。体部厚さ１mm。Ｃ区出土。

○経済流通に関するもの

錘（69）は直方体で上部に0.1mm程度の孔のある鈕を設ける。表面黒化。重さ14.3g（約４匁）。３Ｃ層出土。

○いくさに関するもの

「甲冑」の脇鞐（70）は長さ3.0cmでやや反る。ピット出土。

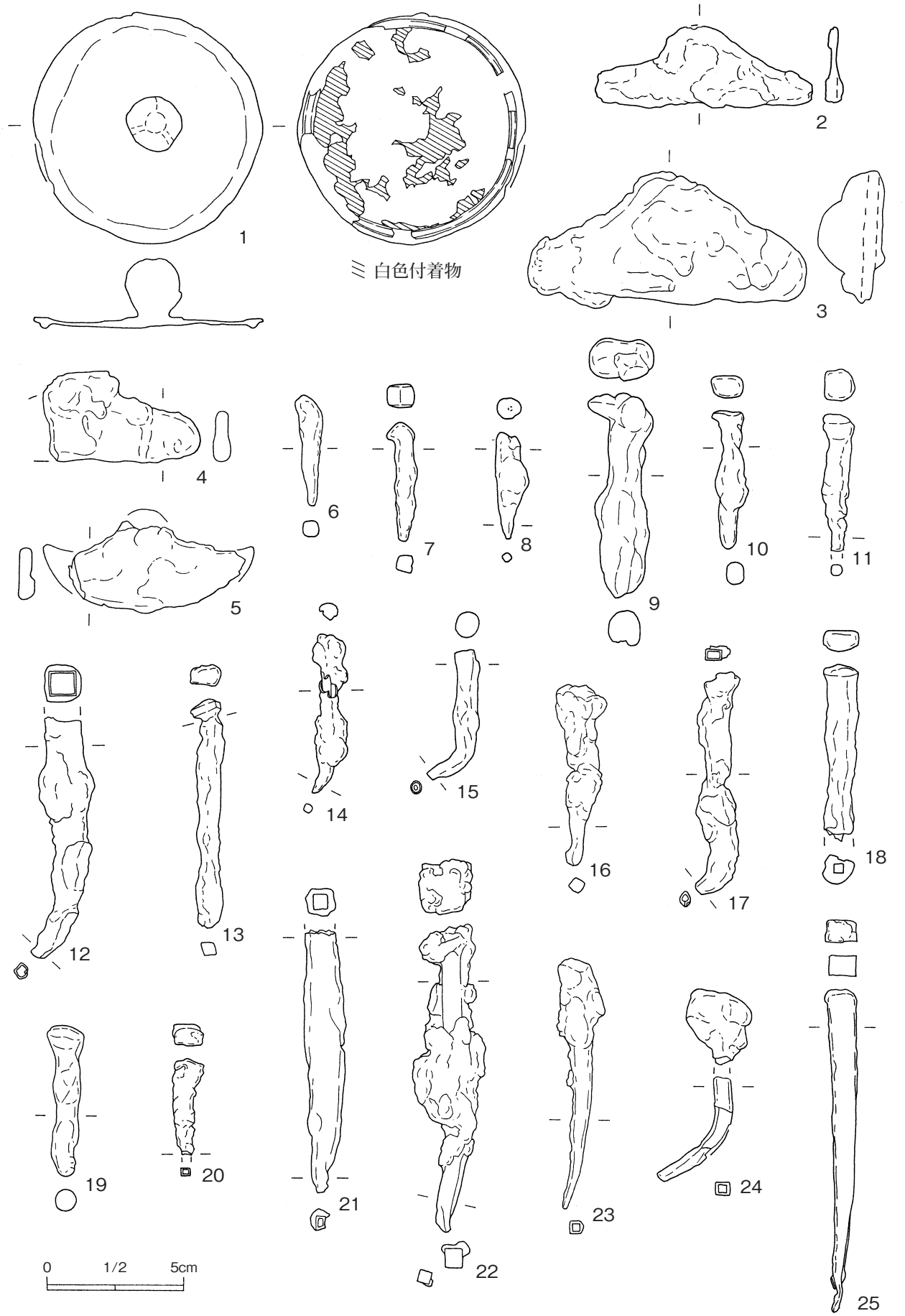
「刀類」の柄頭（71）は左側面を大きく欠損している。22堀出土。目貫ヵ（72）は表に粒状の文様を鋳出し裏面は窪む。５ＣⅡ層出土。切羽（73・74）は、73は左側縁のみ1.3cmほど直線に、他は細かい鋸歯状に成形される。長さ3.8cm、茎部孔長1.5cmと小さい。74も左側縁が直線である。Ｃ区出土。小柄（75・76）の75は小柄が熔けたものか。３Ｃ層出土。76は柄部8.3cm、刃部が1.1cm残る。表面には３条の斜めの沈線を鋳出する。５ＣⅡ層出土。笄（77）は頂部に耳掻きを付け、表面の窓内には中央に直線を鋳出し魚々子模様を埋める。窓上端に３カ所刻みが入る。11Ｔ出土。

「火縄銃」の弾丸（78～96）は、80・83・90～92は銅製、95・96は不明、他は鉛製である。78は右上に平坦面と裏面中程に凹みを有する。79は鋳造時の稜を残す。正球。80は５点が熔着しているもの。右端は小さく、右下は長さ６mmの疵がある。上面に一部黒緑色の熔融物が、下面に白色物質が付着する。銅製。43.4ｇ。81は一部黒化。82は下面がいくつかの面を持って平坦となり、縁辺は薄い10.1ｇ。射撃衝突時の衝撃によるものか。84は帯状に平坦面が巡る。85は帯状に平坦面が巡り、裏面は平坦に潰れる。86は凹みがあり鋳造時の鬆か。87は平坦面に擦痕が見られる。88は平坦面が帯状に巡る。89は半球状である。90は表面が荒れている。91はやや凹凸有り。92には黒色の付着物、94は小さい。78は30堀、79はＡ区、80～88はＢ区、89はＣ区、90・91・96はＤ区、92は３Ｔ出土、93・94は一括取上。95は１堀出土。帯状の平坦面は発射時の擦り圧痕か。

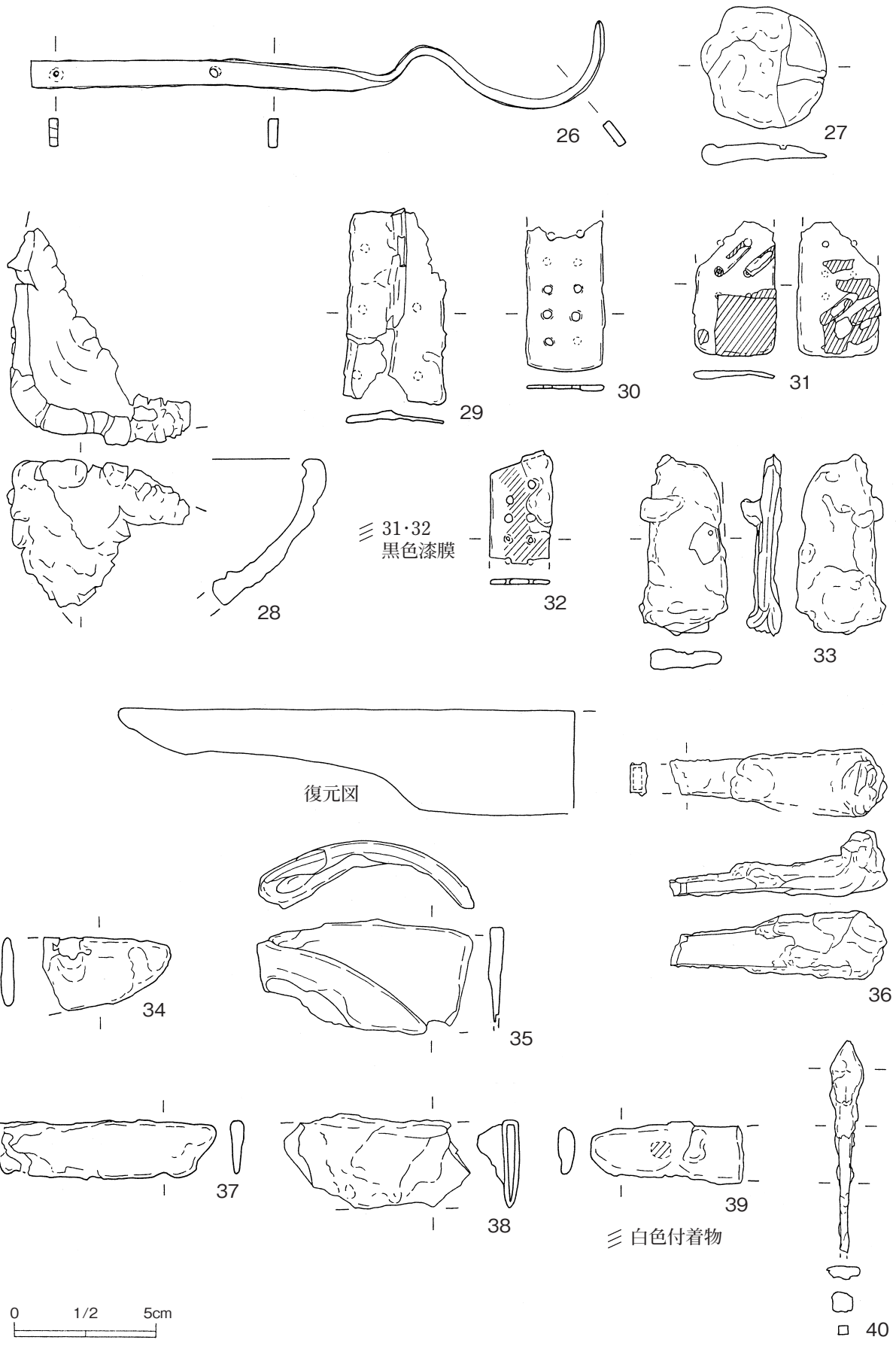
○ほか

板状製品は（97）左端が立ち、長方形の孔が一カ所設けられる。厚さ0.2mm。６堀出土。（98）は全面に米粒状の凹凸が施され、縦に二つ折り上下に折り曲げている。12堀出土。板状品（99）は表裏に布目状痕があり、一括取上。筒状製品（100）、径7.5mmで右端は６mmと細くなる。煙管の吸口か。Ｄ区３層出土。弧状製品（101）は径6.9cmの正円で両端を欠損する。断面は円形、両端は断面長方形で径２mmの孔を有する。一括出土。塊状品（102～109）。102は銭貨のような薄い板が熔着する。103は丸棒状のものを抱き込む。106は表面に１～４mmの粒状のものが付着し、下面は潰れる。107は金属滓を含む。102～104は３Ｃ層、105・106はＣ区、107はＣ区南出土。108は一括取上。109は１TC出土。

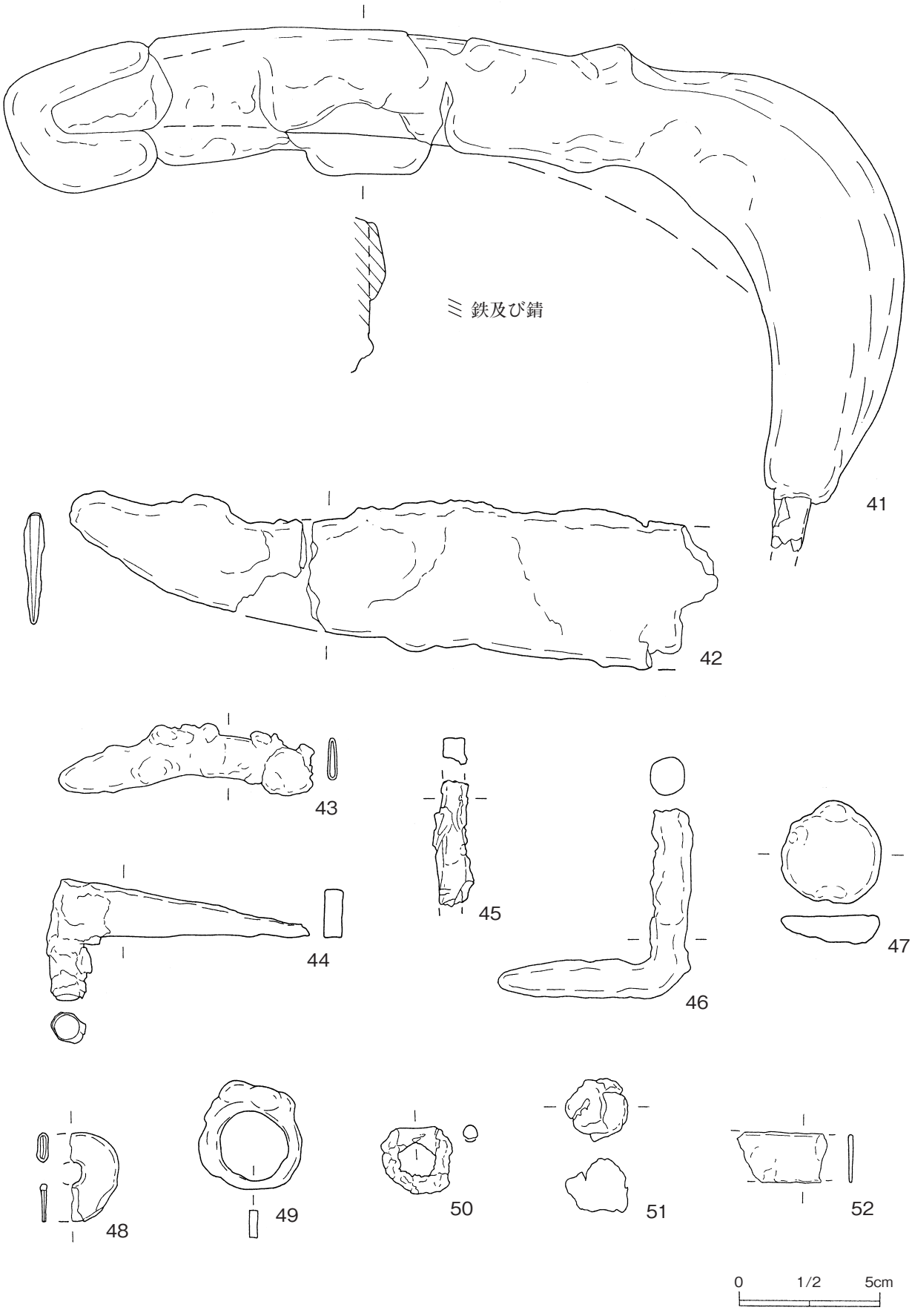
他に図化できなかったが溝が数カ所巡る組立式煙管の筒と思われるものがある。５ＣⅡ層出土。



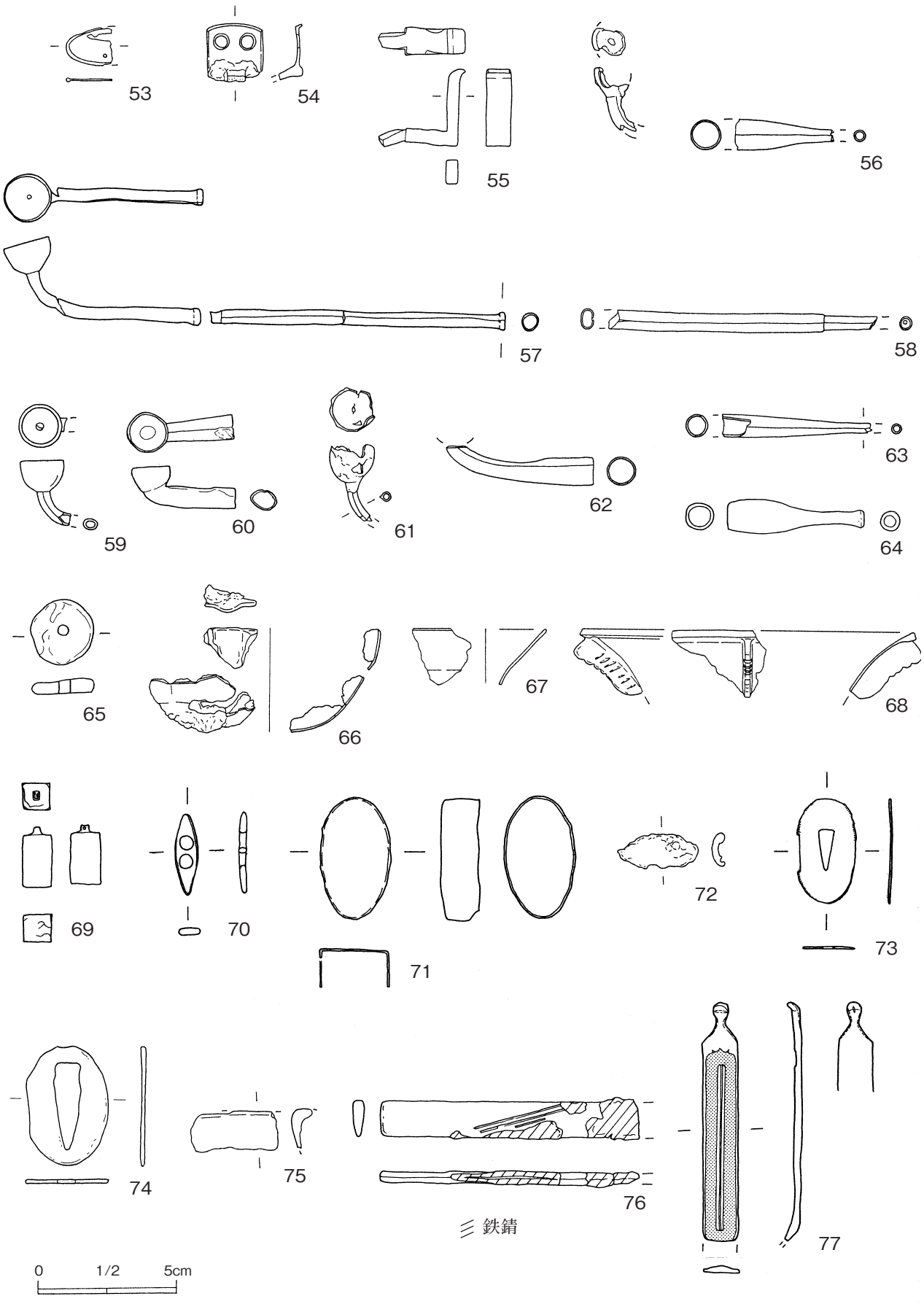
第86図　金属製品類１（鉄１）



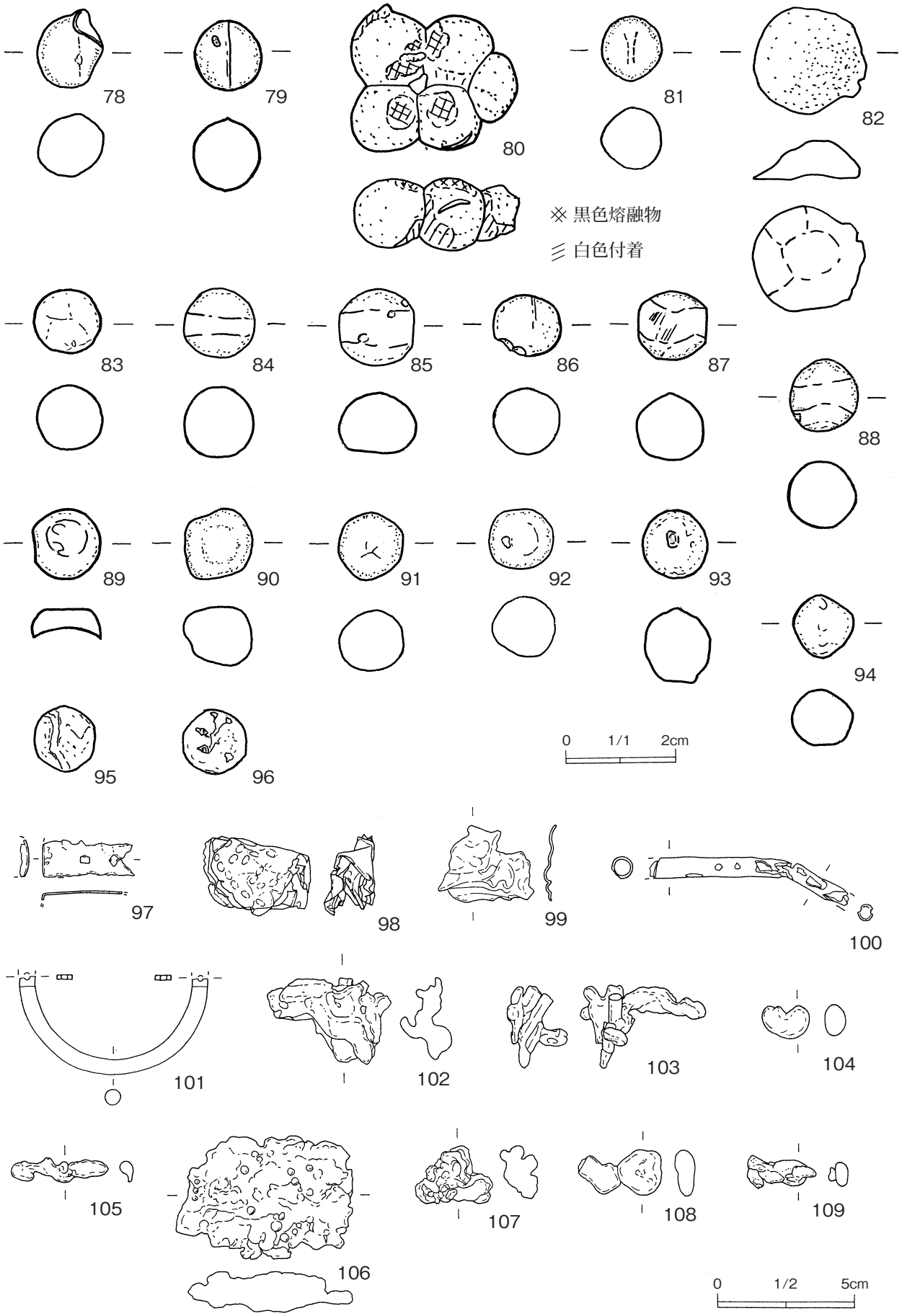
第87図　金属製品類２（鉄２）



第88図　金属製品類３（鉄３）



第89図　金属製品類４（非鉄金属１）



第90図　金属製品類５（非鉄金属２）

（ ）は残存値、法量の単位はcm

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID (662-0705)	遺物ID 2	備考	保存処理No.
1	蓋(鉄瓶)	鉄	C区 5 C層	8.4	-	2.5	0019-0042	町金066		123
2	火打金	鉄	9 堀下層 C区	8.0	2.8	0.4	0019-0029			
3	火打金	鉄	一括	10.2	4.7	2.5	0019-0065			
4	火打金	鉄	A区 オチキワ	(5.5)	3.3	0.6	0019-0009			
5	火打金ヵ	鉄	一括	(6.5)	(3.4)	0.5	0019-0059			
6	釘(角)	鉄	1 溝 A区	4.1	0.6	-	0019-0002			
7	釘(角)	鉄	1 溝 A区	4.4	0.5	-	0019-0005			
8	釘ヵ	鉄	1 溝 A区	3.9	0.9	-	0019-0006			
9	釘(角)	鉄	B区㋒	7.6	1.2	-	0019-0023			
10	釘	鉄	C区 3 C層	5.5	1.1	-	0019-0031			
11	釘(角)	鉄	C区No.142 5 C Ⅰ層	(5.1)	0.9	-	0019-0034			
12	釘ヵ	鉄	C区No.335 5 C Ⅰ層	(9.0)	1.3	-	0019-0035			
13	釘ヵ	鉄	C区No.143 5 C Ⅱ層	8.5	0.8	-	0019-0036			
14	釘	鉄	C区No.150 5 C Ⅱ層	6.0	1.1	-	0019-0037			
15	釘状製品	鉄	C区No.161 5 C Ⅱ層	4.6	0.9	-	0019-0038			
16	釘ヵ	鉄	C区No.184 5 C Ⅱ層	6.6	1.3	-	0019-0039			
17	釘状製品	鉄	C区No.199 5 C Ⅱ層	8.1	1.4	-	0019-0040			
18	釘ヵ	鉄	C区No.205 5 C Ⅱ層	(6.5)	1.1	-	0019-0041			
19	釘	鉄	C区 5 C層	5.5	0.8	-	0019-0045			
20	釘ヵ	鉄	C区 5 C層	(3.5)	1.1	-	0019-0046			
21	釘状製品	鉄	C区 5 C層	(9.6)	1.4	-	0019-0043			
22	釘(角)	鉄	C区 5 C層	11.3	0.6	-	0019-0044			
23	釘ヵ(角)	鉄	C区 5 C層	9.2	1.6	-	0019-0048			
24	釘(角)	鉄	C区南	(7.0)	0.6	-	0019-0052			
25	釘状製品	鉄	C区	11.8	1.0	-	0019-0055			
26	樋受	鉄	C区 5 C層 16T	20.0	3.0	0.3	0019-0051	町金072		121
27	紡錘車	鉄	1 溝 A区	-	4.3	0.5	0019-0003			
28	鉄鏡ヵ	鉄	P	(7.2)	(6.3)	深(5.0)	0019-0058			
29	小札	鉄	C区 5 C層 16T	5.5	3.6	0.3	0019-0050			318
30	小札	鉄	A区 西	(5.2)	2.7	0.1	0019-0017			85
31	小札	鉄	A区 P	(4.8)	3.0	0.2	0019-0018			349
32	小札	鉄	一括	(4.0)	2.1	0.2	0019-0060			350
33	小札ヵ	鉄	一括	6.0	2.8	0.7	0019-0063			
34	刀子ヵ	鉄	1 溝 A区	(4.5)	2.5	0.4	0019-0001			279
35	刀子ヵ	鉄	22堀埋土㋕ B区	(7.1)	4.1	0.4	0019-0025			
36	刀子(茎)ヵ	鉄	C区No.1 5 C Ⅱ層	(7.7)	2.4	2.1	0019-0032			280
37	刀子状製品	鉄	B区㋘	(8.0)	2.0	0.3	0019-0026			
38	刀子ヵ	鉄	一括	(6.5)	3.0	0.6	0019-0061			
39	刀子状製品	鉄	一括	(5.4)	2.0	0.5	0019-0062			
40	鉄鏃	鉄	A区 西	(7.5)	1.2	-	0019-0016			277
41	薙鎌ヵ	鉄	6 堀㋓ 8 層 C区No.730-B	30.5	(19.0)	不明	0019-0028			33
42	薙刀ヵ	鉄	C区No.88 5 C Ⅱ層	(23.0)	5.2	0.7	0019-0033			
43	火打金状製品	鉄	2 溝 A区	(9.0)	2.5	0.3	0019-0008			
44	楔状製品	鉄	B区	9.3	4.2	0.6	0019-0027			
45	角棒状製品	鉄	C区 5 C層	(4.5)	0.9	-	0019-0047			
46	L字状製品	鉄	C区No.168	6.8	6.8	1.3	0019-0049			
47	円盤状製品	鉄	1 溝 A区	-	3.5	0.9	0019-0004			
48	環状円盤	鉄	C区	3.1	-	0.3	0019-0053			
49	環状製品	鉄	3 溝C区	3.3	-	1.0	0019-0030			
50	環状製品	鉄	C区	2.5	-	0.5	0019-0054			
51	球状製品	鉄	C区	2.2	-	1.9	0019-0057			
52	板状製品	鉄	一括	(3.2)	1.7	0.15	0019-0064			

第32表　金属製品一覧表 1 （鉄製品）

（3）銭貨

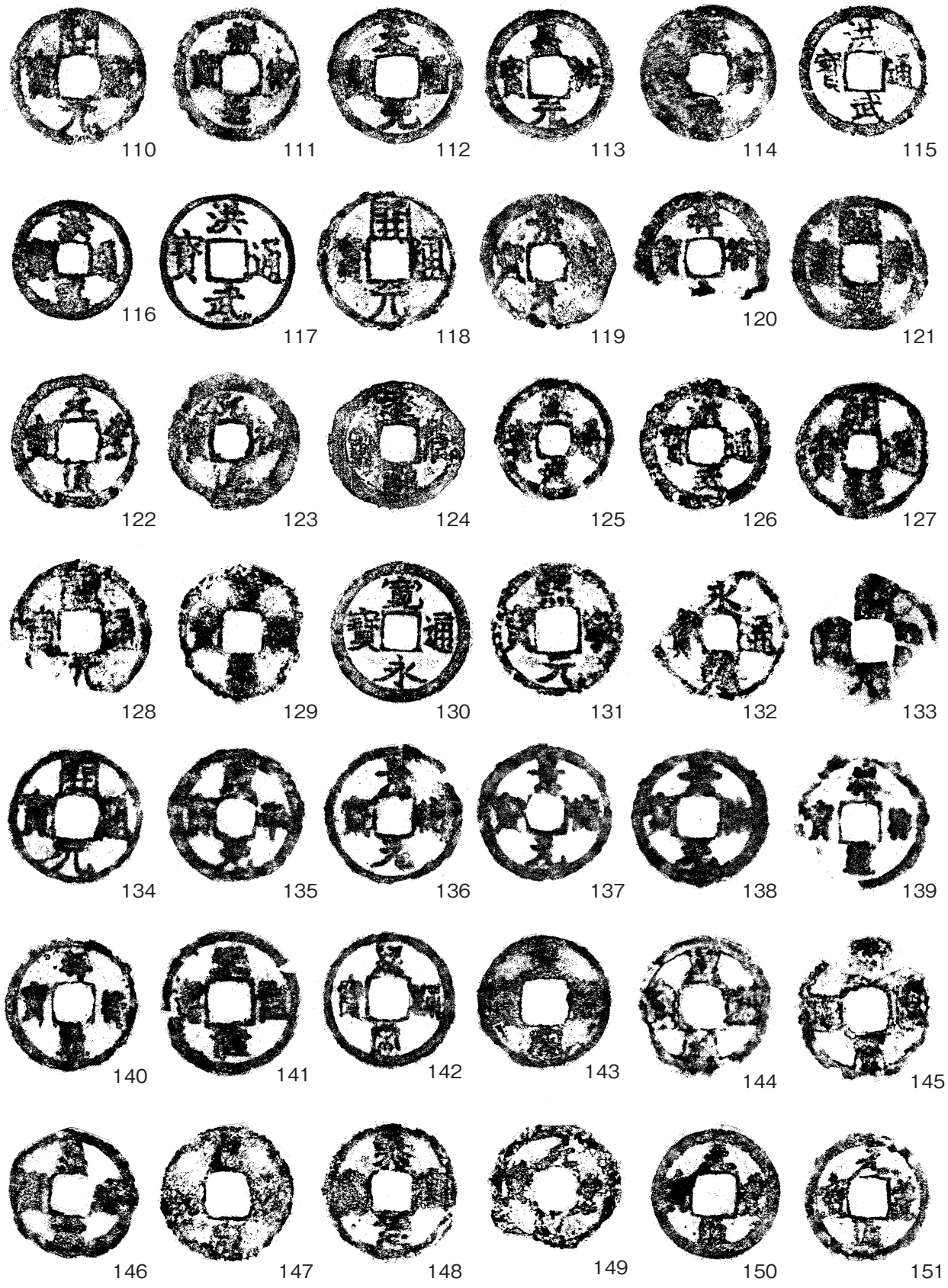
総数139点（110～248）のうち、10点が熔着する。

うち近世の寛永通宝が 4 点、近代以降の一銭 3 点・半銭が 2 点。他は中世以前の渡来銭である。寛永通宝は22堀・B区・C区で出土している。不明銭のうち、184は19枚以上（75.6g）、185は 5 枚（18.1g）、186は 5 枚以上（14.7g）、192は 3 枚（4.9g）、205は12枚以上（59.2g）、206は 6 枚以上（10g）、215は 9 枚以上（23.7g）、235は12枚以上（55.6g）、243は10枚以上（21.2g）、245は20枚以上（45.8g）熔着する。

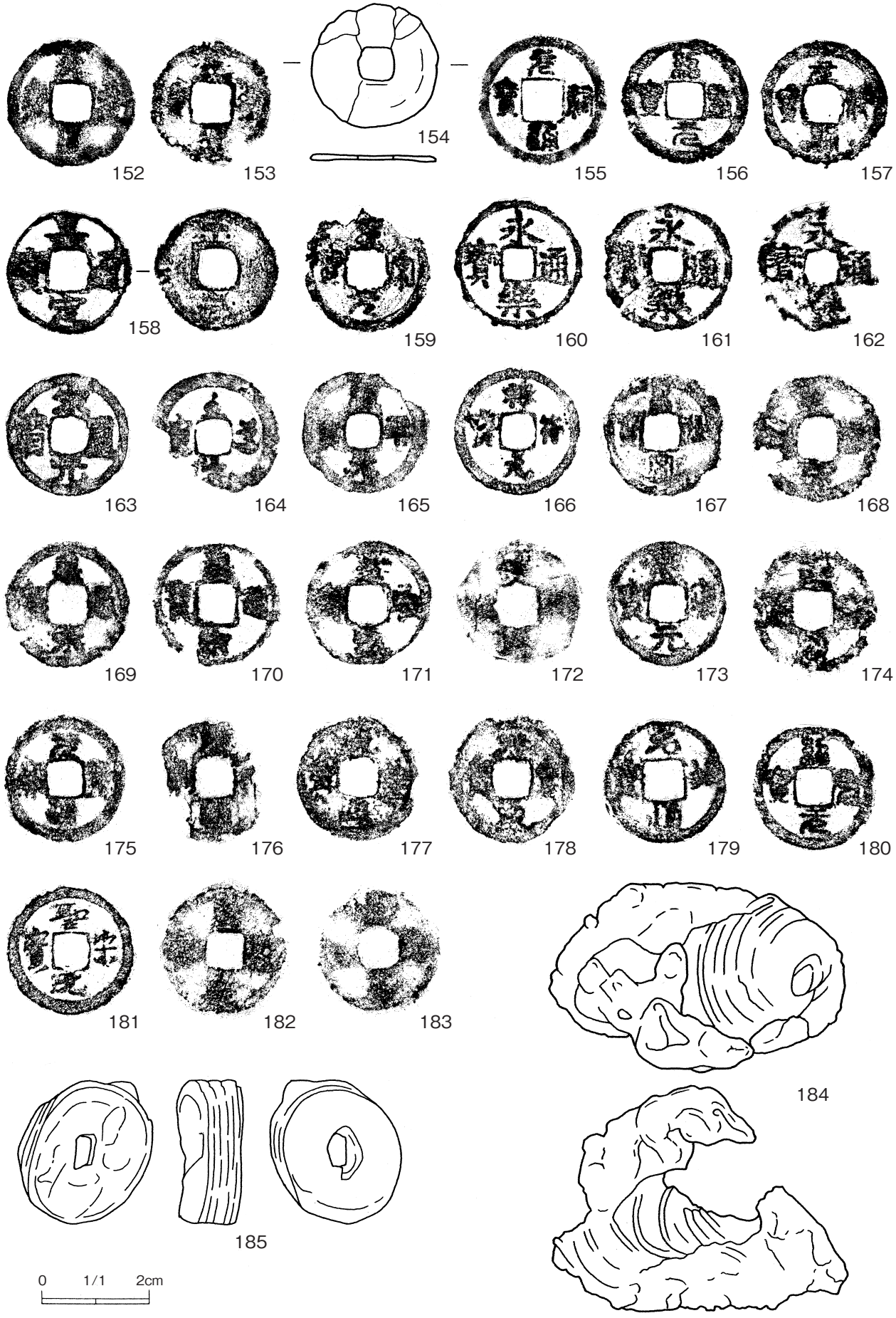
＊は不確定な推定復元値、（ ）は残存値、法量の単位はcm

図No.	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅	厚さ	遺物ID (662-0705)	遺物ID 2	備考	保存処理No.
53	小鉤	銅	一括	(1.7)	1.4	0.1	0019-0058			
54	掛金具	銅	B区㋖	(2.1)	2.1	(0.9)	0019-0048			
55	受金具	銅	一括	2.8	2.9	0.9	0019-0055			
56	煙管	銅	C区 No.109	雁首(1.5) 吸口(3.5)	雁首(1.2) 吸口(1.1)	雁首(2.3) 吸口-	0019-0038			
57	煙管	銅	C区No.128 5CⅡ層	＊18.0	1.7	3.0	0019-0031	町金110		248
58	煙管(吸口)	銅	C区No.477 5CⅠ層	(9.7)	0.7	-	0019-0029			
59	煙管(雁首)	銅	1堀D区	(1.7)	1.5	2.4	0019-0001			
60	煙管(雁首)	銅	2T 2層	3.9	1.5	1.5	0019-0008			
61	煙管(雁首)	銅	A区 西	(1.6)	1.6	(2.8)	0019-0013			
62	煙管(雁首)	銅	B区㋖	5.3	1.0	1.5	0019-0022			
63	煙管(吸口)	銅	6堀上部C区	(5.4)	0.8	-	0019-0002			
64	煙管(吸口)	銅	D区1層	5.0	1.1	-	0019-0044			
65	紡錘車ヵ	鉛	C区南堀上	2.3	-	0.5	0019-0036			
66	鋺状製品	銅	C区No.356 5CⅡ層	(4.0)	(3.3)	0.1	0019-0032			
67	鋺状製品	銅	D区 3層	(2.1)	(2.6)	0.1	0019-0047			
68	饕餮文尊ヵ	銅	C区	径＊12.2	-	(2.4)	0019-0041			
69	錘	銅	C区 3C層	2.2	1.1	1.1	0019-0028	町金101	14.3g(約4匁)	246
70	脇鞐	銅	ピット	3.0	0.8	0.25	0019-0049	町金128		
71	柄頭	銅	22堀埋土㋺ A区	4.5	2.6	1.4	0019-0005	町金119	鐔ヵ	
72	目貫ヵ	銅	C区No.412 5CⅡ層	2.9	1.2	0.4	0019-0033			
73	切羽	銅	C区 5C層 16T	3.8	2.1	0.1	0019-0011	町金132		
74	切羽	銅	C区	4.3	2.9	0.2	0019-0039			
75	小柄	銅	C区 3C層	(3.1)	(1.4)	(0.8)	0019-0025			
76	小柄	銅	C区No.40 5CⅡ層	(9.4)	1.3	0.4	0019-0030			
77	笄	銅	11T	8.6	1.3	0.3	0019-0010	町金121		
78	弾丸	鉛	30堀埋土㋣ B区	1.2	-	-	0019-0006	町金105	10.8g	
79	弾丸	鉛	A区㋑	1.2	-	-	0019-0012		7.9g	
80	弾丸	銅	B区㋷	3.1	-	-	0019-0014	町金103	43.4g	237
81	弾丸	鉛	B区㋷	1.1	-	-	0019-0015	町金104	7.0g	
82	弾丸	鉛	B区㋣	2.1	-	0.6	0019-0016	町金102	10.1g	238
83	弾丸	銅	B区㋣	1.2	-	-	0019-0017		7.5g	
84	弾丸	鉛	B区㋩	1.3	-	-	0019-0018		11.6g	
85	弾丸	鉛	B区㋩	1.3	-	1.1	0019-0019		11.5g	
86	弾丸	鉛	B区㋥	1.2	-	-	0019-0020		7.0g	
87	弾丸	鉛	B区㋥	1.2	-	-	0019-0021		10.2g	
88	弾丸	鉛	B区	1.2	-	-	0019-0023		11.9g	
89	弾丸	鉛	C区南堀上	1.3	-	0.5	0019-0035		5.1g	
90	弾丸	銅	D区 1層	1.2	-	-	0019-0043	町金106	6.4g	
91	弾丸	銅	D区 3層	1.1	-	-	0019-0046	町金107	5.5g	239
92	弾丸	銅	3T	1.2	-	-	0019-0009		6.0g	236
93	弾丸	鉛	一括	1.2	-	-	0019-0050		11.1g	
94	弾丸	鉛	一括	1.1	-	-	0019-0051		4.8g	
95	弾丸	不明	1堀6層 D区No.399	1.1	-	-	0019-0060	町金109	カード整理時行方不明、断面無し	
96	弾丸	不明	D区 3層	1.1	-	-	0019-0059	町金108	カード整理時行方不明、断面無し	
97	板状製品	銅	6堀 C区	(3.4)	(1.3)	0.2	0019-0003			
98	板状製品	銅	12堀 C区	3.9	2.8	1.8	0019-0004			
99	板状品	銅	一括	3.5	2.8	0.1	0019-0054			
100	筒状製品	銅	D区 3層	(7.3)	0.7	-	0019-0045			
101	弧状製品	銅	一括	6.9	(3.6)	0.6	0019-0056			
102	塊状品	銅	C区 3C層	4.5	3.2	1.8	0019-0024		43.2g	
103	塊状品	銅	C区 3C層	4.5	3.0	2.3	0019-0026		15.9g	
104	塊状品	銅	C区 3C層	1.7	1.1	0.8	0019-0027		2.8g	
105	塊状品	銅	C区	3.4	0.8	0.5	0019-0040		2.7g	
106	塊状品	銅	C区	6.4	4.4	1.5	0019-0042		89.8g	
107	塊状品	銅	C区南	2.8	2.0	1.4	0019-0037		11.7g	
108	塊状品	銅	一括	3.0	1.6	0.7	0019-0057		11.3g	
109	塊状品	銅	1T C	2.5	1.2	0.7	0019-0007		2.3g	

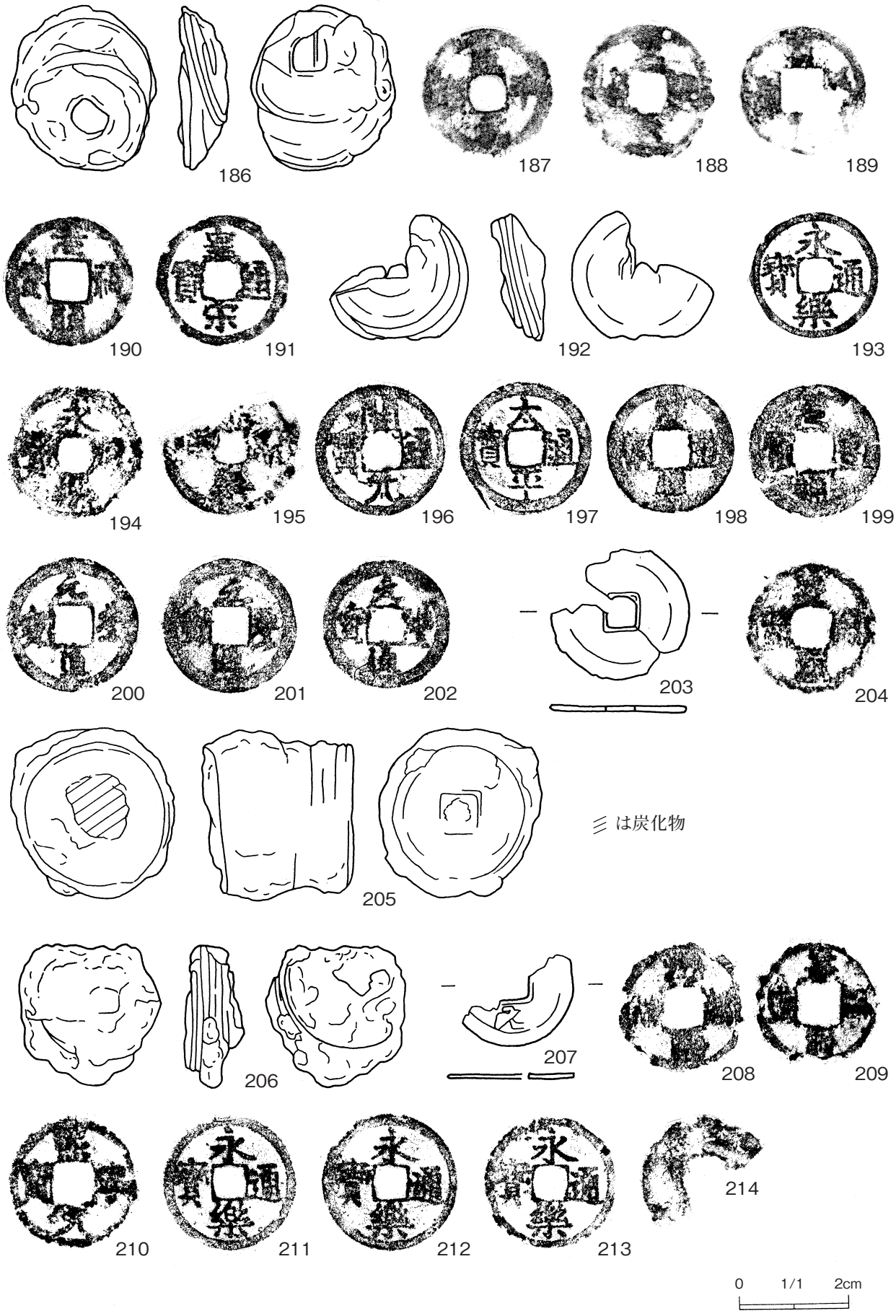
第33表　金属製品一覧表2（非鉄金属）



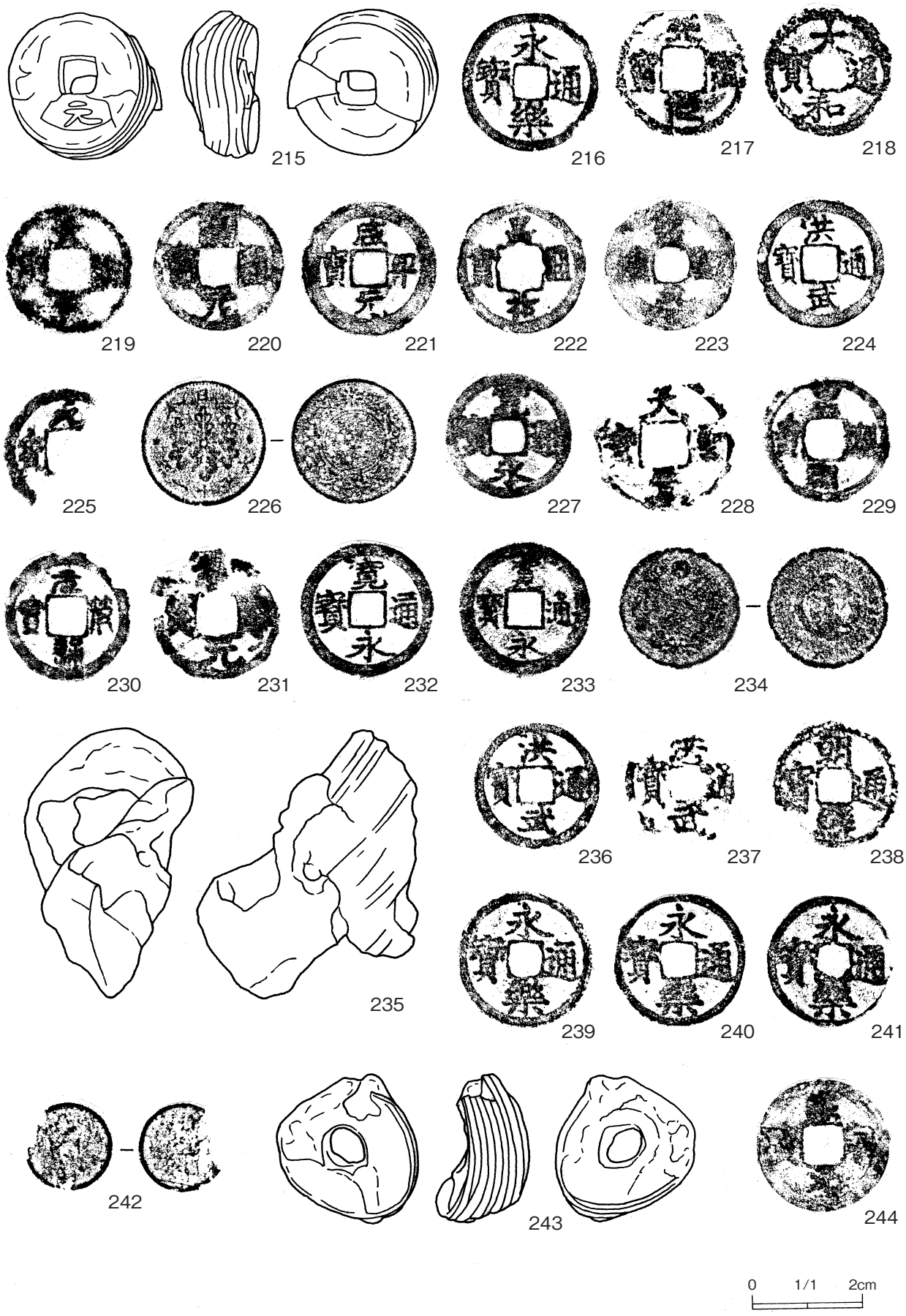
第91図　金属製品類６（銭貨１）



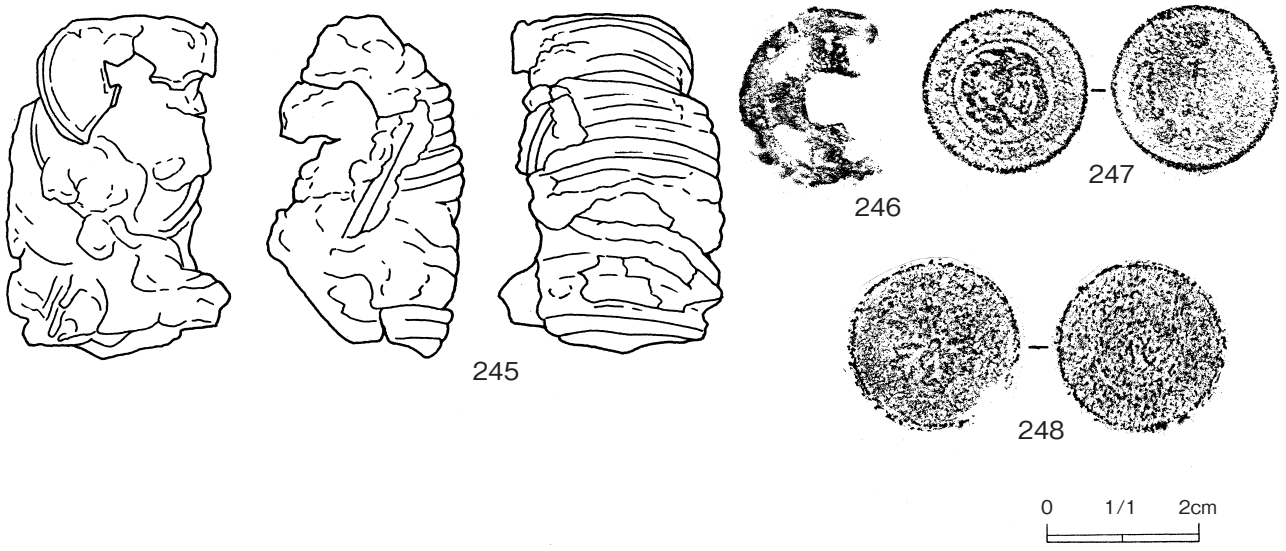
第92図　金属製品類７（銭貨２）



第93図　金属製品類８（銭貨３）



第94図　金属製品類９（銭貨４）



第95図　金属製品類10（銭貨５）

No.	出　土　地　点	銭種（銭貨名は番号順）	遺物ID (651-0705-0019)
110～114	１堀　６層　Ｄ区　No.339	開元通宝、祥符通宝、天聖元宝、嘉祐元宝、熙寧元宝	0135～139
115	１堀　Ｄ区	洪武通宝	0134
116･117	６堀　５層　Ｃ区　No.519	洪武通宝２	0122･123
118～124	15堀　Ｃ区	開元通宝、景徳元宝、祥符元宝、熙寧元宝、元豊通宝、元祐通宝２	0124～130
125	22堀　Ａ区	洪武通宝	0030
126･127	22堀埋土　Ａ区㋒	洪武通宝、朝鮮通宝	0031･32
128･129	22堀埋土　Ａ区㋑（Ｂ区ヵ）	開元通宝、元祐通宝	0033･34
130	22堀　Ｂ区㋺	寛永通宝	0036
131	30堀埋土　Ｂ区㋣	熙寧元宝	0038
132	１溝　Ａ区	永楽通宝	0035
133～154	Ｃ区　３Ｃ層	開元通宝２、咸平元宝、景徳元宝２、嘉祐元宝、祥符通宝２、天聖元宝、皇宋通宝６、熙寧元宝、元豊通宝５、不明	0048～69
155～162	Ｃ区　３Ｃ層	元祐通宝、紹聖元宝、元符通宝、嘉定通宝、聖宋元宝、永楽通宝３	0070～77
163～186	Ｃ区　３Ｃ層	宋通元宝、至道元宝、咸平元宝、祥符元宝、皇宋通宝６、熙寧元宝２、元豊通宝４、元祐通宝、紹聖元宝、聖宋元宝、不明２、不明（熔着）３	0078～99･140･141
187･188	Ｃ区　No.87　５ＣⅡ層	咸平元宝、皇宋通宝	0105･106
189	Ｃ区　No.127　５ＣⅡ層	元豊通宝	0107
190	Ｃ区　No.148　５ＣⅡ層	元祐通宝	0108
191	Ｃ区　No.320　５ＣⅡ層	皇宋通宝	0109
192	Ｃ区　No.420　５ＣⅡ層	不明（熔着）	0112
193	Ｃ区　No.428　５ＣⅡ層	永楽通宝	0113
194･195	Ｃ区　No.479　５ＣⅡ層	永楽通宝２	0102･103
196～203	Ｃ区５ＣⅡ層	開元通宝、太平通宝、元豊通宝５、不明	0114～121
204～206	Ｃ区５Ｃ層	皇宋通宝･不明（熔着）２	0100･104･111
207	Ｄ区　３層	不明	0132
208	Ｄ区　No.492　８層	熙寧元宝	0133
209	Ａ区No.３	嘉祐通宝	0021
210～215	Ａ区	熙寧元宝、永楽通宝３、不明、不明（熔着）	0014～19
216～218	Ａ区西	永楽通宝、天聖元宝、大和通宝	0027～29
219	Ａ区㋑	天漢元宝	0020
220～224	Ａ区㋺（Ｂ区ヵ）	開元通宝、咸平元宝、嘉祐通宝、紹聖元宝、洪武通宝	0022～26
225	Ｂ区㋣	不明	0037
226	Ｂ区㋟	一銭（大正11年）	0039
227	Ｂ区㋒	寛永通宝	0040
228～235	Ｃ区	天聖元宝、皇宋通宝、元符通宝、熙寧元宝、寛永通宝２、半銭（明治10年）、不明（熔着）	0041～47･142
236～243	一括	洪武通宝２、朝鮮通宝、永楽通宝３、一銭（昭和17年ヵ）、不明（熔着）	0003～10
244	北壙	熙寧元宝	0011
245	１Ｔ	不明（熔着）	0012
246	オチキワ	紹聖元宝	0013
247･248	用水	半銭（明治９年）、一銭（大正10年）	0001･２

第34表　金属製品一覧表３（銭貨）

第５節　金属の生産

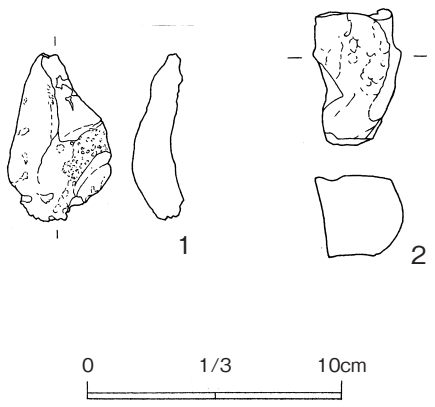
金属加工滓

遺構では、５堀で42.1g、22堀で422.1g、１溝で24.5g、３溝で5.4g、８溝で52.9g、24井で138.1g、３壙で18.9g、１建で134.7g出土している。他に遺構外で多いのは、11Tで229.7g、D区３層で315.2g、用水で391.6g、A区で2,110.9g、B区で448.2g、C区で207.8g、一括で394.4g出土している。大型のものは、A区で410g、用水で390g、B区ニで260g、A区西・11T(A区)・22堀で175～200gのものが出土し、A・B区に多い。

金属加工滓で図化したもののうち、１は、上面は熔融し発泡している。上面の一部と下面全面には灰白色の付着物がある。５ＣＩ層出土。

２は、夾雑物の少ない均質な塊で上面が熔融している。磁着有り。オチキワ出土。

また、銅の塊状品で102から109、銭貨の184・185・186・192/205・206・215・235・245は高熱により熔融したものがある。現在のところ戦火等によるものか、弾丸などの制作のためのものか判別できない。

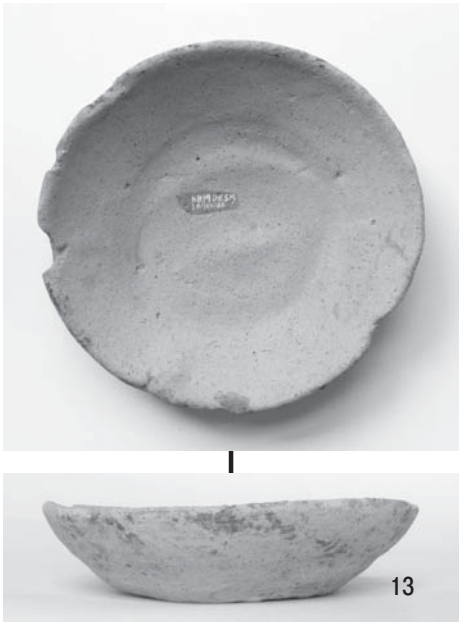


第96図　金属加工滓

図No.	器種	産地	出土地点	口径	底径	高さ	遺物ID	備考
1	金属加工滓	在地	５ＣＩ層 C区No.120	-	-	-	鋳１	発泡
2	金属加工滓		一括	5.4	3.5	3.2	鋳２	

第35表　金属生産一覧表

図　　版

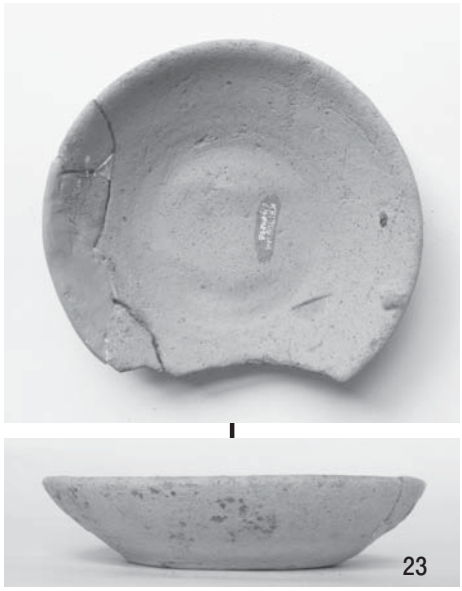

13

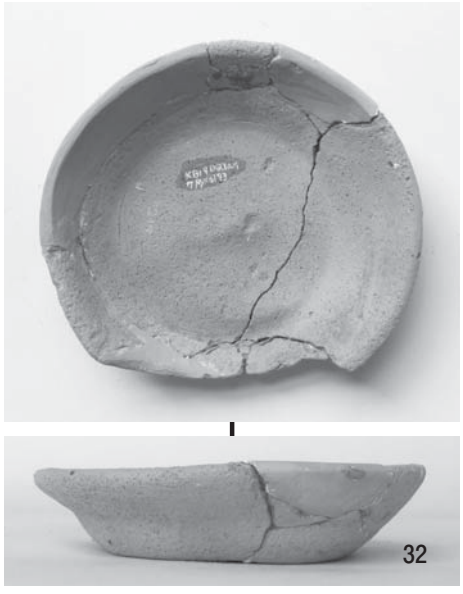
14

15

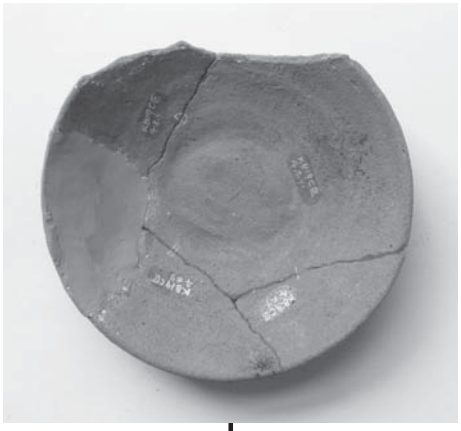
16

17

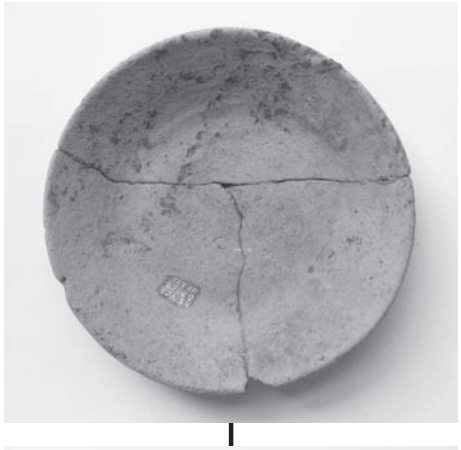

23

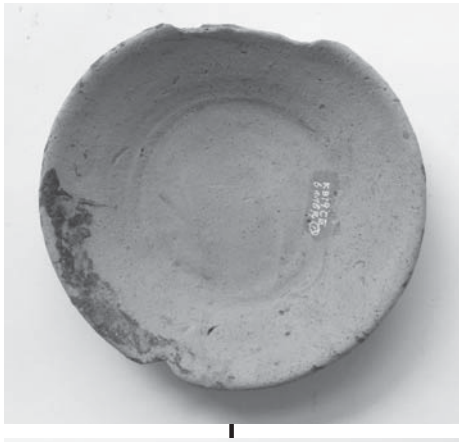

32

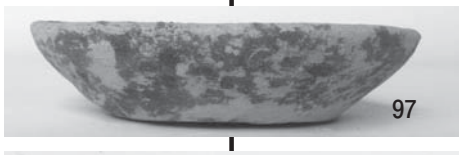
かわらけ

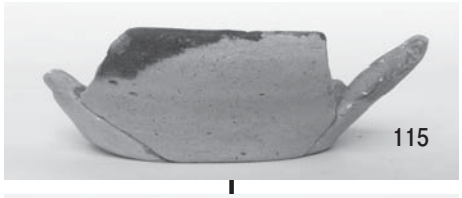


かわらけ



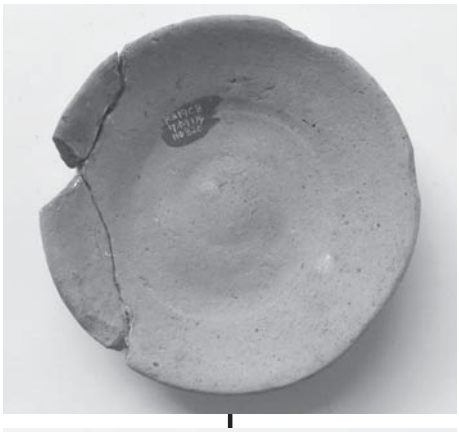




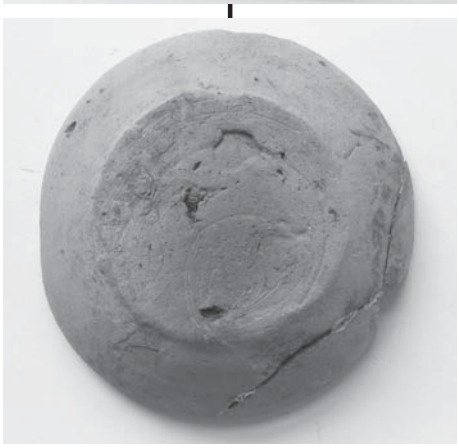


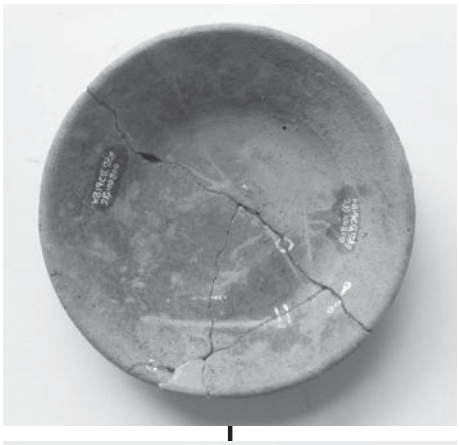
かわらけ

130



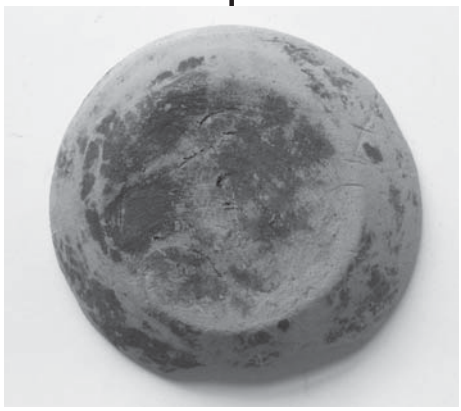
131





134

135



136

かわらけ

137

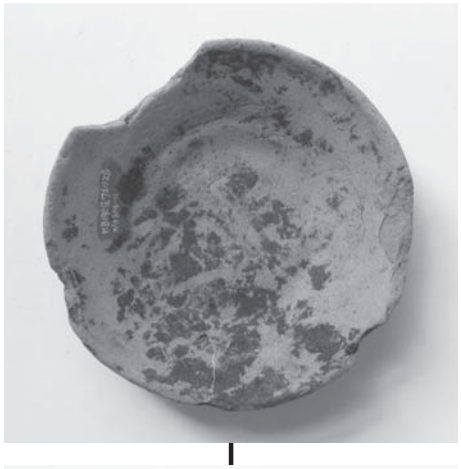
139

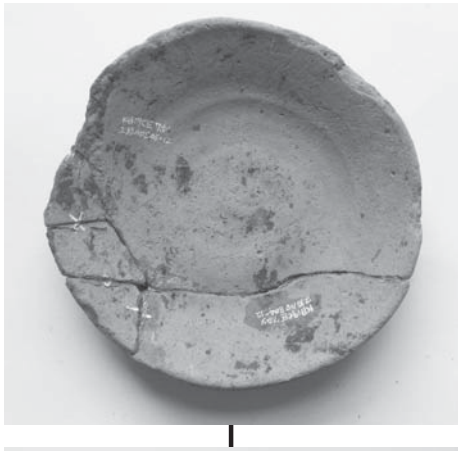
138

140

かわらけ

かわらけ





かわらけ

149

150

151

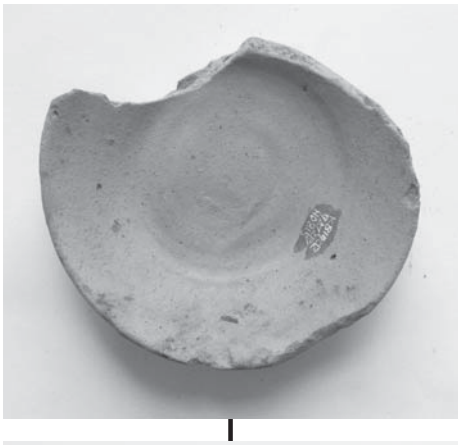
152

153

154

かわらけ

155



156

167

168

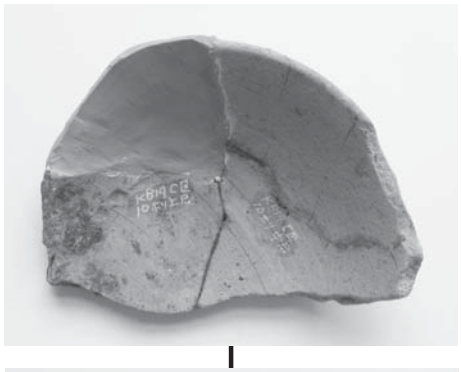
169

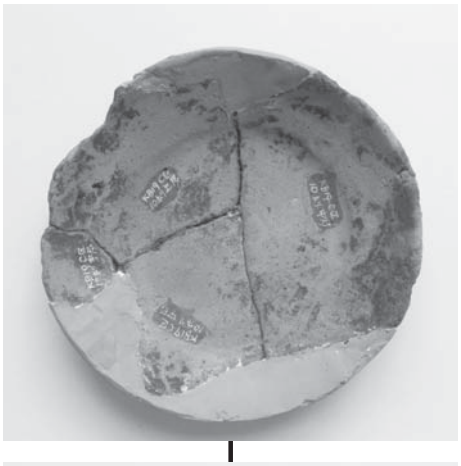
173

177

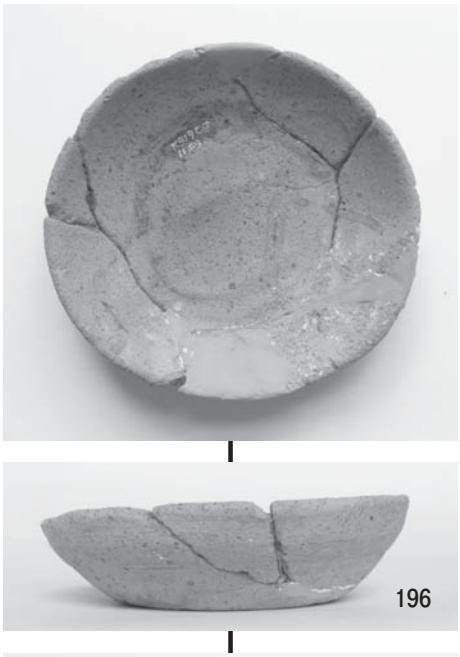
180

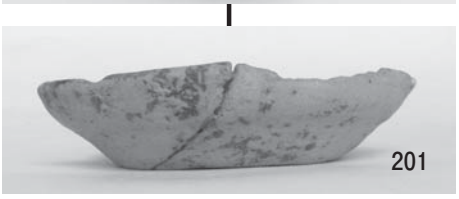
かわらけ

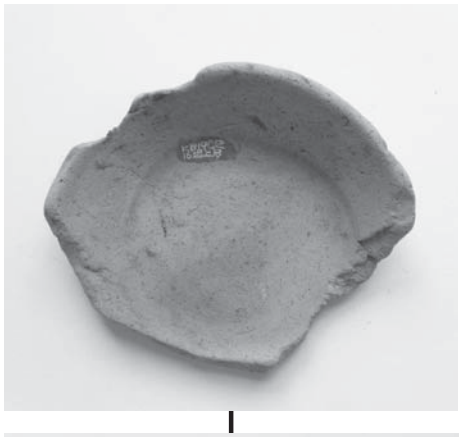


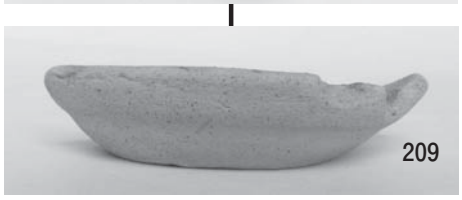


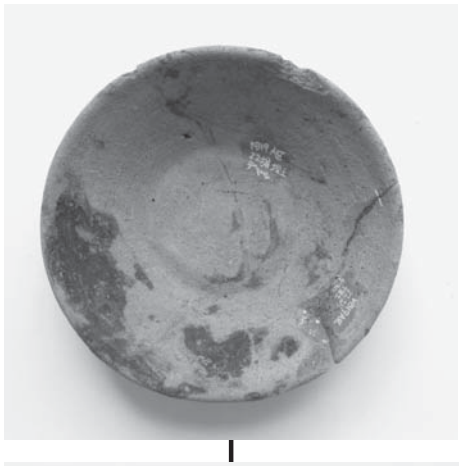
かわらけ

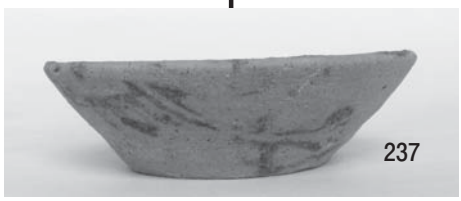




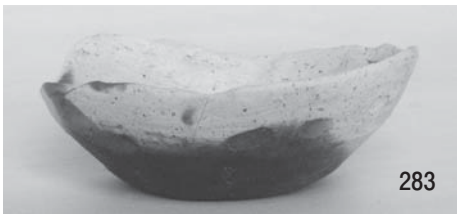


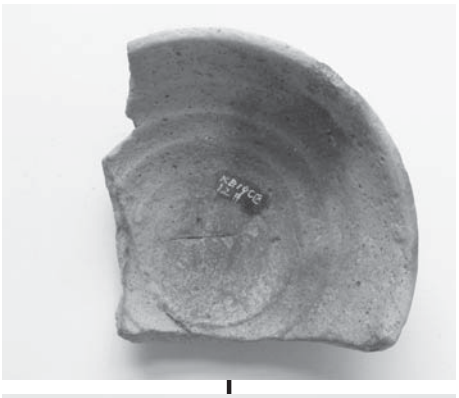




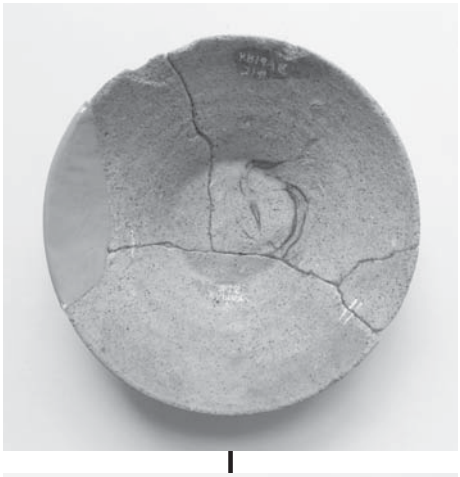


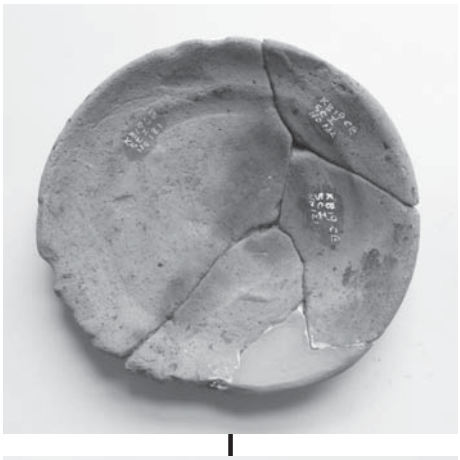
かわらけ

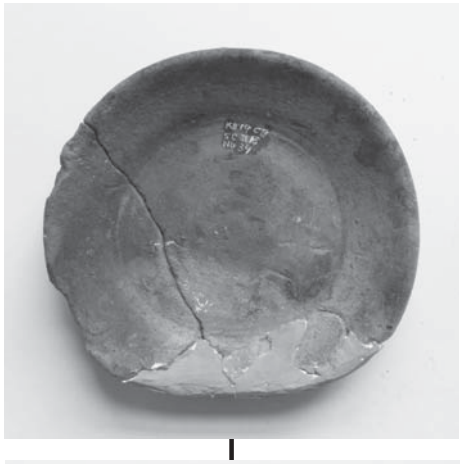




かわらけ







かわらけ

420

421

422

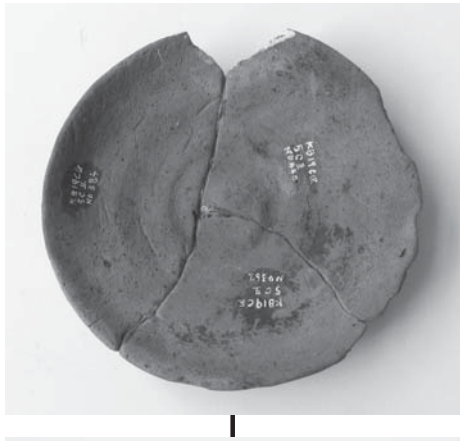
423

424

425

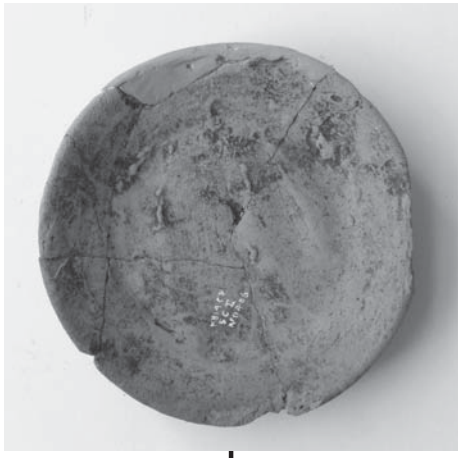
426

427



428

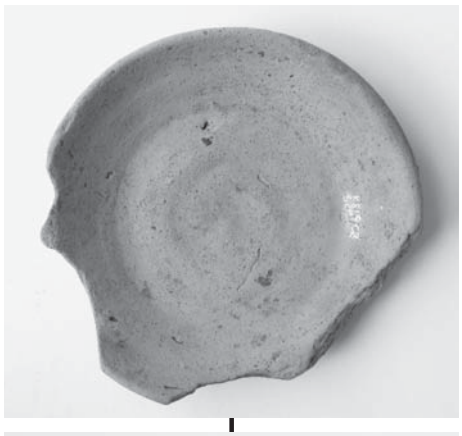
かわらけ



429

445

430



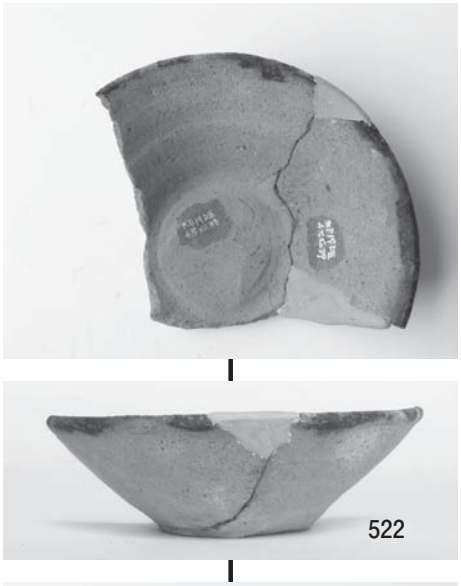
446

447

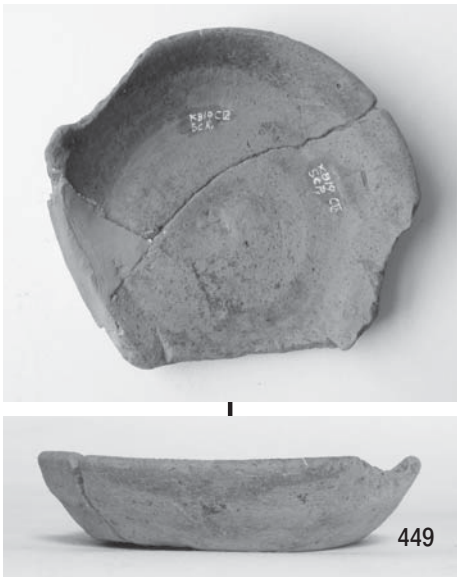
432

かわらけ

448

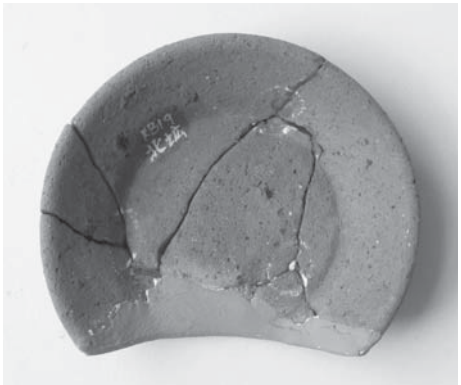


522



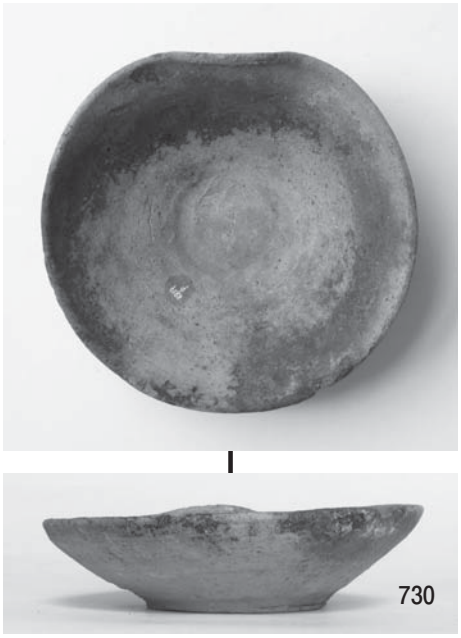
449

465



729

かわらけ

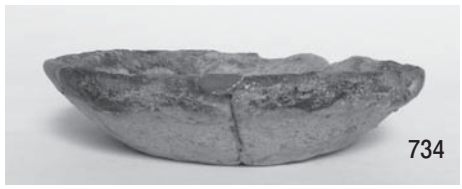


730

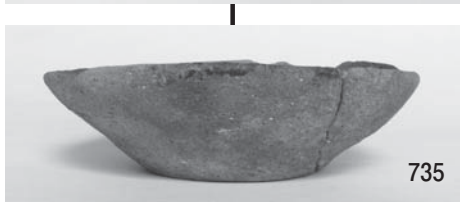
731

732

733



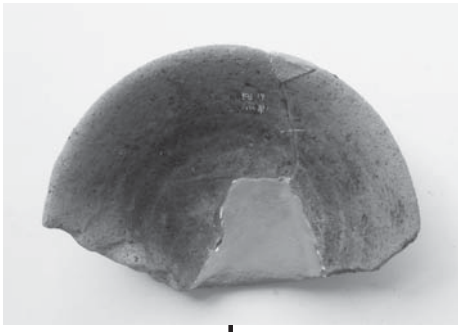
734



735

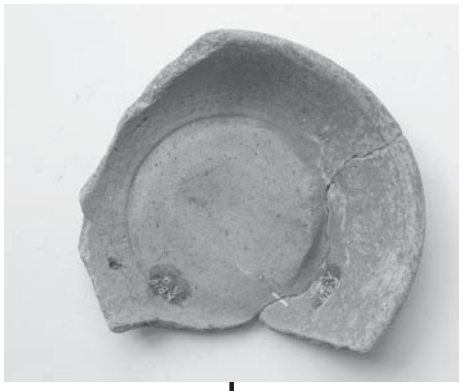
かわらけ

736



740

742



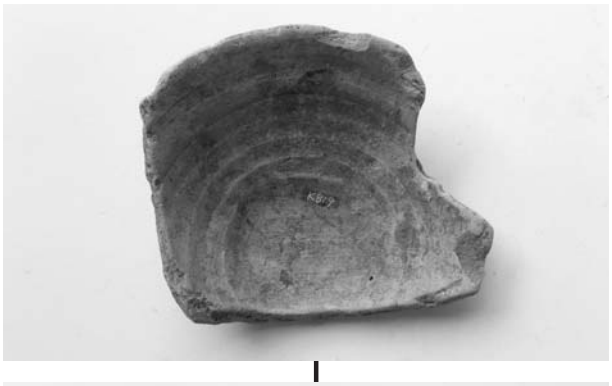
737

743

745

かわらけ

図版 19



かわらけ

（火鉢）

ほうろく・火鉢

在地擂鉢

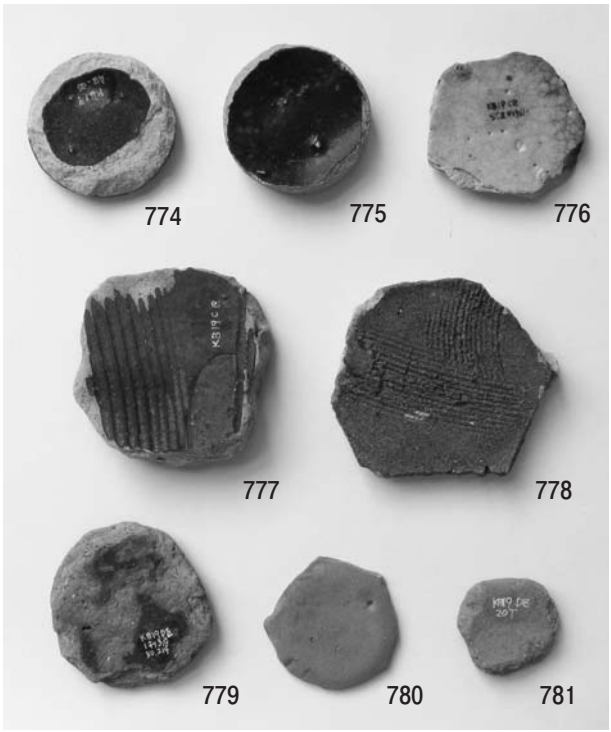
在地片口鉢

在地香炉

焼塩壺ヵ

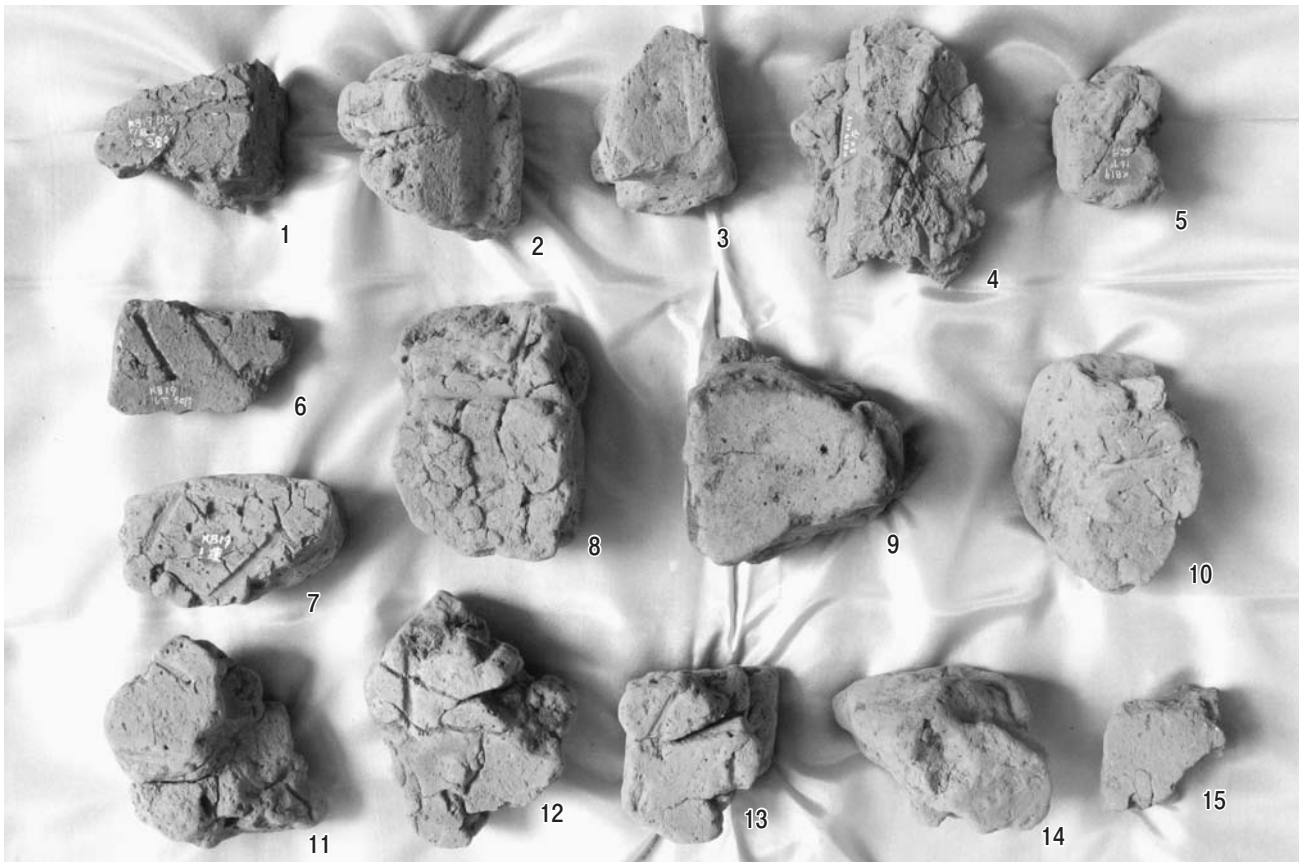
在地火鉢ヵ

有穴球状土製品



土製円盤

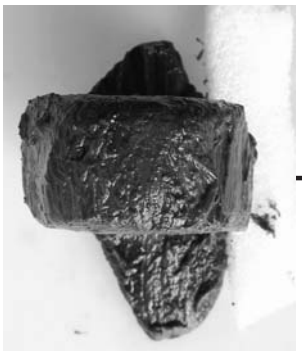
瓦

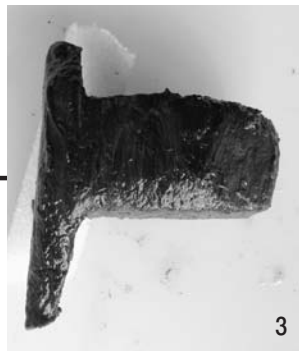

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

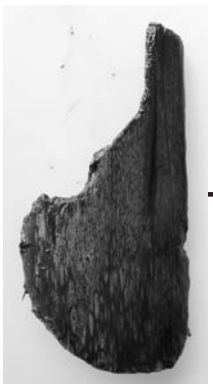
土壁１

16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33

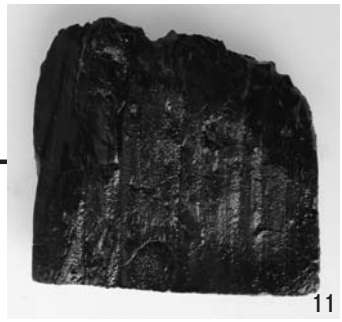
土壁２



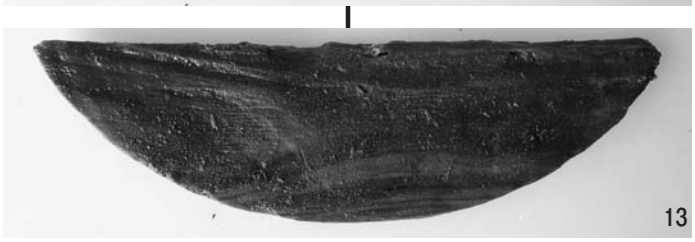




下駄

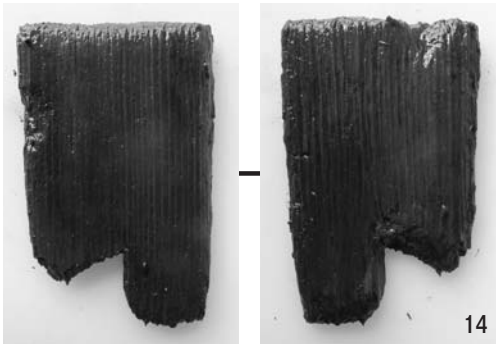


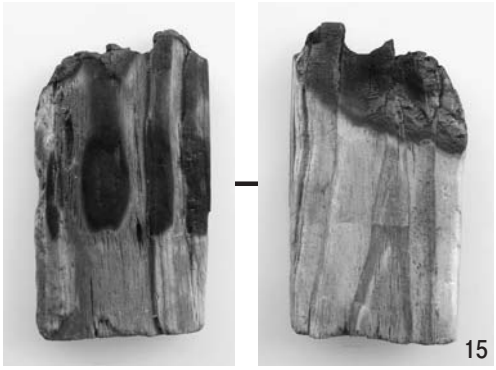
桶－側板

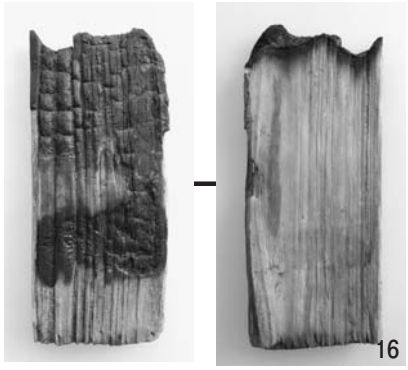


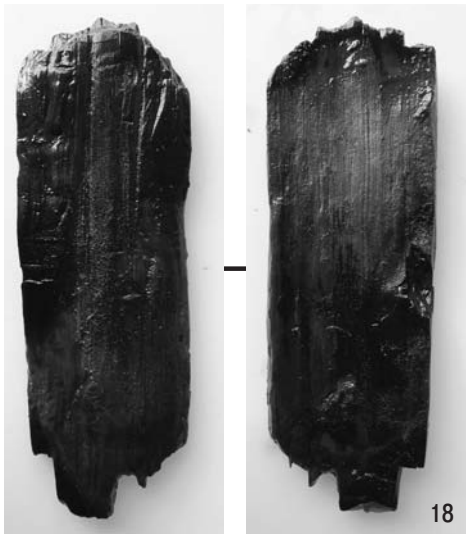
桶－底板

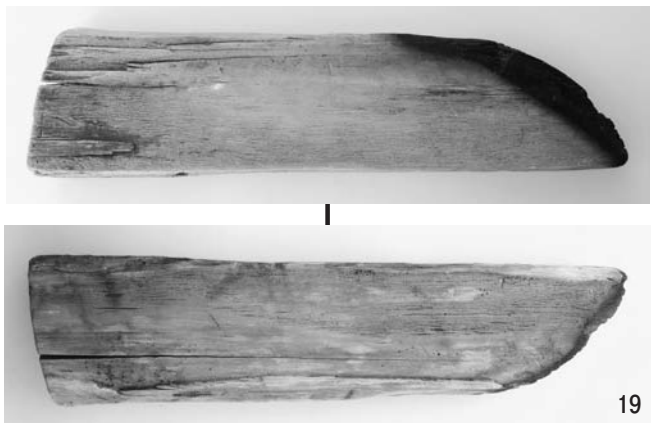
図版 25





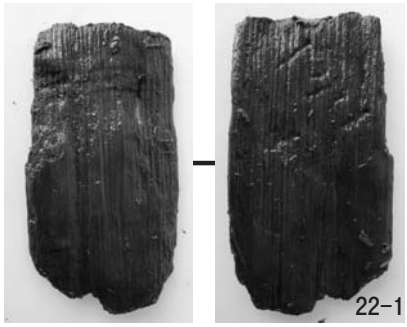


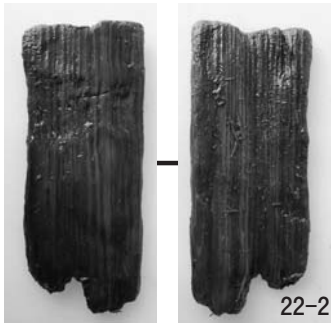


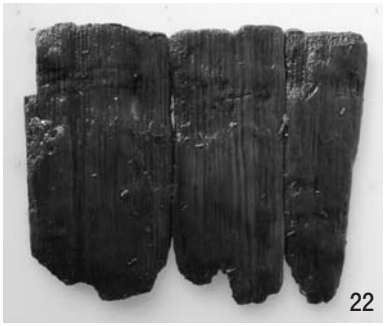


桶－底板

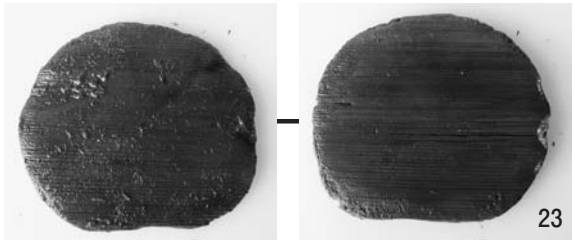
桶－側板



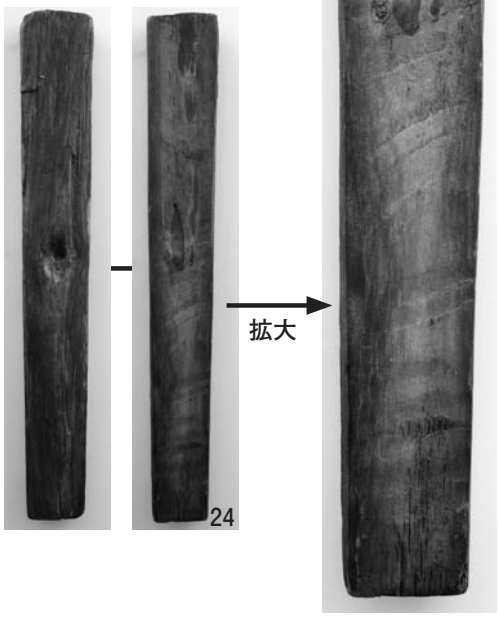
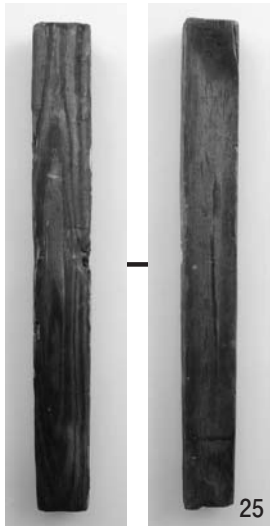




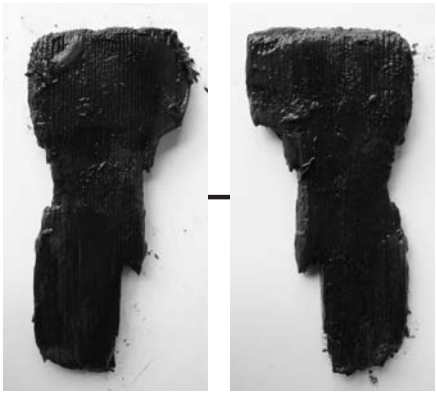
桶－側板



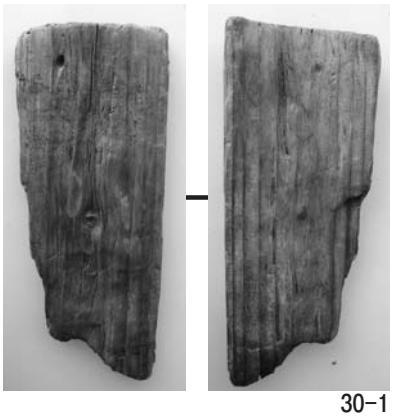
曲物－底板

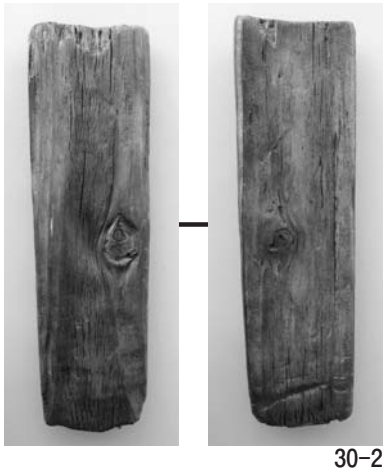


桶－底板



桶－側板


30-1


30-2

30-3

30-4

30-5

30-6

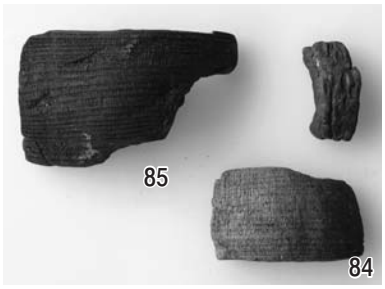
30-7

30-8

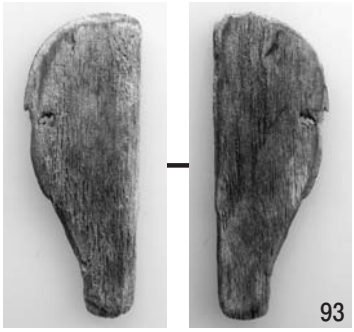
30-9

30-10

4号井戸　桶－側板・底板

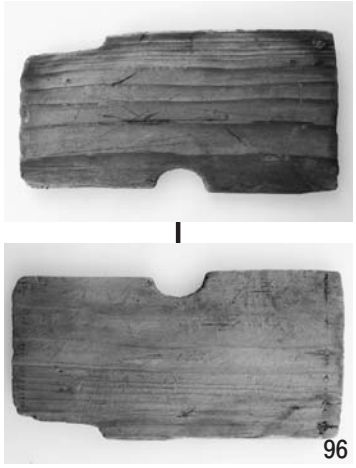


炭化椀片

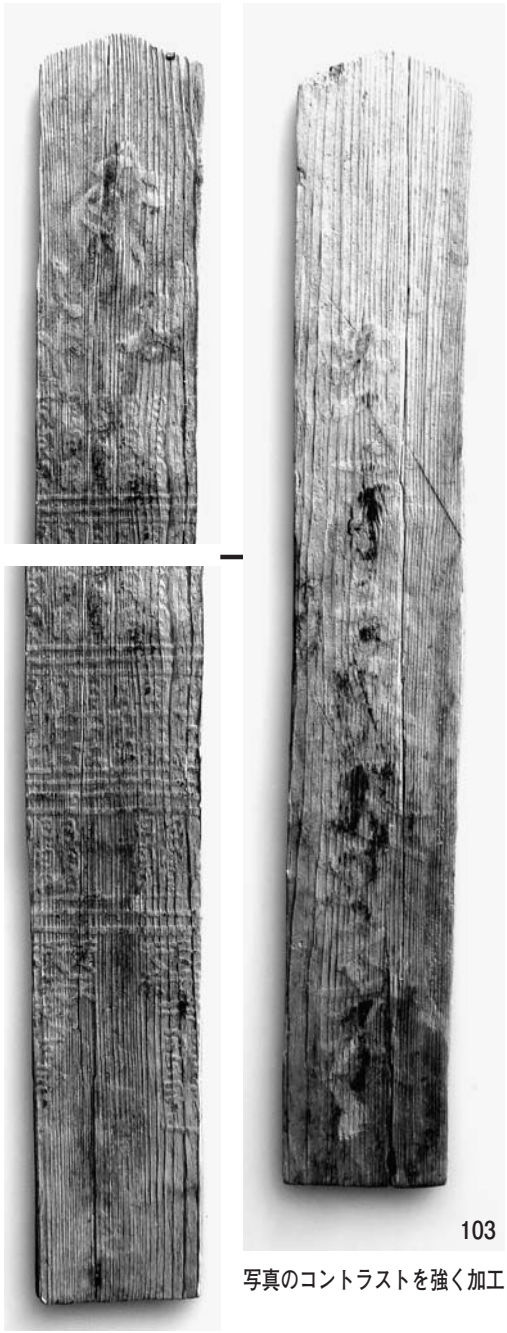


ヘラ状製品

折敷の底板ヵ

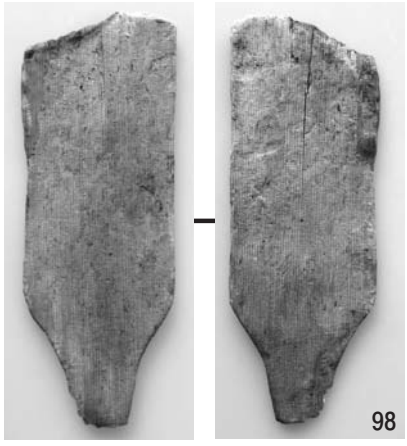


板状製品



写真のコントラストを強く加工

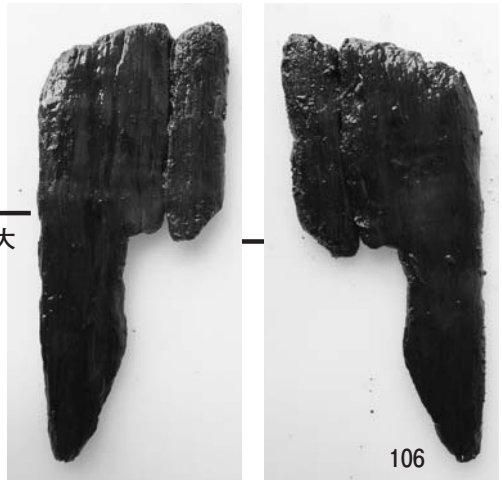
呪符



羽子板

図版 29

編具

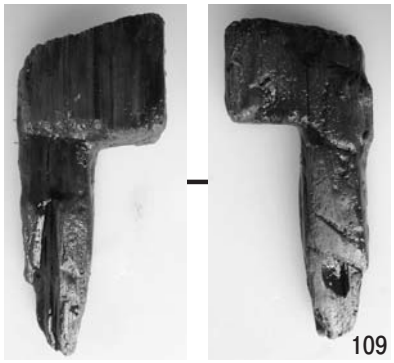


板状製品

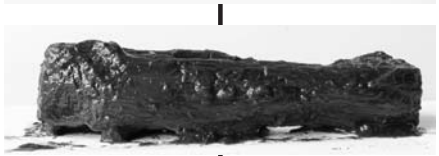
柄ヵ

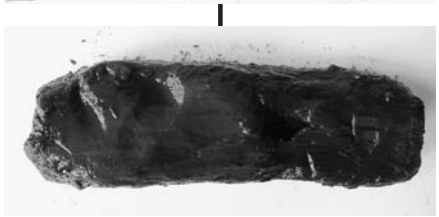
小角材

円形状製品

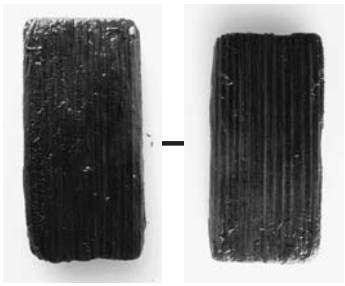


角材状製品

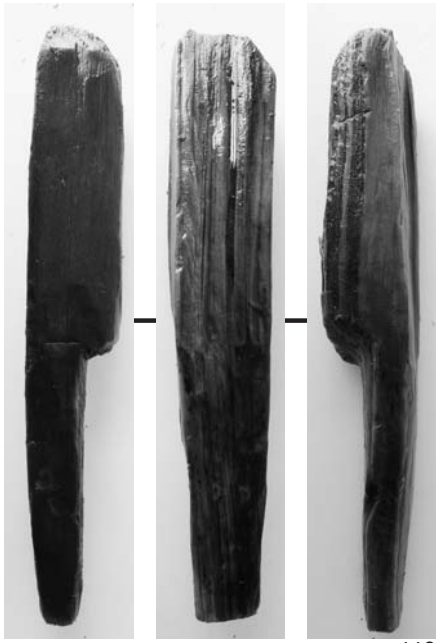




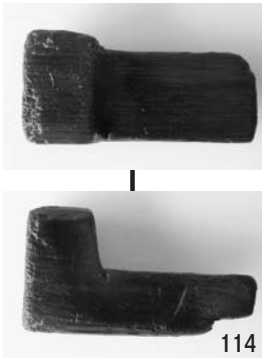
刳り込み製品



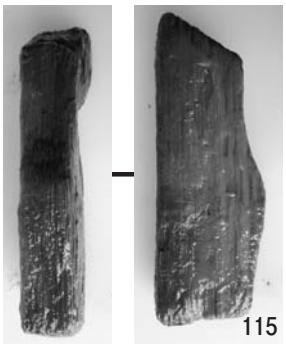
板状製品



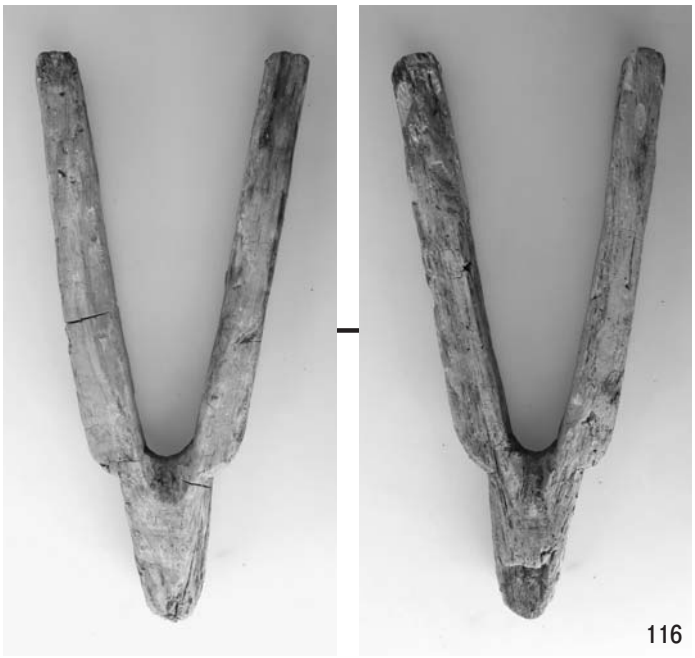
角材状製品



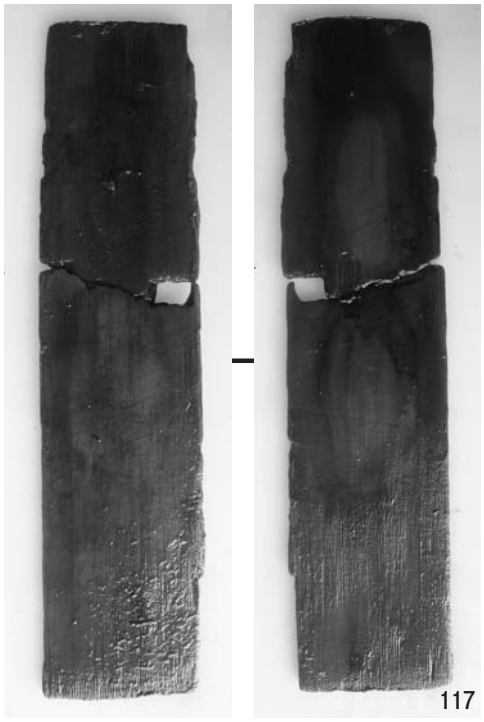
部材ヵ

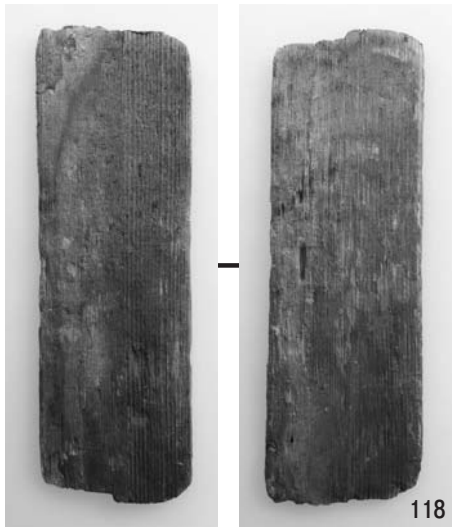


板状製品

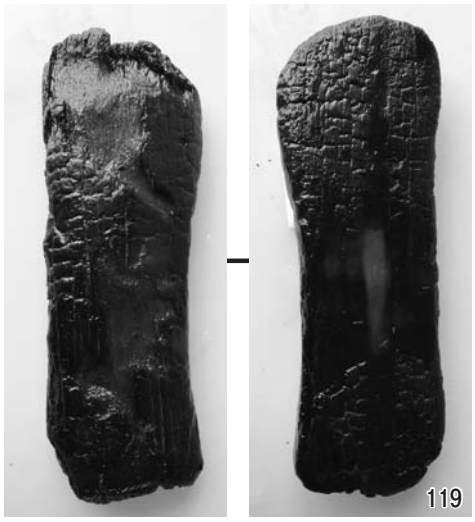


二股製品

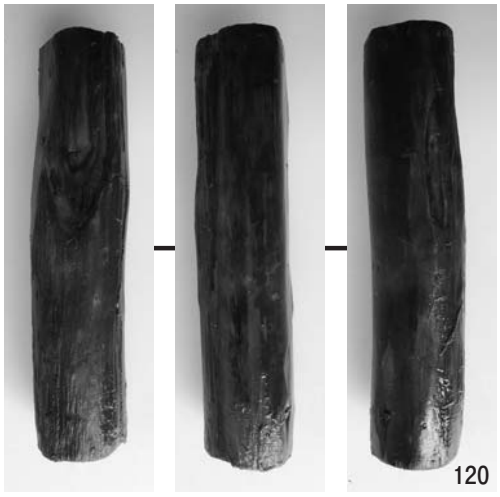




板状製品

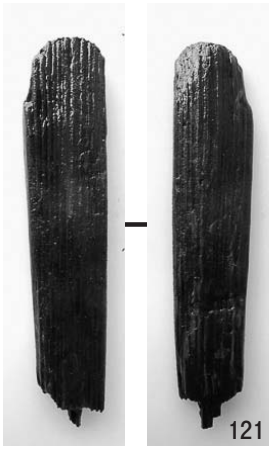


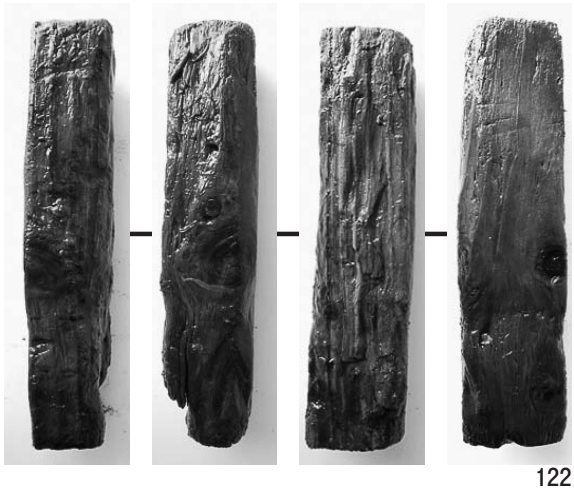
板状製品ヵ

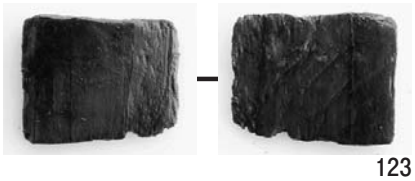


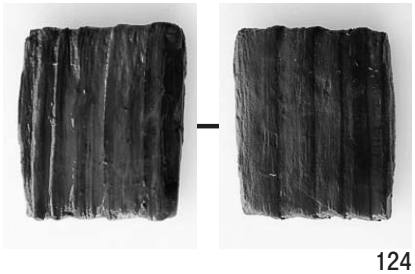
材／加工材

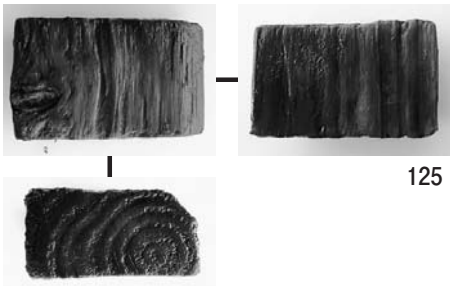
図版 31

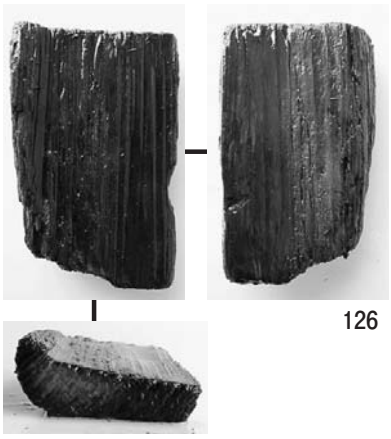

121

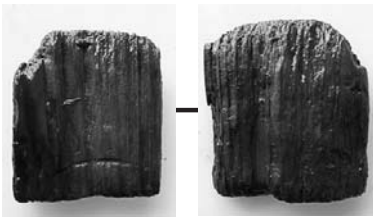

122

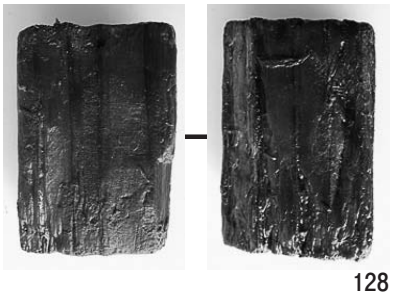

123

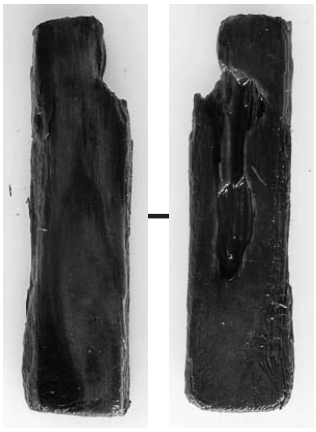

124

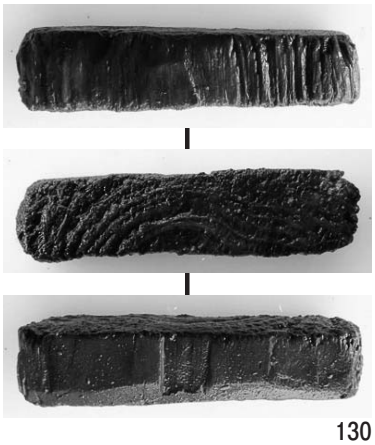

125

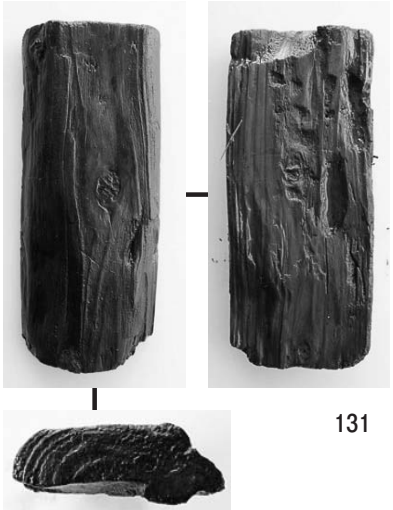

126

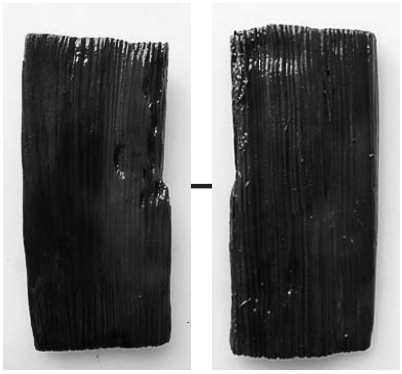

127

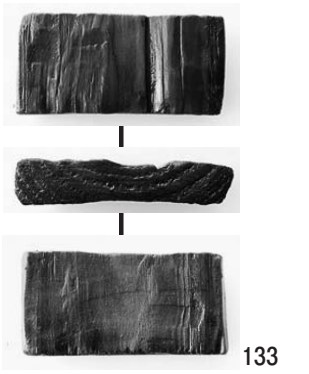

128


129

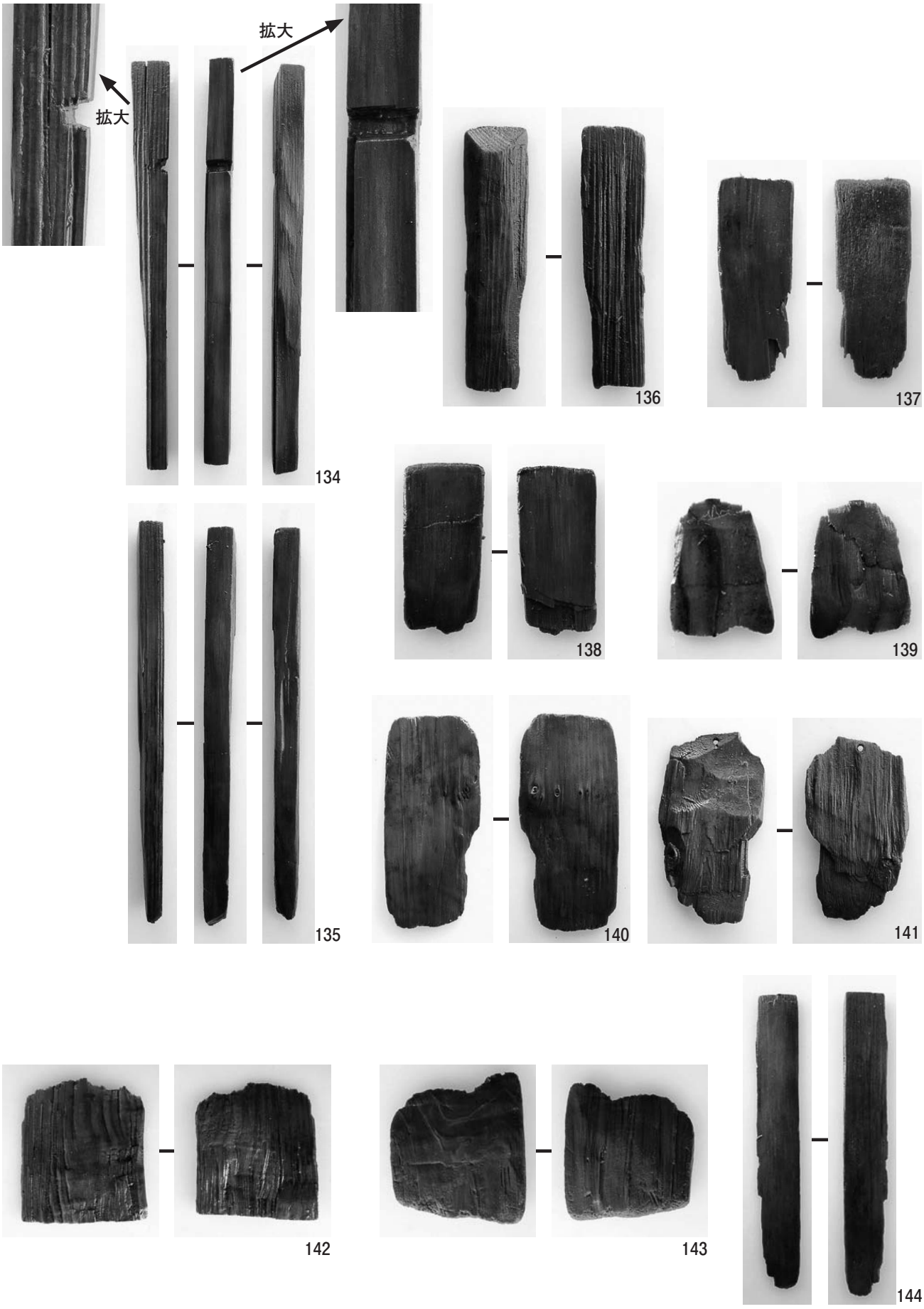

130


131

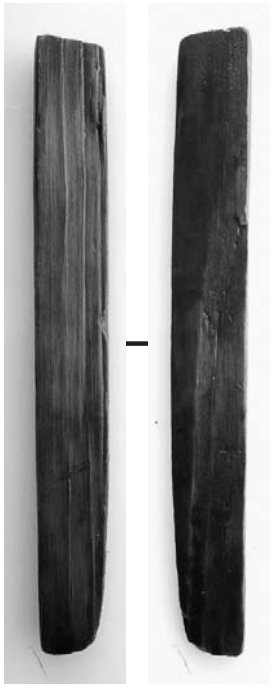

132


133

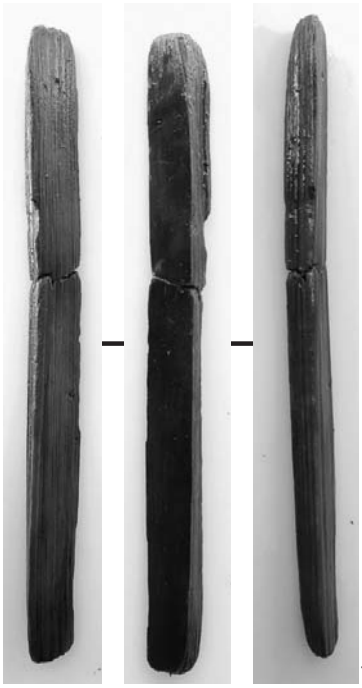
材／加工材


拡大
拡大
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144

145



146

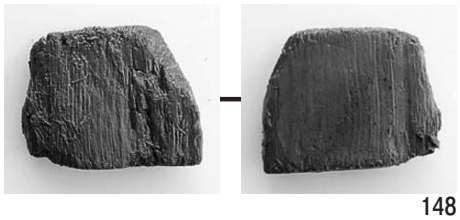


147

22号井戸

149

22号井戸



148

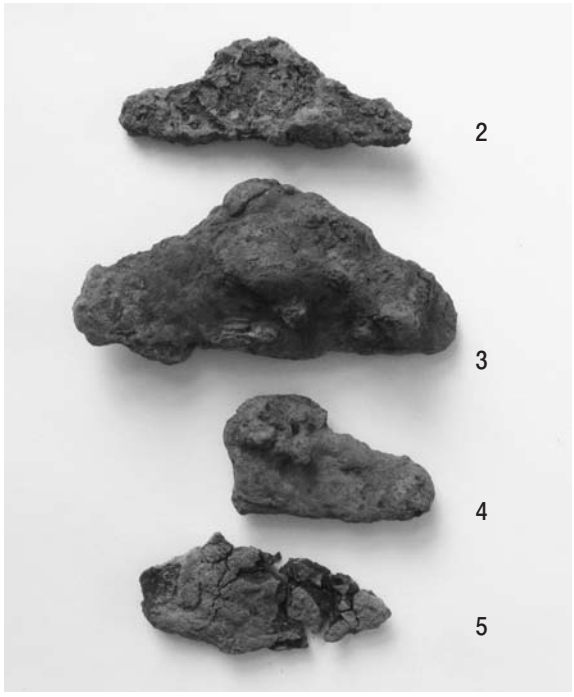
材／加工材

150

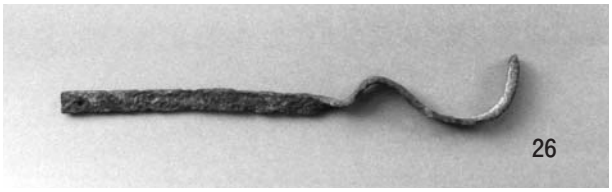
ひょうたん

炭化　ひょうたん

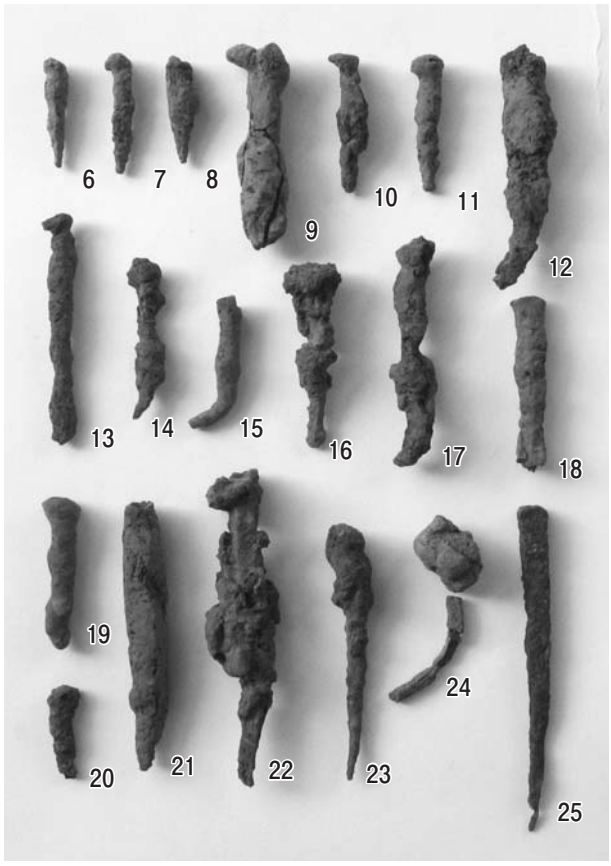
蓋



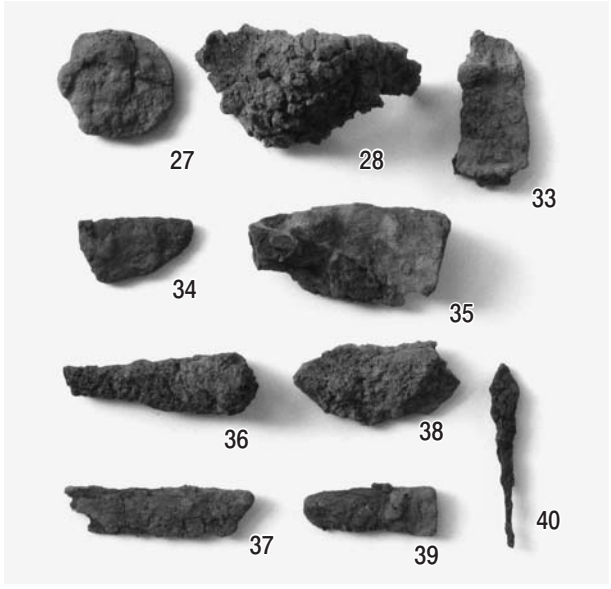
火打金



樋受



釘

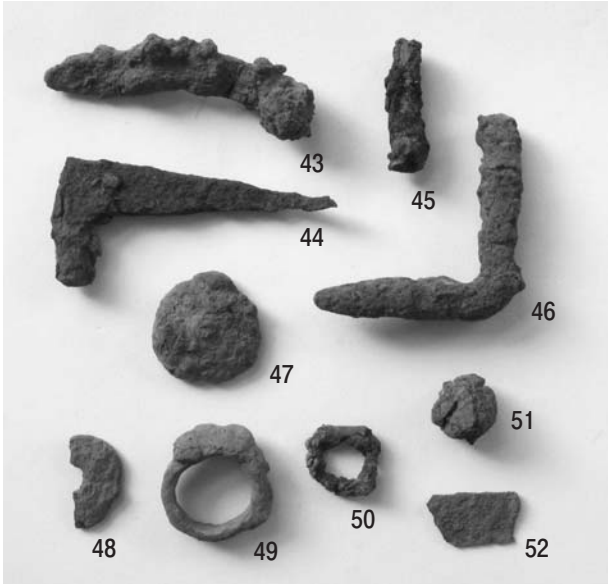


刀子・鏃　他

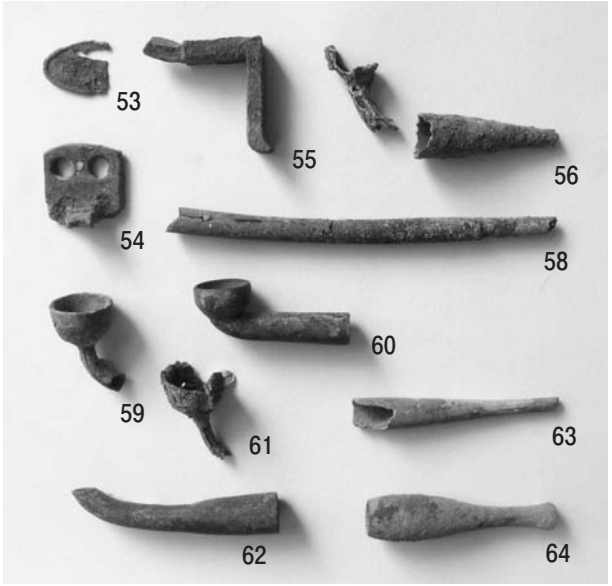
図版 35

薙鎌ヵ

薙刀ヵ

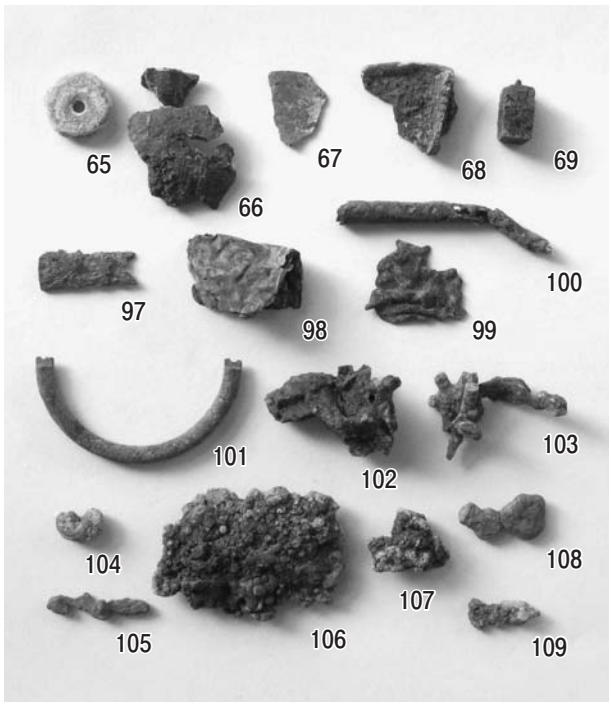


鉄製品

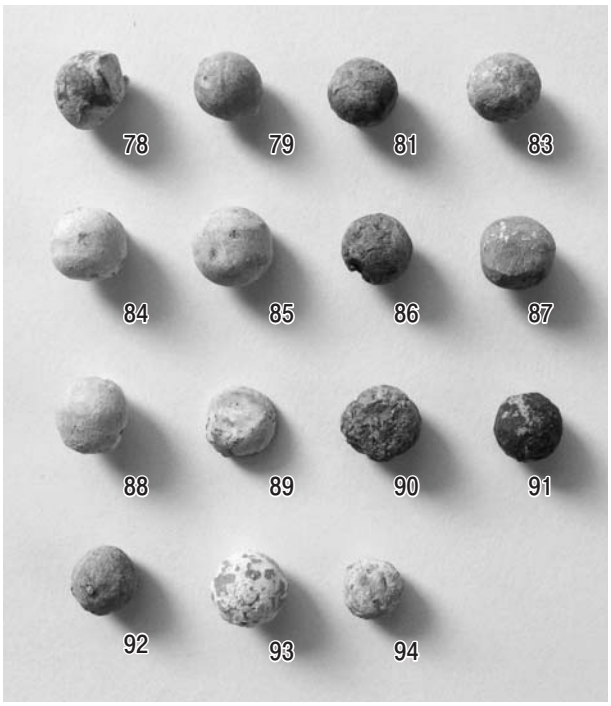


煙管　他

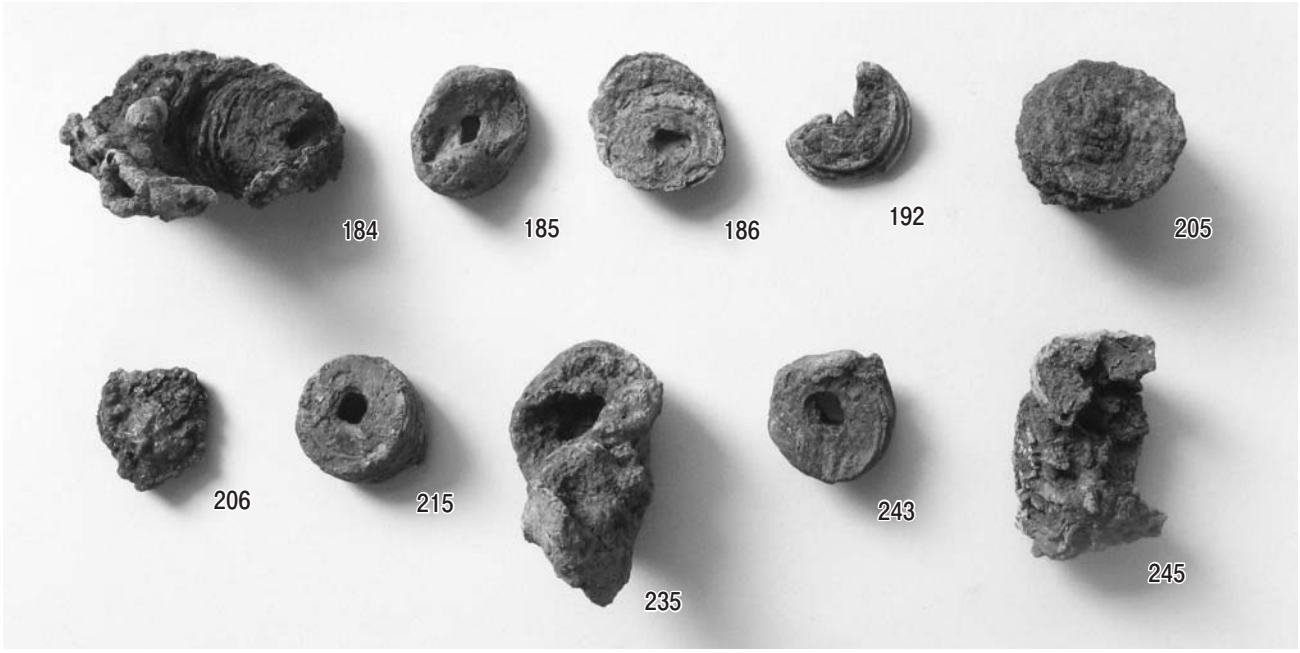
小柄



非鉄金属



弾丸



熔着銭貨

報 告 書 抄 録

フ リ ガ ナ	キサイジョウアト
書 名	騎西城跡　KB19区－中近世編－遺物１
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	加須市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第17集
編 著 者 名	嶋村英之・嶋村薫
編 集 機 関	加須市教育委員会
所 在 地	〒347－8501　埼玉県加須市三俣二丁目１番地１
発 行 年 月 日	西暦2024年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
私市城跡 （きさいじょうあと）	埼玉県加須市 （かぞし） 根古屋 （ねごや） 260－２、306、307、308－１、308－２、310	11421	070	36°10′41″	139°58′50″	19910301～ 19920826	1,995	土地区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
私市城跡	城館跡	中近世	障子堀（堀）27／橋跡１／溝17／井戸25／土壙19	陶磁器（朝鮮陶器・中国染付・織部黒沓形茶碗・志野丸碗）・かわらけ・ほうろく・土壁片・下駄・桶・漆椀・炭化椀・呪符・位牌の台・将棋の駒、石製円盤

要 約	江戸時代初期の絵図によると城郭部にあたり、仮称「五ノ丸」の東南部と天神曲輪と仮称「五ノ丸」との間の堀（障子堀）、御蔵屋舗との間の堀が検出された。 遺物は堀出土が多い。特に１号堀や５ＣⅠ・Ⅱ層から16世紀末～17初めの陶磁器類が、６号堀から大量の漆椀が出土している。

印刷仕様

【印刷】　オフセット印刷
【製本】　並製本　糸かがり
【組版】　本文写真植字　横組　10ｐ　明朝体（23字×40行）　段組２段
【用紙】　紙　質：中性紙
表　紙：レザック66（うすあい）四六判　215kg
見返し：色上質　特厚口　アイボリー
扉　：上質紙　　A 判70.5kg
口絵カラー図版：アート A 判70.5kg
巻末写真図版　：ハイコート　A 判70.5kg
本　文：上質紙　A 判57.5kg

加須市埋蔵文化財調査報告書　第17集

騎西城跡

KB19区調査
－中近世編－
遺物１

令和６年３月31日発行

発　行　加須市教育委員会
〒347－8501　埼玉県加須市三俣二丁目１番地１
印　刷　関東図書株式会社